

群馬県勢多郡大胡町大字茂木

茂木山神Ⅱ遺跡

(主要地方道藤岡大胡線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)

2001





墨書土器「大兒万財□」

序 文

群馬県勢多郡大胡町は、県都前橋市や伊勢崎市に10km前後で隣接する立地条件から近年に至り両市の衛生都市として住宅地の増加や近隣への行楽の往来に伴い、既存の道路改良や新設道路の建設が望まれていた。今回発掘調査が行われた(主)地方道藤岡・大胡線の拡幅工事もその一環であり、日々交通量の増加が目立つ幹線道路である。

この道路筋は江戸時代に於いて「日光裏街道」と称する大胡道に該当し、例幣使街道の五料宿から利根川を渡り、芝宿から北上して駒形宿、牧野康成公の居城である大胡城の城下町「大胡宿」、そして室沢宿を経て板橋から神梅に至り、足尾銅山の銅の搬出道路である銅山街道に合流する。

群馬県の高速度道路は関越自動車道、上信越自動車(長野線)の開通後、近年建設が急ピッチで進んでいる北関東自動車道、さらに上武自動車道がある。

当町は、(主)地方道藤岡・大胡線を南下すると、上武自動車道、国道50号線、北関東自動車道が横断し、関越自動車道の高崎・藤岡 IC にも短時間でアクセスできる位置にあります。

この地域は、当町に於ける濃密な埋蔵文化財包蔵地であり、前橋土木事務所との協議に基づき、平成11年と12年に渡り発掘調査を実施し、縄文時代から平安時代に及ぶ住居跡を検出いたしました。特に「大兒万財□」と書かれた墨書土器は、当町が大兒臣の居住地であった裏付けとなる重要な発見です。

本遺跡は同台地上には広範囲に続くことが想定され、今後の歴史解明の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査に携わり、本報告書の刊行にご努力いただいた関係者の皆様の労苦を謝して序といたします。

平成13年3月

勢多郡大胡町教育委員会

教育長 松本浩一

例 言

- 1 本書は、県道藤岡大胡線茂木地区に於ける道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の名称は、調査対象地が下記の様に大胡町大字茂木字山神・字小林・字諏訪前の三つの字に跨がり、同地区に於ける中川原遺跡群の発掘調査で山神遺跡名を使用しているため、その主体を占める字山神から茂木山神II遺跡とした。

〈発掘調査対象地の地番〉

山神 630-4・630-5・631-6・631-7・631-8・633-3・634-3・637-3・638-6番地

小林 529-3・530-7・530-8番地 諏訪前 609-2・610-1番地

- 3 発掘調査は、大胡町教育委員会が直営で実施したものである。
- 4 調査組織及び本書の作成は、下記のとおりである。

事 務 局

教 育 長 松本浩一

事 務 局 長 井上健児

文化財担当

係 長 山下歳信

主 任 藤坂和延

- 5 本書で扱う発掘調査と整理事業は下記のとおり実施した。

〈調査〉

平成11年度 A区(山神631-7・631-8) B区(山神631-6・633-3・634-3・637-3・638-6)
C区(諏訪前609-2・610-1) D区(小林529-3・530-7・530-8)

平成12年度 E区(山神630-4・630-5)

〈整理〉

平成11年度 A～D区出土遺物 土器洗い・注記・接合、一部実測を行う

平成12年度 報告書作成

- 6 本書の編集は山下が担当し、執筆を行った。
- 7 墨書土器の判読は、県立博物館 高島英之氏にご指導いただいた。
- 8 石材同定・自然科学分析作業はバリノ・サーヴェイ㈱に委託した。
- 9 発掘調査によって出土した遺物については、総て大胡町教育委員会文化財事務所に付設する収蔵棟で管理・収蔵している。
- 10 発掘調査から本書作成の過程で、下記の方々や機関からのご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。(順不同、敬称略)

群馬県教育委員会文化財保護課 前橋土木事務所 勢多郡社会教育部会文化財分会の諸氏

谷藤保彦 関根慎二 錦真邦男 技研測量㈱ 須賀工業㈱ バリノ・サーヴェイ㈱

- 11 発掘調査作業員・整理作業員は次のとおりである。(順不同、敬称略)

勅使川原幸枝 若林俊次 大原きみ子 石井よね 小沢チツエ 石川節子 荒井愛子 今泉芳男
萩原秀子 山下雅江 五十嵐文江 鈴木久美子 田村志づ江 北爪珠美 内藤典子 須田章子
斎藤 準 名嘉克夫 水谷貴之(調査補助員)

凡 例

- 1 第1図 位置図は建設省国土地理院発行の5万分の1地形図「前橋」に加筆して使用した。
- 2 第2図 周辺の遺跡(1)は、大胡町役場発行の20,000分の1現況図に加筆して使用した。
- 3 第3図 周辺の遺跡(2)は、大胡町役場発行の2,5000分の1現況図に加筆して使用した。
- 4 遺構番号の略称は、住居跡H、土坑D、掘立柱建物跡SB、溝Mとし、縄文時代の遺構にはJを頭が付した。
- 5 遺構の縮尺は、グリット図 1:250 全体図 1:400
住居跡 1:60 炉址 1:20~1:40 土坑 1:40 集石 1:20
埋設土器 1:20 カマド 1:20~1:40
柱穴列 1:60 掘立柱建物跡 1:60
遺物の縮尺は、挿図図版にスケールを付している。
1:1は石鏃、石錐
1:2は匙、土製円盤、土錘、紡錘車、軽石製品等
2:3はキノコ形土製品、古銭、鉄鏃
土器・石製品は1:3~1:6
- 6 遺構図中に記した断面基準線は、標高を示す。
- 7 遺構図中に示したN方向は、座標北である。
- 8 縄文土器の胎土内に繊維を含むものは、断面に●を付した。
- 9 土層註に於ける説明でR・Bはロームブロック、FPは榛名山二ツ岳FP軽石の略称とした。
- 10 遺物観察表に於ける法量で()は復元、{ }は残存の数値を示す。
- 11 竪穴住居跡に於ける各辺の数値で()は調査区内での検出値を示す。

目 次

巻頭カラー図版1 遺跡全景

2 墨書土器「大兒万財口」

大胡町教育委員会 教育長 松本浩一

序 文
例 言
凡 例
目 次
挿図目次
写真目次
〈抄録〉

第I章 発掘調査に至る経緯	1
第II章 遺跡の位置と周辺の遺跡	2~9
第1節 遺跡の位置	2
第2節 周辺の遺跡	3~6
第3節 調査の方法	6~9
第III章 検出された遺構と遺物	10~180
第1節 縄文時代	10~79
(1) 竪穴住居跡	10~57
(2) 土坑他	57~76
(3) 遺構外遺物	68・76~79
第2節 古墳時代以降	80~180
(1) 竪穴住居跡	80~157
(2) 柱穴列・掘立柱建物跡	157~160
(3) 溝状遺構	160~180
(4) 遺構外遺物	180
第IV章 茂木山神II遺跡出土遺物の自然科学分析	181~188
I 胎土分析	
II 付着物の分析	
III 土師器壘内面の光沢について	
第V章 成果とまとめ	192・193

挿図・挿表目次

第 1 図	位置図	2	第 45 図	J12H 出土遺物 (2)	53
第 2 図	周辺の遺跡(1)	4	第 46 図	J12H 出土遺物 (3)	54
第 3 図	周辺の遺跡(2)	5	第 47 図	J12H 出土遺物 (4)	55
第 4 図	グリット図	7	第 48 図	J12H 出土遺物 (5)	56
第 5 図	全体図(1)	8	第 49 図	J1D～J9D 平面図	65
第 6 図	全体図(2)	9	第 50 図	J10D～J18D 平面図	66
第 7 図	J1H 平面図	10	第 51 図	J19D～J28D 平面図	67
第 8 図	J1H 出土遺物	11	第 52 図	J29D～J31D・集石・埋設土器	68
第 9 図	J2H 平面図	12	第 53 図	JD 出土遺物 (1)	69
第 10 図	J2H 出土遺物 (1)	13	第 54 図	JD 出土遺物 (2)	70
第 11 図	J2H 出土遺物 (2)	14	第 55 図	JD 出土遺物 (3)	71
第 12 図	J3H 平面図	16	第 56 図	JD 出土遺物 (4)	72
第 13 図	J3H 出土遺物 (1)	17	第 57 図	JD 出土遺物 (5)	73
第 14 図	J3H 出土遺物 (2)	18	第 58 図	JD 出土遺物 (6)	74
第 15 図	J3H 出土遺物 (3)	19	第 59 図	JD・集石出土遺物・埋設土器 (1)	75
第 16 図	J4H 平面図・出土遺物	20	第 60 図	埋設土器 (2)・遺構外遺物 (1)	76
第 17 図	J5H 平面図・出土遺物	21	第 61 図	遺構外遺物 (2)	77
第 18 図	J6H 平面図	23	第 62 図	遺構外遺物 (3)	78
第 19 図	J6H 遺物出土状況	24	第 63 図	1号住居跡・出土遺物	81
第 20 図	J6H 出土遺物 (1)	25	第 64 図	2号住居跡・出土遺物	82
第 21 図	J6H 出土遺物 (2)	26	第 65 図	3号住居跡	83
第 22 図	J6H 出土遺物 (3)	27	第 66 図	3号住居跡出土遺物 (1)	84
第 23 図	J6H 出土遺物 (4)	28	第 67 図	3号住居跡出土遺物 (2)	85
第 24 図	J6H 出土遺物 (5)	29	第 68 図	4号住居跡・出土遺物	86
第 25 図	J6H 出土遺物 (6)	30	第 69 図	5号住居跡	87
第 26 図	J6H 出土遺物 (7)	31	第 70 図	5号住居跡出土遺物	88
第 27 図	J7H 平面図	33	第 71 図	6号住居跡・出土遺物	89
第 28 図	J7H 出土遺物 (1)	34	第 72 図	7・9号住居跡・7号住居跡出土遺物	90
第 29 図	J7H 出土遺物 (2)	35	第 73 図	8号住居跡・出土遺物	91
第 30 図	J8H 平面図・出土遺物	36	第 74 図	10号住居跡・出土遺物	92
第 31 図	J9H 平面図	37	第 75 図	11・12号住居跡	94
第 32 図	J9H 出土遺物 (1)	38	第 76 図	11・12号住居跡出土遺物	95
第 33 図	J9H 出土遺物 (2)	39	第 77 図	13号住居跡	96
第 34 図	J10H 平面図	40	第 78 図	13号住居跡出土遺物	97
第 35 図	J10H 出土遺物 (1)	41	第 79 図	14号住居跡	98
第 36 図	J10H 出土遺物 (2)	42	第 80 図	14号住居跡出土遺物 (1)	99
第 37 図	J11H 平面図	44	第 81 図	14号住居跡出土遺物 (2)	100
第 38 図	J11H 出土遺物 (1)	45	第 82 図	15号住居跡・出土遺物	101
第 39 図	J11H 出土遺物 (2)	46	第 83 図	16号住居跡	102
第 40 図	J11H 出土遺物 (3)	47	第 84 図	16号住居跡遺物出土状況	103
第 41 図	J11H 出土遺物 (4)	48	第 85 図	16号住居跡出土遺物 (1)	104
第 42 図	J12H 平面図	50	第 86 図	16号住居跡出土遺物 (2)	105
第 43 図	J12H 遺物出土状況	51	第 87 図	16号住居跡出土遺物 (3)	106
第 44 図	J12H 出土遺物 (1)	52	第 88 図	16号住居跡出土遺物 (4)	107

第89回	16号住居跡出土遺物(5)	108	第122回	37号住居跡・出土遺物(1)	144
第90回	17・18号住居跡(1)	110	第123回	37号住居跡出土遺物(2)	145
第91回	17・18号住居跡(2)	111	第124回	38号住居跡	146
第92回	17・18号住居跡出土遺物	111	第125回	39号住居跡	147
第93回	19・20号住居跡	112	第126回	39号住居跡出土遺物	148
第94回	19・20号住居跡出土遺物	113	第127回	40・42号住居跡	149
第95回	21・22号住居跡	115	第128回	40・42号住居跡出土遺物	150
第96回	21・22号住居跡出土遺物	116	第129回	41号住居跡	152
第97回	23号住居跡	117	第130回	41号住居跡出土遺物	153
第98回	24号住居跡・出土遺物	118	第131回	43号住居跡・出土遺物	154
第99回	25号住居跡・出土遺物	119	第132回	44号住居跡	155
第100回	26号住居跡・出土遺物	120	第133回	44号住居跡出土遺物	156
第101回	27号住居跡	121	第134回	45号住居跡	157
第102回	27号住居跡出土遺物(1)	123	第135回	柱穴列・擬立柱建物跡(1)	158
第103回	27号住居跡出土遺物(2)	124	第136回	擬立柱建物跡(2)	159
第104回	28号住居跡	125	第137回	1・3～6号溝状遺構(1)	161
第105回	28号住居跡出土遺物(1)	126	第138回	1・5・6号溝出土遺物	162
第106回	28号住居跡出土遺物(2)	127	第139回	2号溝(1)	163
第107回	29号住居跡	128	第140回	2号溝(2)	164
第108回	29号住居跡出土遺物(1)	130	第141回	2号溝遺物出土分布	165
第109回	29号住居跡出土遺物(2)	131	第142回	2号溝出土遺物(1)	166
第110回	29号住居跡出土遺物(3)	132	第143回	2号溝出土遺物(2)	167
第111回	30号住居跡・出土遺物	132	第144回	2号溝出土遺物(3)	168
第112回	31号住居跡・出土遺物	133	第145回	2号溝出土遺物(4)	169
第113回	32号住居跡	136	第146回	2号溝出土遺物(5)	170
第114回	32号住居跡出土遺物(1)	137	第147回	2号溝出土遺物(6)	171
第115回	32号住居跡出土遺物(2)	138	第148回	2号溝出土遺物(7)	172
第116回	32号住居跡出土遺物(3)	139	第149回	2号溝出土遺物(8)	173
第117回	33号住居跡・出土遺物	140	第150回	2号溝出土遺物(9)	174
第118回	34号住居跡・出土遺物	141	第151回	2号溝出土遺物 00	175
第119回	35号住居跡	141	第152回	2号溝出土遺物 01	176
第120回	35号住居跡出土遺物	142	第153回	2号溝出土遺物 02	177
第121回	36号住居跡・出土遺物	143	第154回	遺構外遺物	180

写真目次

PL 1	1、A調査区全景(真上から)	2、A～C調査区全景(南から)	
PL 2	1、B～C調査区(真上から)	2、D調査区全景(真上から)	
PL 3	1、D調査区(南から)	2、D調査区(南側部分)	
PL 4	1、E調査区全景(南から)	2、E調査区全景(東側から)	
PL 5	1、J 1号住居跡	2、J 2号住居跡	3、J 2号住居跡炉址
	4、J 3号住居跡	5、J 3号住居跡炉址	6、J 3号住居跡炉内遺物出土状況
PL 6	1、J 3号住居跡炉址	2、J 4号住居跡セクション	3、J 5号住居跡セクション
	4、J 6号住居跡遺物出土状況	5、J 6号住居跡遺物出土状況	6、J 6号住居跡遺物出土状況
PL 7	1、J 6号状況跡究掘	2、J 7号住居跡周辺作業風景	3、J 7号住居跡

	4、J7号住居跡遺物出土状況	5、J8号住居跡	6、J9号住居跡
PL8	1、J9号住居跡遺物出土状況	2、J9号住居跡遺物出土状況	3、J9号住居跡完掘
	4、J9号住居跡(真上から)	5、J10号住居跡	6、J10号住居跡遺物出土状況
PL9	1、J10号住居跡	2、J10号住居跡伊址	3、J11号住居跡
	4、J11号住居跡遺物出土状況	5、J11号住居跡伊址	6、J12号住居跡
PL10	1、J12号住居跡遺物出土状況	2、J12号住居跡遺物出土状況	3、J10~12号住居跡(真上から)
	4、J2号土坑	5、J6号土坑	
PL11	1、J5~J8号土坑周辺	2、J7号土坑	3、J8号土坑遺物出土状況
	4、J9号土坑	5、J11号土坑	6、J13号土坑
PL12	1、J14号土坑	2、J14号土坑	3、J15号土坑
	4、J15号土坑	5、J16号土坑	6、J17号土坑
PL13	1、J18号土坑	2、J16・18号土坑・埋設土器	3、J20・21号土坑
	4、J23号土坑	5、J24号土坑	6、J25号土坑
PL14	1、J26号土坑	2、J27・28号土坑	3、J29号土坑
	4、J30号土坑	5、J31号土坑	6、集石
PL15	1、1号住居跡	2、1号住居跡	3、1号住居跡カマド
	4、2号住居跡	5、2号住居跡セクション	
PL16	1、2号住居跡遺物出土状況	2、3号A・B号住居跡	3、3号住居跡カマド遺物出土状況
	4、3号住居跡カマドセクション	5、3号住居跡カマド	6、3号住居跡カマド完掘
PL17	1、4号住居跡	2、5号住居跡	3、5号住居跡セクション
	4、5号住居跡遺物出土状況	5、6号住居跡	6、6号住居跡
PL18	1、7・9号住居跡	2、10号住居跡	3、8号住居跡
	4、10号住居跡遺物出土状況	5、11・12号住居跡	6、11号住居跡カマド
PL19	1、12号住居跡遺物出土状況	2、13号住居跡	3、14号住居跡
	4、14号住居跡遺物出土状況	5、14号住居跡完掘	6、14号住居跡カマド
PL20	1、14・15号住居跡周辺	2、作業風景	3、16号住居跡遺物出土状況
	4、16号住居跡セクション	5、16号住居跡遺物出土状況	6、16号住居跡遺物出土状況
PL21	1、16号住居跡遺物出土状況	2、16号住居跡遺物出土状況	3、17・18号住居跡
	4、17号住居跡柱穴	5、19・20号住居跡	6、20号住居跡セクション
PL22	1、21・22号住居跡	2、22号住居跡	3、22号住居跡遺物出土状況
	4、23号住居跡セクション	5、24号住居跡	6、24号住居跡遺物出土状況
PL23	1、25号住居跡	2、26号住居跡	3、26号住居跡カマド
	4、27号住居跡	5、27号住居跡カマド	6、27号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
PL24	1、28号住居跡	2、28号住居跡カマド	3、28号住居跡遺物出土状況
	4、29号住居跡	5、29号A住居跡遺物出土状況	6、29号B状況跡遺物出土状況
PL25	1、29号住居跡完掘	2、29号住居跡カマド	3、29号住居跡カマドセクション
	4、30号住居跡	5、30号住居跡セクション	6、30号住居跡カマド
PL26	1、31号住居跡	2、32号住居跡カマド	3、32号住居跡
	4、32号住居跡貯蔵穴	5、33号住居跡	6、32号住居跡カマド
PL27	1、33号住居跡遺物出土状況	2、33号住居跡遺物出土状況	3、34号住居跡
	4、35号住居跡	5、35号住居跡カマド	6、35号住居跡貯蔵穴
PL28	1、36号住居跡カマド	2、35・36号住居跡	3、36号住居跡
	4、37号住居跡貯蔵穴	5、35~37号住居跡	6、E調査区作業風景
PL29	1、38号住居跡	2、38号住居跡セクション	3、39号住居跡
	4、39号住居跡完掘	5、39号住居跡	6、39号住居跡カマド
PL30	1、39号住居跡カマド	2、40号住居跡	3、40号住居跡遺物出土状況

	4、40号住居跡遺物出土状況	5、41号住居跡	6、41号住居跡カマドセクション
PL31	1、42号住居跡セクション	2、43号住居跡	3、38~44号住居跡
	4、44号住居跡	5、44号住居跡遺物出土状況	
PL32	1、44号住居跡	2、44号住居跡カマド	3、2号溝
	4、2号溝	5、2号溝	
PL33	1、2号溝全景(真上から)	2~5、2号溝遺物出土状況(近景)	
PL34	1、2号溝セクション	2、3~5号溝	3、6号溝
	4、1・2号柱穴列		

(出土遺物)

PL35	J 1・J 2号住居跡出土遺物	PL64	19・21・22号住居跡出土遺物
PL36	J 2・J 3号住居跡出土遺物	PL65	24~27号住居跡出土遺物
PL37	J 3~J 6号住居跡出土遺物	PL66	27号住居跡出土遺物
PL38	J 6号住居跡出土遺物	PL67	27・28号住居跡出土遺物
PL39	J 6号住居跡出土遺物	PL68	28・29号住居跡出土遺物
PL40	J 6号住居跡出土遺物	PL69	29号住居跡出土遺物
PL41	J 6・J 7号住居跡出土遺物	PL70	29・30号住居跡出土遺物
PL42	J 7・J 8・J 9号住居跡出土遺物	PL71	31・32号住居跡出土遺物
PL43	J 9・J 10号住居跡出土遺物	PL72	32号住居跡出土遺物
PL44	J 10・J 11号住居跡出土遺物	PL73	32~35号住居跡出土遺物
PL45	J 11号住居跡出土遺物	PL74	35~37号住居跡出土遺物
PL46	J 11・J 12号住居跡出土遺物	PL75	37・39号住居跡出土遺物
PL47	J 12号住居跡出土遺物	PL76	39・40号住居跡出土遺物
PL48	J 12号住居跡、J 2・J 4・J 5・J 7・J 8 D出土遺物	PL77	41~43号住居跡出土遺物
PL49	J 8・9 D、J 12~J 14 D出土遺物	PL78	44号住居跡・1号溝出土遺物
PL50	J 15・J 16・J 18・J 21・J 23 D出土遺物	PL79	5・6号、2号溝出土遺物
PL51	J 24~26・28~31 D、礫石出土遺物、埋設土器	PL80	2号溝出土遺物
PL52	遺構外遺物	PL81	2号溝出土遺物
PL53	1~3号住居跡出土遺物	PL82	2号溝出土遺物
PL54	3~5号住居跡出土遺物	PL83	2号溝出土遺物
PL55	6~8・10号住居跡出土遺物	PL84	2号溝出土遺物
PL56	11~13号住居跡出土遺物	PL85	2号溝出土遺物
PL57	13・14号住居跡出土遺物	PL86	2号溝出土遺物
PL58	14・15号住居跡出土遺物	PL87	2号溝出土遺物
PL59	15・16号住居跡出土遺物	PL88	2号溝出土遺物
PL60	16号住居跡出土遺物	PL89	2号溝・遺構外出土遺物
PL61	16号住居跡出土遺物	PL90	胎土中の重鉱物
PL62	16号住居跡出土遺物	PL91	胎土薄片(1)
PL63	17~20号住居跡出土遺物	PL92	胎土薄片(2)・麻布物

抄 録

フリガナ	モトギサンジンニイセキ
書 名	茂木山神II遺跡
副 書 名	藤岡大胡線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	山下歳信
編集機関	大胡町教育委員会 〒371-0292 群馬県勢多郡大胡町堀越1115番地
発行機関	大胡町教育委員会 〒371-0292 群馬県勢多郡大胡町堀越1115番地
発行年月日	2001年3月23日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
山神II遺跡	大胡町大字茂木 字小林 字山神 字諏訪前	10304		36°24'3"	139°9'17"	19990531 19990914 20000527	1650m ²	道路改良

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
山神II遺跡	集 落	縄文時代 古墳時代以降	竪穴住居跡 土坑 竪穴住居跡 掘立柱建物跡 柱穴列 溝状遺構	12軒 31基 44軒 4軒 2列 5条	中期中葉末～加曾利E 1式の土器・石器 古墳時代～平安時代の 土器・須恵器・緑釉・ 灰釉陶器 鉄製品・石製品 墨書土器	大児臣に係わる墨書 土器 畿内暗文の模倣坏 壘内面に付着物

第1章 発掘調査に至る経緯

近年に於ける当町の道路網整備は、大胡バイパス（主要地方道前橋・大間々・桐生線）の開通、通称「赤城南面道路」（県道大間々・宮城・子持線）の国道353号線昇格、17号線バイパス（上武道路）にアクセスを予定する一般県道前橋宮城線道路の一部開通、前橋と宮城村を繋ぎ当町の北部を横断する県営農免・ふるさと農道の着手等がある。

本路線である主要地方道藤岡大胡線は、藤岡市と大胡町を結ぶ幹線道路であり、関越自動車道高崎インターチェンジと接する。さらに現在急ピッチで工事が進められている北関東自動車道、駒形バイパス、国道50号線が横切る。当町の南方前橋市富田町地区では国道50号線以北の上武バイパス工事が推進され、部分的に本路線の拡幅工事が実施されている。

当路線の通過する大胡町南部の茂木地区は赤城山から続く緩やかな山麓地形であり、旧石器時代～平安時代の集落跡である。今回の発掘調査の該当地の東側に於ける団体営中川原地区土地改良総合整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査でもその一部が検出されている。

これらの状況を踏まえ、前橋土木事務所等の協議を行い、発掘調査並びに整理事業を大胡町が直営事業として受託した。その経緯は、

- 平成9年7月1日 当教育委員会は、群馬県教育委員会事務局スポーツ部文化財保護課より、主要地方道藤岡大胡線（茂木地区）改良工事に伴う埋蔵文化財試掘調査の実施についての通知を受ける。
- 同年 7月30日 文化財保護課主任 高島英之氏と当教育委員会 山下の立ち会いでバックホーを用いて対象地の一部について埋蔵文化財試掘調査を実施し、古墳時代～平安時代の集落跡を確認する。この結果を踏まえて、県教育委員会は工事に先立って本調査が必要となることを、管轄の前橋土木事務所に通知する。
- 平成10年12月 前橋土木事務所より、用地買収の進捗により平成11年度事業として同地区に於ける工事を実施したい旨の連絡を受ける。
- 平成11年4月7日 当教育委員会は、前橋土木事務所と同地区に於ける埋蔵文化財の取り扱いについて具体的協議する。その結果、工事に先立って発掘調査を実施し、記録保存を図ることで合意する。
- 同年 4月9日 前橋土木事務所より発掘調査着手に先立ち、埋蔵文化財発掘調査及び資料整理についての依頼文を受ける。
- 同年 4月20日 当教育委員会は、埋蔵文化財発掘調査及び資料整理に伴う実施計画書と経費見積書を策定し、前橋土木事務所に送付する。
- 同年 4月26日 前橋土木事務所と当町長の間で埋蔵文化財発掘調査委託契約の締結を結び、事業に着手する。
- 平成12年4月3日 前橋土木事務所より昨年度の残り部分の発掘調査と報告書作成に伴う依頼書を受け、当教育委員会は実施計画書を策定し、送付する。
- 同年 4月5日 埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し、発掘調査並びに報告書作成に係る。
- 同年 6月11日 埋蔵文化財発掘調査を開始する。
- 同年 8月 埋蔵文化財発掘調査を終了し、本格的に整理作業に入る。

第II章 遺跡の位置と周辺の遺跡

第1節 遺跡の位置 (第1図)

群馬県勢多郡大胡町は、県中央部にあるカルデラ型火山赤城山の南麓裾野上に位置し、南北に長いヤマトイモ形を呈している。最高所は赤城山中腹の駒山で640m、最低所は最南端の前橋市境で約120mである。西～南方に県都前橋市、最高所で富士見村、北東に宮城村、南東で粕川村と接し、南東方向で伊勢崎市に隣接する。

当町のほぼ中央を南流する荒砥川や寺沢川、能満寺川等は、台地地形と谷底沖積地を作り出している。低地部には小規模水田が開け、台地上には畑地帯が広がる。街区の中心は牧野氏の居城である大胡城の城下町である大字大胡を核とする地域であり、日光裏街道の大胡宿としても繁栄した。

大胡町南部～南西部を占める大字茂木地区は近年に開通した大胡バイパスにより、商業地域並びに宅地化が著しい地区である。茂木山神Ⅱ遺跡は、茂木字小林・山神・諏訪前の三つの字に跨がって所在し、県都前橋市と桐生市を結ぶ上毛電鉄大胡駅の南方約1kmの洪積世台地上に位置する。標高は135m前後を測り、東方では6m程の比高差を生じて荒砥川低地が開ける。同台地は南方で字大畑で前橋市に接し、北方は字諏訪東・字天神風呂・字天神と南北に続き、西方には低地が併走する。



第1図 位置図

第2節 周辺の遺跡(第2・3図)

〈旧石器時代〉

相沢忠洋が調査した三ツ屋遺跡(2)、細石核等を出土した日光道東遺跡(38)、尖頭器を出土した天神遺跡(26)等があるが、本調査に至る追求は行われていないのが現状である。

〈縄文時代〉

早期では浅見遺跡(37)等で早期押型文系土器が出土し、他の遺跡から条痕文系土器で鶏ヶ島台式があるが、明確な遺構との共伴事例はない。

前期前葉では花積下層式期～ニッ木式期では新屋敷遺跡、堀越芝山遺跡(51)、堀越中道遺跡(46)がある。各遺跡は隣接し、標高200～230m間に位置する。関山式期は堀越二本松遺跡(53)にある。中葉～後葉に至り遺跡数は増加し、黒浜・有尾式期は天神風呂遺跡群(16～22)、横沢向山遺跡等にあり、諸磯式期では浮島・興津式土器を共伴して出土した上大屋・堀越地区遺跡群(36)を代表として、中川原遺跡群等(3～5)等がある。

中期では勝坂・阿玉台式期は天神遺跡(26)、遺跡数のピークとなる加曾利E式期では上ノ山遺跡(13)、西小路遺跡(14)、天神風呂遺跡群(16～22)、諏訪東遺跡(11)、甲諏訪遺跡(48)等にあり、中葉の焼町土器や中葉～後葉の過渡期に出土する三原田式がある。

後期は堀之内Ⅱ式の注口土器や土偶、三十稲場式を出土した天神遺跡(26)、称名寺式～加曾利B式期の包含層遺物と堀之内Ⅱ式の住居跡を検出した堀越西一丁田(49)がある。

晩期は遺跡地として荒砥川低地に存在した可能性があり、注口土器が知られている。

〈弥生時代〉

再葬墓と考えられる金丸遺跡が著名であるが、本遺跡や上大屋下組遺跡(30)、五十山遺跡群(42～44)から樽式土器片が検出された事例から推察すれば後期頃に小規模な集落が営まれた可能性がある。

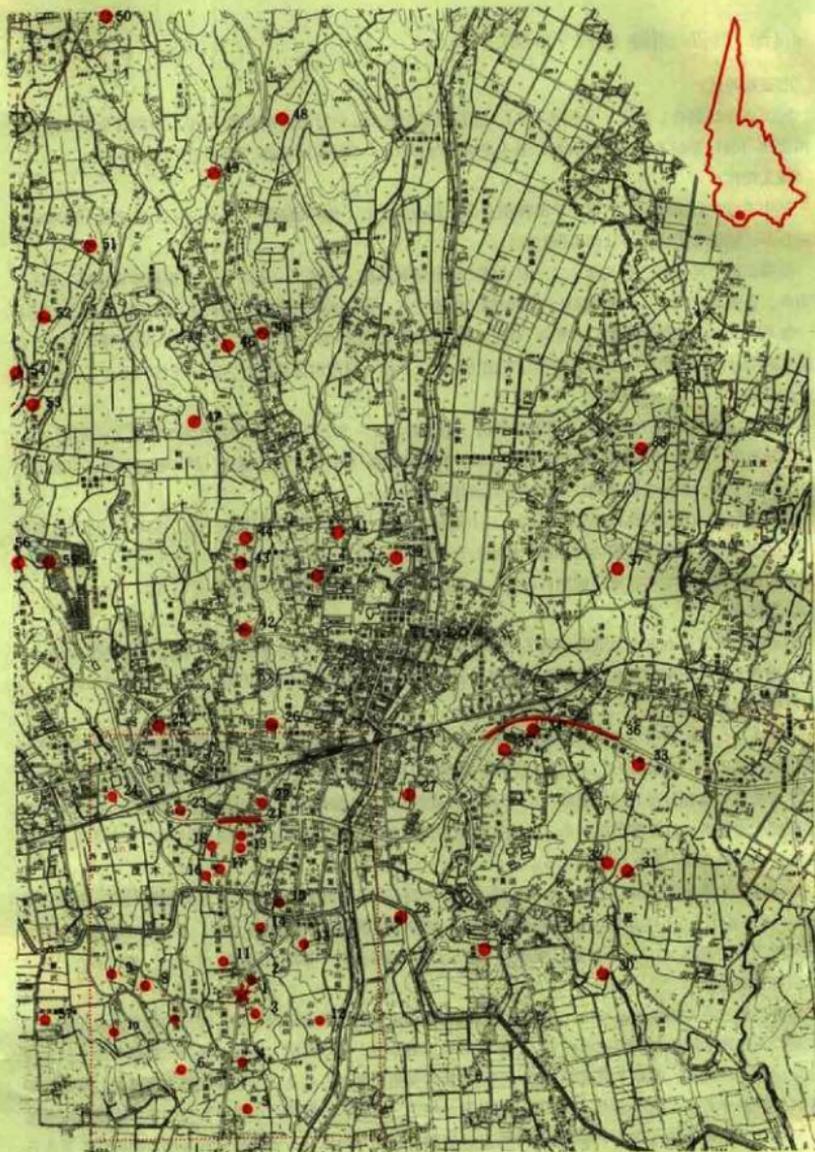
〈古墳時代〉

古墳は、5世紀後半から上ノ山遺跡(13)等に竪穴式石室が構築され始め、総数70基を越える存在が確認されている。古墳群としては東・西小路古墳群(15)を代表とする茂木地区と横沢地区に集中する。茂木古墳群では稲荷窪A地点遺跡(6)、西小路遺跡(14)が調査され、横沢地区では過去に群馬大学史学研究室で調査された事例等がある。他に町指定史跡の稲荷塚古墳(34)、終末期古墳として著名な県指定史跡の堀越古墳(25)が存在する。

集落は、4世紀代以降に突如として出現する。所謂石田川式土器を出土した新畑遺跡(47)、五十山遺跡群(42～44)、5～7世紀は下宮関遺跡(28)、前橋東商業高等学校遺跡(29)、上大屋下組遺跡(30)、上大屋天王山遺跡(31)、天神風呂遺跡群(16～22)・稲荷窪A・B地点遺跡(6・8)等がある。

〈奈良平安時代〉

当町に於ける大規模集落址は、本遺跡から北方に続く天神風呂遺跡群(16～22)があり、5世紀～11世紀に至る長期間の存続が見られる。特に天神風呂遺跡群からは瓦塔・浄瓶・朱墨土器等が出土し、寺院址が考えられる。堀越中道遺跡(46)では官衛的要素が考えられる獨立柱建物跡や道路址、礎石立の竪穴住居跡があり、特殊遺物として把手付鉄鍋・焼印・馬具等の鉄製品が出土している。小規模集落としては日光路東遺跡(38)や堀越丁二本松Ⅱ区遺跡(52)等があり、短期間に営まれた開拓村と考えられる。



第2図 周辺の遺跡 (1)

生産址遺跡としては、弘仁九年(818)の地震災害で埋没した水田跡を検出した中宮関遺跡(27)があり、近年、同台地上で畝跡が検出されている。ハッケ峠遺跡(35)では8世紀前半代の須恵器窯と9世紀代の製鉄址・木炭窯、西尾引遺跡(50)では製鉄址・木炭窯・住居跡のセットが検出され、赤城山麓一帯に於ける総合的な係わりが今後の課題であろう。

〈中世以降〉

上大屋中組遺跡(32)は15世紀前後の竪穴住居跡や地下式土坑が検出され、竪穴住居跡から1貫文に近い緋銭が目される。山ノ前遺跡(13)では2万5千枚ほどの備蓄銭が工事中に出土し、養林寺館址(41)は大胡氏との係わりが推察される館跡である。大胡城跡(39)は戦国期から近世初期に至る様相を止め、本丸で検出された石敷建物跡や土塁矩面に配された等高線状の石列は県内外でも希薄な遺構である。殿町遺跡(40)は大胡城跡の武家屋敷に該当する地区である。

〈遺跡名〉

- 1 茂木山神II遺跡
- 2 ミツ屋遺跡
- 3~5 中川原遺跡群 (3 小林遺跡 4 山神遺跡 5 大畑遺跡)
- 6 稲荷窪A地点遺跡
- 7~9 稲荷窪B地点遺跡
- 10 大日遺跡
- 11 諏訪東遺跡
- 12 山ノ前遺跡
- 13 上ノ山遺跡
- 14 西小路遺跡
- 15 東・西小路古墳群
- 16~22 天神風呂遺跡群 (16 F地点 17 E地点 18 D地点 19 K地点 20 I地点 21 A地点 22 J地点)
- 23 柳沢遺跡
- 24 大道下遺跡
- 25 堀越古墳
- 26 天神遺跡
- 27 中宮関遺跡
- 28 下宮関遺跡
- 29 前橋東商業高等学校遺跡
- 30 上大屋下組遺跡
- 31 上大屋天王山遺跡
- 32 上大屋中組遺跡
- 33 堀越西前沖遺跡
- 34 稲荷塚古墳
- 35 ハッケ峠遺跡
- 36 上大屋・堀越地区遺跡群
- 37 浅見遺跡
- 38 日光道東遺跡
- 39 大胡城跡
- 40 殿町遺跡
- 41 養林寺館址
- 42~44 (42 C地点遺跡 43 A地点遺跡 44 D地点遺跡)
- 45 堀越乙関特戸遺跡
- 46 中道遺跡
- 47 新畑遺跡
- 48 甲賀訪遺跡
- 49 堀越西一丁田遺跡
- 50 西尾引遺跡
- 51 堀越芝山遺跡
- 52・53 堀越二本松遺跡
- 54 横沢向田遺跡
- 55 真木遺跡
- 56 堀越二本松遺跡
- 57 蟹沢遺跡

第3節 調査の方法

該当地域は、試掘結果と土器の散布状況、平成2年度に行われた中川原遺跡群の小林・山神・大畑遺跡発掘調査事例から遺構・遺物が濃密に存在することが想定された。

発掘調査に当たっては、国家座標並びに水準の基準杭を業者に委託し、国家座標(X=44460 Y=60850)を基点として5×5mのグリットを設定した。

グリットは東西方向に西からアルファベットでA~、南北方向を南から算用数字1~を付して南西杭をもってグリット名(第4図参照)を呼称した。

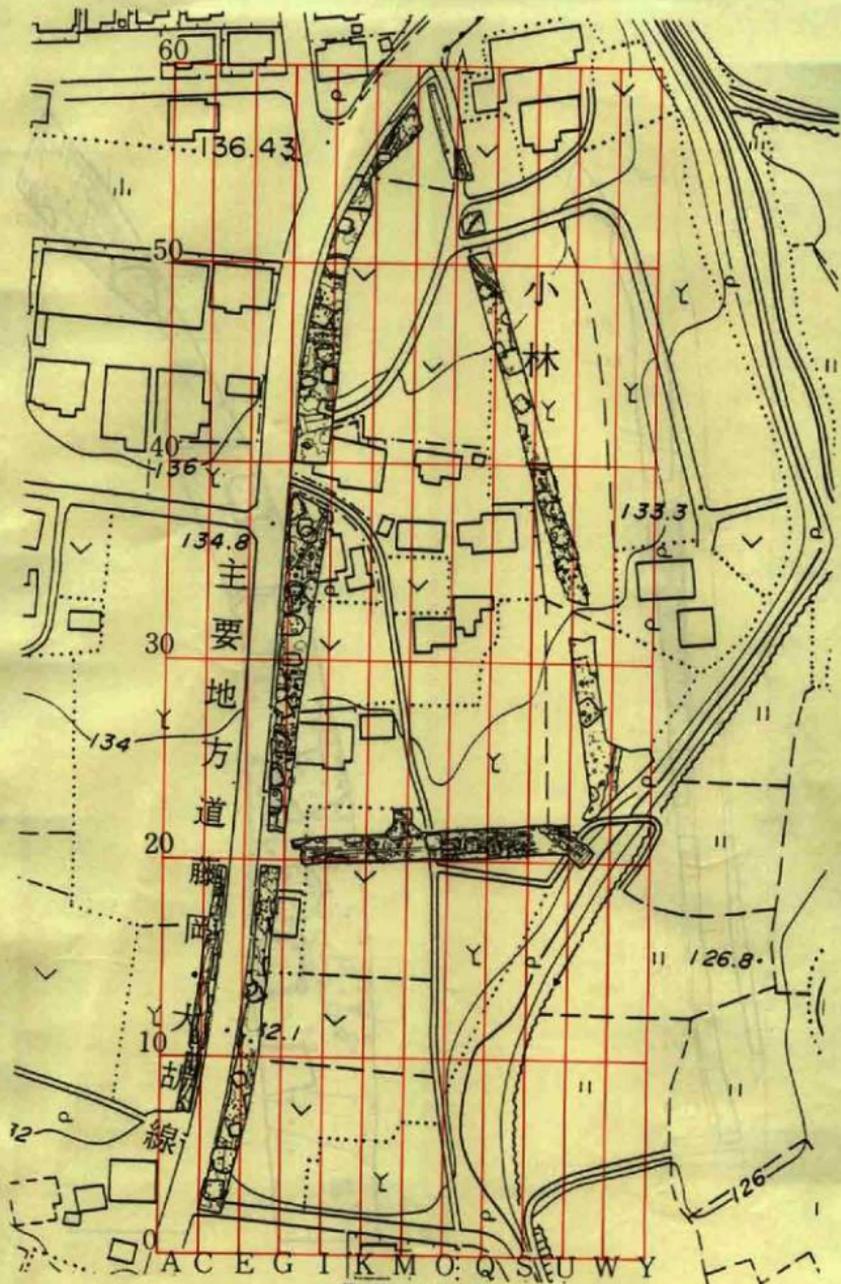
小字界と用地買収等の事業進捗状況から道路東部分を北からD区(平成11年度調査区の字小林)、E区(平成12年度調査区の字山神)、A区(平成11年度調査区の字山神の一部)、B区(平成11年度調査区の字山神)、道路西側のC区(平成11年度調査区の字諏訪前)と区名(第5図参照)を呼称した。

調査該当区が主要地方道藤岡大胡線に接するために安全管理としてガードフェンス設置を業者に委託し、保全を計った。

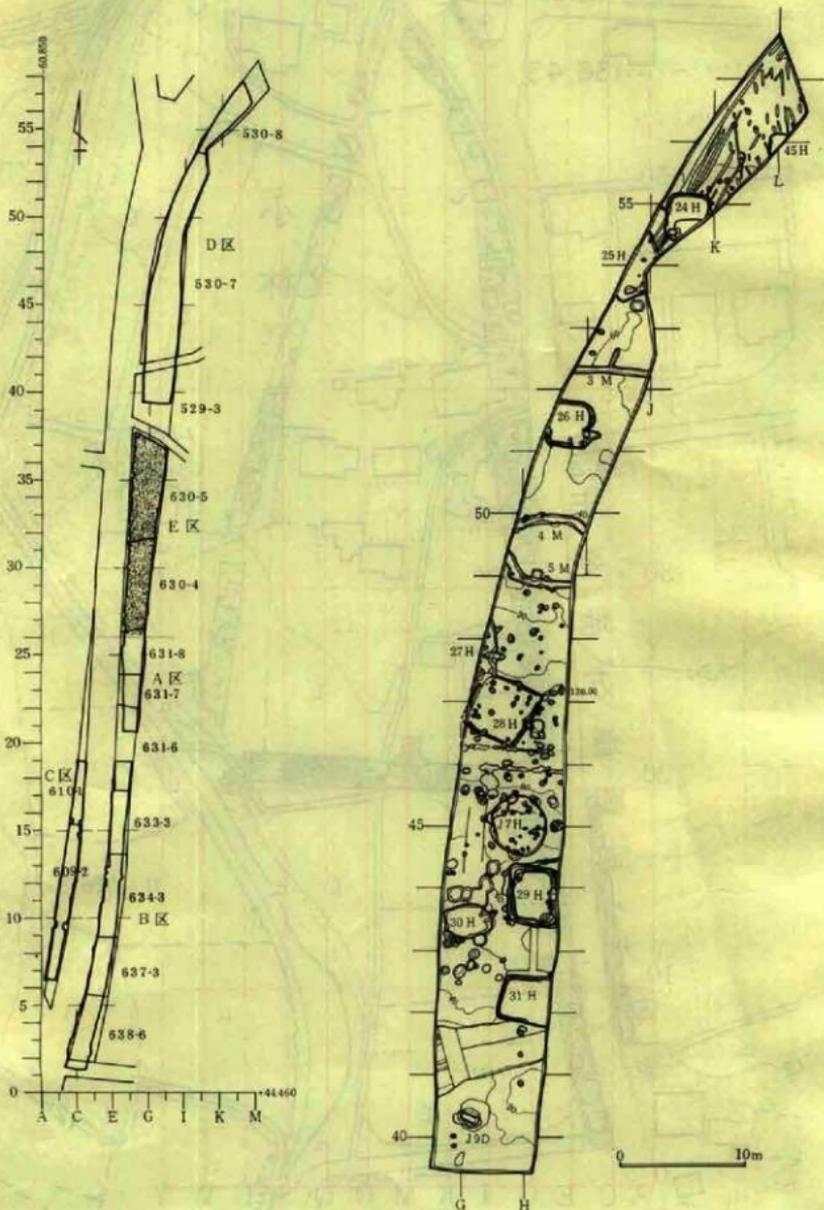
調査対象地全面の表土除去は重機を使用し、遺構確認作業及び覆土除去は人力で行った。実測図は、20分の1を基本とし、平板測量で作成した。図面記録の作成は、調査担当者と作業員が主に行ったが、一部と全体図を業者に委託した。

写真は、35mmモノクロ・カラーリバーサル写真を調査担当者が撮影し、遺跡全体及び俯瞰写真は業者による航空写真撮影を行った。

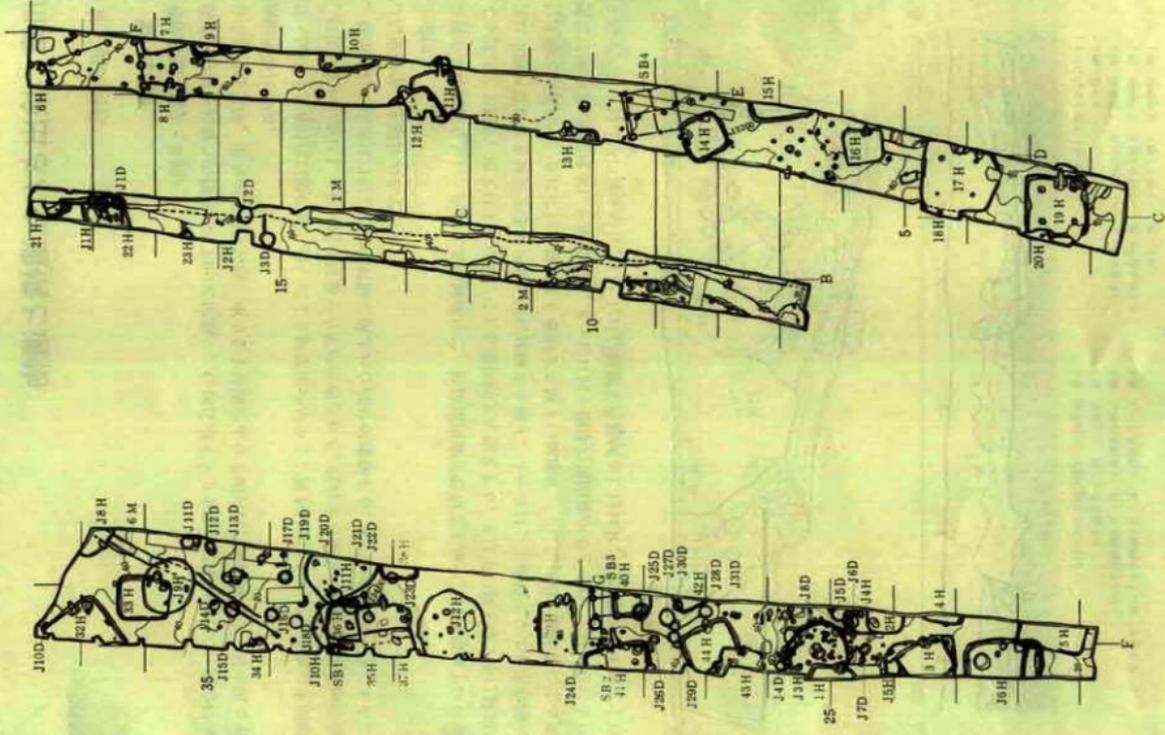
発掘調査により、縄文時代前期・中期の竪穴住居跡・土坑、古墳時代前期~平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝状遺構等を検出した。



第4図 グリット図



第5圖 全体圖 (I)



第6圖 全体圖 (2)

第三章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代

(1) 竪穴住居跡

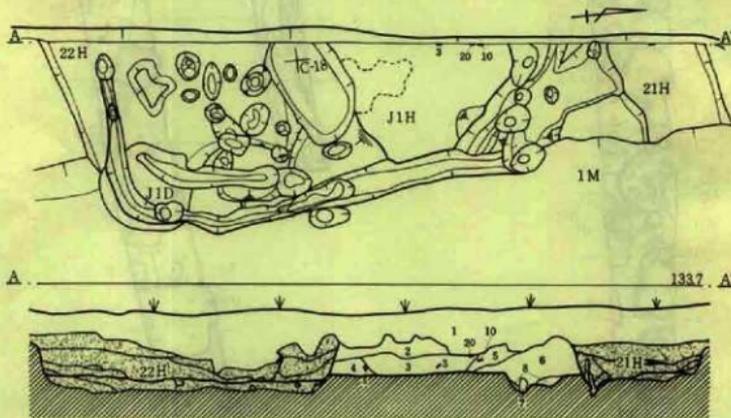
J1号住居跡 (第7・8図)

C調査区の最も北寄りの標高132.90mに位置し、C18Gポイントを中心に検出された。北方に古墳時代以降の21号住居跡、南方が22号住居跡、東方を1号溝によって切られ、南東隅でJ1号土坑と重複するが新旧関係は不明。

形状・規模は古墳時代以降の切り合いによる破壊部分が多く、西方は調査区外である為に不明瞭であるが、形状は東から南にL字形に廻る周溝で方形が推察される。残存する東方の周溝は約4.6mの長さを測る。検出された床面は21号と22号住居跡に挟まれた部分が残存する。柱穴・炉址は不明である。出土遺物は前期中葉の土器片のみである。

〈出土遺物〉

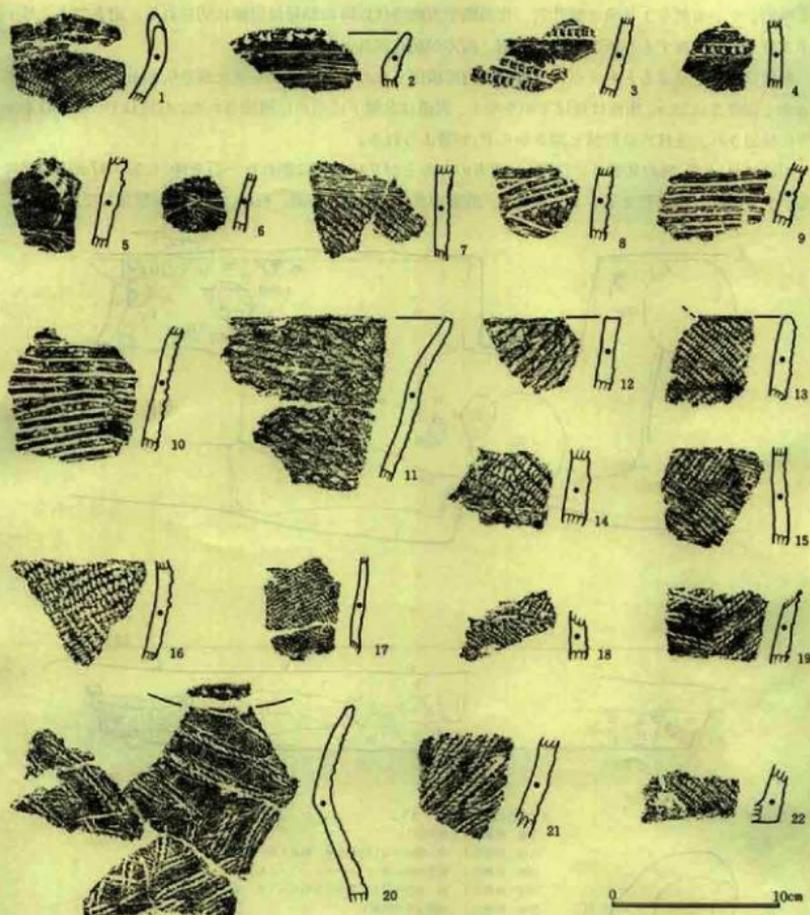
1は緩やかな波状を呈し、内湾する口縁部片で、波頂部内面に貼付文を施す。口唇部直下にロッキングによる波状文を施す。地文はLRとRLによる羽状風文を施文する。2は平口縁を呈する口縁部片で、口唇部に半截竹管による刺突を連続させ、平行沈線文を施す。3～5は、半截竹管による爪形刺突を施す平行沈線文を巡らす。6は平行沈線により菱形文を施す口縁部片。7は幅狭の半截竹管による平行沈線を横位に巡らす。地文はRLを施文する。8～10は同一個体の可能性が考えられ、半截竹管により菱形文等を施す。11～13は平口縁を呈し、11と12は口唇部を角縁状とし11はR、12は無筋Lを施文する。



J1号住居後土層註 (A-A')

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1層 耕作土 | 5層 暗褐色土 4層に位るがやや明るい |
| 2層 暗褐色土 黄白色礫石、カーボン粒少量含む | 6層 暗褐色土 溝ノ子状を呈する |
| 3層 暗褐色土 2層より明るく、溝ノ子状を呈する | 7層 濃い黄褐色土 R・Bと暗褐色土の混土 |
| 4層 暗褐色土 3層より明るく、溝ノ子状 | 8層 濃い黄褐色土 R・Bと暗褐色土と溝ノ子状を呈する |

第7図 J1H平面図



第8図 J1H出土遺物

13はRLとLRを羽状に施文し、小突起を付す可能性がある。14はRL、15・16はRLとLRで羽状縄文、17は結末のあるRLとLRを施す。18は附加条縄文を施文する。19～21は2条併走の附加条を施文する。20と21は同一個体で、波状口縁を呈する。胴部上半に屈曲部を設け、口縁部は直立気味にやや外反し、口唇部には刻み目を施す。22はRLを施文する底部片。

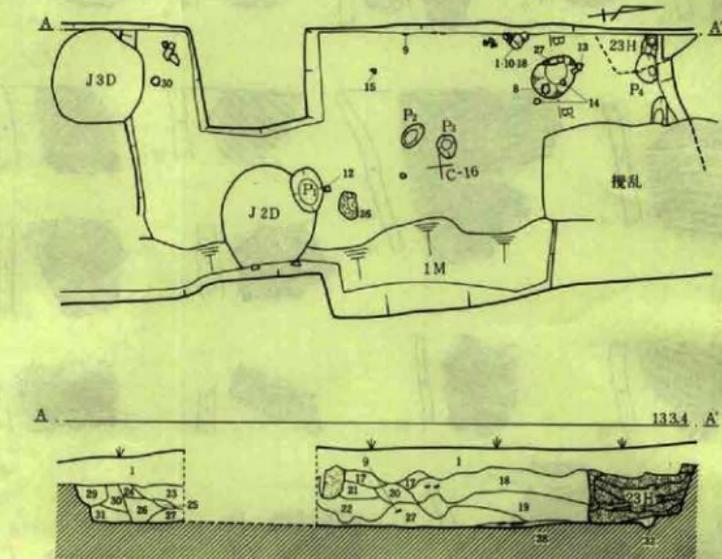
J2号住居跡(第9～11図)

C調査区の北方、標高132.80mに位置し、C16グリットポイントを中心に検出された。南と北の壁面

を検出したが東部を1号溝と攪乱穴、北西隅で古墳時代以降の23号住居跡に切られる。南方でJ2号・J3号土坑が重複するが新旧関係は不明。西方が調査区外となる。

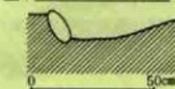
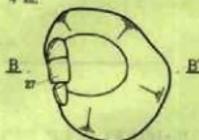
形状は方形を呈すると考えられ、調査区内で検出された南と北壁から南北長さ6.45mを測る。残存する北と南壁高は55cm。床面はほぼ平坦を呈し、周溝は北壁下に僅かに検出された。柱穴はP₁~P₄の4カ所に検出され、主柱穴は形状と深さからP₁が考えられる。

炉址はP₃とP₄間の北寄りに位置し、西方の立ち上がりに三つに割れた一石を伴い、57×47cmの南北に長いやや歪んだ楕円形を呈する。遺物は、前期中葉の土器片、石皿、石鉢、磨石等が散在して出土した。



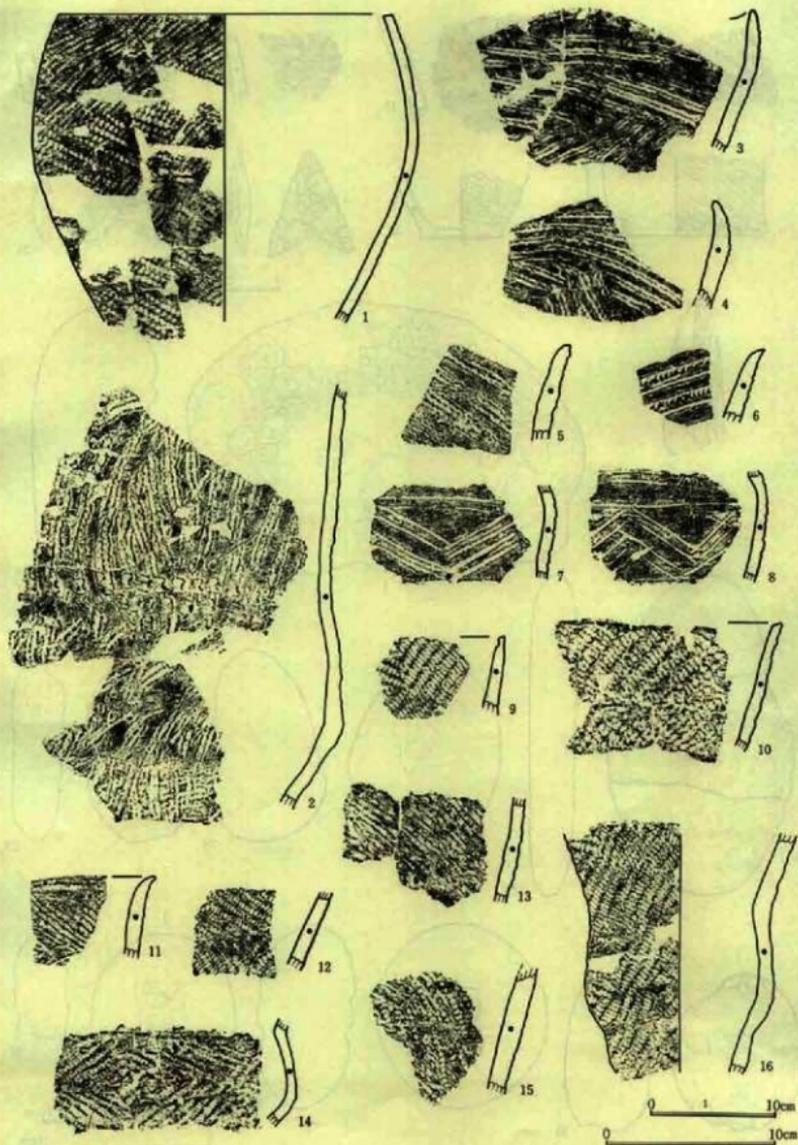
J2号住居跡土層図 (A-A)

炉址

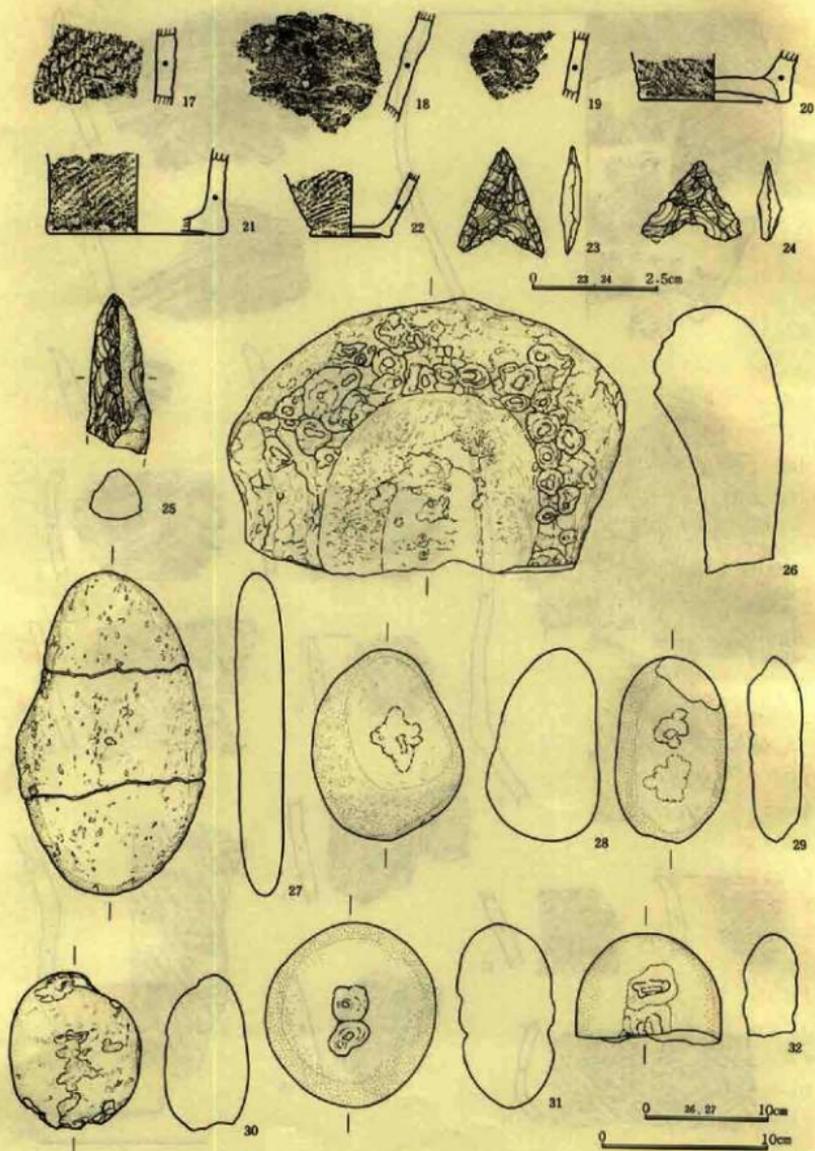


- 1層 暗褐色土 現耕作土
- 17層 暗褐色土 混入物の少ない均質な層 跡まり弱い
- 18層 暗褐色土 層土中最も暗い カーボン、ローム粒子点在
- 19層 暗褐色土 糜ノ子状を呈し、黄白色靨石混入 カーボン粒子点在
- 20層 暗褐色土 19層よりやや暗い
- 21層 暗褐色土 18層よりやや明るい カーボン・ローム粒子点在
- 22層 暗褐色土 カーボン粒子点在
- 23層 暗褐色土 ローム粒子混入 R・B、カーボン粒子点在
- 24層 暗褐色土 R・B点在
- 25層 におい黄褐色土 R・B混入
- 26層 におい黄褐色土 カーボン粒子 色調がほぼ同じBと粒子で構成
- 27層 におい黄褐色土 非常に跡まりの強い層 糜ノ子状を呈し、カーボン粒子点在
- 28層 におい黄褐色土 J2Hの覆土中最も明るい
- 29層 暗褐色土 暗褐色ローム質土の粒子の均質混土
- 30層 におい黄褐色土 暗褐色ローム質土と黄褐色ローム質土が混を呈する
- 31層 黄褐色土 ハードローム層
- 32層 暗褐色土 暗褐色ローム質土の粒子の均質混土

第9図 J2H平面図



第10圖 J 2 H出土遺物(1)



第11圖 J 2 H出土遺物 (2)

《出土遺物》

1は胴部上位に最大径がある平口縁の深鉢で、口唇部を角縁とする。口径26.6cm、胴部上位の最大径31cm、残存器高24.6cmを測る。2～5は二条併走する附加条を施文する。2は胴部下半で屈曲し、直立気味に立つ胴部片。中位には横位に爪形文を二段に刺突するが下段は途切れる部分がある。3～6は波状口縁を呈し、3と4は同一個体で緩やかに内湾する口縁部片。6は口唇部を内そぎ縁とし、半截竹管による爪形刺突を施す平行沈線文を巡らす。7と8は同一個体で、平行沈線により区画内に鋸歯状の文様を施す。9～11は平口縁を呈し、口唇部を内そぎ縁とする。11の口唇部は内そぎ縁状とし、外面口端部が鋭く突出する。12はRLとLRを羽状に施す。13はLを施す。14は胴部上位の屈曲部片で羽状に施す。15はRLを施す。16は胴部下位に屈曲部があり、括れ部から外反する口縁部へ移行する。17～20の底部は上げ底を呈し、21は直立気味に立ち上がる体部下半片、22は外反する体部下半片。

23と24は無茎の三角鉢、25は断面三角形を呈する打製石斧で、1面に自然面を残す。26の石皿は半分弱ほど欠損する。皿部は深くU字状に窪むが使用による摩面は粗い。敲打痕による凹孔は縁部に集中して設けられ、裏面では僅かである。27は炉石に使用され、3つに割れている。扁平な石で片面に摩面が認められる。敲打痕による凹凸は認められ無い。28は表裏面に敲打痕を有する。29の凹石は両端部に剝離面がある。片面に敲打痕が認められる。30の磨石は全面を磨面として使用している。片面の中央部に敲打痕が認められ、スガが付着する。31の凹石は表裏面に2個の凹孔を中央部に設ける。32の凹石は約半分が欠損し、表裏面の中央部に敲打痕による凹孔を有する。

J 2号住居跡出土遺物法量 (長さ・幅・厚さの単位はcm, 重さはg)

23	石鉢	長さ 1.5	幅 1.9	厚さ 0.5	重さ 0.7	石質 黒曜石	24	石鉢	長さ 2.1	幅 1.7	厚さ 0.4	重さ 0.9	石質 黒曜石
25	打製石斧	長さ 9.5	幅 3.3	厚さ 3.1	重さ 115	石質 黒曜石 ガラス質安山岩	26	石皿	長さ (22.3)	幅 31.5	厚さ 11.5	重さ 8000	石質 輝石安山岩
27	石皿	長さ 25.7	幅 15.1	厚さ 3.9	重さ 1981	石質 輝石安山岩	28	凹石	長さ 11.5	幅 9.2	厚さ 6.7	重さ 780	石質 粘板岩的結晶
29	凹石	長さ 11.2	幅 6.6	厚さ 3.4	重さ 356	石質 輝石安山岩	30	凹石	長さ (9.5)	幅 7.7	厚さ 5.0	重さ 495	石質 輝石安山岩
31	凹石	長さ 11.2	幅 10.2	厚さ 6.0	重さ 749	石質 輝石安山岩	32	凹石	長さ (6.7)	幅 8.6	厚さ 3.7	重さ 268	石質 輝石安山岩

J 3号住居跡 (第12～15区)

A調査区の北方でE～F25グリットにその主体が検出された。標高133.45m付近に位置し、南西部で1号住居跡に切られる。北西部で当住居跡より古いJ4号土坑と重複する。西方は現道路敷部分に及び、全体の3分の2ほどが調査された。

形状は、南東～北西方向に長い楕円形を呈し、長軸はN-62°-Wにとる。掘り込みは残存の良い北壁で36cmを測る。規模は残存部分から推定すると長軸長7m前後、短軸長5.2m前後となる。床面はほぼ平坦である。周溝は幅20～30cm前後、深さ4～20cmで全周すると考えられ、柱穴は7カ所に検出され、P₁～P₇が主柱穴の可能性が考えられる。

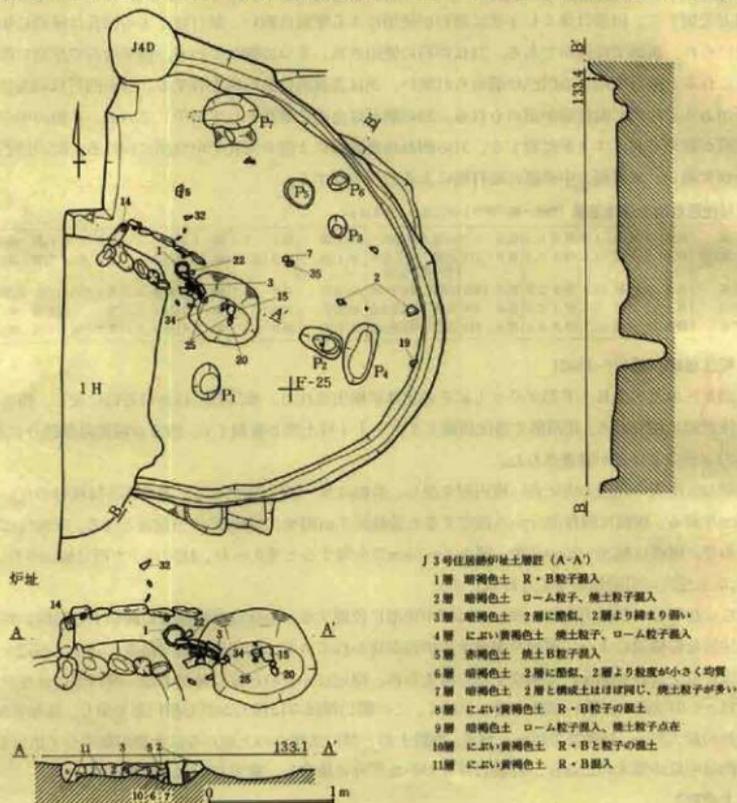
炉址は住居址の長軸方向に一致してほぼ中央部に位置する。形状は南東部分が開口する石囲い炉で、1号住居址の構築によって南辺を構成する炉石が抜かれている。北辺は5石(長さ1.5m)、西辺を2石(石抜け痕を合わせ60cm)で構成すると考えられ、南辺は4石の石抜け跡がある。開口部には埋設土器を設け、その前面には浅い皿状の窪みが続く。この開口部窪みは西方が歪む楕円形を呈し、長軸長96cm、短軸長の最大81cm、最深部で10cmを測る。埋設土器と開口部窪みの上面からは土器が集中して出土した。

遺物は中期中葉末の土器片、打製石斧等が炉址部分に集中し、東方から北方に散在する。

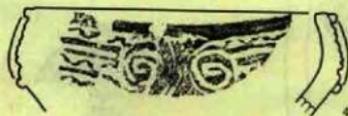
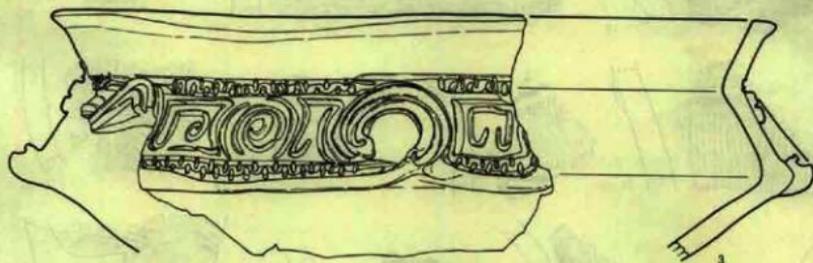
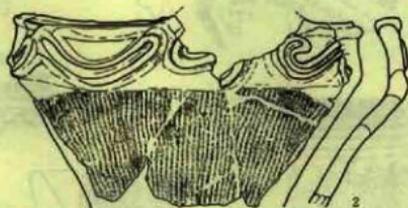
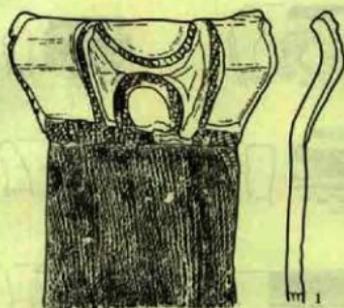
《出土遺物》

1は炉内埋設土器で底部を欠く。円筒形の胴部から緩やかに内湾する口縁部に移行する深鉢形土器で

口径13.3cm、残存器高17.5cm。口縁部文様は無文の口縁部に隆帯を貼付する。地文は胴部に燃余Lを施した後に隆帯上にRLを施す。2は突起を付す平口縁を呈し、口径19.5cmを測る。突起部文は欠損し不明。頸部から外反して開き口縁部は「く」の字状に屈曲する。口縁部文様は背割り隆帯により横S字状文等を連結する。3は浅鉢形土器で復元口径42.8cm、屈曲部最大径47.6cmを測る。体部は所謂算盤玉状を呈し、無文の口縁部は外反する。文様帯は交互刺突文を施す隆帯を括れ部と張り出し部に施して区画する。区画内は円文で分割し、沈線により渦巻き文等を配す。4は平口縁を呈し、内湾する口縁部片で復元口径17.6cmを測る。隆帯による区画の左右に相対する渦巻き文を施し、区画内に連続する交互刺突文を多段に施す。5～7は口縁部文様を背割り隆帯で施し、渦巻き文や楕円区画文等を配す。5と6は同一個体の可能性があり、つの字状突起を付す。8と9は同一個体と考えられ、口唇部を背割り隆帯状に沈線を施す。文様は交互刺突文と渦巻き文等を配す。10は短く直立気味とする無文の口縁部下に刻み目を施す隆帯を巡らす。11は緩やかに内湾する口縁部を無文帯とし、平行沈線による横位沈線文と突出部に刻

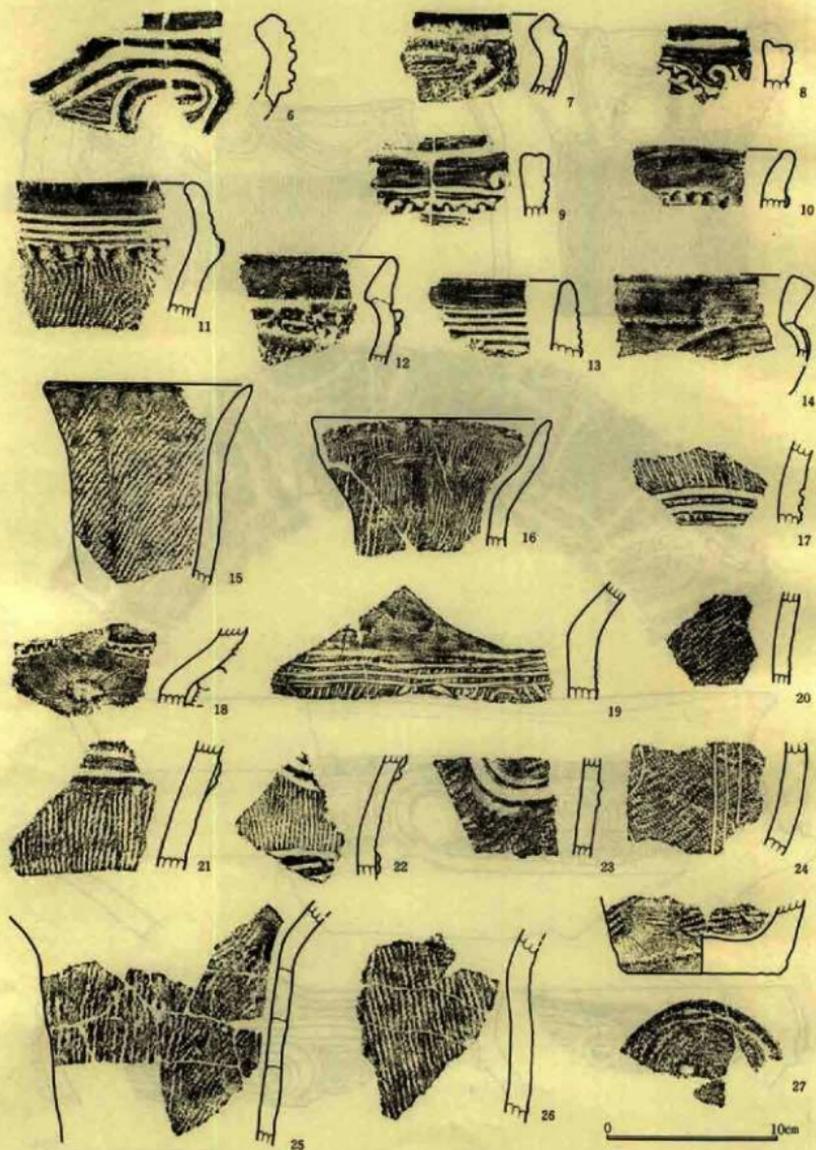


第12図 J 3 H 平面図

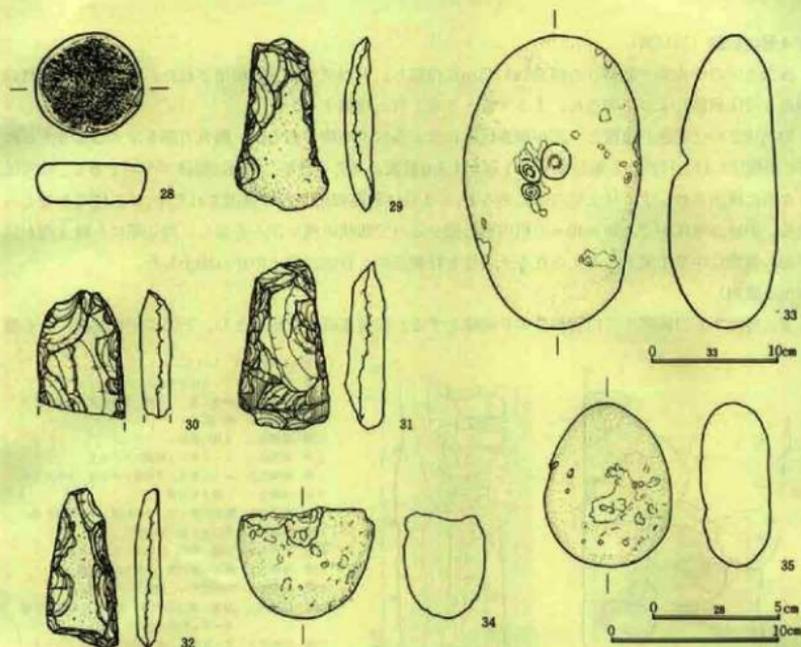


0 10cm

第13図 J 3 H出土遺物 (I)



第14圖 J 3 H出土遺物(2)



第15図 J 3 H出土遺物 (3)

み目を施す。地文は RL を施す。12は直立気味に立つ無文の口縁部下に隆帯を付し、指頭による押圧を連続させる。押圧によって偏平化した部分に横位の短沈線を施す。13は直立気味の口縁部片で、横位平行沈線を多段に巡らす。14の浅鉢形土器片は口縁部を直立気味にやや外反させ、文様は偏平な隆帯で意匠する。15は直立気味の胴部から緩やかに外反する口縁部へ移行する。地文 RL を充填する。16の口縁部は胴部から外反して開き、上方が直立気味とする。復元口径は14cmを測り、地文は燃糸 L を充填する。17は横位に平行沈線地文を巡らし、燃糸 R を施す。18は無文帯の頸部から口縁部下に付された環状把手を欠く。口縁部文様帯は交互刺突文が施されている。19は頸部を無文帯とし、沈線文で胴部文様を意匠する。20は RL を施す。21と22は背割り隆帯で文様を区画し、21は RL、22は燃糸 L を施す。23は二本隆帯で文様を意匠し、胎土には金雲母を含む。24は三本一組の懸垂文と蛇行懸垂文を交互に垂下させる胴部片。地文は LR を充填する。25は燃糸 L を施す。26は LR を充填する。27は RL を施す。28は底部片を利用した土製円盤。

29～32は打裂石斧。33の凹石は片面の中央部に凹孔を3つ設けている。34の凹石は半分が欠損し、表裏面の中央に凹孔を有する。35の凹石は表裏面と周縁に一カ所の敲打痕を設ける。

J 3号住居跡出土遺物度量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

28	土製円盤	長さ 4.3	幅 4.1	厚さ 1.7	重さ 34.2	29	打裂石斧	長さ 10.3	幅 5.6	厚さ 1.7	重さ 95	石質 無彫品安山岩
30	打裂石斧	長さ 7.6	幅 5.1	厚さ 1.8	重さ 93	31	打裂石斧	長さ 10.1	幅 5.3	厚さ 2.3	重さ 146	石質 無彫品安山岩
32	打裂石斧	長さ 9.6	幅 4.3	厚さ 1.6	重さ 71	33	凹石	長さ 23.6	幅 13.9	厚さ 8.6	重さ 3191	石質 輝石安山岩
34	凹石	長さ(6.6)	幅 8.0	厚さ 5.1	重さ 258	35	凹石	長さ 9.9	幅 7.5	厚さ 4.2	重さ 411	石質 輝石安山岩

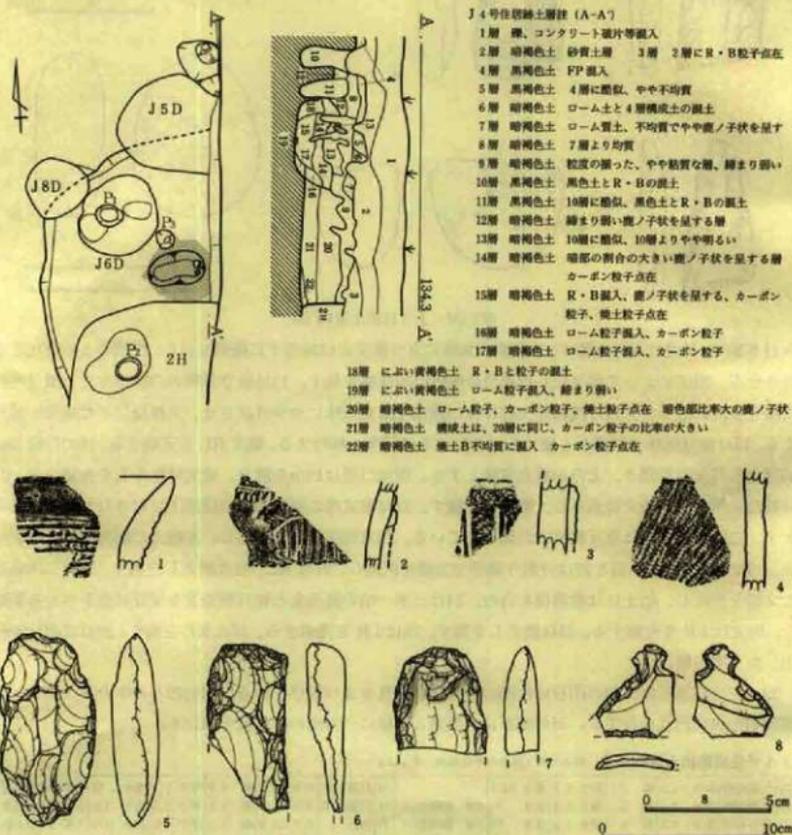
J 4号住居跡 (第16図)

A調査区の中央やや北寄りの標高133.45mに位置し、F24グリットに検出された。南方を古墳時代以降の2号住居跡によって切られ、J5・6・8号土坑と重複する。

形状は2号住居跡の重複と一部が調査区外に及ぶ為不明瞭であるが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は形状と柱穴から推定すると1辺が3.5m前後と考えられる。床面は堅緻で平坦である。柱穴は3カ所に検出され、J6号土坑内部にあるP₁と2号住居跡の掘り方で検出されたP₂が主柱穴と考えられる。炉址は地床炉で、70×40cmの楕円形の掘り込みで皿状の浅い窪みを呈し、周辺部にも焼土面が広がる。遺物は中期中葉末と考えられる土器片と打製石斧、石匙が覆土中から出土した。

〈出土遺物〉

1は外反する口縁部片で口唇部を尖り気味とする。口唇部直下を無文とし、下方に平行沈線による横



第16図 J 4 H平面図・出土遺物

位文を多段に巡らし、交互刺突文を上下に挟んで中央に半載竹管による爪形刺突文を連続する。2は刻み目を施す隆帯で横位区画文と楕円文を配し、楕円区画文内に半載竹管による平行沈線を縦位に充填する。3は隆帯による横位区画文と懸垂文を配し、隆帯上にRLを施す。4はRLを施す胴部片。5～7は打製石斧。8は横形石匙で刃部の一部を欠損する。

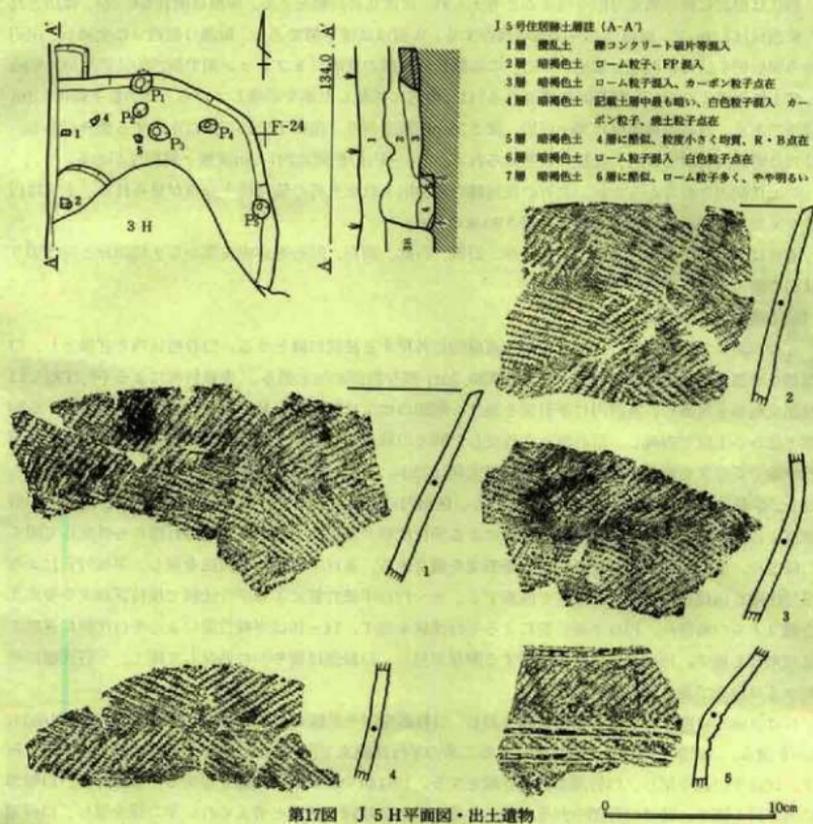
J 4号住居跡出土物法量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

5	打製石斧	長さ 11.7	幅 5.7	厚さ 2.9	重さ 188	石質	無彫品山岳	6	打製石斧	長さ 10.2	幅 4.9	厚さ 2.3	重さ 111	石質	無彫品山岳
7	打製石斧	長さ 6.5	幅 4.6	厚さ 2.1	重さ 103	石質	無彫品山岳	8	石匙	長さ 3.7	幅 3.2	厚さ 0.6	重さ 6.1	石質	無彫品山岳

J 5号住居跡 (第17図)

A調査区の中央付近の標高133.40mに位置し、E23・24グリットに跨がって検出された。中央部から南方を3号住居跡によって切られ、東～北方部分の一部が調査された。

形状は隅丸方形を呈すると考えられが、規模は不明である。壁高は東辺で50cmが残存する。床面はほ



は平坦である。柱穴は5カ所に検出されたが主柱穴は不明瞭である。周溝と炉址は検出されなかった。3号住居跡の北辺では円形を呈すると考えられる土坑状の掘り込みがあるが規模は不明。遺物は前期中葉の土器片が散在して出土した。

〈出土遺物〉

1～5は地文をRLとLRで羽状に施し、1・3・5は同一個体の可能性がある。1は直線的に開く口縁部片で、平口縁を呈する。口唇部は内そぎ縁とする。2は直立気味の口縁部片、3は緩やかに内湾する胴部上半の屈曲部片。5は半截竹管による平行沈線を横位に施す。

J 6号住居跡 (第18～26図)

A調査区の中央やや南寄りの標高133.35m付近に位置し、E21・22グリットに跨って検出された。調査区内で約半分程が掛かる。北東隅は古墳時代以降の5号住居跡によって切られている。

形状は南北に長い隅丸方形を呈すると考えられ、ほぼ北に長軸をとる。規模は南北長6.2m、検出された東西長は2.9mで、壁高は43～60cmが残存する。床面はほぼ平坦である。周溝は壁沿いに全周し、南辺から間仕切り状に東西にも検出された。この間仕切り状の周溝(セクション面で偶然的に覆乱が入り込んで当住居跡より新しい状態が観察される)は、南方に拡張した事を示唆している。その拡張幅は1.3m前後である。壁沿の周溝幅は30cm前後、深さ20cm前後を測り、南壁下では二重に走行する部分がある。柱穴は周溝内に検出され、壁柱穴と考えられる。P₁～P₃の柱間は約1.2m前後と規則性がある。

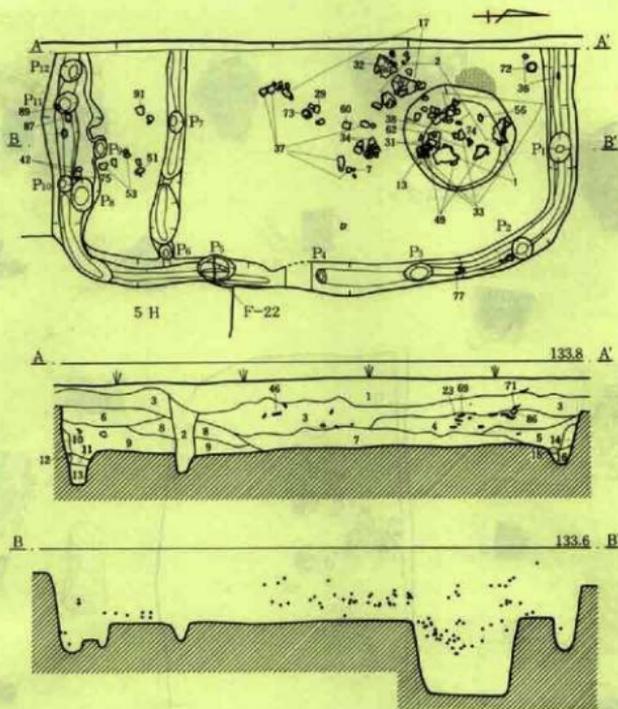
炉址は検出されなかったが、北方の住居跡内に検出された土坑の脇に焼土分布が見られる。土坑は円形を呈し、1.25mほどの径を測り、深さ90cmである。

遺物は、前期中葉の土器片、打製石斧、石錐、石匙、磨石、凹石等が中央部から土坑部分と間仕切り状の周溝の南部に集中して出土した。

〈出土遺物〉

1は内湾する胴部を呈し、括れ部から直線的に外反する波状口縁とする。口唇部は内そぎ縁とし、口端部には部分的に刻み目を施す。復元口径30.7cm、残存器高30cmを測る。半截竹管による平行沈線で口縁部文様帯を区画し、区画内に菱形文を施す。胴部の地文は無筋LとRを羽状に施す。2は外反する胴部下位から上位で内湾し、括れ部から外反して開く口縁部に移行する。口縁部文様は半截竹管による平行沈線で菱形文を施すのであろう。胴部最大径は32cm。3の口縁部は直立気味に内湾し、口唇部を尖らせる。半截竹管による平行沈線により区画し、区画内に鋸歯文を施す。4～6は波状口縁を呈し、口唇部直下に刻み目を施す。文様は半截竹管による平行沈線で菱形文を施す。7は括れ部から外反して開く口縁部片。半截竹管による平行沈線で菱形文を施す。8は下膨れ状の胴部を呈し、半截竹管による平行沈線を横位に巡らせて文様帯を区画する。9～12は半截竹管による平行沈線で横位区画文や菱形文を施す口縁部片。13は半截竹管による平行沈線を施す。14～16は半截竹管による平行沈線に連続する爪形文を施す。16は直立気味に内湾する胴部を呈し、口縁部は緩やかに外反して開く。平行沈線に連続する爪形文で菱形文を構成する。

17は直線的に開き4単位の波状口縁を呈し、口唇部を内そぎ縁とする。復元口径38.3cm、残存器高35.2cmを測る。口縁部文様帯は半截竹管による二条の平行沈線文で区画し、口縁部の波形に沿って多段に施す。18は平口縁を呈し、口唇部を内そぎ縁とする。19は緩やかな波状口縁を呈する口縁部片で、口端部に刻み目を施す。20は口唇部を外そぎ縁とする。21と27は同一個体と考えられ、平口縁を呈し、口唇部



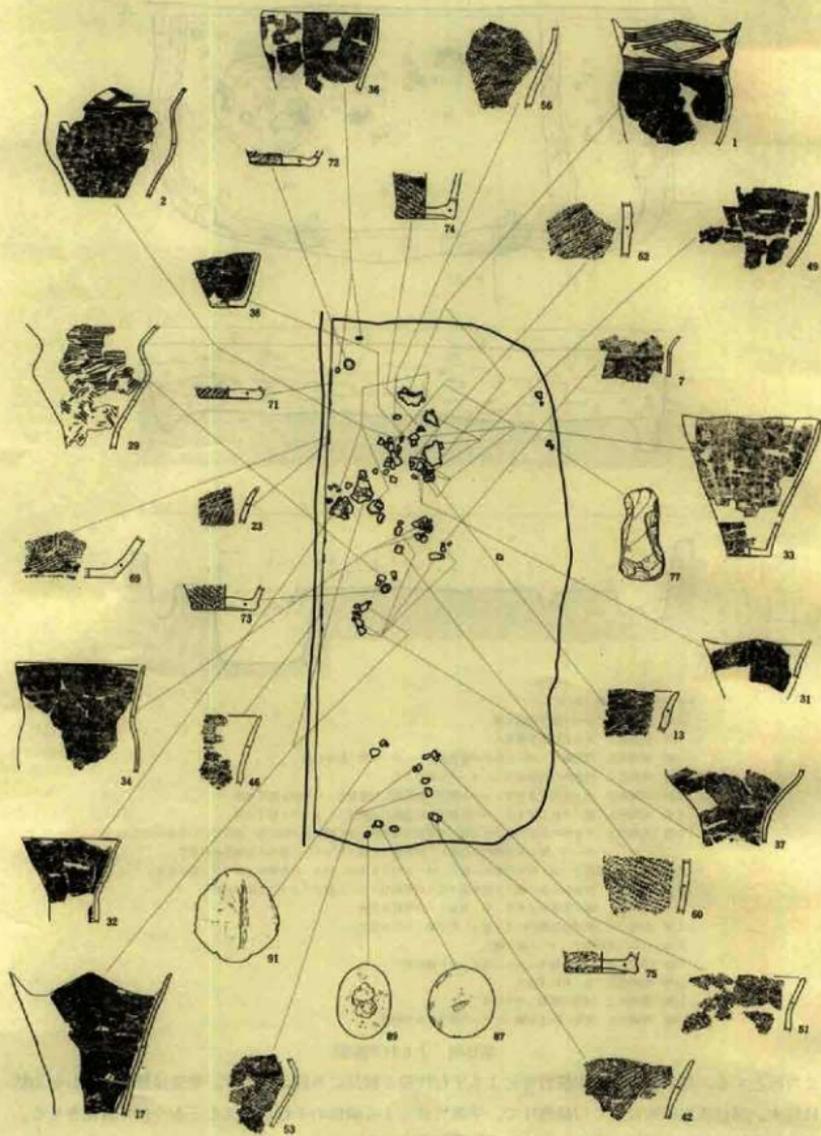
J 6号住居跡土層註 (A-A')

- 1層 礫 コンクリート破片等混入層
- 2層 暗褐色土 R・B粒子多量混入
- 3層 暗褐色土 白色軽石・ローム粒子中量混入 カarbon・糞土粒子点在
- 4層 黒褐色土 白色軽石均質混入し、カarbon粒子点在
- 5層 暗褐色土 糜ノ子状を呈する ローム粒子・白色軽石均質混入 カarbon粒子点在
- 6層 暗褐色土 糜ノ子状を呈する ローム粒子・白色軽石均質混入 カarbon粒子点在
- 7層 赤褐色土 やや赤味を帯びたローム質土で粒度は比較的均質で細い。上層に近い部分では白色軽石の混入、カarbon粒子を特徴的に点出し、やや糜ノ子状を呈する。上層からは漸移的に変化
- 8層 濃い黄褐色土 R・Bを特徴的に混入 ローム粒子も多量に混入 白色軽石・カarbon粒子点在
- 9層 暗褐色土 暗色の多い糜ノ子状を呈する 白色軽石・ローム粒子・カarbon粒子点在
- 10層 暗褐色土 糜ノ子状を呈する R・B混入 白色軽石点在
- 11層 暗褐色土 粒度は比較的によく揃う やや糜ノ子状を呈する
- 12層 濃い黄褐色土 ローム粒子混入
- 13層 暗褐色土 粒度の揃ったローム質土 やや粘質有り
- 14層 暗褐色土 R・B粒子混入
- 15層 暗褐色土 14層に類似 やや均質
- 16層 暗褐色土 非常に粒土の揃ったローム質土 やや粘質

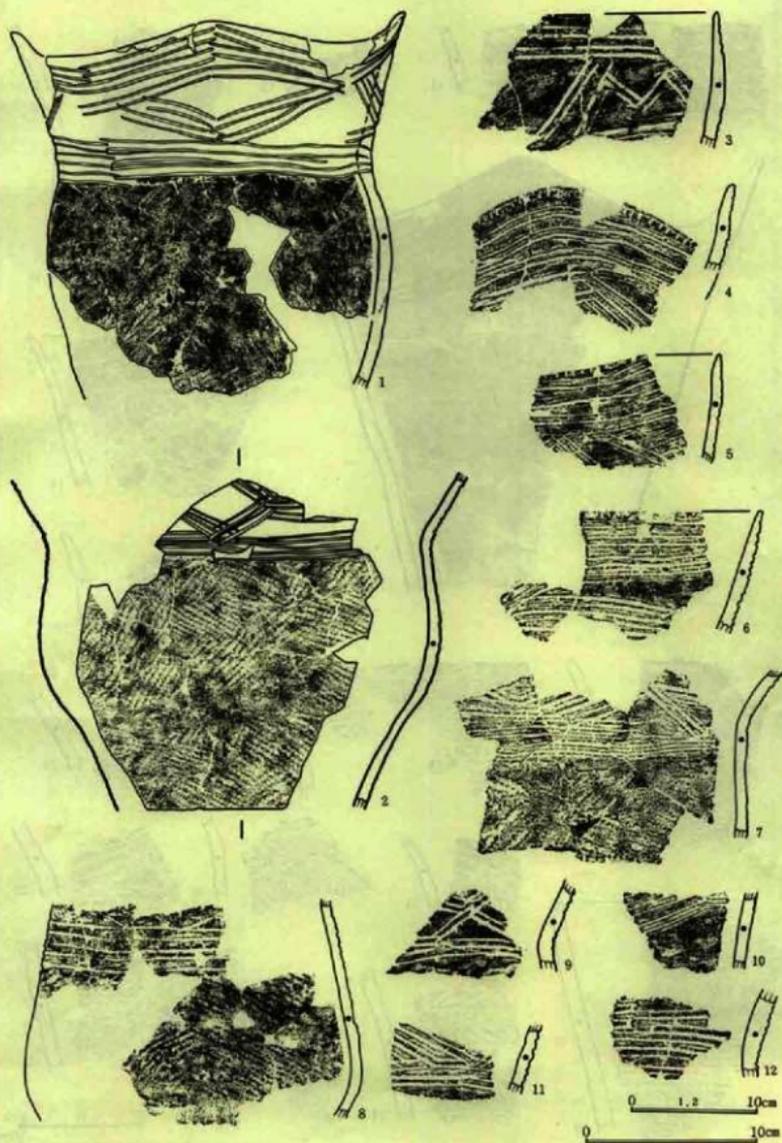
第18図 J 6 H平面図

を角縁とする。刻み目を伴う半截竹管による平行沈線を横位に多段に巡らす。地文は無節RとLを羽状に施す。26は直立気味に開く口縁部片で、半截竹管による横位の平行沈線文を三本一組で併走させる。地文はRLとLRを羽状に施す。28は網目状文を施す大木8 a式。

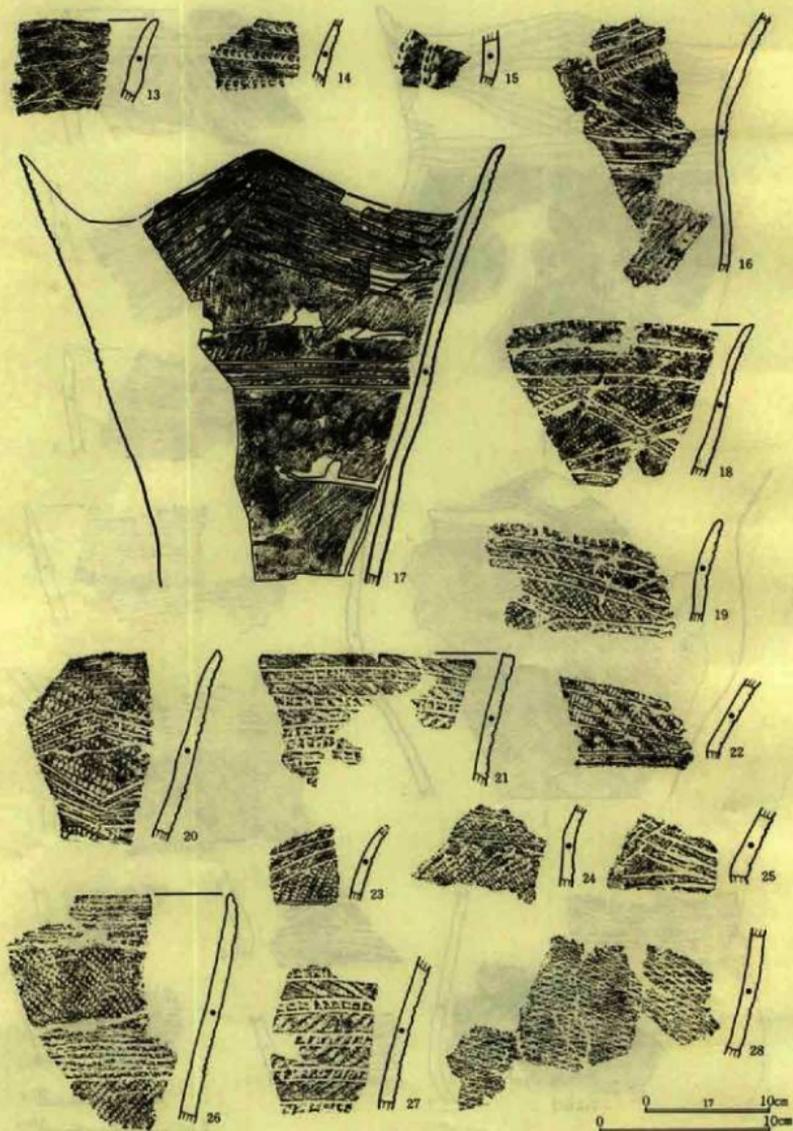
29は胴部下半から外反して「く」の字状に屈曲する胴部上半に移行し、括れ部から口縁部は大きく外



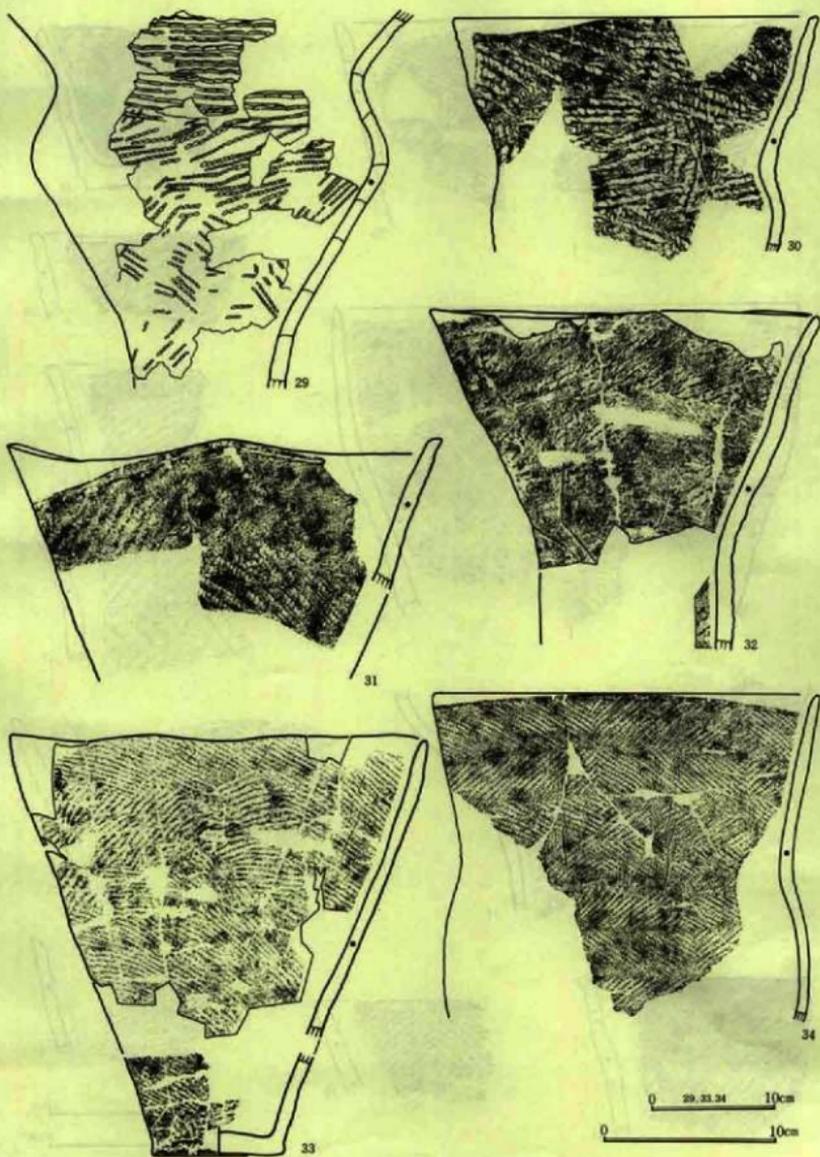
第19圖 J6 H遺物出土狀況



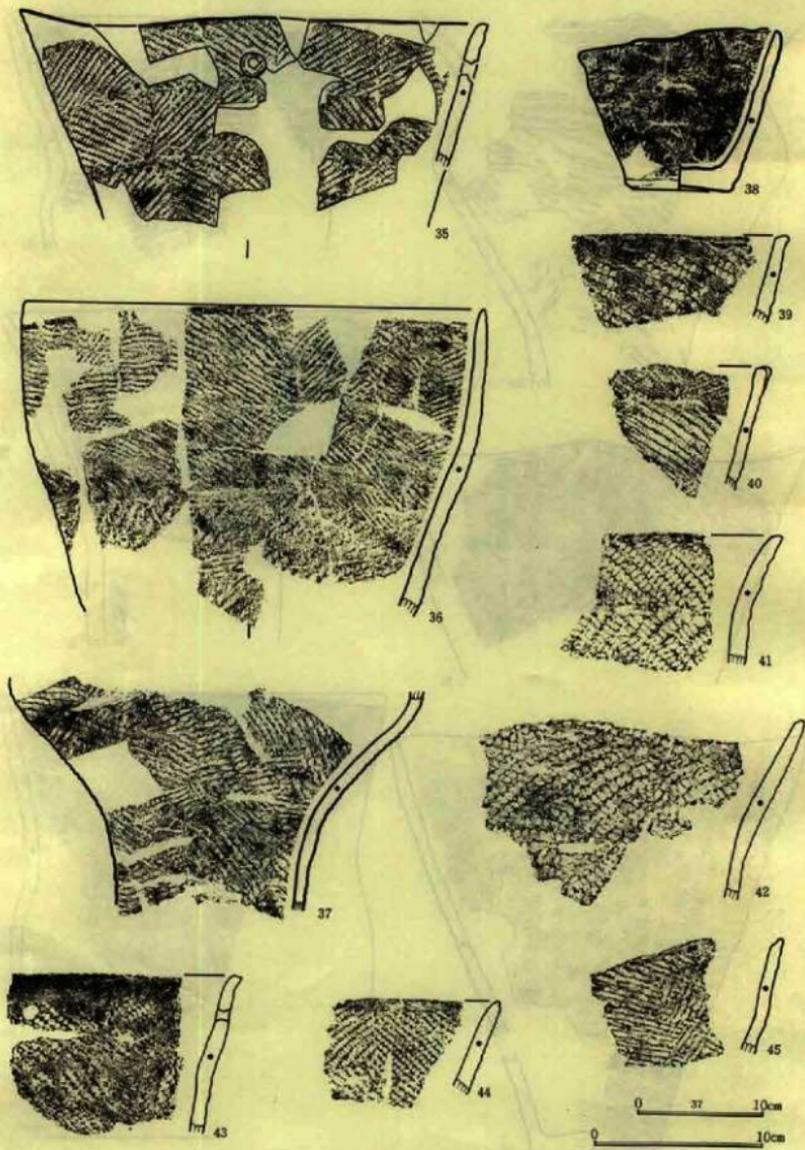
第20圖 J 6 H出土遺物 (1)



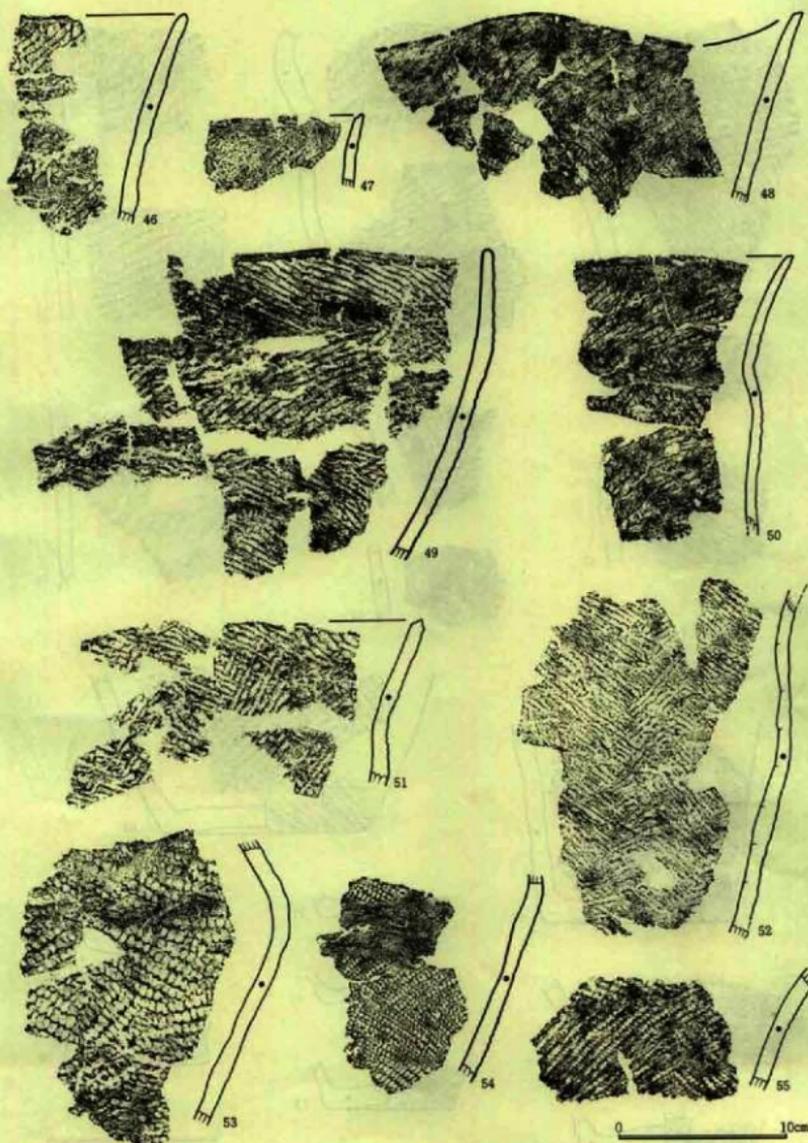
第21圖 J 6 H出土遺物 (2)



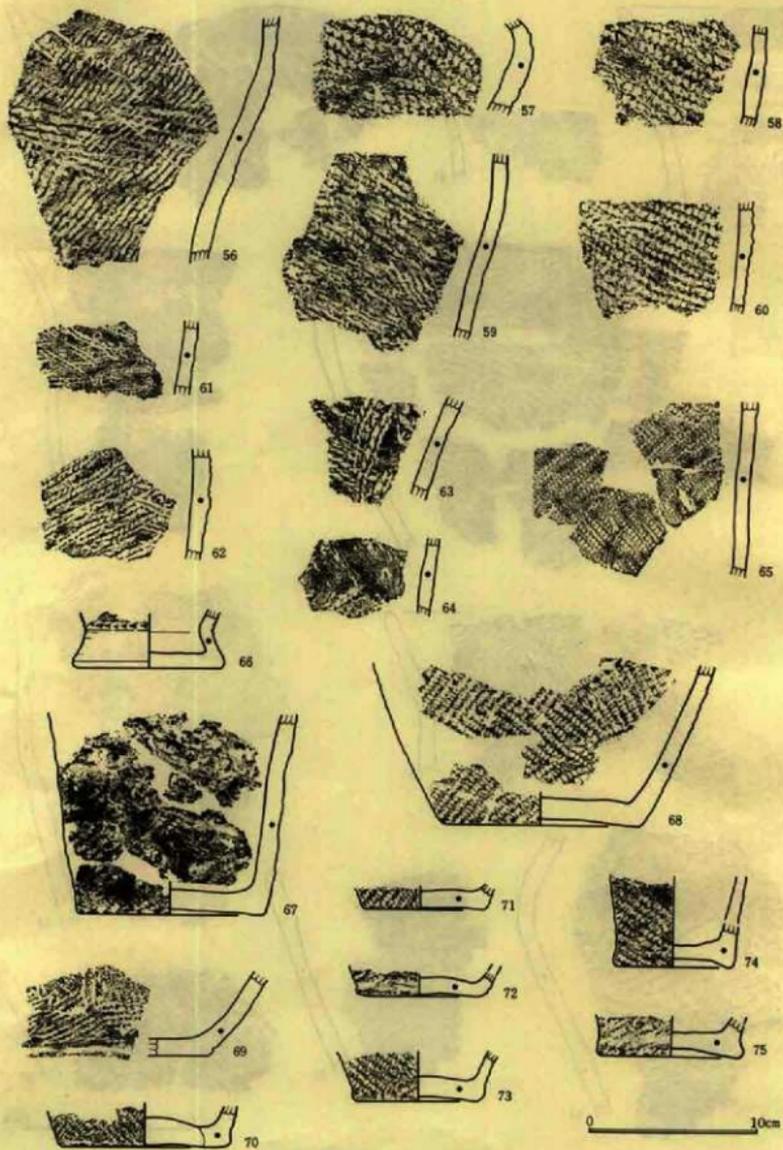
第22図 J 6 H出土遺物 (3)



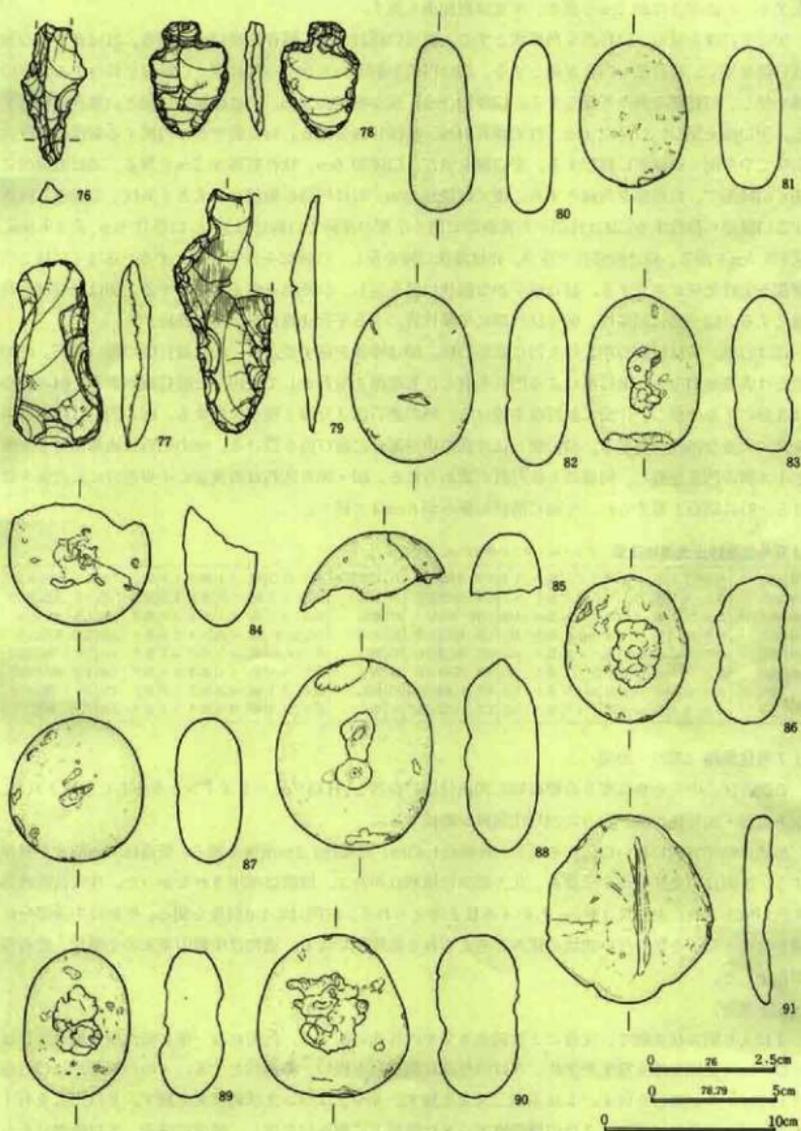
第23圖 J 6 H出土遺物 (4)



第24圖 J 6 H出土遺物 (5)



第25圖 J 6 H出土遺物(6)



第26図 J 6 日出土遺物 (7)

反する。屈曲部径は28.2cmを測る。地文は附加条を施す。

30は平口縁を呈し、口唇部を角縁状とする。復元口径21.2cm、残存器高14cmを測る。31は緩やかな波状口縁を呈し、口唇部を内そぎ縁とする。32は円筒形胴部からラッパ状に開く口縁部に移行する。平口縁を呈し、口唇部を外そぎ縁とする。口径22.8cm、残存器高20.2cm。33は直線的に開き口縁部に移行する。平口縁を呈し、口径32.6cm、推定器高34cm、底径10cmを測る。34は緩やかに内湾する胴部から直立気味でやや開く口縁部に移行する。平口縁を呈し、口径30.6cm、残存器高26.2cmを測る。35は直線的に開く口縁部で、口唇部を角縁とする。復元口径27.4cm。37は円筒形胴部から大きく外反して開き、内湾する口縁部へ移行する。38は底部から直線的に開く小型の深鉢で口縁部は歪む。口径11.6cm、高さ9.9cm、底径5.7cmを測る。43は補修孔を穿つ。45は波状口縁を呈し、口唇部を内そぎ縁とする。46は平口縁で口唇部を尖縁気味に丸くする。48は緩やかな波状口縁を呈し、口唇部を内そぎ縁とする。50は口唇部を角縁とする。52～65は胴部片。66は括れ部に半截竹管による平行沈線に爪形文を連続する。

76は石錐。77は打製石斧。78と79は縦形石匙。80は棒状を呈する。81・82は敲打痕の無い磨石。83の磨石は表裏面の中央に敲打痕による凹孔を有し、先端部を敲石として使用した敲打痕がある。84の磨石は3分の1を欠損し、片面に敲打痕を設ける。85の磨石は3分の2程を欠損する。86の凹石は片面の中央部に大きな凹孔を有する。87の磨石は片面の中央部分に敲打痕を設ける。88の凹石は表裏面に2カ所と1カ所の凹孔を有し、周縁にも敲打痕が認められる。89・90の凹石は表裏面の中央部分に敲打痕を設ける。91は砥石と考えられ、片面に溝状の窪みが8cmほど続く。

J 6号住居跡出土遺物量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

76	石錐	長さ 2.8	幅 1.3	厚さ 0.7	重さ 1.8	石質 無彫磨面山岳	77	打製石斧	長さ 11.2	幅 5.4	厚さ 1.8	重さ 116	石質 無彫磨面山岳
78	石匙	長さ 4.5	幅 3.1	厚さ 0.7	重さ 9.7	石質 珪化炭酸岩	79	石匙	長さ 9.7	幅 3.9	厚さ 1.2	重さ 32	石質 無彫磨面山岳
80	棒状石	長さ 10.4	幅 3.7	厚さ 2.8	重さ 158	石質 砂岩	81	磨石	長さ 8.7	幅 6.4	厚さ 3.7	重さ 284	石質 輝石安山岩
82	磨石	長さ 10.3	幅 7.4	厚さ 3.6	重さ 407	石質 輝石安山岩	83	凹石	長さ(9.6)	幅 6.9	厚さ 3.6	重さ 325	石質 輝石安山岩
84	磨石	長さ(7.4)	幅(8.6)	厚さ 4.5	重さ 284	石質 輝石安山岩	85	磨石	長さ(4.8)	幅 8.5	厚さ 4.1	重さ 145	石質 多孔質輝石安山岩
86	凹石	長さ 8.9	幅 7.3	厚さ 4.7	重さ 328	石質 輝石安山岩	87	凹石	長さ 8.8	幅 8.1	厚さ 4.0	重さ 166	石質 輝石安山岩
88	凹石	長さ 11.4	幅 9.2	厚さ 4.5	重さ 551	石質 多孔質輝石安山岩	89	凹石	長さ 9.1	幅 6.3	厚さ 3.7	重さ 220	石質 多孔質輝石安山岩
90	凹石	長さ 9.8	幅 8.9	厚さ 4.9	重さ 465	石質 多孔質輝石安山岩	91	砥石	長さ 11.3	幅 9.9	厚さ 2.1	重さ 166	石質 砂岩

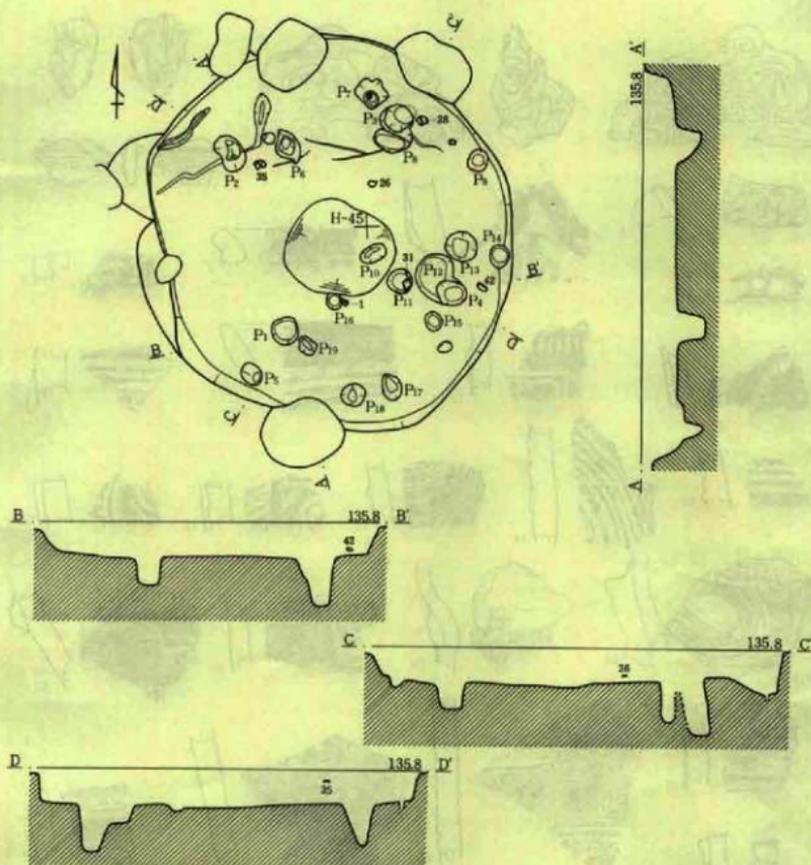
J 7号住居跡 (第27～29図)

D調査区の中央やや南寄りの標高135.70m付近に位置し、H45グリッドポイントを中心に検出された。南方に29・30号住居跡、北方に28号住居跡が隣接する。

形状は南北方向に長い楕円形を呈し、長軸長4.85m、短軸長4.2m前後を測る。壁高は30cm前後が残存する。床面は中央部分がやや窪み、北方部分に地割れが及ぶ。周溝は検出されなかった。柱穴は総数18カ所が検出され、主柱穴はP₁～P₄の4本柱と考えられる。柱間は2.4m前後を測る。炉址は中央部分に僅かに焼土粒子を含む浅い皿状の窪みと考えられる地床炉である。遺物は中期中葉末の土器片、磨石等が出土した。

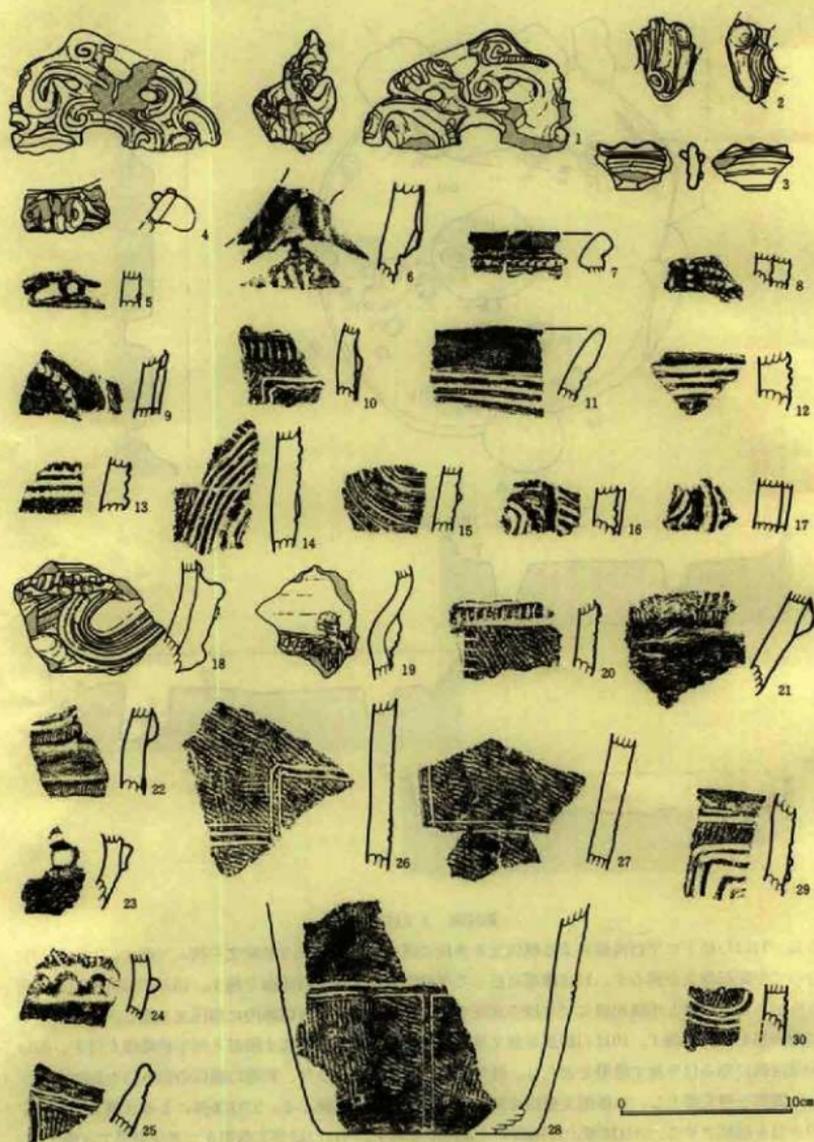
〈出土遺物〉

1は入り組み状突起で、沈線による渦巻き文を内外面に配する。内面には一部有筋沈線を施す。2は玉抱き三叉文風文様を施す把手片。3は口唇部に刻み目を施し、鋸歯状とする。4の口縁部片は口唇部直下にコイル状隆帯を付す。5は玉抱き三叉文を施す。6～9はペン先状刺突文を施す。6は凹孔を有する突起部片で隆帯区画内、7は口唇部直下、8は隆帯上に刻み目を施し、横位に併走、9は隆帯に沿って施す。10は頸部に刺突を連続させ、胴部文様は隆帯で区画する。11～13は平行沈線による横位文を巡

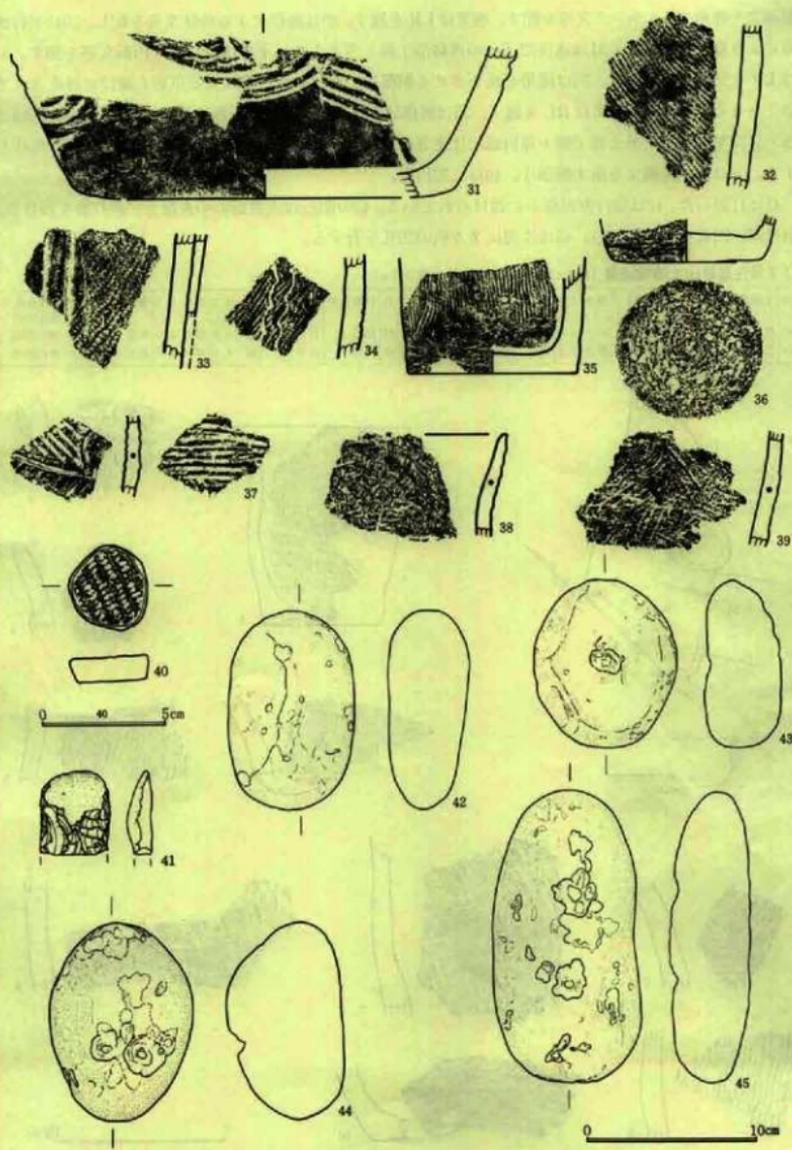


第27図 J7H平面図

らし、11は口唇下に平行沈線による横位文を多段に巡らす。13は交互刺突文を挟んで施す。14は隆帯に沿って半隆起線文を巡らす。15は隆帯に沿って半載竹管による平行沈線を施す。16と17は同一個体の可能性があり、隆帯と半隆起線文で文様を意匠する。18は隆帯による区画内に楕円文を配し、上部の隆帯に刻み目と刺突を施す。19は口縁部を無文帯とし、頸部に刻み目を施す隆帯と把手状隆帯を付す。20は胴部区画に刻み目を施す隆帯を巡らし、隆帯から懸垂文を垂下させ、両端に横位の刻み目を加飾する。21は頸部を無文帯とし、口縁部文様帯を刻み目を施す隆帯で区画する。22は隆帯による区画文に細かく刻み目を連続させる。23は隆帯上に指頭による押圧を施す。24は口縁部文様帯をヒダ状隆帯で区画する。25は山形突起片で文様を半載竹管による平行沈線で区画する。26～28は同一個体で平行沈線により横位



第28圖 J 7 H出土遺物(1)



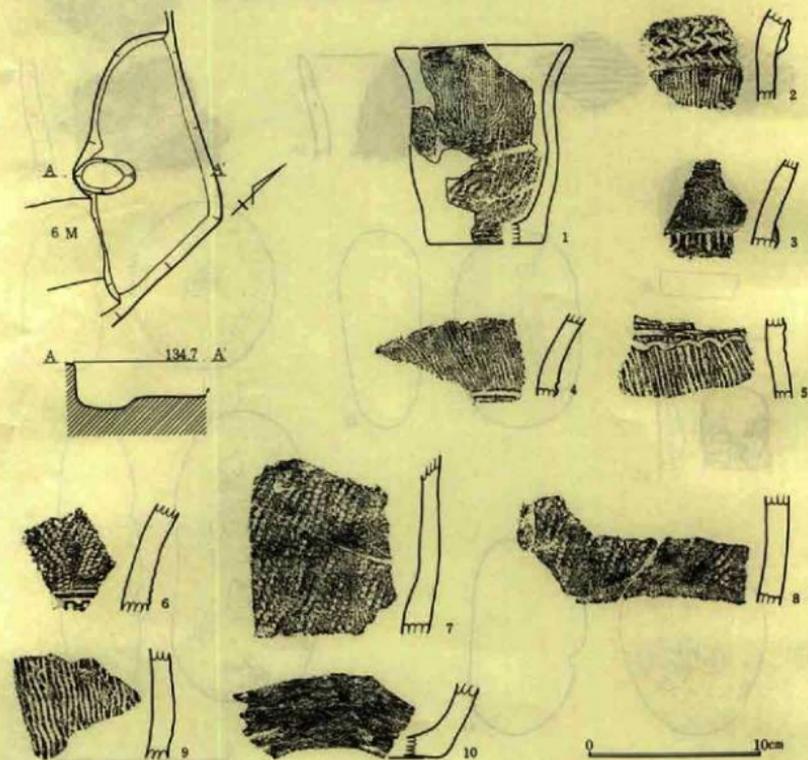
第29圖 J 7 H出土遺物(2)

区画文や懸垂文、クランク文等を配す。地文はLRを施す。29は隆帯による杵状文等を配し、30は平行沈線により窓匠文を配す。31は底径22.5cmの浅鉢形土器と考えられ、平行沈線により円弧文等を施す。32はLRを充填する胴部片。33は隆帯を垂下させる胴部片。34は半截竹管による爪形を縦位に併走させて垂下させる胴部片で、地文はRLを施す。35は底径10cmを測り、撚糸Lを施す。36の底部片は底径8.5cm。37は早期条痕文系土器で鶴ヶ島台式に比定される。38は直立気味の口縁部辺で口唇部を尖り気味とする。39は付加条縄文を施す胴部片。40は土製円盤。

41は打製石斧。42は敲打痕が僅かに設けられている。43の凹石は表裏面の中央部分に敲打痕を設ける。44は深い凹孔を有する凹石。45は片面に2カ所の凹孔を有する。

J 7号住居跡出土遺物量 (長さ・幅・厚さの単位はcm, 重さはg)

40	土製円盤	長さ 3.4	幅 3.2	厚さ 1.2	重さ 12.6	41	打製石斧	長さ 5.1	幅 4.2	厚さ 1.5	重さ 39	石質 無面品ガラス質安山岩
42	凹石	長さ 12.0	幅 7.5	厚さ 4.8	重さ 527	43	凹石	長さ 10.4	幅 8.8	厚さ 4.9	重さ 560	石質 輝石安山岩
44	凹石	長さ 12.0	幅 8.6	厚さ 7.1	重さ 646	45	凹石	長さ 17.7	幅 8.9	厚さ 4.9	重さ 930	石質 輝石安山岩



第30図 J 8 H平面図・出土遺物

J 8号住居跡 (第30図)

E調査区の北東隅で標高134.65m付近に位置し、G36グリットに検出された。上面を6号溝が走行する。遺物は中期中葉末の土器片が出土した。

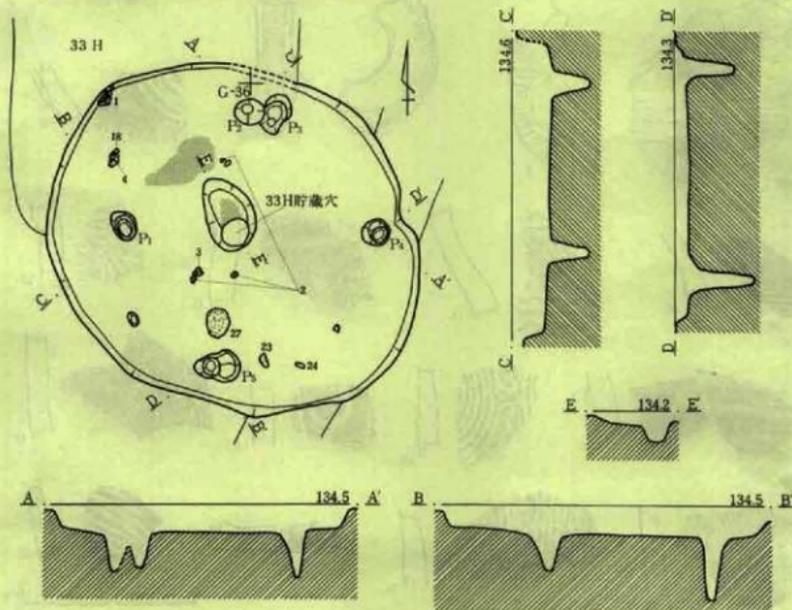
調査区内での検出は南辺寄りの極僅かな部分の為、形状・規模は不明である。壁高は26~38cmが残存し、床面は平坦を呈する。周溝・柱穴・炉址は検出されなかった。南辺に重複して楕円形の掘り込みが検出されたが新旧関係は不明である。遺物は覆土中より中期中葉末~後葉の土器が出土した。

《出土遺物》

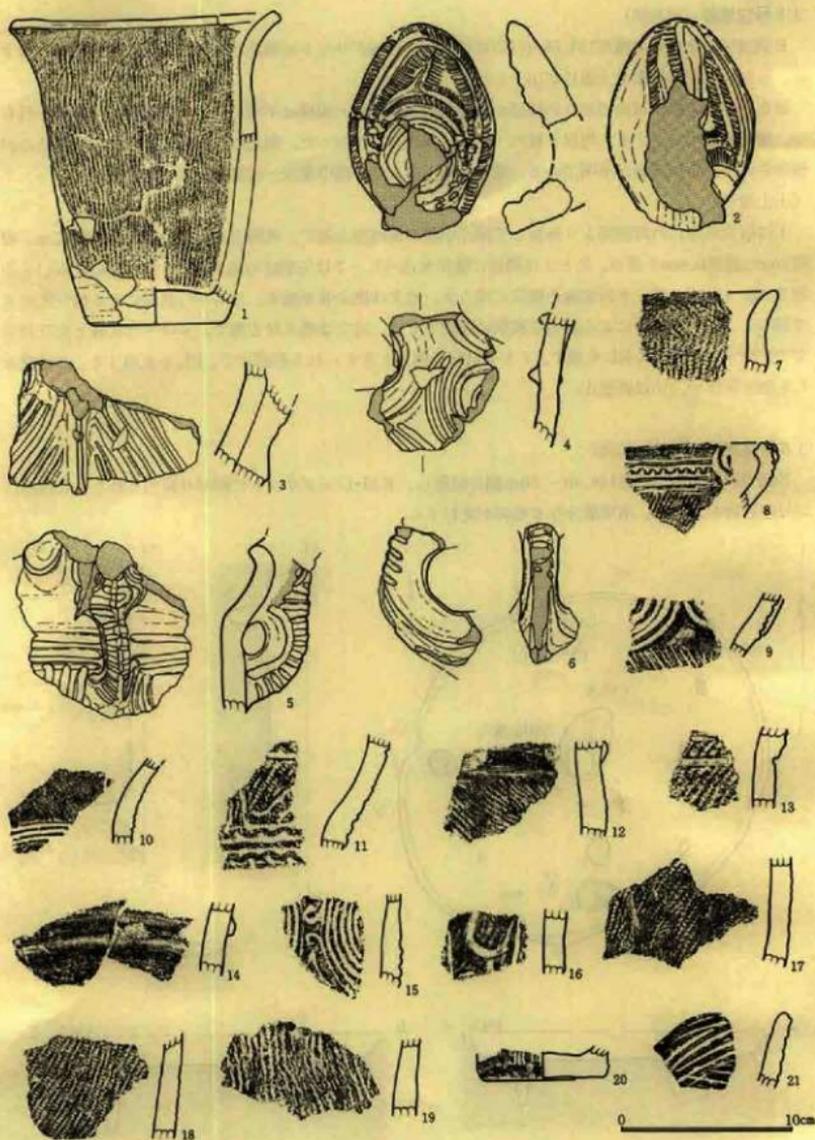
1は直立気味に内湾胴部より外反して開く小型の深鉢形土器で、条線文を施す。復元口径10.2cm、器高12cm、底径6.8cmを測る。2と3は頸部に隆帯を巡らし、2は矢羽状の刻み目、3は縦位の刻み目を連続する。4は括れ部に平行沈線と横位に巡らす。地文は燃糸Rを施す。5も平行沈線による横位区画文を巡らし、下方に竹管による刺突を波状に連続させる。地文は燃糸Rを施す。6は平行沈線と交互刺突文で区画する。地文はRLを施す。7と8は同一個体と考えられる胴部片で、RLを充填する。9は燃糸Lを施す胴部片。10は底部片。

J 9号住居跡 (第31~33図)

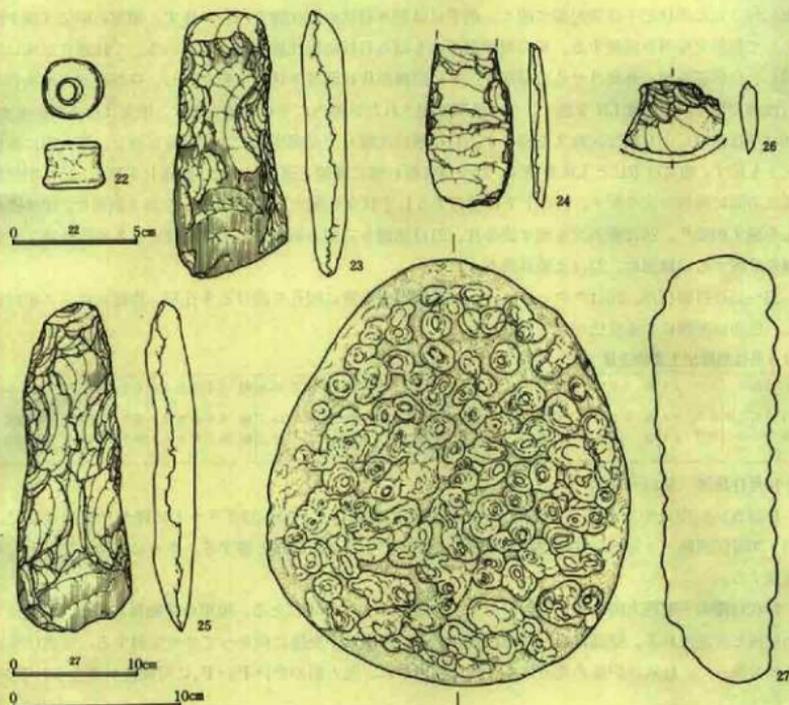
E調査区の北方で標高134.40~.50m間に位置し、F35・G36グリットに跨り検出された。北西部に33号住居跡が重複し、南東部分を6号溝が走行する。



第31図 J 9 H平面図



第32圖 J 9 H出土遺物 (1)



第33図 J9H出土遺物(2)

形状は、南東～北西方向に長軸をとる楕円形を呈し、その長軸はN-43°-Wである。規模は、長軸長4.73m、短軸長4.12m、壁高は重複のない部分で25cm前後が残存する。床面は僅かに南傾斜する。周溝は検出されなかった。柱穴はP₁～P₅が検出され、主柱穴は4本柱である。P₂とP₃部分は建て替えが考えられ、柱間はP₁～P₂=2.1m、P₁～P₃とP₂～P₄=2.2m、P₃～P₄=2m、P₄～P₅=2.7mを測る。炉址は主柱穴に囲まれたほぼ中央部にある地床炉である。形状は楕円形を呈し、規模は長軸長93cm、短軸長60cm、最深部で11cmを測る。底面は焼土化し、南方に33号住居跡の貯蔵穴が掘り込まれている。炉址の北西部分には焼土化面が広がる。遺物は中期中葉末の土器片、耳飾り、打製石斧、多孔石等が点在して出土した。

〈出土遺物〉

1は直線的な胴部から短く外反する口縁部に移行する。平口縁を呈し、口唇部を角縁とする。体部には燃糸Lを充填する。口径15.3cm、器高18.8cm、底径7.8cmを測る。

2の楕円形を呈する大形突起はキャタピラ文や三叉文等を施す。3の口縁部片は偏平な板状隆帯から下方斜めに放射状の隆帯と沈線を施す。4の突起部は円孔を中央に設け、沈線等で円弧文を施す。内面には隆帯が施されている。5は無文の口縁部を呈し、突起を付すが欠損部分が多い為形状は不明。頸

部に付された環状把手は突起部に続く。把手には刻み目状の短沈線を左右に施す。頸部に横位沈線を巡らして胴部文様帯を区画する。6の環状把手にも刻み目状の短沈線を施されている。7は直立気味に内湾し、口唇部を短く外反させる口縁部片。8の口縁部片は渦巻き状の突起を付し、交互刺突文を挟む平行沈線で繋ぐ。地文はLRを施す。9は隆帯で配された区画内に平行沈線を施す。地文は燃糸Rを施す。10は平行沈線により横位区画文を巡らす。11は横位沈線と交互刺突文で文様帯を区画し、区画内に波状文?を配す。地文はRLとLRを施す。12~14は括れ部に隆帯を巡らし、12は燃糸Rを施す。15は相対重弧文の間に渦巻き文を配す。16は上下に相対するU字状文を配す。17・18はRLを施す胴部片。19は燃糸Lを施す胴部片。20は燃糸文を施す底部片。21は諸磯b式期の所産で、半截竹管による平行沈線文で文様を意匠する口縁部片。22は土製耳飾り。

23~25は打製石斧。26はスクレーパー。27は表裏面に密に凹孔を設ける多孔石。片面にはススが附着し、他面は被熱による変色が見られる。

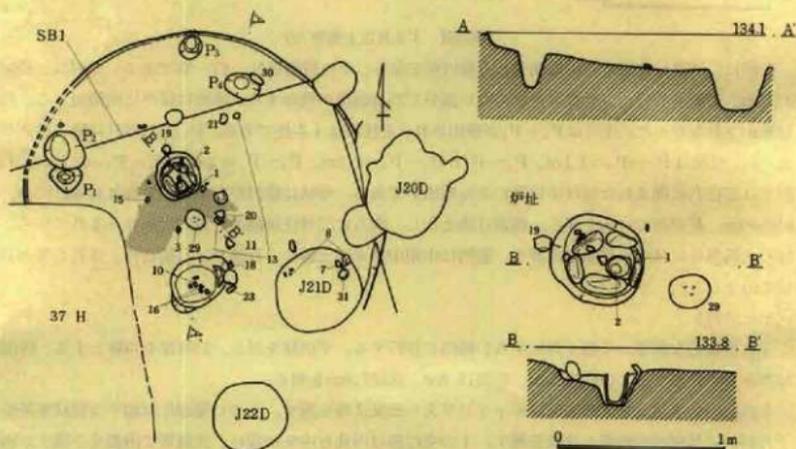
J9号住居跡出土遺物量表 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

22	耳飾り	長さ 2.4	幅 2.4	厚さ 2.0	重さ 11.8		23	打製石斧	長さ 15.8	幅 6.6	厚さ 2.6	重さ 358	石質 無灰品ガラス質安山岩
24	打製石斧	長さ 9.8	幅 5.1	厚さ 1.0	重さ 70	石質 無灰品安山岩	25	打製石斧	長さ 19.7	幅 6.8	厚さ 2.9	重さ 429	石質 輝石安山岩
26	スクレーパー	長さ 4.4	幅 5.9	厚さ 1.1	重さ 32	石質 無灰品ガラス質安山岩	27	多孔石	長さ 34.3	幅 28.7	厚さ 10.6	重さ 1050	石質 輝石安山岩

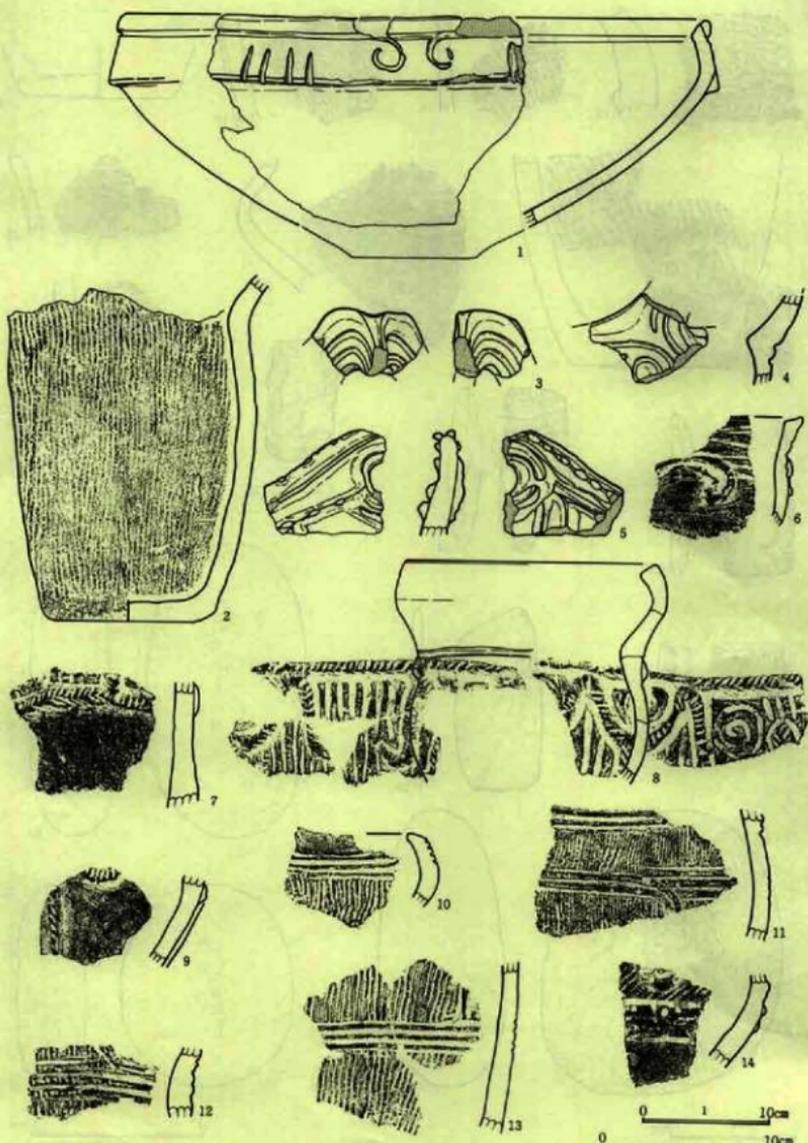
J10号住居跡 (第34~36図)

E調査区の中央やや北寄りで標高134.05m付近に位置し、F32~33グリットに跨がり検出された。35~36号住居跡・1号掘立柱建物跡が重複し、東方でJ11号住居跡と接する。さらにJ20~22号土坑も重複する。

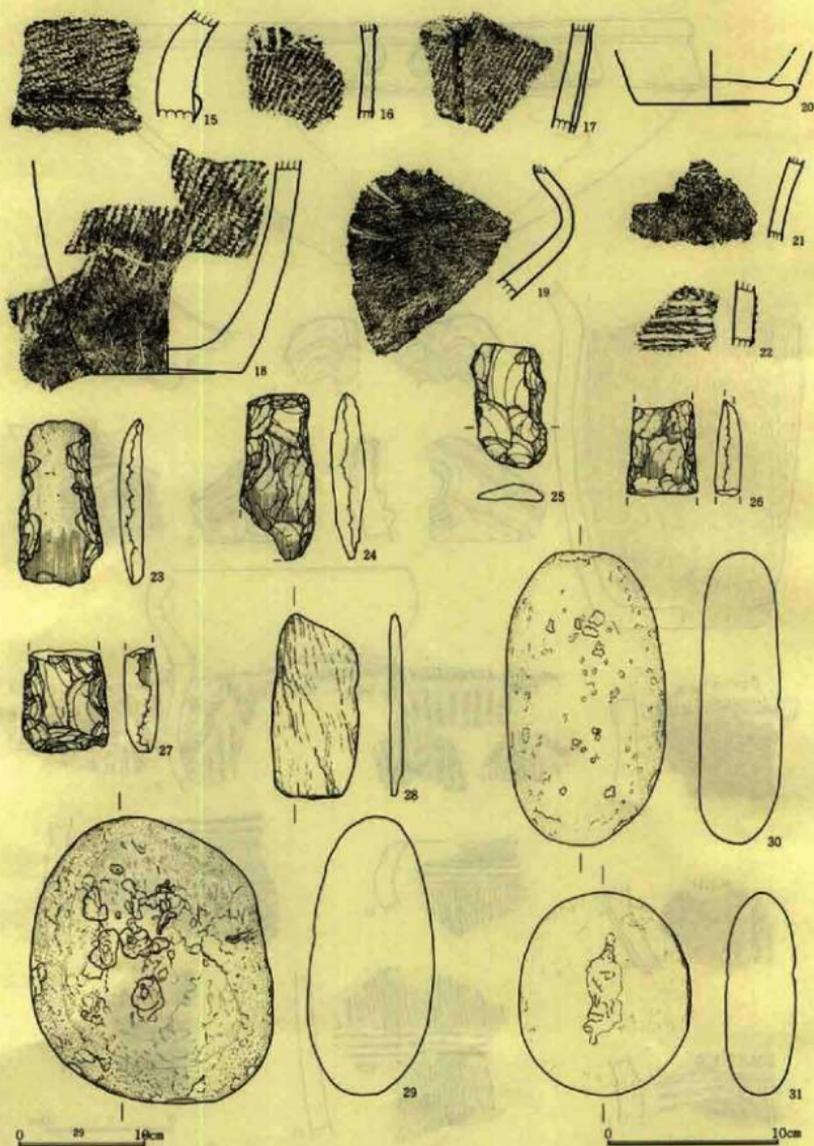
形状は南東~北西方向にやや長い円形で、主軸をN-37-Wにとる。規模は長軸長4.35m、短軸長4m前後と推定される。壁高は14~25cmが残存する。床面は中央部に向かってやや傾斜する。周溝は検出されなかった。柱穴は炉址の北方に4カ所に検出され、北方部のP₁・P₂・P₃に可能性が考えられるが、



第34図 J10H平面図



第35圖 J 10H出土遺物 (1)



第36圖 J10H出土遺物(2)

南方は検出されなかった。P₂とP₄の柱間は2.3mを測る。

炉址は中央やや北西寄りに設けられた埋設土器を伴う石囲い炉である。形状は石と土器片で円形を呈し、南東～南方に焼土が分布する。炉石は4石で弧状に配され、南東部には埋設された深鉢形土器を覆う様に浅鉢形の土器片が設けられている。これらは56×51cmの円形の掘り込み配されている。炉址の南方には55cm前後の円形で深さ50cmほどの土坑が検出された。遺物は炉址の南前面に分布し、中期中葉末の土器片、打製石斧、磨石等が出土した。

〈出土遺物〉

1と2は炉址に埋設された土器。1は浅鉢形土器で復元口径45.8cm、残存器高16.9cmを測る。大きく開き内湾し口縁部を直立気味に内傾させる。口縁部無文帯は口唇部直下の横位に巡る沈線と断面三角形の隆帯で区画される。口唇部直下の沈線からは対向する蕨手状文、隆帯上には縦位の沈線を4本施す。2は口縁部を欠損し、底径8.2cm、残存器高20.9cmを測る。円筒気味の胴部を呈し、地文は擦糸Lを充填する。3と4は同一個体と考えられ、山形を呈する突起部片である。中央部分に円孔を有し、頂部から眼鏡把手が付される。円孔に沿い沈線を施す。5も円孔を有する山形突起部片で、隆帯を内外面に付し、口唇部と一部の隆帯に刻み目を施す。6は緩やかに内湾し、括れ部から直立気味とする口縁部片で、沈線と背割り隆帯で文様を意匠する。7は胴部下半を無文とし、文様帯を矢羽状の刻み目を施す隆帯で区画する。8は復元口径14.7cmで、口縁部を無文帯とする。胴部文様は刻み目を施す隆帯で文様を区画し、区画内に縦位の沈線や渦巻き文を施す。9は口縁部無文帯に刻み目を施す隆帯を付す。10は内湾する平行口縁に突起を付すと考えられ、口唇部は外そぎ縁とする。口唇部直下に平行沈線を巡らし、地文は擦糸Lを施す。11は胴部上半片で平行沈線による横位区画文等を巡らす。地文は擦糸Lを充填する。12は平行沈線による横位区画文等を巡らす。13の胴部片も平行沈線による横位区画文等を施し、地文は擦糸Lを充填する。14は二本隆帯で口縁部文様帯を区画し、頸部を無文帯する。15は頸部に隆帯を巡らし、RLを充填する。16は矢羽状の刻み目を施す隆帯で文様を区画し、17は隆帯を垂下させる胴部片。18は底径9cm、残存器高13cmを測り、地文はRLを施す。19は無文の浅鉢形土器。20は底径8.5cmを測る底部片。21と22は諸磯b式期の所産で浮線文に矢羽状刻み目を施す。

23～27は打製石斧。28は板状石器。29は多孔石で、図示しない面は僅かな凹孔を設ける。30の磨石は先端部に敲打痕を設け、被熱による変色部分が認められる。31の磨石は表裏面の中央部分と周縁の一部に敲打痕を設ける。

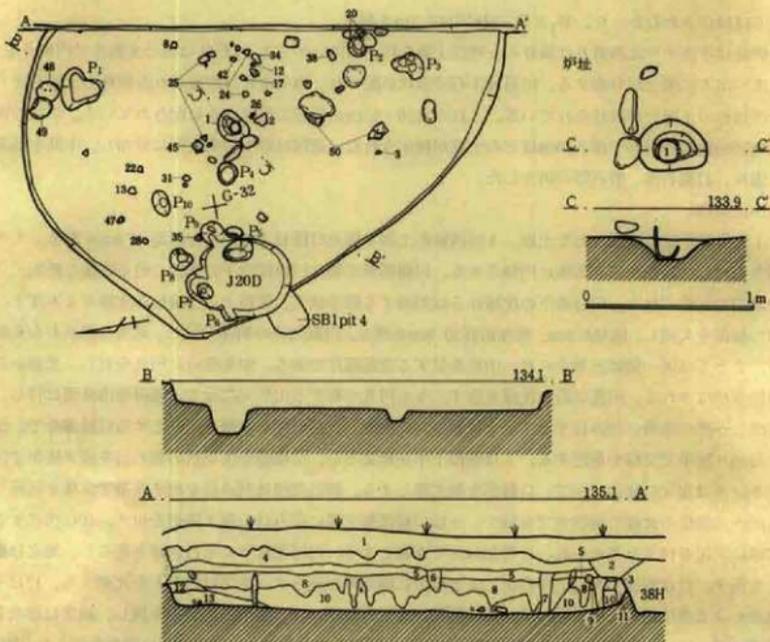
J10号住居跡出土遺物量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

23	打製石斧	長さ 10.0	幅 5.0	厚さ 1.5	重さ 89	石質 無彫品ガラス質安山岩	24	打製石斧	長さ 10.0	幅 4.4	厚さ 2.1	重さ 102	石質 無彫品安山岩
25	打製石斧	長さ 7.6	幅 4.5	厚さ 1.4	重さ 53	石質 アイサイト	26	打製石斧	長さ 5.7	幅 4.2	厚さ 1.6	重さ 49	石質 無彫品安山岩
27	打製石斧	長さ 6.2	幅 5.0	厚さ 2.0	重さ 86	石質 無彫品安山岩	28	板状石器	長さ 11.2	幅 5.2	厚さ 0.9	重さ 86	石質 雲母・石英片
29	多孔石	長さ 23.0	幅 19.1	厚さ 10.1	重さ 5000	石種 多孔質石山岩	30	磨石	長さ 17.8	幅 9.4	厚さ 4.9	重さ 1295	石質 輝石安山岩
31	四石	長さ 12.3	幅 10.2	厚さ 4.1	重さ 673	石質 輝石安山岩							

J11号住居跡 (第37～41図)

E調査区の中央やや北寄りで、G32グリットにその主体を占める。西方でJ20号土坑と重複し、さらにJ10号住居跡と接し、南方では38号住居跡が接する。全体の3分の1程は調査区外に及ぶ。

形状は南東～北西方向に長い楕円形を呈すると考えられ、調査区内での形状から長軸長6m、短軸長4.6mの規模と推定される。壁高は19～25cmが残存する。床面はほぼ平坦である。周溝は検出されなかった。柱穴は総数10カ所に検出されたが主柱穴は明確でない。炉址は埋設土器を伴う石囲い炉と考えられ



J11号住居跡上層図 (A-A')

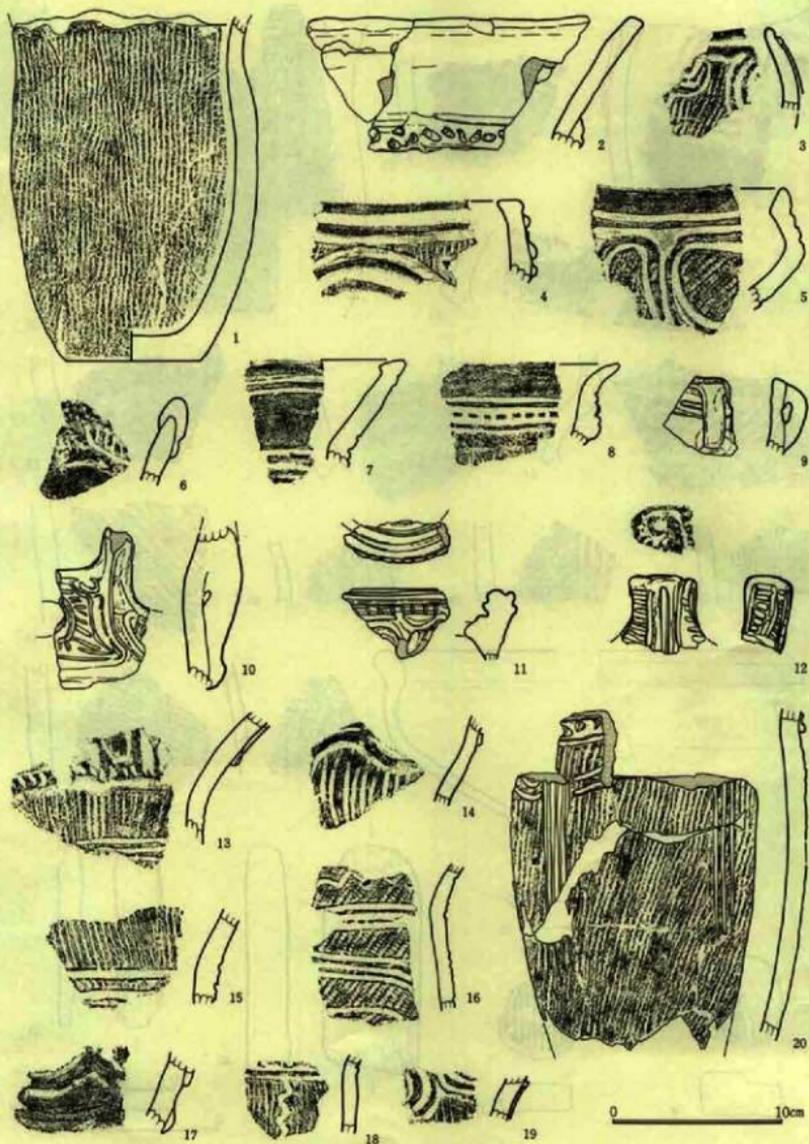
- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1層 暗褐色土 耕作土 | 8層 濃い黄褐色土 ソフトなローム質土 |
| 2層 黒褐色土 FP 混入 砂質土 | 9層 濃い黄褐色土 8層よりややハードで色調不均質 |
| 3層 暗褐色土 2層に類似するがFPの混入が少 | 10層 濃い黄褐色土 炭ノ子状の色調を呈する 焼土粒子点在 |
| 4層 黒褐色土 FP 粘質混入 | 11層 暗褐色土 ローム明瞭土締まり弱 |
| 5層 暗褐色土 やや黒ゴタ化したローム質土 混入物少 | 12層 濃い黄褐色土 ハードなローム質土 やや炭ノ子状 |
| 6層 暗褐色土 5層に類似 やや不均質 | 13層 濃い黄褐色土 ハードなローム質土 12層よりやや暗く |
| 7層 暗褐色土 4層に類似 4層より不均質で締まり弱 | 10層より明るい カーボン粒子点在 |

第37図 J11H平面図

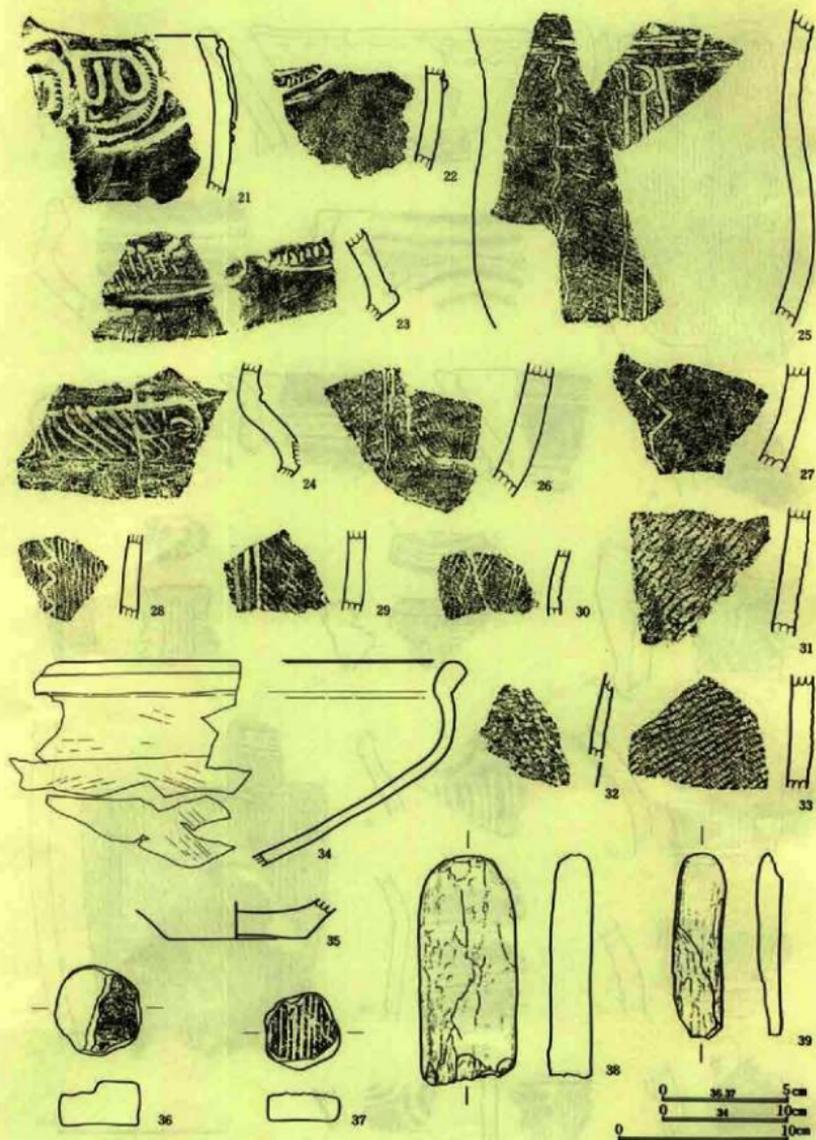
るが、西辺を構成する2石の縁石が残存する。埋設土器は42cm×31cmの楕円形で深さ14cmの掘り込みで設けられている。遺物は中期中葉の土器片、土製円盤、棒状石器、打製石斧、凹石、石皿等がある。土器刃は長軸方向に炉址を中心として細長く分布し、石皿は3点出土し、北東隅では48と49の2個が重なる様に出土した。

〈出土遺物〉

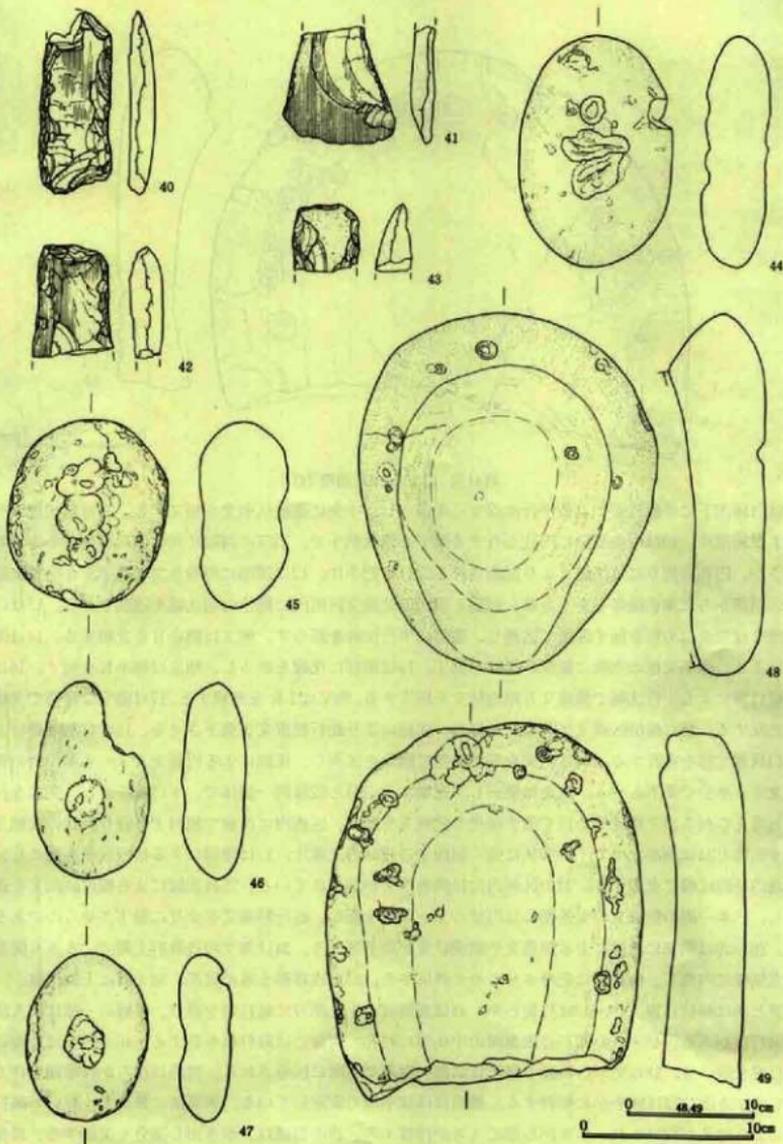
1は炉内埋設土器で、直立気味に内湾する胴部を呈する。地文は燃糸Lを充填する。2と7は平口縁を呈する浅鉢形土器の口縁部片。2は口縁部を無文帯とし、大きく外反する。頸部には交互刺突文を施す隆帯を巡らす。3と4の口縁部片は背割隆帯により文様を意匠し、4の口唇部は平坦とする。5は口唇部を尖り気味とし、沈線文による楕円区画等を施す。6は突起を付す口縁部片で、隆帯による区画内に短沈線を縦位に充填する。7の口縁部片は口唇部直下と頸部に半截竹管による平行沈線文を巡らす。



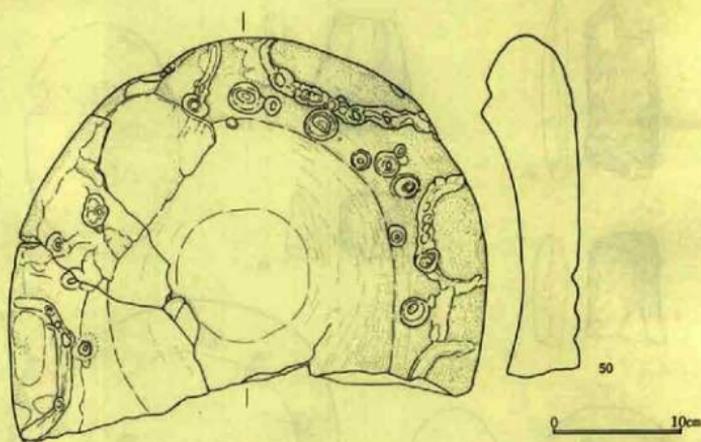
第38圖 J 11H出土遺物 (1)



第39圖 J11H出土遺物(2)



第40图 J11H出土遺物(3)



第41図 J11H出土遺物(4)

8は口縁部下に半截竹管による平行沈線を三条巡らし、中央に連続爪形文を施文する。9は環状把手を付す口縁部片。10は中央部分に凹孔を有する扁平な箱状把手で、頂部の両端に角状突起が伸びるのである。凹孔の周りには沈線により加飾される。11は把手片。12は頂部に渦巻き文と刺突文を施す突起で、頂部から二本の隆帯を垂下させ、両脇と側面の沈線区画内に横位の短沈線を連続させる。13は口縁部文様帯を刻め目を施す隆帯で区画し、頸部に平行沈線を巡らす。地文は摺系Rを充填する。14は隆帯による口縁部文様の空間に縦位の沈線を施す。15は頸部に沈線を巡らし、地文は摺系Rを施す。16は半截竹管による平行沈線で横位文と鋸歯状文を施文する。地文はLRを充填する。17は扁平な隆帯で文様を意匠する。18は横位区画内に刺突文を施し、沈線により蛇行懸垂文を垂下させる。19は背割隆帯により口縁部文様を意匠する。20は刺突を施す隆帯で胴部を区画し、沈線による凹弧文と3~4本一組の懸垂文を4単位で垂下させる。地文は摺系Lを充填する。21と22は同一個体で、平口縁を呈し、突起を付すと考えられる。文様は刻め目を施す隆帯で区画文を配し、区画内に沈線と相対する釣針状の文様を施す。23と24は胴部上半でくの字状に強く屈曲する浅鉢形土器片。23は隆帯による楕円区画を施こし、区画内を短沈線で充填する。24の区画内には渦巻き文が施されている。25は沈線による横位区画文を巡らし、三本一組の懸垂文の交差部には円状のフック文を配し、蛇行懸垂文を交互に垂下させるのであろう。26~30は胴部に沈線による懸垂文や鋸歯状文を垂下させる。34は無文の浅鉢形土器で、大きく開き直立気味に内湾し、口縁部は肥厚させてやや外反する。35は浅鉢形土器の底部。36と37は土製円盤。

38と39は棒状石器。40~43は打製石斧。44は表裏面の中央部分に敲打痕を設け、周縁の一部に挟入部と敲打痕がある。45・47の凹石は表裏面の中央部に凹孔、周縁には敲打痕を有する。46の凹石は片面に敲打痕を設ける。48は完形の石皿で縁部は皿部の窪みで明瞭に区分される。皿部は滑らかな摩面を作り出し、かき出し部は緩やかに傾斜する。裏面はほぼ平坦で安定している。表裏面に数は多く無いが敲打痕による凹孔が設けられ、かき出し部にススが附着する。49の石皿は、かき出し部分が欠損する。皿部は広く、緩やかな窪みを作り、摩面は滑らかである。敲打痕による凹孔は表面に多く見られる。裏面は

ほぼ平坦であり、この平坦面は作り出されている可能性がある。かき出し部分割れ口に被熱による変色部分が見られる。50の石皿はかき出し部を欠損し、3分割に割れている。縁部は左右の高まりに差異が見られ、円弧文が刻まれている。皿部は湾曲して窪み、滑らかな摩面である。縁部と裏面には敲打痕による凹孔を有する。裏面は平坦で安定している。皿部はスズで変色し、被熱による赤褐色部分も認められる。

J11号住居跡出土遺物 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

36	土製円盤	長さ 3.5	幅 3.1	厚さ 1.8	重さ 21.4		37	土製円盤	長さ 3.2	幅 2.9	厚さ 1.2	重さ 13
38	棒状石器	長さ 14.2	幅 6.0	厚さ 2.7	重さ 445	石質 雲母片岩	39	棒状石器	長さ 11.2	幅 2.9	厚さ 1.4	重さ 81
40	打製石斧	長さ 11.0	幅 4.3	厚さ 1.6	重さ 101	石質 無珪品火山岩	41	打製石斧	長さ 7.0	幅 6.6	厚さ 1.5	重さ 77
42	打製石斧	長さ 6.7	幅 4.7	厚さ 2.0	重さ 78	石質 無珪品火山岩	43	打製石斧	長さ 4.0	幅 3.9	厚さ 2.1	重さ 36
44	凹石	長さ 13.9	幅 9.2	厚さ 4.1	重さ 668	石質 輝石火山岩	45	凹石	長さ 11.3	幅 9.6	厚さ 5.5	重さ 633
46	凹石	長さ 11.8	幅 6.8	厚さ 3.8	重さ 315	石質 輝石火山岩	47	凹石	長さ 10.2	幅 7.3	厚さ 3.3	重さ 222
48	石皿	長さ 28.7	幅 23.7	厚さ 7.9	重さ 5000	石質 多孔質輝石山岩	49	石皿	長さ 32.4	幅 25.2	厚さ 7.7	重さ 6500
50	石皿	長さ 32.4	幅 28.0	厚さ 12.0	重さ 11000	石質 輝石火山岩						

J12号住居跡 (第42～48図)

E調査区の中央部付近で標高133.90m前後に位置し、その主体をF30・31グリットに跨がり検出された。北方に35～37号住居跡、北東に38号住居跡が隣接する。

形状は、明確な壁面や周溝の検出ができなかった為に不明瞭であるが、東西方向に長い楕円形が推定される。規模は柱穴や遺物分布から東西長5m、南北長4m前後と考える。柱穴は総数13カ所を検出したが、主柱穴は不明瞭であるがP₁～P₃にその可能性が考えられる。

炉址はほぼ中央部分に設けられた東西方向に長い楕円形の窪みが地床炉と考えられる。規模は東西長66cm、南北42cm、深さ6～8cmを測り、北と北西方向に焼土分布がある。

遺物は中央部分の炉址周辺に集中し、中期中葉末の土器片、打製石斧、棒状石器、磨石、多孔石等が出土した。

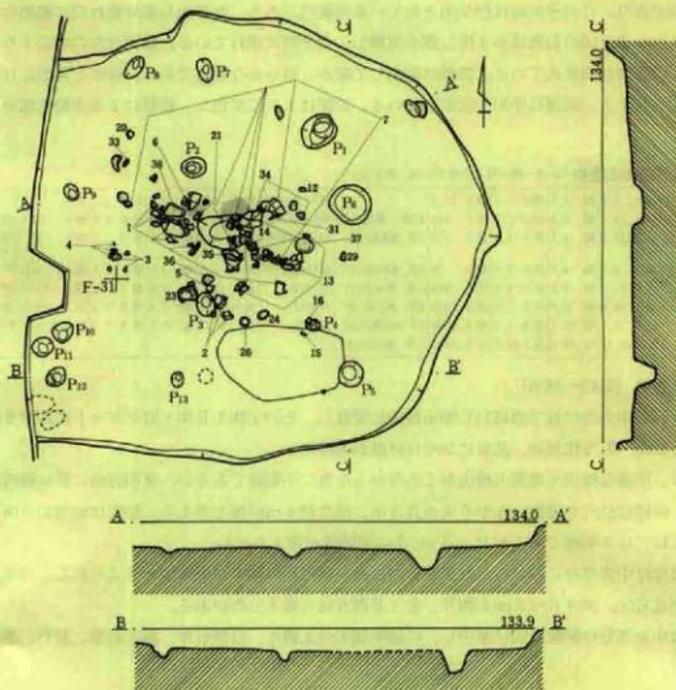
〈出土遺物〉

1は復元口径53.3cm、復元器高48cmを測る大型の深鉢。直線的に開口し、胴部上半で「く」の字状に屈曲する。口縁部は括れ部より大きく外反して開き、口唇部をやや肥厚させる平口縁とする。口唇部には2単位の突起を付すと考えられ、突起部に付随して橋状把手が屈曲部まで及ぶ。突起部は欠損し不明瞭であるが、山形突起と考えられる。遺物No 1-1は円孔を有する突起部片で同個体のものと考えられる。橋状把手の橋脚部は突起部と括れ部、胴部屈曲部に付される。

文様帯は、横位に巡らす隆帯で括れ部と胴部の屈曲部張り出し部を区画し、括れ部の隆帯は刺突を連続させ橋状把手の橋脚部と連結する。この把手部分の両端から突起部分に刻み目を加飾する。区画内は隆帯で楕円区画文等を配する。区画内は縦位の短沈線で充填する箇所と中央に交互刺突文を施す扁平な小楕円文を配する箇所等がある。括れ部下の隆帯上には地文と同様に無節の網文を施す。

2は円筒形に細長い深鉢形土器で口径16.7cm、推定器高29.4cm、底径8.8cmを測る。平口縁を呈し、口縁部は無文帯とする。口縁部には突起を付すが欠損している。突起は山形と考えられ、頂部から隆帯を貼付し、裾部の口唇部に刻み目を施す。胴部は三本一組の懸垂文を8単位で垂下させる。地文はLRを充填する。

3と4は同一個体で、所謂「焼町土器」である。文様帯は口縁部と胴部上半に配され、文様区画を隆帯で施し、胴部下半は無文とする。口縁部文様帯は4単位の構成が考えられ、把手部を欠損する。鉤状



第42図 J12H平面図

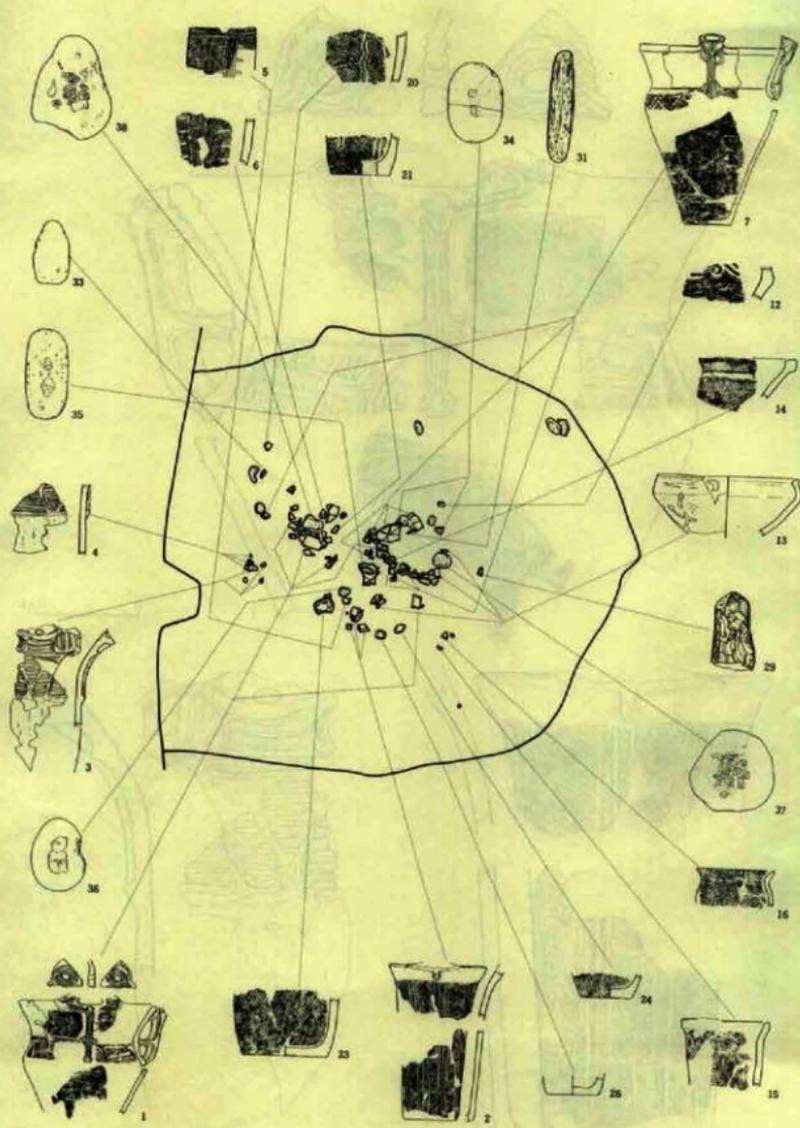
に突出する隆帯、縦位の短沈線を施す楕円区画文を配す。胴部上半の文様帯は隆帯により波状文を繋ぎ空間には横位沈線文を充填する。

5と6は同一個体の胴部片で、5が胴部上半片、6が下半片である。沈線による横位区画文から三本一組の懸垂文を垂下させ、左右の懸垂文には短沈線を枝状に施す。

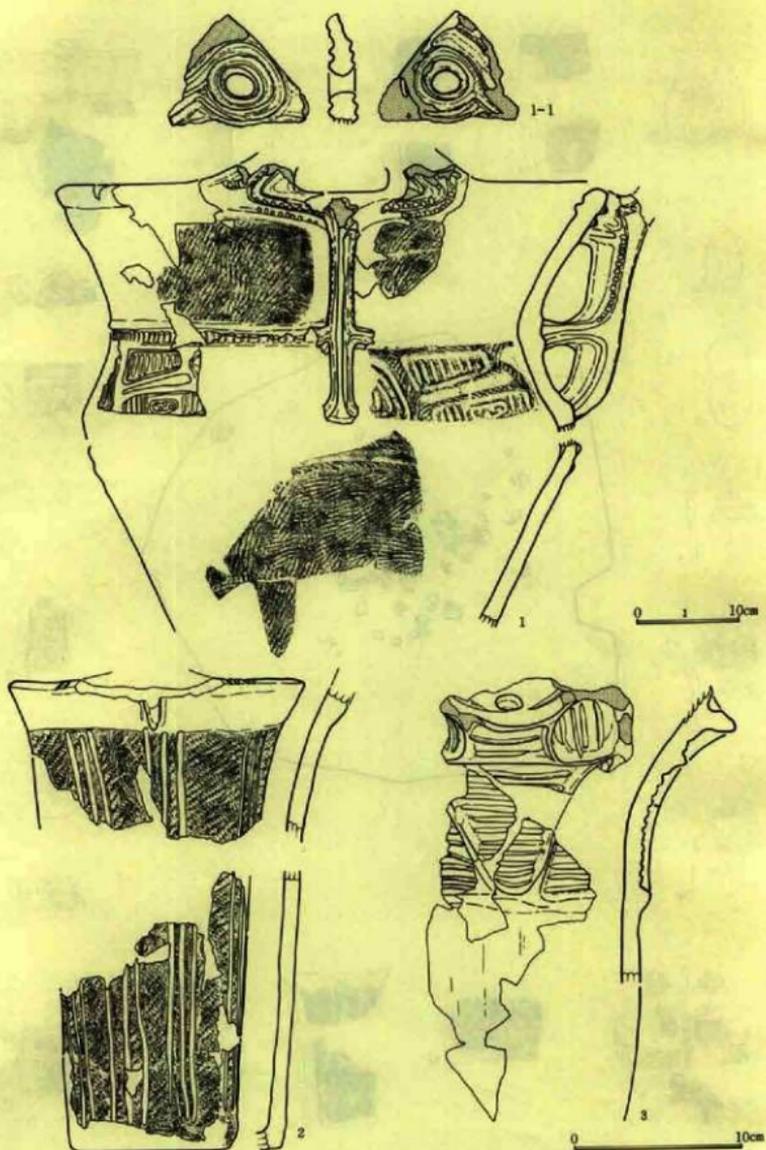
7は復元口径46cm、復元器高61.6cm、底径14.8cmを測る大型の深鉢。底部より直線的に開口し、胴部上位で「く」の字状に強く屈曲する。括れ部から無文の口縁部が外反して開き、口唇部を肥厚させる。口縁は平口縁を呈し、口唇部直下と括れ部に円孔を有する一対の橋状把手を付し、先端部分は環状突起とする。把手の円孔からは体部に8の字状貼付文が連結する。

文様は括れ部から胴部上半に施され、上中下の三段で構成される。上段は隆帯で区画され、区画内を鋸歯状文を連続させる。空間部分には半截竹管による平行沈線で加飾する。中段は上段の隆帯と横位沈線文で区画し、区画内を楕円文等で加飾する。下段は平行沈線により半角状の相対する渦巻き文を連続して施すのであろう。地文は摺糸文を施す。

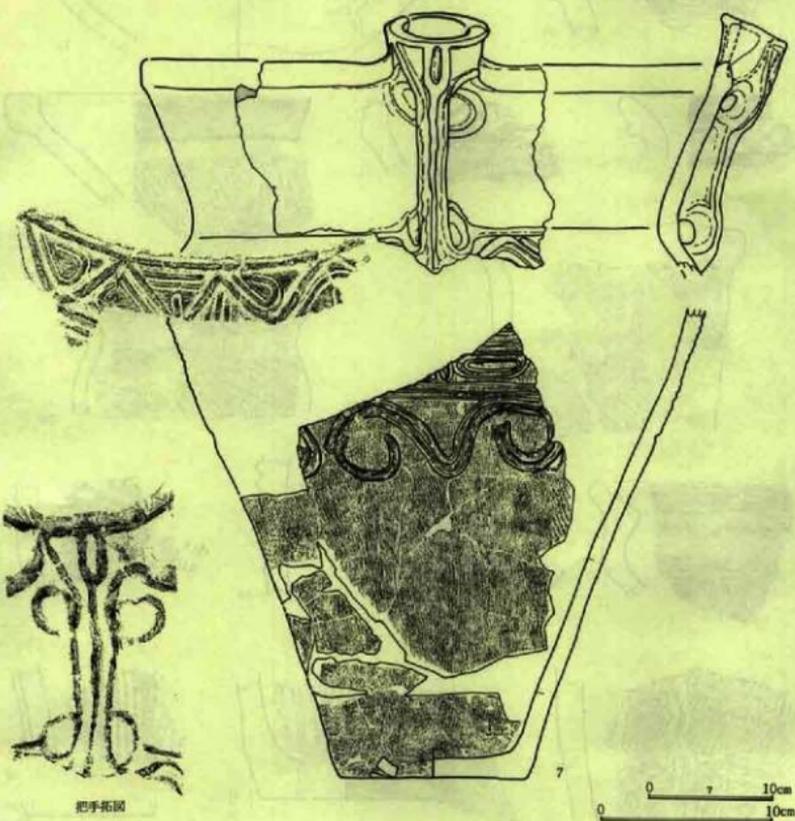
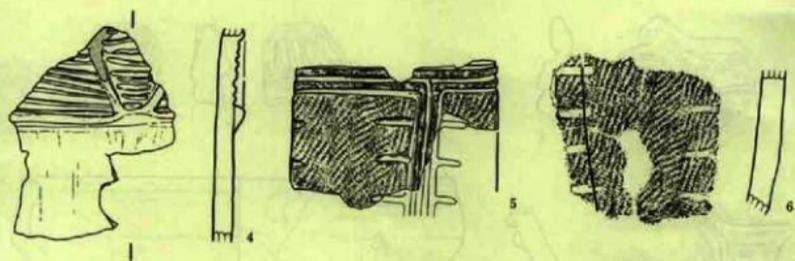
8は平口縁を呈し、小突起を付す口縁部片である。隆帯で口縁部文様帯を区画し、楕円区画文を配す



第43圖 J12H遺物出土狀況

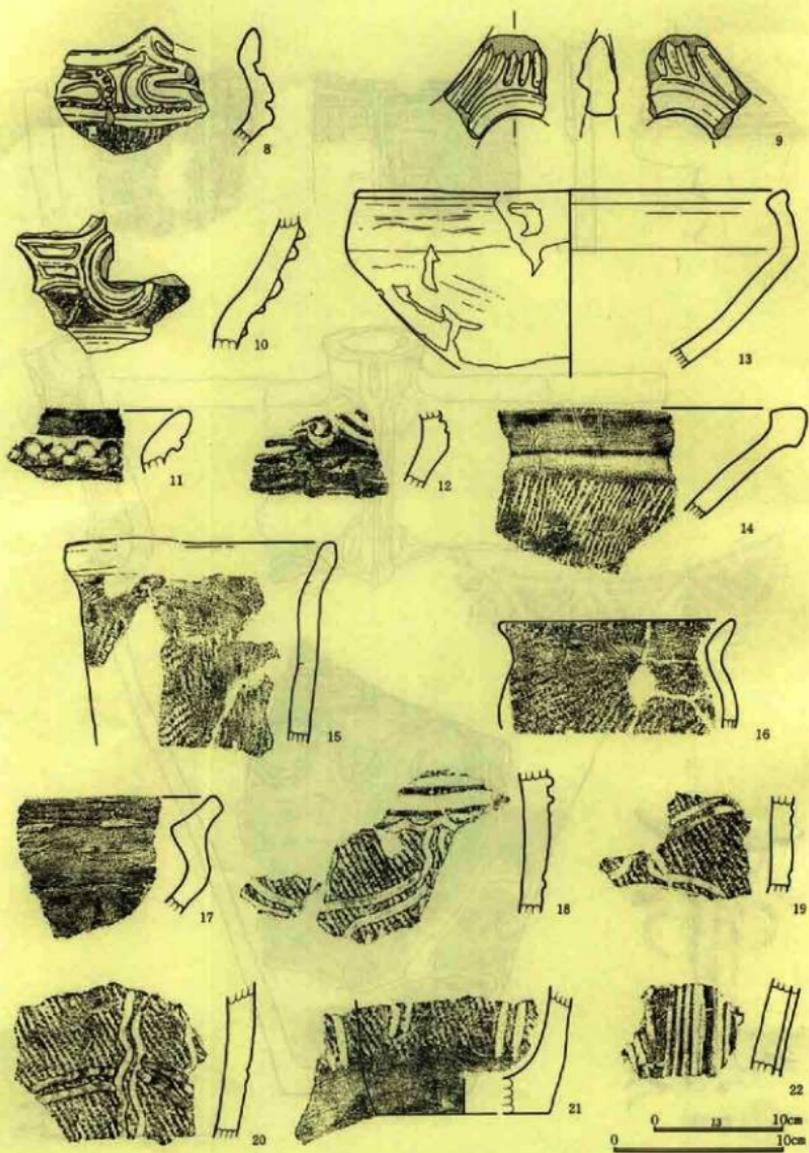


第44図 J12日出土遺物(1)

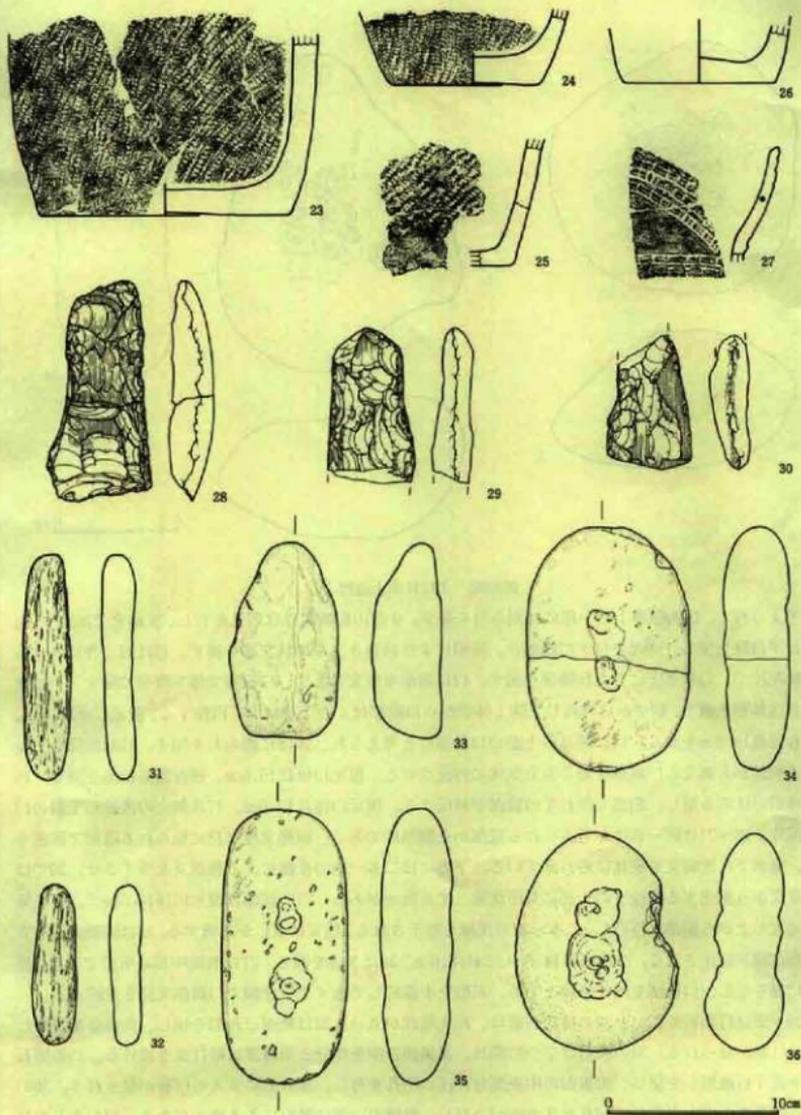


把手拓圖

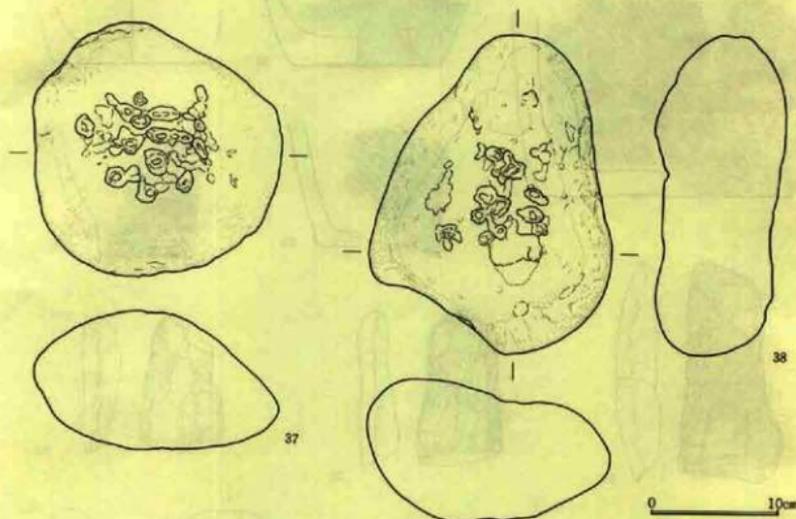
第45圖 J12H出土遺物(2)



第46圖 J12H出土遺物(3)



第47圖 J12H出土遺物(4)



第48図 J12H出土遺物(5)

と考えられる。区画隆帯上の一部には刻み目を施す。9の山形突起片は凹孔を有し、沈線文で加飾する。10は平口縁を呈し、突起を付す口縁部片。隆帯により渦巻き文や梓状文等を施す。11は短く外反させる口縁部片で、口唇部下にひだ状隆帯を施す。12は頸部を無文帯とし、口縁部文様を隆帯で施す。13は無文の浅鉢形土器で、緩やかに内湾して開く体部から口縁部はくの字状に弱く内傾する。復元口径36.6cm、残存器高14.3cmを測る。14は浅鉢形土器の口縁部片と考えられ、体部に襷糸Lを施す。15は円筒形を呈する胴部から無文の口縁部を短く直立気味に外反させる。復元口径は15.6cm、残存器高12cmを測る。16は球形の体部を呈し、頸部で括れて口縁部が外反する。復元口径は13.6cm。17は無文の浅鉢形土器の口縁部片。18~21は同一個体と考えられる底部から胴部片である。胴部文様は18に見られる隆帯で区画され、隆帯下に沈線文を波状に沿わせている。下方には二本一組の沈線による懸垂文を垂下させ、20では懸垂文から派生する横位文の一部に有節沈線とする箇所がある。21の底部は復元口径10.5cmで、直立気味に立ち上がる胴部へ移行し、二本一組の沈線を垂下される。地文はRLを充填する。22は隆帯に沿って平行沈線を併走させる。23は底径14.8cm、24は8.6cm、26は9cmを測る。27は前期中葉の所産である。波状口縁を呈し、口唇部を内そぎ縁とする。爪形文を連続して施す平行沈線で口縁部文様を意匠する。

28~30は打製石斧。31と32の棒状石器は、両先端部が丸い。33は断面三角形を呈し、角部分を使用した敲打痕が見られる。34の磨石は二つに割れ、表裏面の中央部分と周縁部に敲打痕を設ける。35の磨石は所謂「石輪形」を呈し、表裏面の中央部分に浅い凹孔を有し、部分的にススの付着が見られる。36の凹石は表裏面の中央部分に凹孔を2カ所づつ有し、周縁の一部に敲打による挟入がある。37の多孔石は表裏面の中央部分に凹孔が集中する。38も多孔石で、図示しなかった裏面は凹孔が僅かである。

J 12号住居跡出土遺物法量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

28	打製石斧	長さ 13.2	幅 6.3	厚さ 2.7	重さ 248	石質	豊原基安山岩	29	打製石斧	長さ 8.3	幅 5.2	厚さ 2.5	重さ 129	石質	豊原基安山岩
30	打製石斧	長さ 8.0	幅 5.1	厚さ 2.4	重さ 110	石質	豊原基安山岩	31	棒状製品	長さ 13.6	幅 2.9	厚さ 2.0	重さ 121	石質	緑泥片岩
32	棒状石器	長さ 9.7	幅 2.6	厚さ 2.0	重さ 75	石質	緑泥片岩	33	燧石?	長さ 11.8	幅 6.4	厚さ 4.1	重さ 405	石質	輝石安山岩
34	凹石	長さ 14.6	幅 9.7	厚さ 4.1	重さ 800	石質	輝石安山岩	35	凹石	長さ 16.6	幅 7.4	厚さ 4.3	重さ 844	石質	多孔質石炭岩
36	凹石	長さ 13.3	幅(9.7)	厚さ 4.7	重さ 651	石質	多孔質石炭岩	37	多孔石	長さ 20.2	幅 20.8	厚さ 11.5	重さ 5000	石質	輝石安山岩
38	多孔石	長さ 25.6	幅 19.5	厚さ 11.5	重さ 6000	石質	輝石安山岩								

(2) 土坑・集石・埋設土器

J 1号土坑 (第49図)

D調査区の北方、J 1号住居跡の南東隅で重複してC17グリットに検出された。南方にJ 2号住居跡が隣接する。形状は円形を呈する。規模は1～1.1m前後の径で最深部で12cmを測る。底面は皿状を呈する。出土遺物は皆無であった。

J 2号土坑 (第49・53図)

D調査区の中央やや北寄りのC16グリットポイントを中心に検出されたJ 2号住居跡と1号溝に重複する。さらにJ 2号住居跡に伴う柱穴P₁が重複する。形状は1号溝で切られている部分を推定すると東西に長い卵形を呈する。規模は長軸長が推定で1.35m、短軸最大長1.12m、最深部で18cmを測る。遺物は土坑上面から出土している為、J 2号住居跡に伴うか本土坑に伴うかは不明である。遺物は前期中葉の土器片が出土した。

〈出土遺物〉

1は口縁部と底部を欠損する。胴部最大径は26.2cmを測る。地文はRLとLRを羽状に充填する。2と4は平口縁を呈し、2は緩やかに外反し、口唇部を角縁とする。4は直線的に外反し、口唇部を丸縁とする。地文はRLとLRを羽状に充填する。3は波状口縁を呈し、口唇部を角縁とする。

J 3号土坑 (第49図)

D調査区の中央やや北寄りに検出されたJ 2号住居跡の南辺に重複する。新旧関係は不明である。形状は円形を呈する。規模は1.10～1.15m前後の径で、50cm前後の壁高を測る。底面は北寄りにやや傾斜する。出土遺物は皆無であった。

J 4号土坑 (第49・53図)

A調査区の北方、E25グリットで検出されたJ 3号住居跡の北辺で重複する。新旧関係は本土坑が古い。形状は円形を呈しする。規模80～85cm前後の径で、残存の良い北壁で80cmの壁高を測る。底面は平坦である。遺物は覆土中から前期中葉の土器片が出土した。

〈出土遺物〉

1は平口縁を呈する口縁部片で、口唇部を外そぎ縁とする。

J 5号土坑 (第49・53図)

A調査区の中央やや北寄り、F24グリットに検出されたJ 4号住居跡と重複し、J 6・J 8号土坑が隣接する。J 4号住居跡との新旧関係は本土坑が新しい。

形状はその一部が調査区外となるが東西がやや長い円形と考えられる。規模は南北長1.17mで、北壁で43cmの壁高を測る。遺物は覆土中より前期中葉と考えられる土器片が出土した。

〈出土遺物〉

1は燃糸Lを施す胴部上半片。

J 6号土坑 (第49図)

A調査区のF24グリットに位置するJ 4号住居跡内に検出され、北西部でJ 8号土坑に接し、北西にJ 5号土坑が隣接する。住居跡との新旧関係は不明。

形状は、やや歪んだ円形を呈し、90cm～1m前後の径を測る。掘り込みはほぼ垂直か下方がやや抉れる。その深さは中央部分で40cmで、底面には3つの柱穴状掘り込みが検出され、中央部の掘り込みはJ 4号住居跡の主柱穴と考えられる。出土遺物は皆無であった。

J 7号土坑 (第49・53図)

A調査区のE24グリットに位置し、北にJ 3号住居跡、東にJ 4号住居跡、南にJ 5号住居跡が隣接する。形状はやや歪んだ円形を呈し、75～86cmの径を測る。掘り込みは25cm程で、底面は平坦である。遺物は東の立ち上がり部分の上面に中期中葉末の突起部片が出土した。

〈出土遺物〉

1の中空突起は外面に隆帯により上部を中空の円孔、下部を環状把手が付された8の字状文が配され、隆帯上にRLを施す。周囲には短沈線を充填する。8の字状文の右には2つの円孔が施されている。

J 8号土坑 (第49・53・54図)

A調査区のF24グリットに位置するJ 4号住居跡と重複し、南東部でJ 6号土坑と接する。形状はやや歪んだ円形を呈し、規模は遺物は中期中葉末の深鉢形土器の口縁部片等が出土した。

〈出土遺物〉

1は平口縁を呈し、口縁部直下は無文の口唇部を短く外反させる。文様は併走する二本の沈線で円弧文を連続させる。復元口径は20.8cmを測る。2の底部は底径10.8cm、残存器高11.9cmを測り、地文LRを充填する。3は緩やかな4単位の山形突起を付すと考えられる。口縁部文様帯は口唇直下に巡る三本の横位沈線と隆帯で区画される。突起下には突出部があり、下段の沈線から突出部の左右に渦巻き文が派生する。空間部分には縦位の短沈線を充填させる。

J 9号土坑 (第49・54図)

D調査区の最南方、標高135.05m付近のG40グリットに検出した。本遺跡で検出された土坑で唯一の長方形土坑である。上面には浅い不定形な掘り込みが見られるが、主体となる掘り込みは長方形を呈し、長軸の主軸はN-63°-Wにとる。規模は長軸長1.52m、短軸長64cm、深さ50cmを測る。出土遺物は中期中葉の土器片と打製石斧、磨石があり、特に朱塗を施した浅鉢形土器が目される。

〈出土遺物〉

1は内外面に漆と考えられる塗彩を施した浅鉢形土器片。塗彩は外面は沈線の窪みに僅かに残り、内面は黒彩と赤彩が残る。直線的に開く体部からつ字状に屈曲させる。屈曲部に4単位の突起が付され

ていたと考えられるが欠損する。突起部分から波状のうねりや渦巻き文等を隆帯で配している。部分的にスリットで加飾を施す。(註 自然科学分析 附着物の分析を参照)

2は突起を付す口縁部片で、口縁に沿って連続刺突文を施し、平行沈線で文様を意匠する。3は口縁部文様帯に円孔を施す把手を付し、沈線による渦巻き文等を施す。地文はRLを施す。4は無文帯の口縁部片で、突起を付す。5は隆帯を頸部に巡らす。6は隆帯による区画文等に沿って沈線を併走させる。7は燃糸Rを施す頸部片で、平行沈線による横位区画文を巡らす。8の底部にも燃糸文を施す。

9は半分程を欠く打製石斧で、10は打製石斧、11の凹石は約半分が残存し、表裏面の中央部分に敲打痕を設ける。

J 9号土坑出土遺物量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

9	打製石斧	長さ	6.5	幅	4.4	厚さ	1.6	重さ	53	石質	黒曜岩山岳	10	打製石斧	長さ	12.2	幅	5.3	厚さ	3.1	重さ	192	石質	黒曜岩山岳
11	凹石	長さ(7.2)		幅	8.6	厚さ	4.3	重さ	313	石質	輝石安山岩												

J 10号土坑 (第50図)

E調査区の北西隅、F36・37グリットに跨って検出された32号住居跡に切られている。形状は住居跡と柱穴状の擾乱の重複で明確でない。長軸長90cm前後、壁高は15cm程残存し、底面は平坦である。出土遺物は皆無であった。

J 11号A・B土坑 (第50図)

E調査区の北方で調査区の東辺に接し、標高134.40m付近に位置し、G35グリットに検出された。南方にJ12号土坑、西方にJ9号住居跡が隣接する。AとB土坑が重複し、A土坑が新しい。

A土坑は1m前後の円形を呈し、壁面は垂直気味である。深さ1.05mを測り、底面は平坦である。B土坑の形状、規模は明確でない。深さ80cmを測り、A土坑と35cm程の段差を生じている。掘り込みは下部で大きく決れる。遺物は皆無であった。

J 12号土坑 (第50・55図)

E調査区の北方で標高134.35m付近に位置し、G34グリットに検出された。北方でJ11号土坑、南西でJ13号土坑が隣接する。

形状は東西に長い楕円形を呈する。長軸長1.25m、短軸長80cm、最深度で40cmを測る。壁面は西方で低い段を有する。底面は中央部分がやや窪む。遺物は覆土中から中期中葉末の土器片が出土した。

〈出土遺物〉

1の口縁部片は交互刺突文を伴う横位沈線で文様帯を区画する。2は頸部から大きく外反する。地文は燃糸Lを施す。3の底部片は底径8.1cmで、地文は燃糸を施す。

J 13号A・B・C土坑 (第50・55図)

E調査区の北方で標高134.30m付近に位置し、G34グリットに検出された。北東方向にJ12・13号土坑、西方～南方に土坑が分布する。

3つの土坑の切り合いがあるが新旧関係は不明である。A土坑は80～90cmの径を測る円形を呈する。深さ94cmで、北壁の下部が決れる。B土坑は東西に長い楕円形を呈すると考えられ、長軸長1.3m、短軸長95cm前後、深さは残存する底面で30cmを測る。C土坑は南北に長い楕円形を呈すると考えられ、長軸

長の推定1.3m、短軸長80cm、深さ60cm前後を測る。

遺物は打製石斧と定形磨製石斧がある。磨製石斧は出土位置を止めているがBかC土坑に伴うかは不明である。

J13号土坑出土遺物法量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

1	磨製石斧	長さ 5.8	幅 2.6	厚さ 1.2	重さ 34.8	石質 蛇紋岩	2	打製石斧	長さ 11.3	幅 5.1	厚さ 1.9	重さ 121	石質 無文磨製山岩
---	------	--------	-------	--------	---------	--------	---	------	---------	-------	--------	--------	-----------

J14号土坑 (第50・55図)

E調査区の北寄りで標高134.35m前後に位置し、F34グリットに検出された。南方にJ15号土坑、南東方向にJ13号土坑が、北方に集石が隣接する。

本土坑は円形土坑と柱穴状掘り込みが重複する。遺物の出土状況から推察すると円形土坑が新しいと考えられる。円形土坑は77cm前後の径を測り、20cm程の深さである。30cm前後の角礫上に石皿2点と中期中葉末の深鉢形土器の同一個体片が出土した。柱穴状掘り込みは40×44cmを測る楕円形を呈し、深さ75cmである。

〈出土遺物〉

1は平口縁を呈する樽形の深鉢土器で、口径17.8cm、器高25.4cmで胴部上位に最大径を有する。。底部から直立気味にやや開いて立ち上がり、体部中位で内傾して口縁部に移行する。口唇部は肥厚させ角状とする。口縁部と胴部下半を無文帯とし、隆帯で区画された文様帯は屈曲部で上下に分かれ、隆帯による楕円区画文を配す。上部文様帯を横位に区画する隆帯には刻目を施している。楕円区画内には縦位の沈線文と渦巻き文が施され、下部文様帯の楕円区画内には縦位の沈線文に交互刺突文を施す。隆帯上にも交互刺突で加飾される部分がある。2は完形の石皿。縁部は低く、皿部は浅いが滑らかな摩面を作り出し、スラスらしき変色部分が認めらる。敲打による凹部は裏面に僅かに見られる。3の石皿は3分の2程が残存し、かき出し部を欠損する。皿部は深く窪み、縁部に凹孔を有し、右側の縁部にススの付着が見られる。裏面は平坦で凹孔が多く設けられている。

J14号土坑出土遺物法量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

2	石皿	長さ 21.2	幅 14.1	厚さ 8.2	重さ 27.9	石質 輝石安山岩	3	石皿	長さ (24.8)	幅 27.4	厚さ 9.8	重さ 5500	石質 判別困難砂岩
---	----	---------	--------	--------	---------	----------	---	----	-----------	--------	--------	---------	-----------

J15号土坑 (第50・56図)

E調査区の北寄りで標高134.30m付近に位置し、F34グリットに検出された。東～南方の上面を6号溝によって切られている。北方にJ14号土坑、東方にJ13号土坑、南方にJ16号土坑が隣接する。

本土坑は集石土坑であり、南北1m×東西85cmの範囲に中期中葉末の土器片、石皿片、円礫が集中する。土坑は形状・規模など不明瞭であり、図示したプランは掘り過ぎの可能性がある。

〈出土遺物〉

1は無文の口縁部片。2は楕円区画内を縦位の沈線文で充填する。3は大きく外反する無文の口縁部片で、頸部には横位に併走させる短沈線を施す隆帯を巡らす。4は底径9.8cm、残存器高10.8cmで、地文はRLを施す。5の石皿は3分の2程が残存し、3つに割れている。縁部と皿部から内湾して高まりを作り出している。皿部の摩面は粗く、平坦気味である。敲打痕による凹孔は表裏に設けられている。かき出し部と皿部の一部にはススが附着する。

J15号土坑出土遺物法量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

5	石皿	長さ (29.7)	幅 (30.9)	厚さ 8.1	重さ 7500	石質 輝石安山岩
---	----	-----------	----------	--------	---------	----------

J16号土坑 (第50・56・57図)

E調査区の北寄りで標高134.05m前後に位置し、F33グリットに検出された。南方にJ18・19号土坑、北に6号溝が隣接する。

形状は円形を呈し、1.05mの径を測る。掘り込みはほぼ垂直で、部分的に下部が抉れる。深さは80cmで、底面はほぼ平坦である。遺物は中期中葉末の土器片と多孔石が西寄りに集中して出土した。

〈出土遺物〉

1と2は同一個体。胴部下半を無文とし、文様帯を刻み目を施す隆帯で区画し、区画内に縦位の沈線文を施す。3の口縁部片は無文帯とし、隆帯による円弧文から垂下文を施す。4と9の多孔石は表裏面に深い凹孔を多く設ける。5の口縁部片は背割り隆帯で区画文や楕円文を施す。6は短沈線等が施されている。7は刻み目を施す隆帯で区画された区画内に縦位沈線文を施す。8は短円形を呈する打製石斧片。

J16号土坑出土遺物量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

4	多孔石	長さ 24.8	幅 22.2	厚さ 12.8	重さ 7500	石質 輝石斑岩	8	打製石斧	長さ 5.4	幅 4.8	厚さ 1.8	重さ 53	石質 輝石斑岩
9	多孔石	長さ 26.5	幅 18.4	厚さ 16.2	重さ 6500	石質 輝石斑岩							

J17号土坑 (第50図)

E調査区の中央やや北寄りの標高134.20m付近に位置し、G33グリットに検出された。南方にJ11号住居跡、西～南西方向にJ16・18・19号土坑が隣接する。

形状は円形を呈し、1.05m前後の径を測る。掘り込みはほぼ垂直で、最深部で60cmを測り、底面はほぼ平坦である。遺物は皆無であった。

J18号土坑 (第50・57図)

E調査区の中央やや北寄りの標高134.05m付近に位置し、F33グリットに検出された。南方にJ10号住居跡、東方にJ19号土坑、北方にJ16号土坑が隣接する。

形状は円形を呈し、南北1.07m×東西1mの径を測る。掘り込みは垂直気味で、最深部で85cmを測る。遺物は覆土中より中期中葉の土器片が数点出土した。

〈出土遺物〉

1は頸部を無文とし、括れ部に隆帯を巡らす。2は浅鉢形土器の口縁部片で、円孔を有する双頭突起を付す。内面には口縁部や円孔等に沿って縁取状の隆帯を施す。

J19号土坑 (第51図)

E調査区の中央やや北寄りの標高134.05m前後に位置し、その一部が基礎コンクリートにより破壊されている。周囲にはJ16～18・20号土坑と南西にJ10号住居跡が隣接する。

形状は南東～北西方向に長い楕円形を呈し、長軸長86cm、短軸長の推定65cmを測る。壁面は西方が中位から上位に連れて開口するが他は垂直気味である。壁高測る東壁で43cmが残存する。底面は平坦で、遺物は皆無であった。

J20号土坑 (第51図)

E調査区の中央付近でF32グリットに検出された。J11号住居跡と北西部で重複し、住居跡等に伴う可能性が考えられる柱穴も重複する。さらに、当土坑の南西部分では1号掘立柱建物跡の Pit-4、J10

号住居跡とも重複すが新旧関係は不明。

形状はやや南北に長い円形を呈し、南北長1.13m、東西長95cm、深さ66cmを測る。底面は平坦を呈し、壁面は垂直気味である。遺物は皆無であった。

J 21号土坑 (第51図・57図)

E調査区の中央付近でF32グリットに検出され、36号住居跡に切られている。また、J10号住居跡と重複する。新旧関係は本土坑が古い。北東方向にJ20号土坑、南東方向にJ22号土坑が隣接する。

形状は円形を呈し、98cm～1.06mの径を測る。壁面は垂直気味で、壁高は1m前後が残存する。底面は平坦である。遺物は上面にJ10号住居跡が分布し、底面が前期後葉の土器片等と磨石が出土した。

〈出土遺物〉

1は諸磯b式期の所産で、矢羽状に刻み目を施す浮線文で渦巻き文を意匠する。2は浅鉢形土器の口縁部片。3は磨石で片面が光沢のある磨面を呈している。

J 21号土坑出土遺物法量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

3	磨石	長さ 11.3	幅 7.6	厚さ 5.1	重さ 591	材質 輝石安山岩
---	----	---------	-------	--------	--------	----------

J 22号土坑 (第51図)

E調査区の中央部でF32グリットに検出され、35号住居跡に上面を切られている。北東方向にJ21・22号土坑、南東方向にJ23号土坑が隣接する。

形状は円形を呈し、83～88cmの径を測る。壁面は垂直気味で壁高は南壁で70cm前後が残存する。底面は平坦である。遺物は皆無であった。

J 23号土坑 (第51・58図)

E調査区の中央付近でG31・32グリットに跨がり、38号住居跡によって東半分を切られている。形状は円形を呈し、85cm前後の径を測る。掘り込みは残存の良い西壁で70cmを測り、部分的に下部がやや抉れるが他はほぼ垂直気味である。底面はほぼ平坦である。遺物は中期中葉末の土器片が南壁沿いに集中して出土した。

〈出土遺物〉

1は平口縁を呈し、口径21cmを測る。口縁部を無文とし、二本一組と逆U字状の隆帯を2単位で口唇部から頸部に巡る隆帯に連結する。無文の口縁部下は平行沈線を横位に施す。地文は粗い燃糸Lを施す。2は刺突を施す隆帯を横位に巡らす頸部片。地文は燃糸Lを施す。

J 24号土坑 (第51・58図)

E調査区の南方F28グリットに検出され、標高133.75m付近に位置する。東部分で3号掘立柱建物跡のPit3が接する。本土坑から南方に土坑が集中する。北方に8.5m程離れてJ12号住居跡がある。

形状は円形を呈し、径は90cm前後である。壁面は中位部分がやや抉れ、壁高53～68cmが残存する。遺物は覆土中より中期後葉前後の土器片が出土した。

〈出土遺物〉

1は口縁部の突起部片と考えられ、背割り隆帯で文様を意匠する。内面には沈線が口縁に沿い施文されている。

J25号土坑 (第51・58図)

E調査区の南方F28グリットにその主体を占め、標高133.70m前後に位置する。内部に3号掘立柱建物跡のPit1がスッポリと入る。北方にJ24号土坑、南方にJ27～31号土坑が隣接する。

形状は東西にやや長い楕円形を呈する。東西長1.45m、南北長最大1.3m、最深部で76cmを測る。壁面は西方で半月状の有段を設け、垂直気味に立ち上がる。底面は平坦で、覆土中から前期後葉と中期中葉末頃の土器片が出土した。

〈出土遺物〉

1は二本隆帯で文様を意匠する。地文はRLを施す。2は諸磯b式期の所産で、矢羽状に刻み目を施す浮線文で、渦巻き文を配す。

J26号土坑 (第51・58図)

E調査区の南方F27グリットに検出され、標高133.65m付近に位置する。本土坑の北西に構築された41号住居跡を切って作られた2号掘立柱建物跡のPit3により、一部が壊されている。

形状は円形を呈し、径は70cm前後の大きさと推定される。壁面は垂直気味で、最深部で30cmを測る。底面は平坦である。遺物は底面より中期後葉前後の小土器片が出土した。

〈出土遺物〉

1は頸部を無文帯とし、括れ部に刺突文を施す隆帯を巡らす。2の胴部片は燃糸Lを施す。

J27号土坑 (第51図)

E調査区の南方でF27グリットに検出され、南西部分がJ28号土坑と重複するが新旧関係は不明である。南東方向にJ30号土坑、西方にJ29号土坑が隣接する。

形状は東方がやや突出気味の円形を呈する。規模は東西長1.34m、南北長1.2m、深さ82cmを測る。床面は平坦で、J28号土坑の底面と5cmの段差を有する。遺物は皆無であった。

J28号土坑 (第51・58図)

E調査区の南方でF27グリットに検出され、北東部分がJ27号土坑と重複する。西方ではJ29号土坑が接する様に位置する。

形状はやや東西方向に長い円形を呈する。規模は東西長が95cm前後、南北長78cm、最深部で74cmを測る。壁面は上方に連れてやや開口し、底面は平坦である。遺物は覆土下より磨石が出土した。

〈出土遺物〉

1の磨石は表裏面の中央部分に浅い敲打痕を設ける。片面にはススが附着する。

J28号土坑出土遺物量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

1 磨石	長さ 8.7	幅 7.3	厚さ 3.1	重さ 291	石膏 砂岩
------	--------	-------	--------	--------	-------

J29号土坑 (第52・58図)

E調査区の南方で44号住居跡の北東隅に隣接し、F27グリットに検出された。東方にJ27・28号土坑とJ30号土坑、北方でJ26号土坑が隣接する。

南東部に柱穴状の掘り込みが伴い、この部分がやや突出気味となる円形を呈し、径は1m前後を測る。

壁面は垂直気味で、西壁の下部がやや抉れる。壁高は残存の良い西壁で57cmを測る。底面は平坦で、前期中葉の土器片がやや浮いて出土した。

〈出土遺物〉

1は平口縁を呈し、口唇部を角縁とする。直立気味で緩やかに内湾する胴部から口縁部は直線的にやや開く。地文はRLとLRを羽状に充填する。復元口径40.5cm、残存器高31cmを測る。

J30号土坑 (第52・59図)

E調査区の南方で42号住居跡の北辺で重複するF27グリットに検出された。北西方向にJ27～29号土坑、南方にJ31号土坑が隣接する。

形状はやや歪んだ円形を呈し、東方に柱穴状掘り込みを有する。規模は90×80cm、壁高は30cm前後が残存する。遺物は覆土中から前期中葉の土器片が出土した。

〈出土遺物〉

1の体部片は直立し、口縁部を欠く。

J31号土坑 (第52・59図)

E調査区の南方で古墳時代以降の42号44号住居跡間に位置し、F26・27グリットに跨がって検出された。北方にJ27～30号土坑が隣接する。

形状は南北が僅かに長い円形を呈する。規模は南北長1.08m、東西長97cm、最深部で73cmを測る。壁面はほぼ垂直を呈し、底面は平坦である。遺物は中期中葉末の土器片と石皿片が覆土下位と床面から出土した。

〈出土遺物〉

1と2は同一個体の可能性がある。1は平口縁を呈し、復元口径17.8cm。口縁部文様帯は隆帯で区画し、区画内を先端部を渦巻き状とする横S字状文等を施す。胴部中位で下膨れる。地文は燃糸Rを充填する。3の口縁部片は口唇部の中央を突出気味とし、下方に横位平行沈線文を多段に巡らす。4は石皿片で、皿部の窪みは滑らかな磨面を呈する。裏面には敲打痕による凹孔がある。

J31号土坑出土遺物法量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

4	石皿	長さ (10.5)	幅 (8.4)	厚さ 4.6	重さ 418	石質 輝石安山岩
---	----	-----------	---------	--------	--------	----------

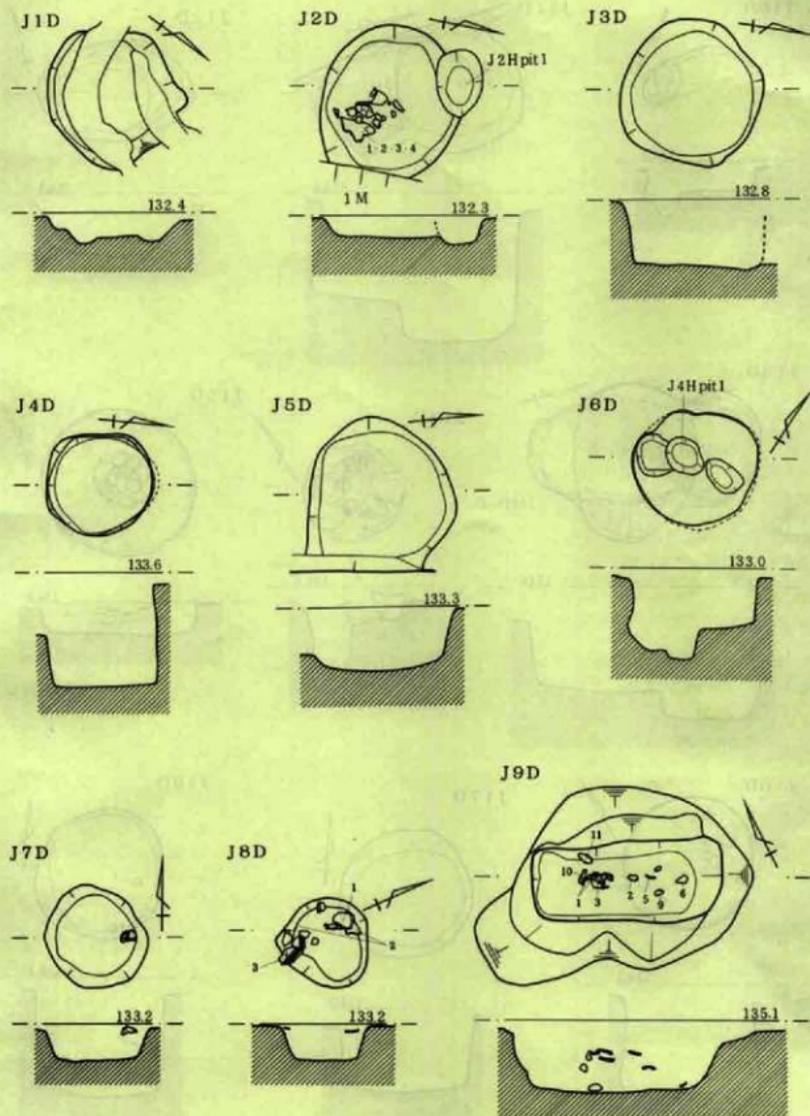
集石 (第52・59図)

E調査区の北方でF35グリットの南に検出された。北方にJ9号住居跡、南方にJ14号土坑が隣接する標高134.35m付近に位置する。

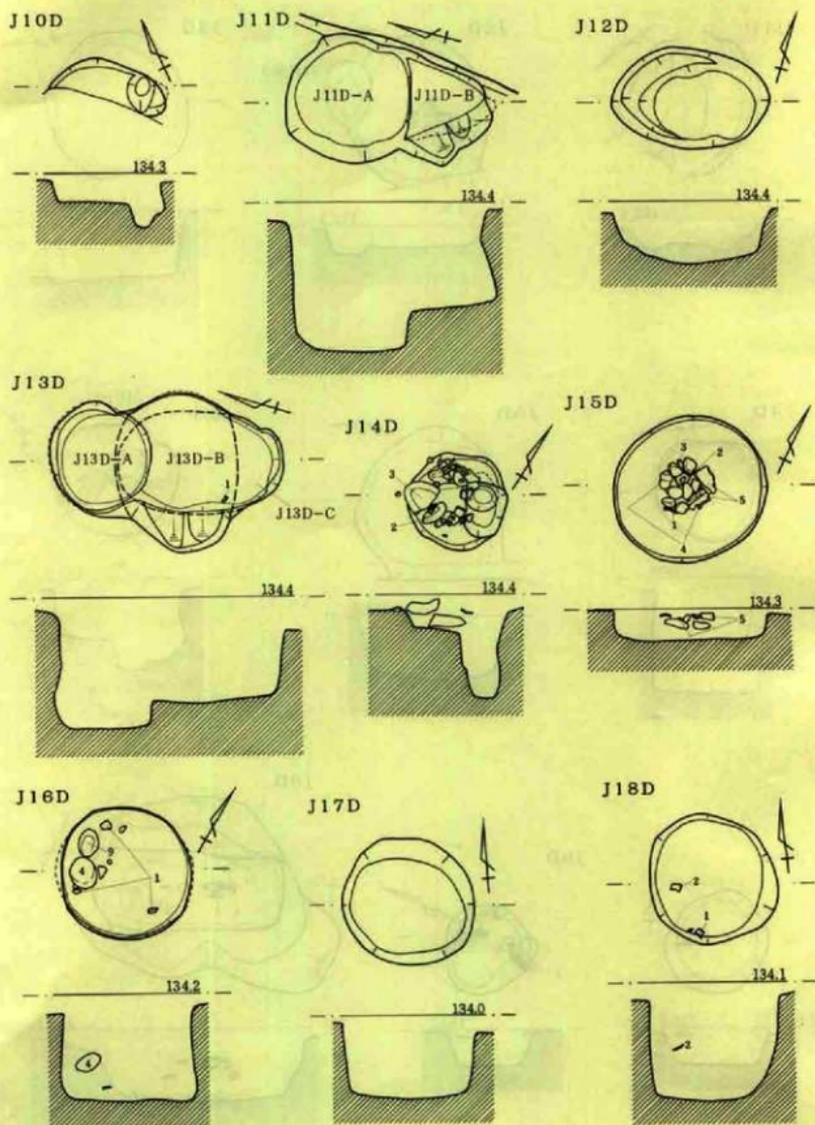
構成は、磨石3個・凹石1個と円礫の5個であり、他に小礫片が1点ある。集石に伴う掘り込みは検出されなかった。

〈出土遺物〉

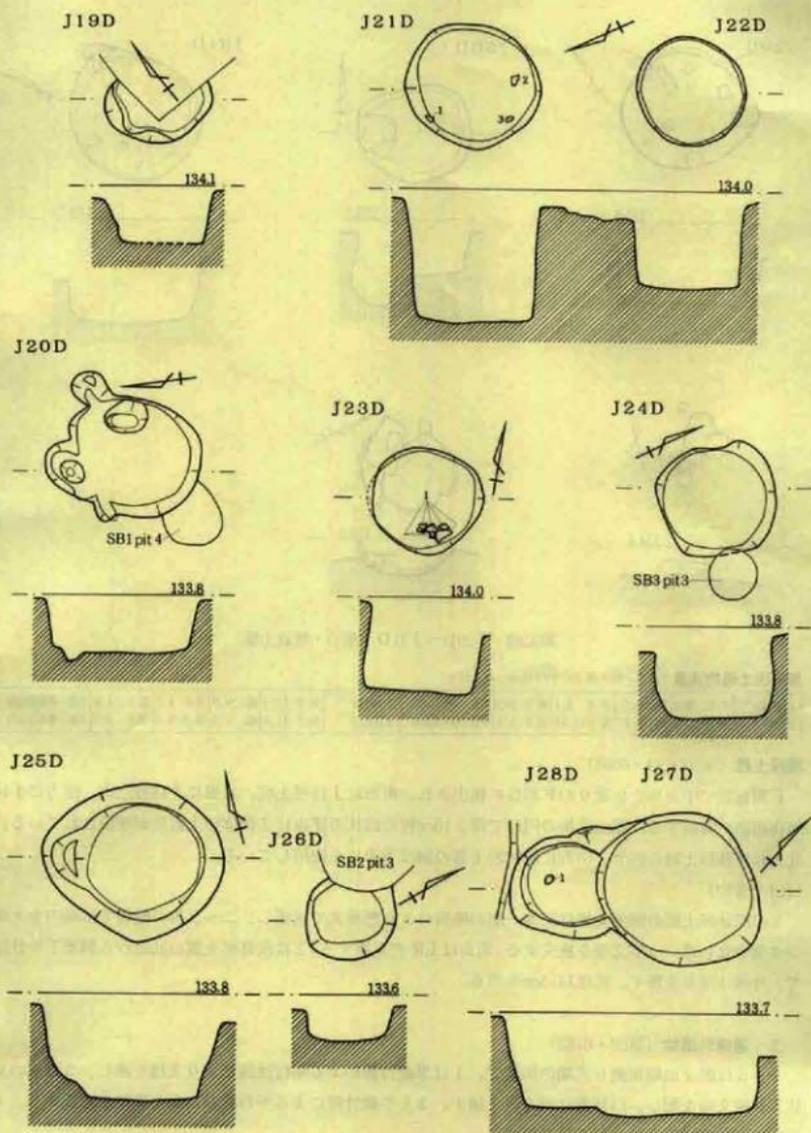
1の磨石はススの付着部分と周縁部には敲打による剝離部分がある。2の磨石は片面の中央部分が剝離し、ススの付着部分と被熱による変色が見られる。3も磨石。4にもススの付着部分が見られ、僅かに敲打痕を設ける。



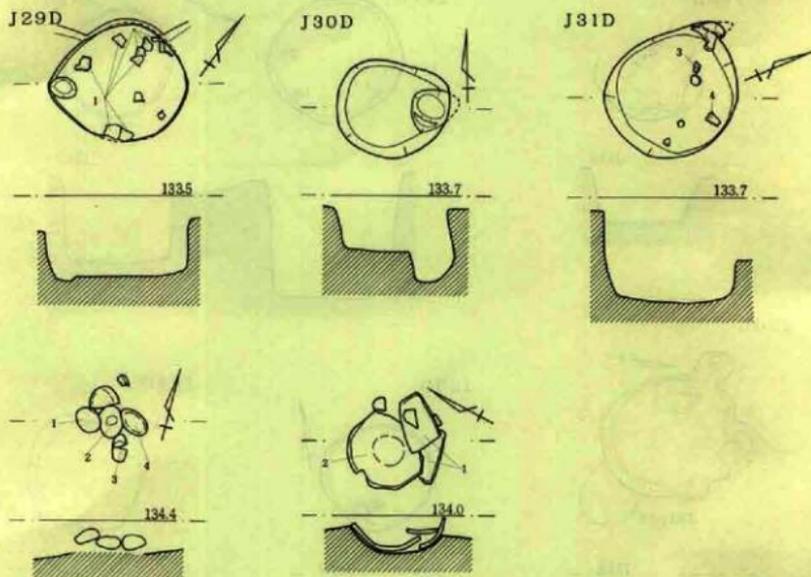
第49圖 J 1 D ~ J 9 D 平面圖



第50圖 J 10D~J 18D平面圖



第51圖 J19D~J28D平面圖



第52図 J29D～J31D・集石・埋設土器

集石出土遺物量 (長さ・幅・厚さの単位はcm、重さはg)

1	磨石	長さ 9.8	幅 (8.3)	厚さ 4.1	重さ 505	石質	輝石雲山岩	2	磨石	長さ 12.4	幅 9.9	厚さ 4.8	重さ 878	石質	輝石雲山岩
3	磨石	長さ (3.7)	幅 (8.4)	厚さ (4.8)	重さ 174	石質	輝石雲山岩	4	凹石	長さ 11.5	幅 7.3	厚さ 5.9	重さ 573	石質	輝石雲山岩

埋設土器 (第52・59・60図)

E調査区で中央やや北寄りのF33Gに検出され、東方にJ18号土坑、北東にJ16号土坑、南方にJ10号住居跡が隣接する。35cm前後の円形で深さ10cm程の皿状の窪みに2個体の土器片が埋設されている。北方に浅鉢形土器の底部、南方に深鉢形土器の胴部下半片を使用している。

〔出土遺物〕

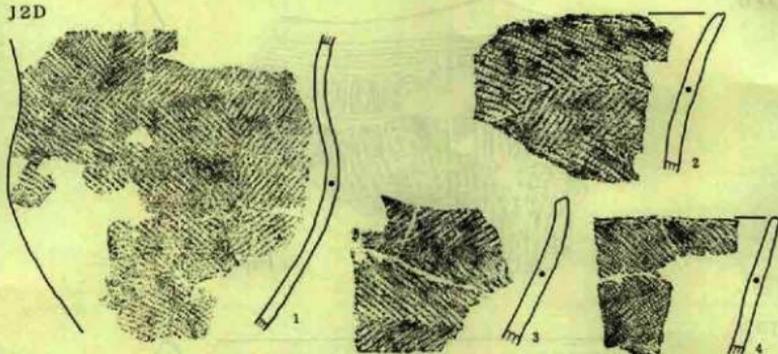
1の深鉢形土器の胴部文様は三本一組の隆帯による懸垂文で区画し、二～三本の隆帯で区画内をクランク文や食い違い十字文等を施す。地文はLRで充填する。2は浅鉢形土器の底部から胴部下半片で、外面は隈りを施す。底径14.5cmを測る。

(3) 遺構外遺物 (第60・61図)

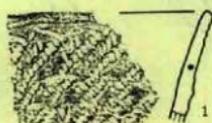
1～5は縄文前期諸磯b式期の所産で、1は半截竹管による平行沈線により文様を施し、2は木の葉状入り組文等を配し、口唇部に刻み目を施す。3も半截竹管による平行沈線により文様を意匠する。4と5は浮線文に矢羽状に刻み目を施す。

6～45 (30を除く)は縄文中期中葉～後葉の所産である。6は隆帯による区画文を配し、7～9は刻

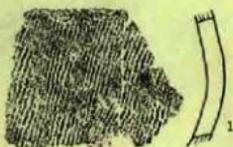
J2D



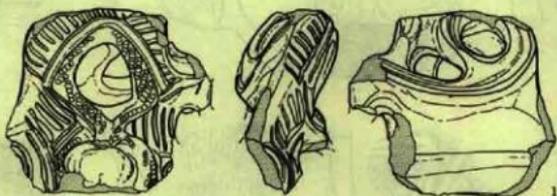
J4D



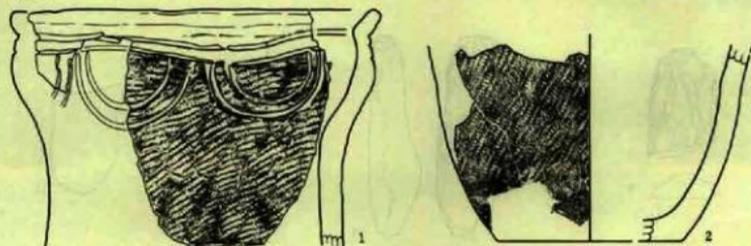
J5D



J7D

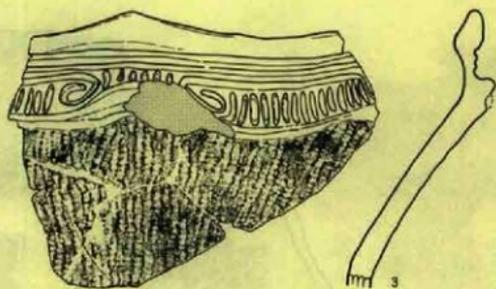


J8D



第53圖 JD出土遺物 (I)

J8D

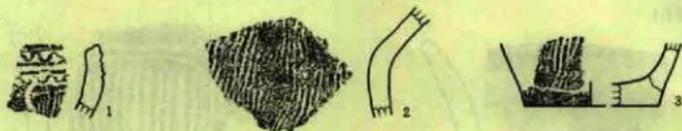


J9D

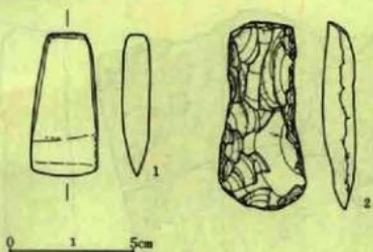


第54圖 JD出土遺物(2)

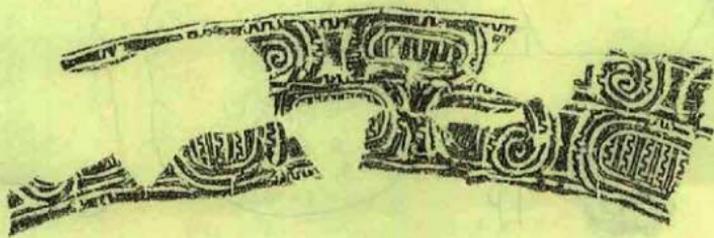
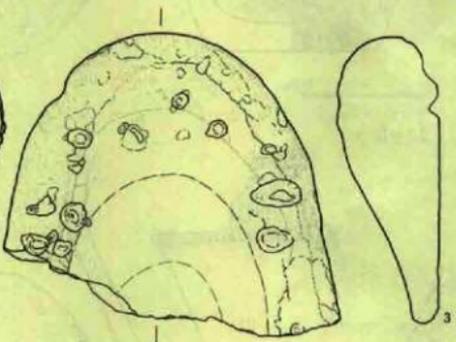
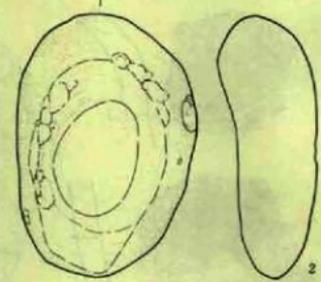
J12D



J13D



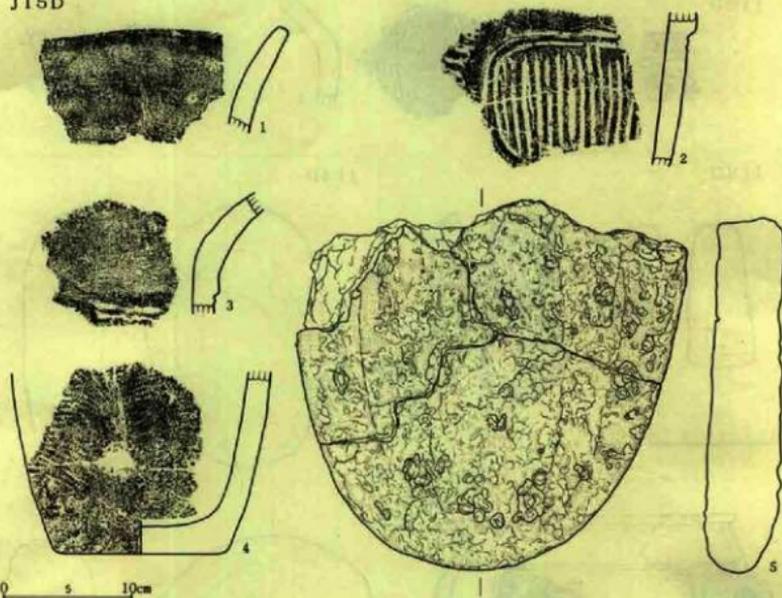
J14D



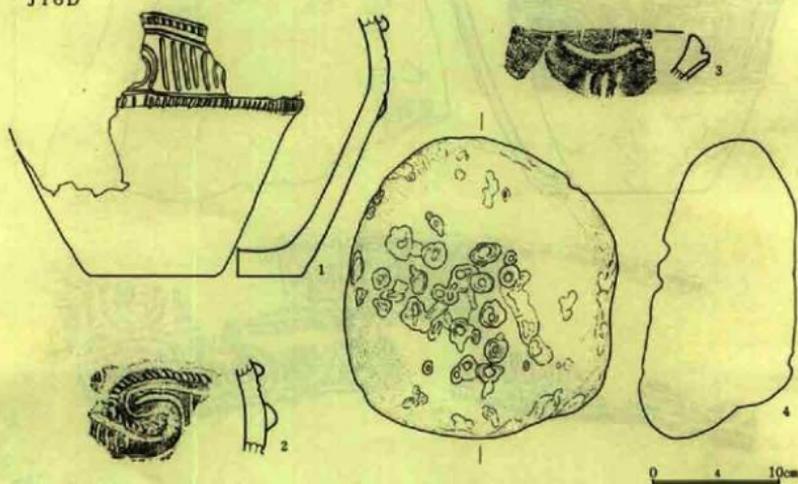
0 10cm

第55圖 JD出土遺物(3)

J15D

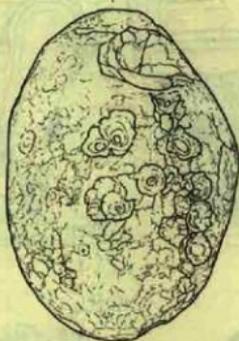
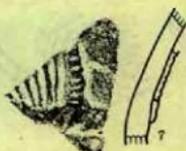


J16D



第56圖 JD出土遺物(4)

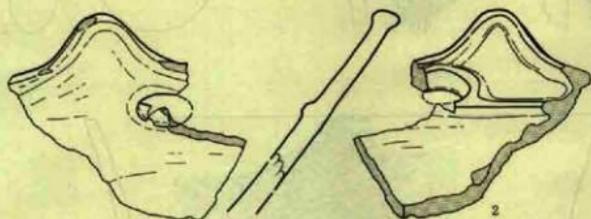
J16D



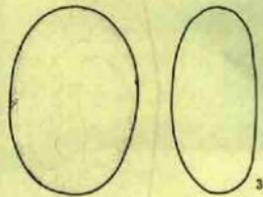
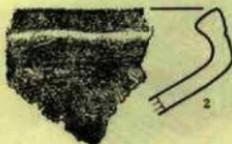
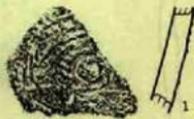
0 5 10cm



J18D

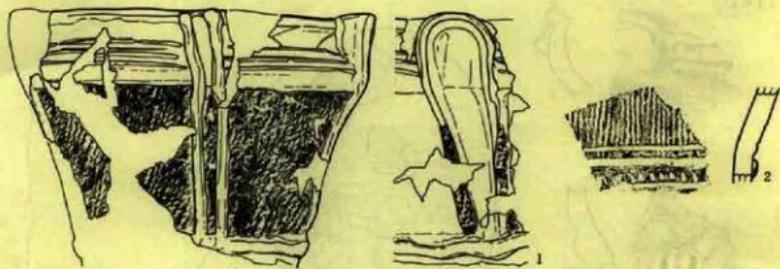


J21D



第57圖 JD出土遺物(5)

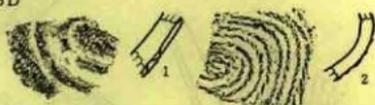
J23D



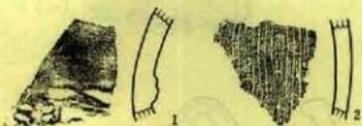
J24D



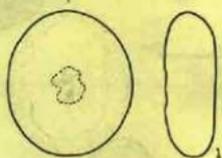
J25D



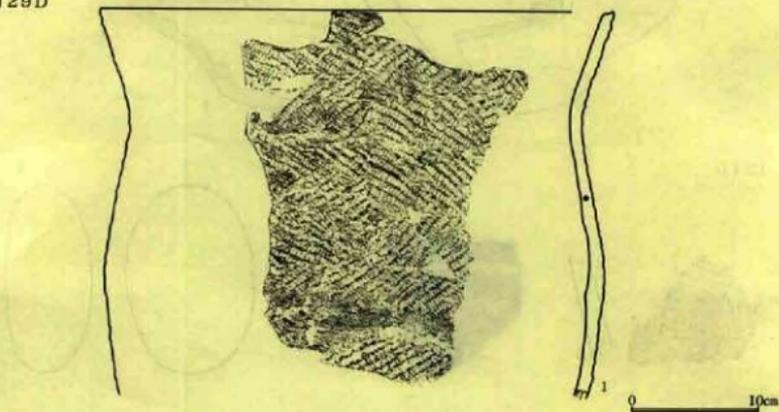
J26D



J28D

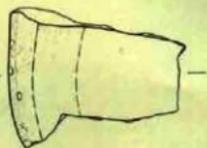
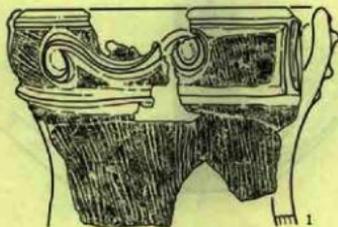


J29D



第58圖 JD出土遺物(6)

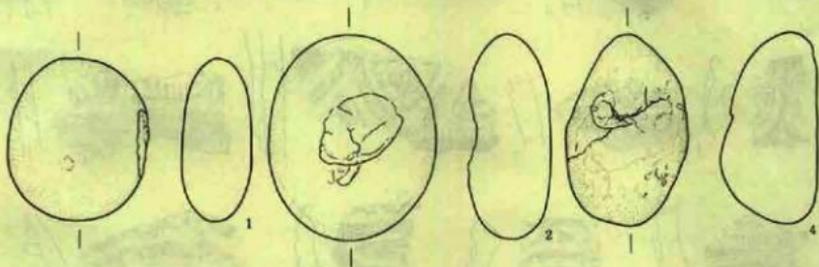
J30D



J31D



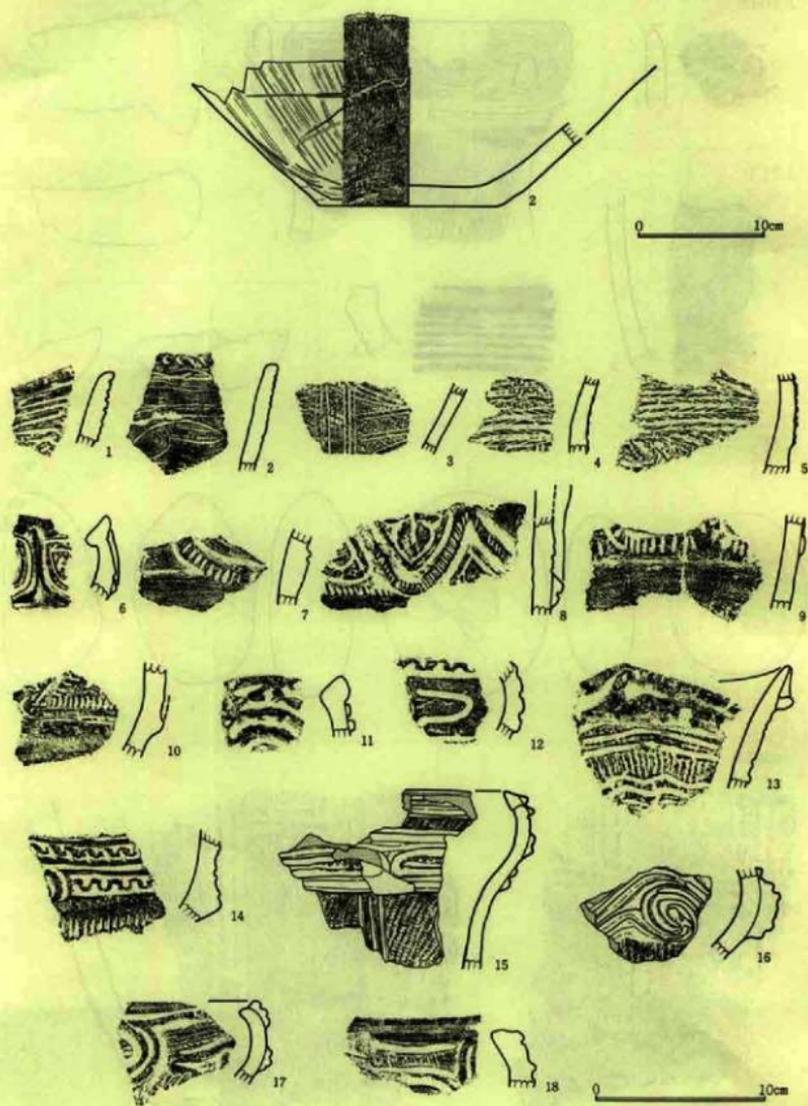
集石



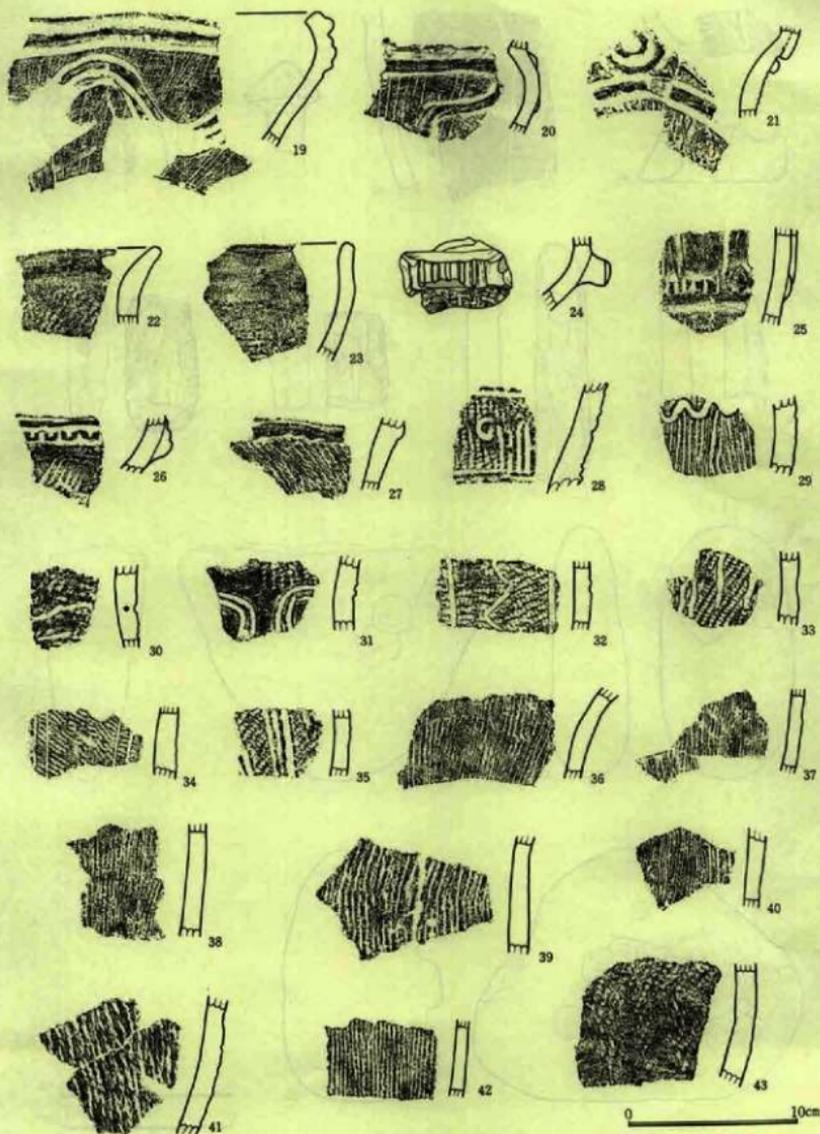
埋設土器



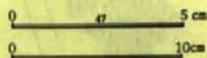
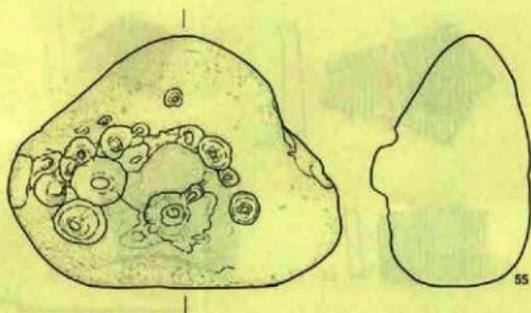
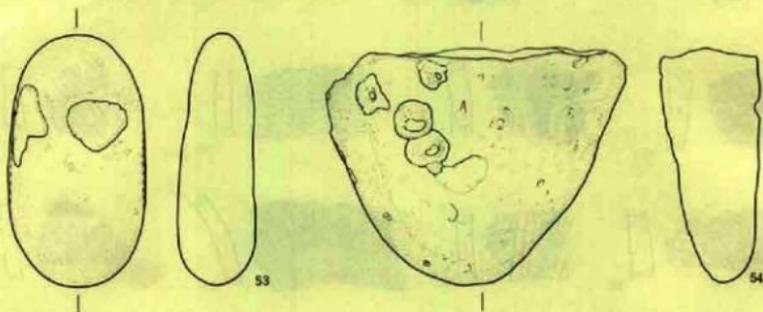
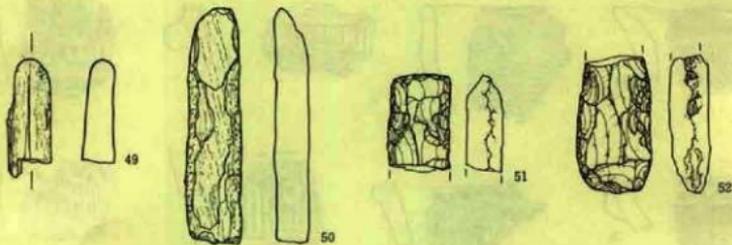
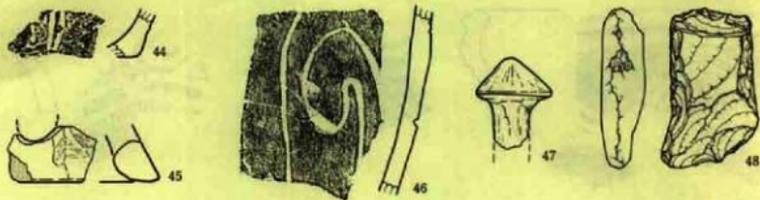
第59回 JD・集石出土遺跡・埋設土器 (1)



第60圖 埋設土器 (2)・遺構外遺物 (1)



第61回 遺構外遺物 (2)



第62圖 遺構外遺物 (3)

み目を施す隆帯で文様を意匠する。10は頸部を無文帯とし、口縁部文様帯は刻み目を連続する隆帯で区画される。11の口縁部片は隆帯で文様を意匠する。12は交互刺突文と沈線での字状文を施す。13は緩やかな波状口縁を呈し、波頂下に突起を付す。文様は平行沈線により横位文と波状文を施す。14は突出する屈曲部に渦巻き文を配し、文様帯を横位の平行沈線文と交互刺突く文を施す。15は隆帯により口縁部文様帯を意匠し、三本一組の沈線文を垂下させる。16は渦巻き状突起を付す。17と18は背割り隆帯で文様を意匠する。19は平口縁を呈し、背割り隆帯による波状文を施す。地文は燃糸Lである。20は隆帯によるクランク文、21には渦巻き文を施す。22は口縁部を短く外反させる。23は浅鉢形土器の口縁部片。24は口縁部文様帯を隆帯で区画し、コイル状の突起を付す。25は刻み目を施す隆帯で文様帯を区画する。26は口縁部文様の区画文に交互刺突文、27は隆帯を施す。28は平行沈線による区画内に縦位の短沈線と脈手状文を施す。29は沈線により波状文を施す。30は前期中葉の黒浜・有尾式期の所産。31は沈線により文様を意匠する。32～35・40・44は沈線文による懸垂文を垂下させる。36・38～42は燃糸文を施す。37は細かい条線文を施す胴部片。43はLRを施す。45は円孔を施す脚部片。

46・47は縄文後期の所産と考えられ、46は称名寺式でJ字文を施す。47はキノコ形を呈する土製品。48～50は打製石斧、51と52は棒状石器、53は磨石、54・55は多孔石。

遺構外遺物法量 (長さ・幅・厚きの単位はcm、重きはg)

48	石斧	長さ 9.7	幅 5.7	厚さ 2.6	重さ 186	石質	ひん岩	49	棒状石器	長さ 7.2	幅 2.6	厚さ 1.9	重さ 51	石質	石英片岩
50	棒状石器	長さ 14.2	幅 3.2	厚さ 2.1	重さ 182	石質	緑泥片岩	51	石斧	長さ 5.8	幅 3.8	厚さ 2.1	重さ 69	石質	加美山片岩
52	石斧	長さ 8.3	幅 4.5	厚さ 2.4	重さ 131	石質	加美山片岩	53	磨石	長さ 15.1	幅 8.1	厚さ 4.6	重さ 902	石質	磨石安山岩
54	石皿	長さ 14.3	幅 17.8	厚さ 5.8	重さ 983	石質	丸形磨石片岩	55	多孔石	長さ 19.6	幅 15.2	厚さ 9.4	重さ 2260	石質	磨石安山岩

第2節 古墳時代以降の遺構と遺物

(2) 竪穴住居跡

1号住居跡 (第63図)

A調査区の北方でE23・24グリットに跨って検出され、半分以上が調査区外の道路敷に及ぶ。北方にE調査区の44号住居跡、南方に2、3号住居跡が隣接する標高133.40mに位置する。

形状は隅丸方形を呈すると考えられ、検出された東辺3.65m、北辺(1.3)m、南辺(95)cmを測る。主軸はN-99°-Sにとる。壁高は43~50cmが残存する。床面は南方部がやや窪む。周溝はカマド左袖部分から北壁沿いに続き、幅15~20cm、深さ5cm前後である。柱穴は検出されなかった。

カマドは東辺の南寄りに灰褐色粘質土によって構築されている。焚き口から燃成部は皿状の窪みを設け、煙道部は直立気味に立ち上がる。焚き口から煙道部まで94cm、東辺から36cm張り出す。貯蔵穴は検出されなかった。遺物はカマド内と左袖部の前面に環、覆土中から縄文時代の凹石が出土した。

1号住居跡出土遺物 (第63B図)

1	環 (土類)	口径 17.2 cm 器高 3.8 cm	色調 褐色~赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 底部、皿状の底部から、外反する口縁部に移行。口縁部増幅、底部へ張り。
2	#	口径 13.0 cm 器高 4.3 cm	色調 # ~黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 # 丸底を呈し、口縁部は短く直立気味とする。# # #
3	#	口径(12.8)cm 器高 4.4 cm	色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 # # # # # #
4	#	口径 12.6 cm 器高 3.5 cm	色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 # はば完形。# # # #
5	#	口径(11.8)cm 器高 3.5 cm	色調 灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 # # # # # # 口縁部を短く内縮する。# # #
6	環 (環部)		色調 青灰色	胎土 #	焼成 良好	備考 環状成形。# # #
7	凹石	長さ 12.4 cm 幅 7.8 cm 厚さ 5.2 cm 重さ 656 g 石質 輝石安山岩				備考 表裏面の中央に凹孔を施す。# # #

2号住居跡 (第64図)

A調査区の中央やや北寄りのF22・23グリットに跨って検出され、半分程が調査区外の東方に及ぶ。南方から南西方向に3・4号住居跡が隣接し、標高133.40m付近に位置する。

形状は隅丸方形を呈すると考えられる。規模は一辺の全体が検出された西辺で3m、北辺(1.85)m、南辺(1.4)mを測る。壁高は44~52cmが残存する。床面は堅緻で平坦である。周溝・柱穴は検出されず、カマド・貯蔵穴は調査区外に及ぶ。遺物は床面で環、扁石、縄文時代中期の土器片が出土した。

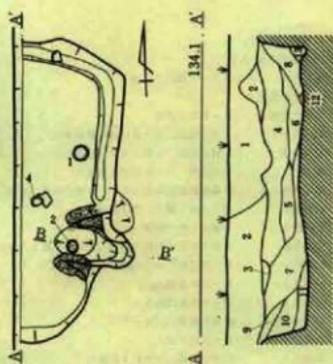
2号住居跡出土遺物 (第64B図)

1	環 (土類)	口径(18.4)cm 器高(3.2)cm	色調 淡褐色~赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 皿状の底部から、外反する口縁部に移行。口縁部増幅、底部へ張り。
2	環 (土)	口径(14.5)cm 器高(6.1)cm	色調 淡い褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 丸底を呈し、底部は短く、口縁部は短い。# # #
3	高環 (土)		色調 くすんだ黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 環部内部に放射状煙文を施す。環部は縦位のへ張り。# # #
4	環 (環部)		色調 灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 天井部凹環へ張り。# # #
5	縄文時代中期中葉頃の所産。	上部が突出する環状把手で、柄み目で加飾する。				
6	#	細曲状工具による柄み目を連続する隆帯で区画し、区画内を交互斜文、環部は縦位の平行比線で充満。				
7	#	5と同一個体の口縁部片。				
8	#	細曲状工具による柄み目を連続する隆帯で横列区画を施し、区画内に縦位の平行比線で充満する。				
9	#	8と同一個体の側部片。6~8は同一個体と考えられる。				
10	縄文時代?	長さ 10.8 cm 幅 5.6 cm 厚さ 2.6 cm 重さ 231 g 石質 多孔質安山岩				

3A・3B号住居跡 (第65~67図)

A調査区の中央でその大半をE22グリットで検出し、北西部で道路敷に係る。東方に2・3号住居跡が隣接し、標高133.40mに位置する。重複する3A住居跡は3B住居跡を切って構築されている。

3A住居跡の形状は南北方向に長い隅丸方形を呈し、主軸はN-60°-Eにとる。規模は東辺4.15m、南辺3.12m、北辺(1.75)mを検出した。壁高は3B住居跡と重複のない東と北壁で60cm前後が残存する。床面は平坦な堅緻面である。周溝は10~15cm幅で5cm前後の深さを測り、南東隅から南西隅と北東か

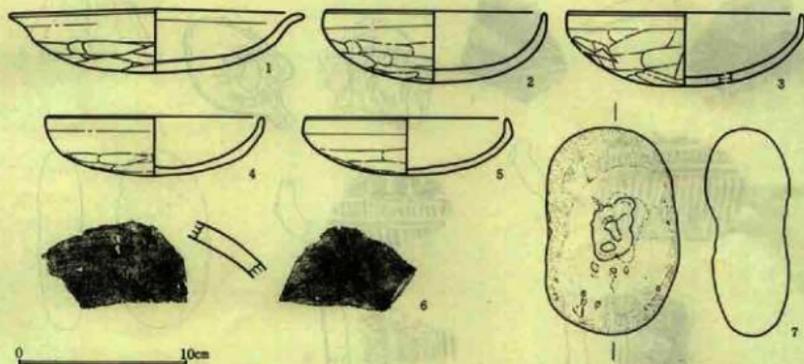
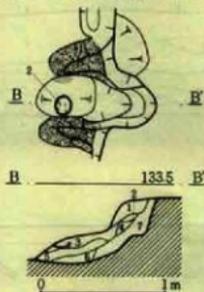


1号住居跡土層註 (A-A')

- | | | |
|-----|---------|-----------------------|
| 1層 | 黄粘土 | |
| 2層 | 砂質暗褐色土 | |
| 3層 | 暗褐色土 | 2層よりやや粘質 |
| 4層 | 暗褐色土 | R・B均質に含み、焼土粒子少量点在 |
| 5層 | 暗褐色土 | R・B混入 やや粘質 |
| 6層 | 暗褐色土 | R・B点在。ローム粒子均質混入、焼土B点在 |
| 7層 | 暗褐色土 | 5層に類似 R・B点在、ローム粒子均質混入 |
| 8層 | 暗褐色土 | ローム粒子均質混入、R・B焼土粒子点在 |
| 9層 | 黒褐色土 | 粘質で均質 |
| 10層 | 暗褐色土 | ローム粒子均質混入、R・B少量点在 |
| 11層 | 暗褐色土 | ローム粒子均質混入、焼土粒子少量点在 |
| 12層 | にぶい黄褐色土 | R・Bと暗褐色土の混土 |
| 13層 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子少量均質混入、R・B点在 |

1号住居跡カマド土層註 (B-B')

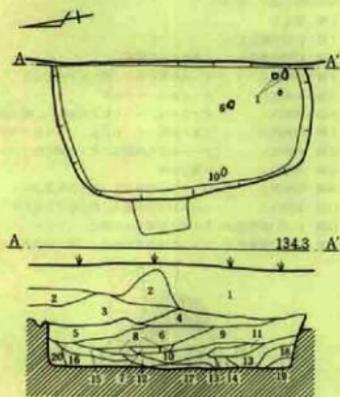
- | | | |
|----|---------|--------------------|
| 1層 | 暗褐色土 | やや粘質で均質、焼土粒子少量点在 |
| 2層 | 赤褐色土 | 焼土粒子(粒土が細かく均質)多量混入 |
| 3層 | 暗褐色土 | 1層よりやや明るい、焼土粒子混入 |
| 4層 | 暗褐色土 | 粘質ローム土混入 |
| 5層 | 赤褐色土 | 焼土B点在 焼土粒子多量均質混入 |
| 6層 | 黒褐色粘質土 | 焼土粒子少量点在 |
| 7層 | にぶい黄褐色土 | ローム粒子少量均質混入 |



第63図 1号住居跡・出土遺物

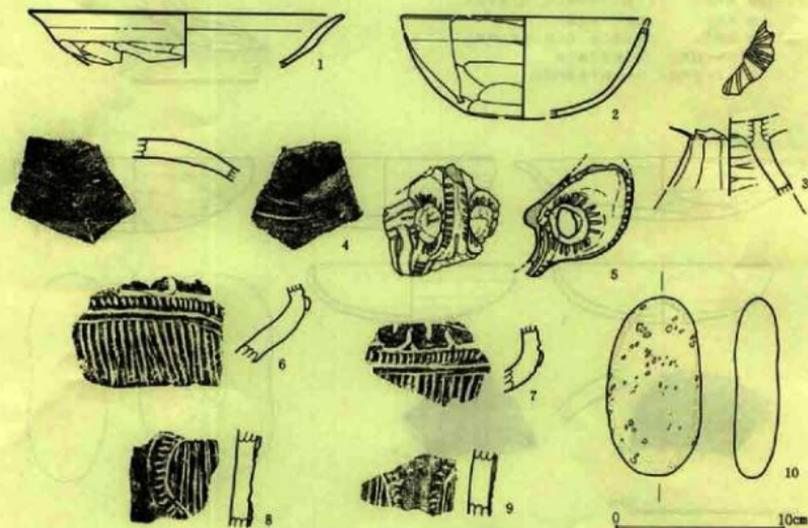
ら北壁沿いに検出された。柱穴は検出されなかった。

カマドは東辺の中央やや南寄りに灰褐色粘土で構築され、袖部先端に袖石を据える。焚き口から煙道部まで97cm、東辺からの張り出しは32cm前後、袖石間は下方で30cm前後、上方で24cmを測り、袖石は内傾する。この袖石には遺物No 1の長胴甕が架かり、鳥居状とする。焼成部には2個体の長胴甕が据えられ、遺物No 2は支脚石に乗っている。焚き口から焼成部は皿状に窪み、煙道部は東辺を深き50cm掘り



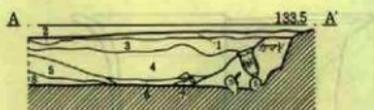
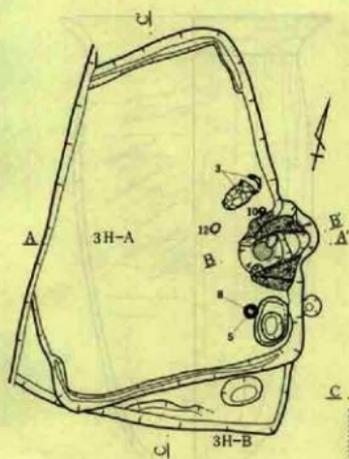
2号住居跡土層柱 (A-A')

- | | | |
|-----|---------|-----------------------|
| 1層 | 覆土 | コンクリート破砕クズ混入 |
| 2層 | 暗褐色砂質土 | |
| 3層 | 暗褐色砂質土 | R・B粒子点在 |
| 4層 | 暗褐色土 | 3層に類似、R・B粒子の量が多い |
| 5層 | 暗褐色土 | 4層に類似、4層よりR・Bが多い |
| 6層 | 暗褐色土 | やや砂質、ローム粒子少量混入 |
| 7層 | 暗褐色土 | 灰褐色粘質土Bを主とし、暗褐色砂質土を混入 |
| 8層 | 暗褐色土 | R・B粒子混入、塵土粒子点在 |
| 9層 | 暗褐色土 | 8層よりやや砂質 |
| 10層 | 暗褐色土 | 8層よりR・B粒子の混入少なく9層より多い |
| 11層 | 暗褐色土 | R・B点在、ローム粒子少量均質混入 |
| 12層 | 暗褐色土 | R・B少量混入 |
| 13層 | 暗褐色土 | R・B少量均質混入 |
| 14層 | 暗褐色土 | 灰褐色粘質土ブロック |
| 15層 | 暗褐色土 | R・B粒子混入 |
| 16層 | 暗褐色土 | 15層に類似、ややR・B多い |
| 17層 | 暗褐色土 | 灰褐色粘土粒子、R・B混入 |
| 18層 | 黒褐色土 | 砂質、塵土中層も認め |
| 19層 | にぶい黄褐色土 | R・B粒子を多量に混入する |
| 20層 | 黒褐色土 | R・B点在、やや砂質 |



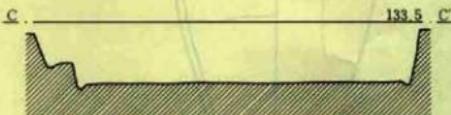
第64図 2号住居跡・出土遺物

込んで張り出し部を造る。貯蔵穴は南東隅に設けられ、形状は南北に長い隅丸方形を呈し、内部に有段を設け、下部に楕円形の掘り込みを有する。上部の隅丸方形は長軸長58cm、短軸長38cm、深さ5～8cm、下部の楕円形は33×26cm、上部からの深さ55cmを測る。遺物はカマド内、左脇筋に長胴甕、貯蔵穴前面に二枚重ねの坏等が出土した。

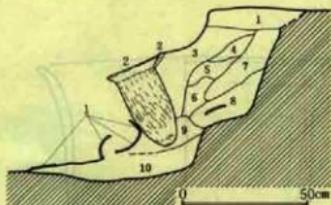


3号住居跡土層証 (A-A')

- 1層 黒褐色土 ハードに締まり、小R・B、FP含む
- 2層 暗褐色土 ソフトでR・B多く含む
- 3層 黒褐色土 小R・B 1層よりソフト
- 4層 黒褐色土 多量のR・Bを含む
- 5層 黒褐色土 少量の小R・B、ローム粒含む
- 6層 暗褐色土 R・B含む
- 7層 灰褐色土B
- 8層 黒褐色土 5層より密
- 9層 黒褐色土 大きめのR・B含む

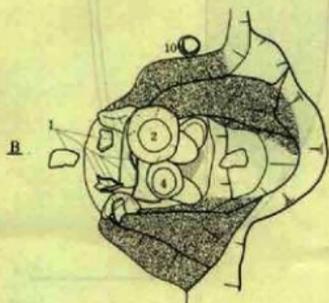


B. 133.5 B'

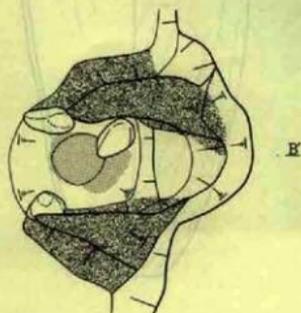


3号住居跡カマド土層証 (B-B')

- 1層 煙灰
- 2層
- 3層 黒褐色土 小R・B、FP含む
- 4層 暗褐色土 少量のローム粒含む
- 5層 灰褐色粘土
- 6層 暗褐色土 黒褐色土多く含むソフト、少量ローム粒含む
- 7層 暗褐色土 ソフトな暗褐色土で少量ローム粒含む
- 8層 暗褐色土 斑点状に焼土B含む、ローム粒、R・B多し
- 9層 暗褐色土 7層に類似
- 10層 焼土粒・焼土B・灰の混合土

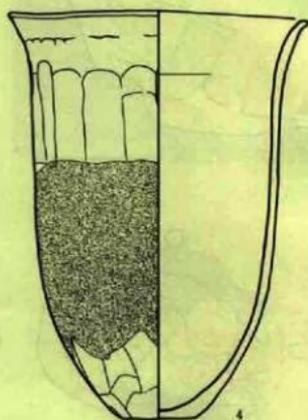
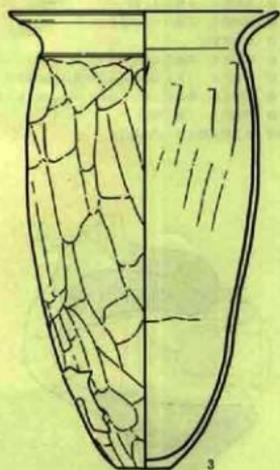
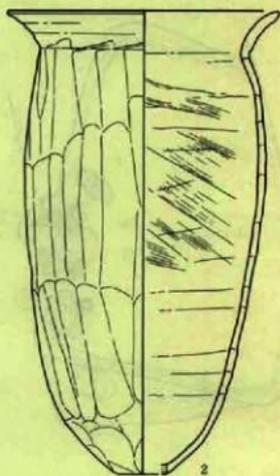
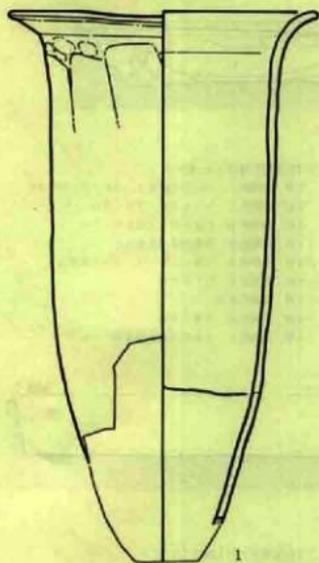


B' B

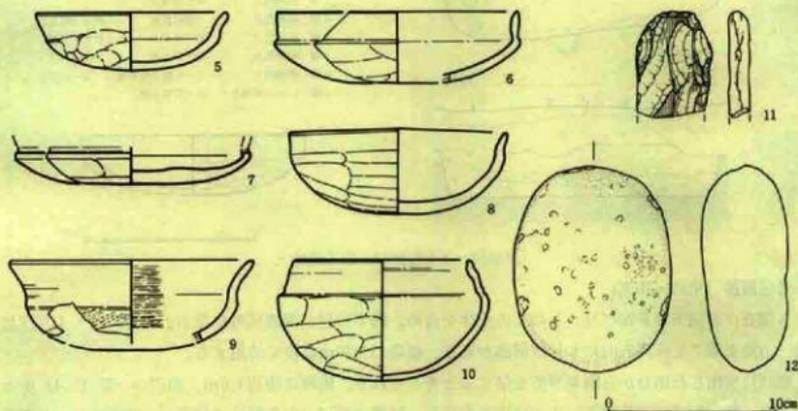


B' B

第65図 3号住居跡



第66图 3号住居跡出土遺物(1)



第67図 3号住居跡出土遺物(2)

3 B住居跡の形状・規模は、その大半を3 A住居跡に破壊されているので明確を欠く。検出された南辺は(3.2) m、東辺(90) cmを測る。残存する壁高は40cm前後である。床面はほぼ平坦を呈する。周溝は残存する南壁下で僅かに検出され、柱穴・カマドは検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に設けられ、東西に長い楕円形を呈する。規模は東西長48cm、南北長34cm、深さ37cmを測る。出土遺物は皆無であった。

3号住居跡出土遺物 (第66・67図)

1	兵削鏝 (土器)	口径 23.2 cm 器高 41.0 cm	色調 淡褐色～赤褐色	胎土 粗砂状	焼成 良好	備考 破壊状の胴部、口縁部は外反して開く。口縁部全欠。口縁部破損。体部へずり。蓋部を欠く。
2	#	口径 21.0 cm 器高 37.3 cm 底径 3.6 cm	色調 淡褐色～黒褐色	胎土 粗砂状	焼成 良好	備考 蓋部が破れる瓜形で、頸部は折れる。蓋部を欠く。
3	#	口径 21.0 cm 器高 37.0 cm 底径 4.0 cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 粗砂状	焼成 #	備考 ほぼ球形。胴部に歪み、口縁部は大きく外反。
4	#	口径 17.5 cm 器高 24.6 cm 底径 4.3 cm	色調 褐色～くすんだ灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 変形。寸形不全を呈し、口縁部は腰やかに外反。胴部中心～下手に軌土打痕。
5	坏	口径 11.2 cm 器高 3.5 cm	色調 淡褐色	胎土 微砂状	焼成 #	備考 変形。体部と口縁部の境目、口縁部短く外反。口縁部破損。体部へずり。
6	#	口径(14.1)cm 器高(4.3)cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部と体部との境に段。口縁部は直立。
7	#	#	色調 くすんだ暗褐色	胎土 粗砂状	焼成 #	備考 口縁部欠。浅い体部で口縁部との境に段。
8	椀	口径 12.7 cm 器高 5.1 cm	色調 淡褐色～赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 変形。深い体部で、口縁部との境目、口縁部破損。
9	坏	口径(14.3)cm 器高(5.0)cm	色調 褐色～くすんだ灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 体部と口縁部の境に割れ。口縁部破損。蓋部へずり。内面磨光の残存。
10	直口壺	口径 10.3 cm 器高 7.3 cm	色調 赤褐色	胎土 微砂状	焼成 良好	備考 ほぼ球形。口縁部と体部との境に段。口縁部外反。口縁部破損。体部へずり。
11	打製石片	長さ 6.0 cm 幅 4.6 cm 厚さ 1.3 cm 重さ 53 g	石質 無灰品安山岩			
12	磨石	長さ 12.4 cm 幅 9.4 cm 厚さ 5.1 cm 重さ 885 g	石質 石英質			

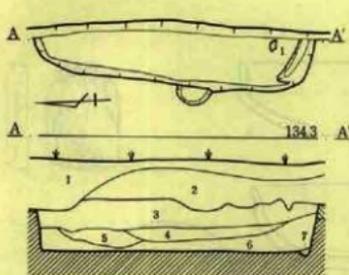
4号住居跡 (第68図)

A調査区の中央付近でF21・22グリットに跨って検出され、その主体は東方の調査区外に占める。北方で2号住居跡、西方で3号住居跡が隣接し、標高133.40mに位置する。

形状は検出された部分から隅丸方形を呈すると考えられ、検出された西辺3.27mを測る。壁高は40cm前後が残存する。床面は平坦で、周溝は北西隅に僅かに検出され、柱穴は検出されなかった。カマド・貯蔵穴は調査区外に及ぶ。遺物は南西隅で坏が出土した。

4号住居跡出土遺物 (第68図)

1	坏 (土器)	口径(13.1)cm 器高 3.6 cm	色調 くすんだ褐色	胎土 微砂状	焼成 良好	備考 体部と口縁部の境の境目、口縁部破損。蓋部へずり。内面磨光の残存。
---	--------	----------------------	-----------	--------	-------	-------------------------------------



4号住居跡土層注 (A-A')

- | | | |
|----|---------|-----------------|
| 1層 | 礫混土 | コンクリート破砕ケス等混入 |
| 2層 | 暗褐色土 | 砂質均質土 |
| 3層 | 暗褐色土 | 2層に類似 ローム粒子均質混入 |
| 4層 | 暗褐色土 | R・B点在 ローム粒子均質混入 |
| 5層 | 暗褐色土 | R・B点在 |
| 6層 | 暗褐色土 | ローム粒子均質混入 R・B点在 |
| 7層 | にぶい黄褐色土 | R・B粒子混入 |

第68図 4号住居跡・出土遺物

5号住居跡 (第69・70図)

A調査区の南方でF20グリットにその主体を占め、約半分程が調査区外に及ぶ。北方に3・4号住居跡、道路を隔てて南西方向に6号住居跡があり、標高133.30m前後に位置する。

形状は検出した部分から隅丸方形を呈すると考えられる。規模は西辺5.6m、南辺の一部(2.4)mと北辺の一部(1.85)mを測る。床面は平坦を呈し、周溝は西辺の中央部分で途切れ、南西部分と北西部分から北辺沿いに検出された。幅15~20cm、深さ10cm以下で浅い。柱穴は検出されなかった。カマド・貯蔵穴は調査区外に及び検出できなかった。遺物は南壁沿いに集中して坏等が出土した。特に町当では初見である4と5の螺旋状暗文を施す坏があり、4の底部には「居」の墨書がある。

5号住居跡出土遺物 (第70図)

1	坏 (土製)	口径(11.6cm) 器高 3.3cm	色調 ぐすんだ褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 器底平底を呈し、口縁部は内湾気味とする。口縁部微塵、器底へ下がり。
2	#	口径(12.3cm) 器高 (3.4)cm	色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部は直立気味とする。 #
3	#	口径(12.0cm) 器高 (3.0)cm	色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 器底の底部から口縁部は外反し、境の境は弱い。 #
4	#	口径(13.7cm) 器高 4.2cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 体底下位は外反し、口縁部は直立気味。体底内面に放射状、内部に螺旋状暗文。
5	#	口径(13.9cm) 器高 4.3cm	色調 ぐすんだ褐色	胎土 #	焼成 #	備考 やや歪んだ器底で口縁部は外反。
6	#	底径 8.8cm	色調 黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部欠、平底を呈し、器底はへうすり、7mmの円孔を施す。
7	坏 (銀製)	口径(12.4cm) 器高 3.3cm 底径 (8.1)cm	色調 灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 器壁水引き成型。器底回転糸切り未調整、底面焼き痕。
8	#	口径(11.9cm) 器高 3.4cm 底径 (6.7)cm	色調 ぐすんだ灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # 口唇部外反。 #
9	#	口径(11.7cm) 器高 3.5cm 底径 (6.8)cm	色調 灰白色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 #
10	香 (#)	口径(10.3cm)	色調 灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 片断の器底片と考えられ、口縁部は水平に強く外反。
11	縄文時代中期	縄状把手片で、平截竹管による平行波線文の両端を爪形文で閉じ、端部に刺目を施す。				
12	打製石斧	長さ(5.3)cm 幅 4.5cm 厚さ 1.7cm 重さ 48g	石質 舞塚山安山岩			
13	打製石斧	長さ(7.3)cm 幅 4.5cm 厚さ 2.0cm 重さ 48g	石質 舞塚山安山岩			
14	編石	長さ 11.7cm 幅 5.3cm 厚さ 3.7cm 重さ 302g	石質 舞塚山安山岩			

6号住居跡 (第71図)

B調査区の最北部でE18グリットに検出され、その大半は調査区外の道路敷に及ぶ。南方に1号柱穴列と7・8号住居跡があり、標高132.00m前後に位置する。

形状は方形を呈すると考えられ、規模は南辺2.3m、東辺1.15mを検出した。壁高は40cm前後が残存する。主軸はN-69°-Eであろう。床面は堅く締まり、平坦である。周溝は幅10cm、深さ2~5cmと浅く、南東隅から南辺に沿って検出された。柱穴は南周溝沿いにP₁~P₄を検出した。

カマドは東辺に設けられているが、右袖部と燃成部の一部が検出された。貯蔵穴は明確でないが土器の集中と規模・形状からP₂に可能性が考えられる。遺物は南東隅部でカマド右袖部脇に長胴甕、丸底甕がP₂の上面、編石が周溝内で出土した。

6号住居跡出土遺物 (第71図)

1 兵削鏃 (土器)	口径 19.3 cm 器高 19.8 cm	色調 赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 胴部下平文、胴部中に彫らみ、口縁部は外反、口縁部噴張、体部へテ削り。
2 丸底甕 (ノ)	口径 14.4 cm 器高 16.2 cm	色調 褐色~黒褐色	胎土 #	焼成 良好	備考 ほぼ完全、やや偏平な球形胴部から口縁部は短く外反。
3 編石	長さ 12.0 cm 幅 6.5 cm 厚さ 5.1 cm 重さ 395 g	石質 輝石安山岩			
4 縄文時代中期	平織竹管による平行沈線文で縦横文を網状に配す。				

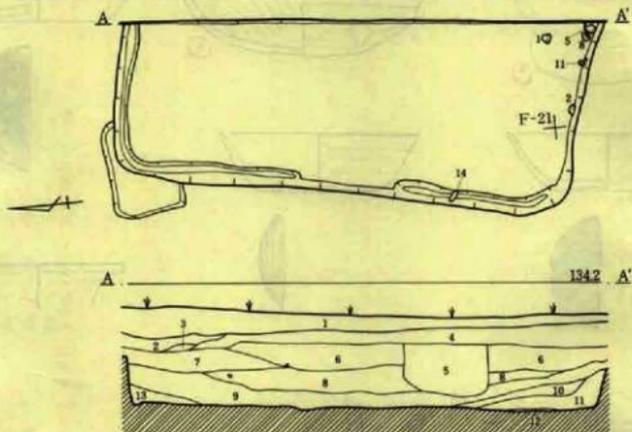
7号住居跡 (第72図)

B 調査区の北方で E16・17グリットに跨って検出され、その主体は東方の調査区外に及ぶ。南方で9号住居跡に接し、西方に8号住居跡が隣接する標高132.75m付近に位置する。

形状はその大半が調査区外の東方にその主体を占める為、明確でないが方形を呈すると考えられる。規模は検出された西辺で2.53m、北辺(1.52)mを測り、壁高は25cm前後が残存する。床面は平坦で、周溝・柱穴は検出されず、カマド・貯蔵穴は調査区外に及び検出されなかった。遺物は覆土中から坏片が出土した。

7号住居跡出土遺物 (第72図)

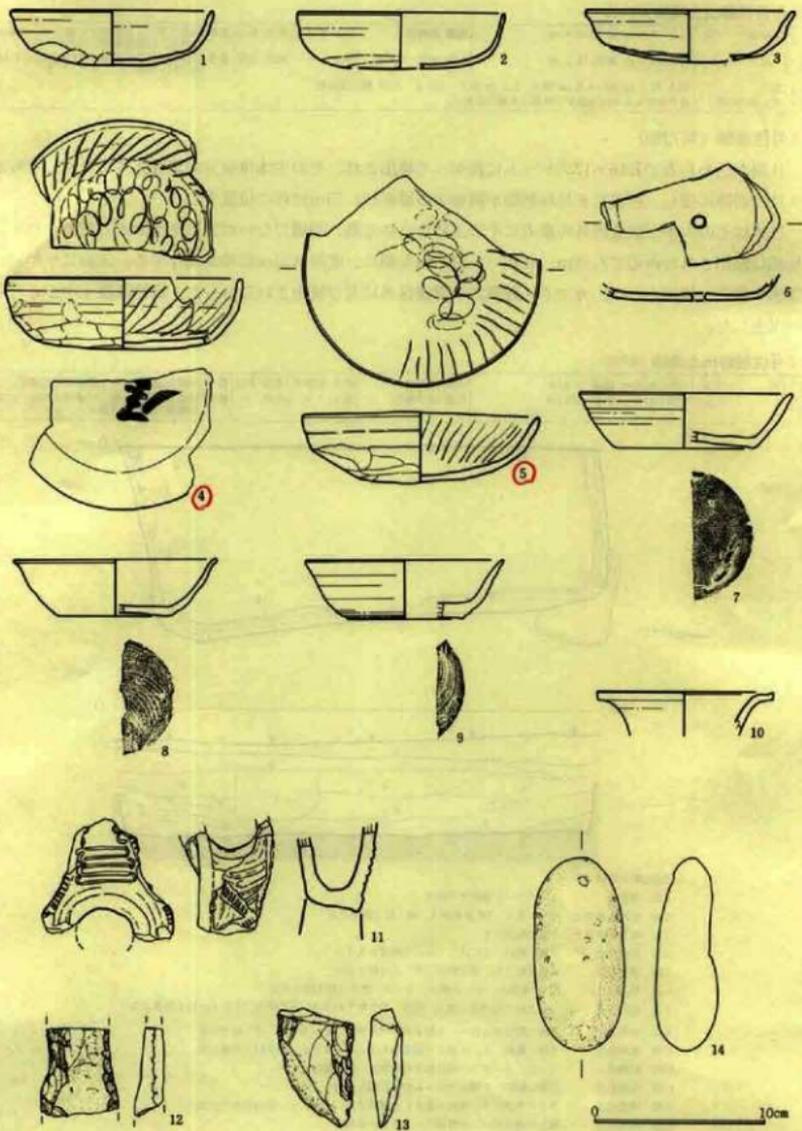
1 坏 (甕蓋)	口径(16.5)cm 器高(4.8)cm	色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 内面する体部から口縁部は短く外反。
2 # (土器)	口径(12.4)cm 器高(3.1)cm	色調 濃い褐色	胎土 #	焼成 #	備考 体部と口縁部に噴張、口縁部は外反、口縁部噴張、体部へテ削り。



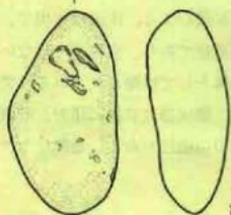
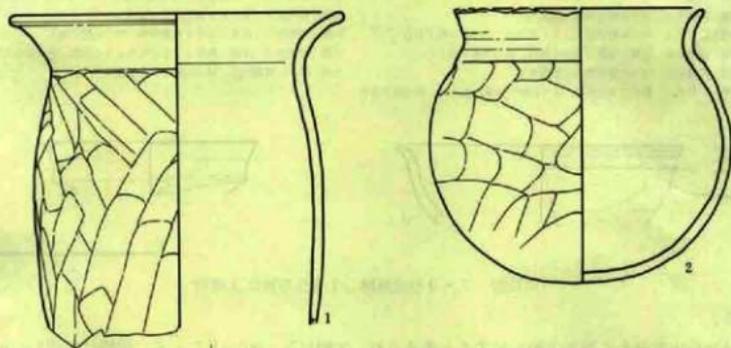
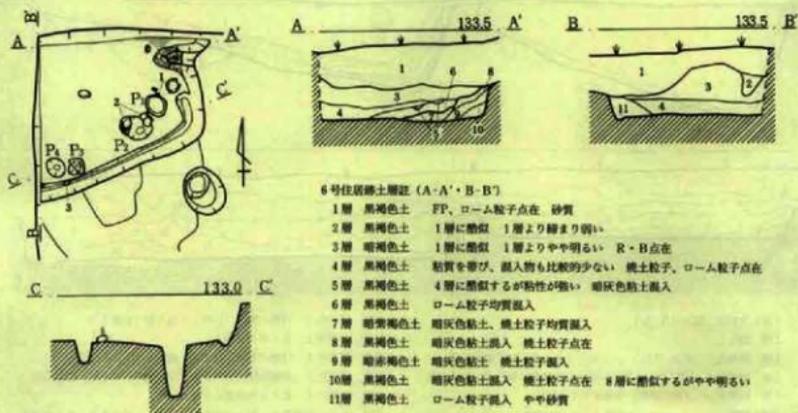
5号住居跡土層註 (A-A')

- 1層 堆積土 コンクリート遺跡クズ混入
- 2層 暗褐色砂質土 締まり良く、FP少量混入、焼土粒子微量点在
- 3層 暗褐色砂質土 2層に類似する
- 4層 暗褐色土 2層に類似 2に比して輝石の粒度が大き
- 5層 暗褐色土 灰褐色粘土B、焼土粒子、カーボン粒子点在
- 6層 暗褐色土 FP少量混入 ローム粒子、カーボン粒子、焼土粒子点在
- 7層 暗褐色土 ローム粒子を多量に混入(均質) やや粒土の大きいFP点在、カーボン粒子微量点在
- 8層 暗褐色土 7層に類似するがローム粒子の量が少ない R・B カーボン粒子点在
- 9層 暗褐色土 7層に類似 7、8層より粒度の大きいR・B点在 焼土粒子微量点在
- 10層 暗褐色土 ローム、カーボン、焼土粒子均質混入 混入物は少ない
- 11層 暗褐色土 10層に類似 10層よりローム粒子の混入少ない
- 12層 灰褐色土 ラミナを呈する 床面(敷土)を構成する ローム土、灰白色粘土の混土
- 13層 黒褐色土 覆土中最も暗い 均質層ローム粒子少量混入

第69図 5号住居跡



第70图 5号住居跡出土遺物

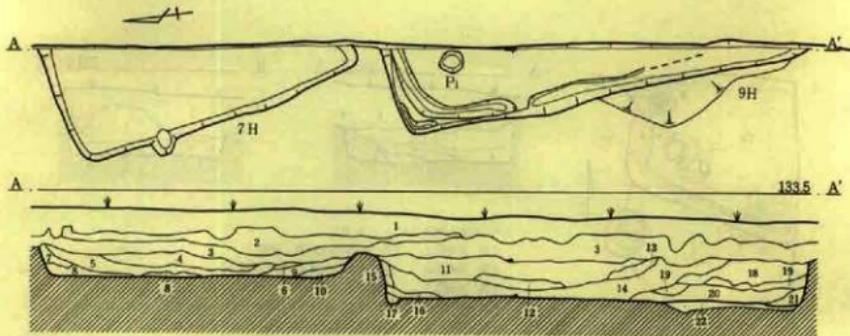


0 10cm

第71図 6号住居跡・出土遺物

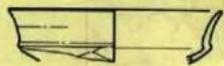
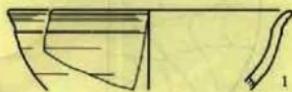
8号住居跡 (第73図)

B調査区の北方でE17グリットポイントの南方にその主体を占め、半分以上が西方の道路敷に及ぶ。北東隅で2号柱穴列のP₁が重複する。東～南東方向に7・9号住居跡が隣接し、標高132.70m前後に位



7・9号住居跡土層註 (A-A')

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1層 覆土 | 12層 暗褐色土 11層に類似、11層より混入物の粒度小さい |
| 2層 黒褐色土 砂質、FP、ローム粒子少量、焼土粒子微量点在 | 13層 暗褐色土 R・B多量混入 |
| 3層 暗褐色土 FP、ローム粒子、焼土粒子微量・カーボン粒子点在 | 14層 暗褐色土 11層に類似、11層より混入物のFP多い |
| 4層 暗褐色土 3層に類似、3層よりやや暗い | 15層 暗褐色土 微細粒度、ローム粒子少量混入、焼土粒子微量点在 |
| 5層 暗褐色土 ローム粒子多量混入、R・B点在 | 16層 暗褐色土 R・B不均質に少量混入 |
| 6層 暗褐色土 ローム粒子少量混入 | 17層 におい黄褐色土 覆土中最も明るくローム粒子多量、R・B混入 |
| 7層 黒褐色土 ローム粒子均質に混入 | 18層 暗褐色土 ローム粒子、FP、焼土粒子、カーボン粒子点在 |
| 8層 暗褐色土 ローム粒子混入、R・B混入、カーボン粒子点在 | 19層 暗褐色土 R・B少量不均質に混入 |
| 9層 暗褐色土 8層に類似でやや不均質、覆土中最も明るい | 20層 黒褐色土 粒度は小さく均質な層、ローム粒子混入 |
| 10層 暗褐色土 ローム粒子混入、粘質あり | 21層 暗褐色土 20層に類似、さらに粒度小さく均質、やや粘度あり |
| 11層 暗褐色土 砂質でFP多量、ローム粒子少量、R・B、焼土粒子点在 | 22層 におい黄褐色土 ローム粒子B多量混入 |



0 10cm

第72図 7・9号住居跡、7号住居跡出土遺物

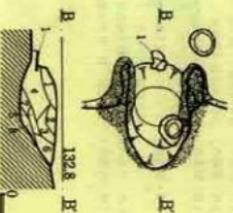
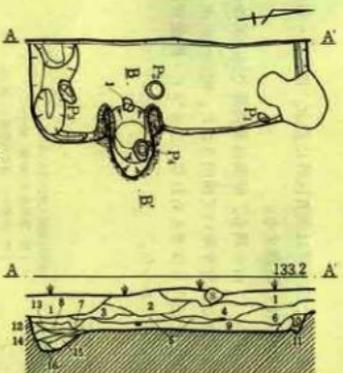
置する。

形状は検出部分から隅丸方形を呈すると考えられ、主軸はN-90°-Eにとる。規模は東辺3.32m、南辺(1.2)m、北辺(95)cmを測る。壁高は15cm前後が残存する。床面は平坦で、周溝は北辺と南東部分に検出された。柱穴は4ヶ所に検出されたが後世の所産であり、主柱穴ではない。

カマドは東辺の中央やや南寄りに灰白色粘土を主体として構築されている。焚き口から煙道部まで85cmで張り出しは50cmを測る。焚き口幅は40cm前後で、燃成部は皿状に窪む。貯蔵穴は明確でないが、南東隅に設けられた掘り込みが考えられるが、掘り方の可能性もある。遺物はカマドの焚き口部に壘片、他は覆土中の出土である。

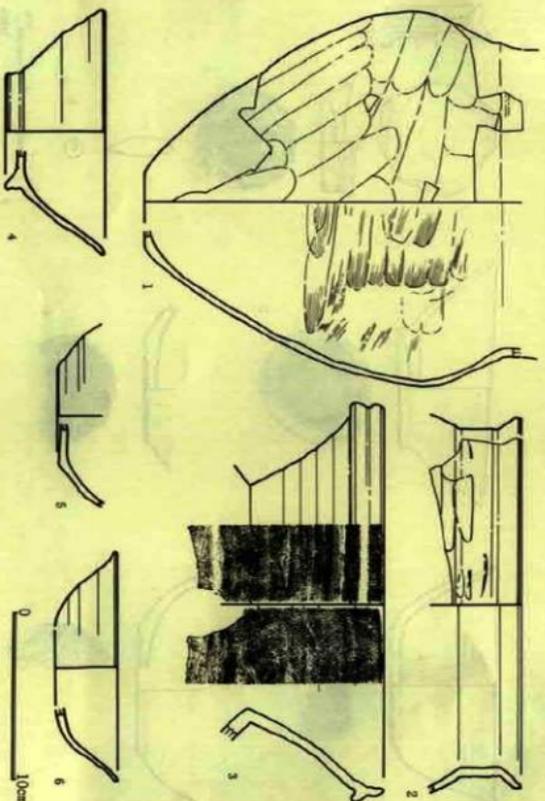
8号住居跡出土遺物 (第738B)

1	壘 (土部)	器高(22.6)cm	色調 褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 口縁部と底面欠損。胴部上半部位、下半部斜線色のへう附り。内面無調整。
2	#	口径(21.8)cm	色調 淡褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 所謂「コの字」状口縁を呈する口縁部片。
3	壘 (須部)	口径(22.6)cm 器高(9.8)cm	色調 暗灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部は胴部から大きく外反。口唇部を短く直立気味とし、突帯通る。
4	高台付碗 (#)	口径(14.3)cm 器高 6.1cm 底径(6.3)cm	色調 灰褐色~黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 頸部水引成型。還元成焼成。体部は大きく外反。付高台、回転余り未調整。
5	坪 (#)	底径(5.8)cm	色調 暗灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # 底面凹部から未調整。
6	#	口径(13.3)cm 器高(2.3)cm	色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 # 底面は器部から丸みを帯びて外反して狭く。



- 8号住居跡土器群 (A-A')
 1層 褐色土 コシクエト磁砂を多量に混入 轆土灰子、カーゴク灰子
 2層 黒褐色土 PP、カーゴク灰子少量の混入 轆土灰子、カーゴク灰子
 存在
 3層 褐色土 カーゴク灰子多量混入 轆土灰子、カーゴク灰子存在
 4層 黒褐色土 灰白色土の層の混入 カーゴク灰子少量存在
 5層 黒褐色土 砂質で粘土成分少ない、轆土灰子少量存在
 6層 褐色土 PPの混入 轆土灰子カーゴク灰子少量存在
 7層 褐色土 砂質、カーゴク灰子少量存在
 8層 灰褐色土 灰白色土を多量に混入 轆土灰子、カーゴク灰子存在
 9層 黒褐色土 カーゴク灰子少量の混入、カーゴク灰子、轆土灰子、カーゴク灰子存在
 10層 褐色土 砂質で均質 PP少量混入 轆土灰子少量存在
 11層 褐色土 PPの混入、カーゴク灰子
 12層 黒褐色土 カーゴク灰子多量混入
 13層 褐色土 轆土灰子、カーゴク灰子の混入
 14層 灰褐色土 灰白色土を多量に混入 轆土灰子存在
 15層 褐色土、カーゴク灰子と褐色土層の混入
 16層 黒褐色土、カーゴク灰子 (コシクエ方式の築法)

- 4号住居跡カマツ土器群 (B、B')
 1層 灰褐色土 轆土灰子、PP多量に混入、カーゴク灰子存在
 2層 褐色土 灰白色土、轆土灰子多量混入、PP、カーゴク灰子存在
 3層 褐色土 2層に類似、2層より灰白色土の層が少ない
 4層 褐色土 灰白色土をカーゴク灰子少量の混入、カーゴク灰子存在
 5層 褐色土、カーゴク灰子多量混入、カーゴク灰子、轆土灰子存在
 6層 褐色土、轆土灰子多量混入、カーゴク灰子存在
 7層 灰褐色土、カーゴク灰子多量混入、轆土灰子存在
 8層 赤褐色土 轆土灰子、カーゴク灰子存在

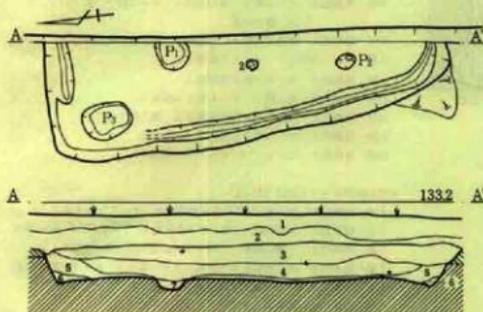


第73図 8号住居跡・出土遺物

9号住居跡 (第72図)

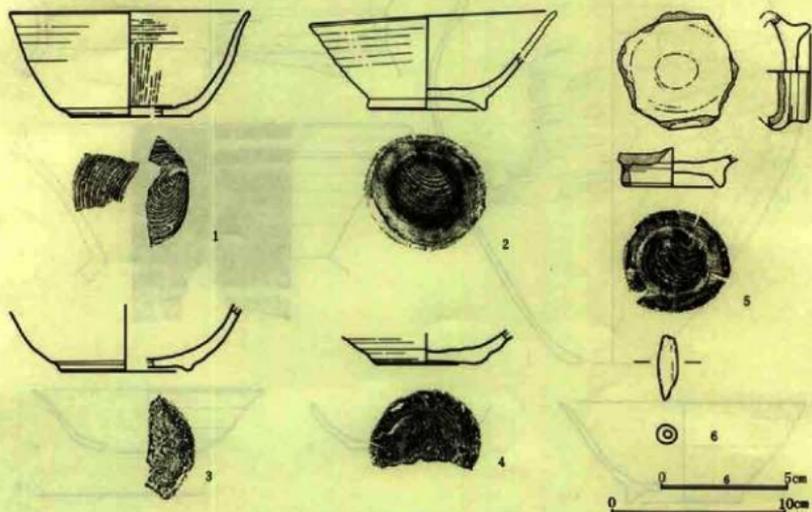
B調査区の北方でE15・16グリットに跨がって検出され、その主体は調査区外に及ぶ。北方で6号住居跡が接し、南方には10号住居跡が隣接し、標高132.65m前後に位置する。

形状は方形を呈すると考えられ、西辺(4.75)m、北辺(1.1)mを測る。壁高は北西部で50cm前後が残存する。床面は平坦である。周溝は西辺の北寄りの途切れる部分を除いて検出された。幅20cm前後、深さ5cmを測る。柱穴は北西隅に1ヶ所に検出されたが、主柱穴とは考えられない。カマド・貯蔵穴は調査区外に及び検出できなかった。遺物は土師器の小片のみであった。



10号住居跡土層註 (A-A')

- 1層 暗褐色土 砂質 粘状土
- 2層 黒褐色土 FP均質混入、焼土粒子点在
- 3層 暗褐色土 FP、焼土粒子均質混入
- 4層 暗褐色土 3層より混入物の粒度が大きく、量もやや多い
- 5層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子均質混入、灰白色粘土粒子点在
- 6層 濃い・黄褐色土 ローム粒子均質混入
- 7層 灰褐色土 やや粘質 R・Bが少量点在



第74図 10号住居跡・出土遺物

10号住居跡 (第74図)

B調査区の中央やや北寄りE13・14グリットに跨って検出され、その主体は調査区外に及ぶ。北方に9号住居跡、南方に11・12号住居跡が隣接し、標高132.50m前後に位置する。

形状は方形を呈すると考えられ、西辺4.75m、北辺(1.65)mを測る。壁高は20cm前後が残存する。床面はほぼ平坦である。周溝は北西隅を除いて検出され、幅25cm、深さ5cm前後を測る。柱穴は3ヶ所に検出されたが、主柱穴は不明である。カマド・貯蔵穴は調査区外に及び検出できなかった。遺物は床面付近で高台付椀と覆土中から坏・耳皿・土鍾が出土した。

10号住居跡出土遺物 (第74図)

1	坏 (土師)	口径(14.0)cm 器高 6.3 cm 底径 (7.0)cm	色調 褐色～くすんだ黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 割片/残存。底部回転糸きり未調整。内面黒色染付。平磨。
2	高台付椀 (須恵)	口径(14.5)cm 器高 5.6 cm 底径 6.7 cm	色調 灰褐色～淡黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 輪轆糸引成形。還元焼成。体部1/3残存。付高台。底部回転糸きり未調整。
3	# (土師)	底径 (7.6)cm	色調 淡褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 # 底磨跡、内面黒色染付。
4	# (須恵)	底径 6.3 cm	色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 # 体部欠損。底部回転糸きり未調整。
5	耳皿 (#)	底径 5.7 cm	色調 灰褐色～淡黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 還元焼成。体部欠損。付高台。底部回転糸きり未調整。
6	土鍾	長さ 2.7 cm 幅 0.8 cm	重さ 1.4 g			備考 両端部が縮くくる円筒形を呈する。

11号住居跡 (第75・76図)

B調査区の中央付近でD・E12グリットに跨って検出され、北西部分で12号住居跡と重複する。新旧関係は11号住居跡が新しい。北方に10号住居跡、南方に13号住居跡が隣接し、標高132.30m前後に位置する。

形状はやや東西に長い隅丸方形を呈し、東辺3.6m、南辺3.8mを測る。主軸はほぼ東にとる。壁高は残存の良い西壁で43cmである。床面はほぼ平坦である。周溝は検出されなかった。柱穴状掘り込みのP₁は後世のものである。

カマドは東辺の南寄りに暗褐色粘土で構築されている。焚き口から煙道部まで1.4mで、90cm程張り出す。焚き口幅は35cm前後で、左袖部分に68×35cmの楕円形の礎が存在する。貯蔵穴と考えられる掘り込みは南東隅に2ヶ所ある。コーナー部分の掘り込みは45×50cmの歪んだ円形を呈し、深さ12cmである。西寄りには60×43cmの楕円形を呈し、深さ7cmである。遺物は土師器の小片のみであった。

12号住居跡 (第75・76図)

B調査区の中央付近で検出され、B調査区の中央付近で検出され、その大半をD12グリットに占める。南東部～南方の上面を11号住居跡に切られ、北～西方部分は道路敷に及ぶ。

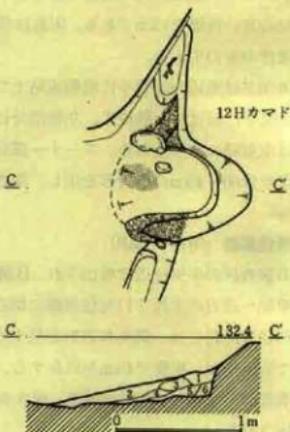
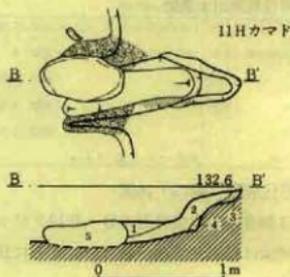
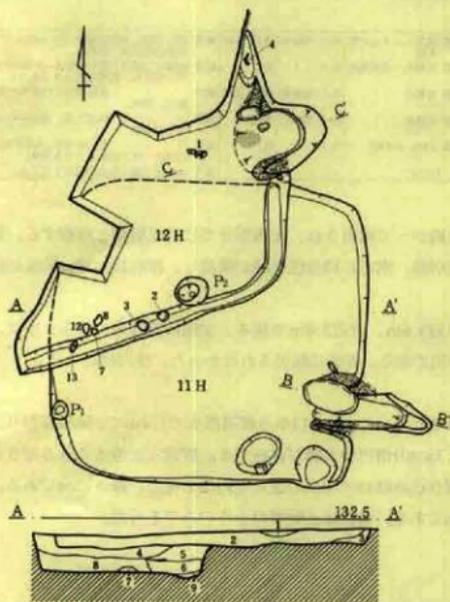
形状は南北に長い隅丸長方形を呈すると考えられ、南辺(3.8)m、東辺3.05mを測る。壁高は重複部分で30cm前後、東壁で45cmが残存する。主軸はN-71'-Eにとる。床面は平坦で堅緻面である。周溝は調査部分で全周し、幅25cm前後、深さ5cm程である。柱穴P₂は南辺の中央やや東寄りで周溝に重複して検出された。

カマドは東辺の中央付近に灰褐色粘土で構築され、焚き口から煙道部まで1.1m、張り出しは50cmを測る。焚き口幅は50cm程で左袖部には礎を設けている。遺物は南壁下の周溝部分に坏と編土、カマド周辺では甕等が出土した。

11・12号住居跡出土遺物 (第76図)

1	瓦割壺 (土師)		色調 赤褐色～褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 割部下片。体部縦位のへう割り。
2	坏 (#)	口径 12.4 cm 器高 3.6 cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部1/4欠損。口縁部短く直立気味。口縁部～内面磨跡。外面へう割り。
3	# (#)	口径 12.4 cm 器高 3.8 cm	色調 赤褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部1/2欠損。 # 内磨。 #

4	#	(#)	口径(12.2)cm 器高 4.4 cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/3欠損。 # 直立気味。 # #	
5	#	(#)	口径(12.4)cm 器高 (3.4)cm	色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 1/3欠損。 # # 内側。 # #	
6	#	(#)	口径(14.7)cm 器高 3.3 cm	色調 #	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 1/3欠損。 # # #	
7	#	(#)	口径(14.0)cm 器高 (3.6)cm	色調 淡褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良	備考 1/3欠損。 # # #	
8	#	(#)	口径(14.7)cm 器高 (3.4)cm	色調 赤褐色	胎土 #	焼成 良好	備考 1/3欠損。皿状底部から口縁部は外反。	
9	高台付杯(裏面)			口径(16.6)cm 器高 (4.0)cm 底径(10.2)cm	色調 くすんだ灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 懸輪水引成型。体部は外反。底部回転へり。
10	蓋 (#)				色調 青灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 # 所謂「上野型有蓋蓋」の蓋部分。
11	#		長さ 11.7 cm 幅 5.8 cm 厚さ 4.8 cm 重さ 394 g	石質 輝石安山岩				
12	#		長さ 12.3 cm 幅 6.9 cm 厚さ 4.3 cm 重さ 390 g	石質 輝石安山岩				
13	#		長さ 13.4 cm 幅 6.5 cm 厚さ 5.6 cm 重さ 619 g	石質 輝石安山岩				
14	#		長さ 12.2 cm 幅 6.3 cm 厚さ 5.0 cm 重さ 439 g	石質 多孔質輝石安山岩				



11・12号住居跡土層註 (A-A')

- 1層 暗褐色土 ロームB含む
- 2層 黒褐色土 少量ローム 焼土粒 カーボン粒
- 3層 暗褐色土 ロームB多く含む
- 4層 暗褐色土 ローム粒 焼土粒
- 5層 暗褐色土 4層より薄い
- 6層 褐色土 暗褐色土 ローム粒多く含む
- 7層 褐色土 暗褐色土 ローム粒多く含む
- 8層 暗褐色土 少量のロームB、ローム粒含む
- 9層 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、灰褐色土

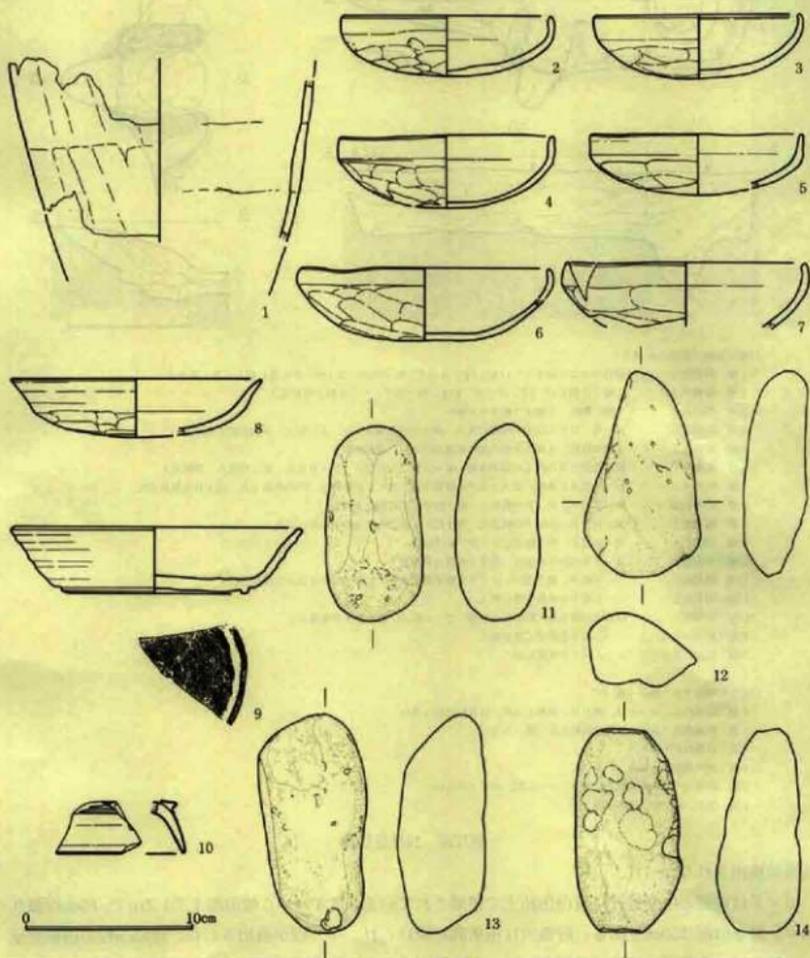
11号住居跡カマド土層註 (B-B')

- 1層 暗褐色土 R・B点左、焼土粒子少量点在
- 2層 暗褐色土 焼土B混入、ローム粒子点在
- 3層 濃い黄褐色土 ローム粒子を均質混入、焼土粒子点在
- 4層 濃い黄褐色土 焼土B点在

12号住居跡カマド土層註 (C-C')

- 1層 暗褐色土 砂質でさらさらしている、焼土粒子均質混入
- 2層 暗褐色土 粘土Bと焼土Bの混土
- 3層 暗褐色土 粘土Bと焼土Bの混土
- 4層 黒褐色土 カーボン粒子混入
- 5層 赤褐色土 焼土粒子混入
- 6層 暗褐色土 1層に類似、粘土の混入少なく、焼土粒子点在

第75図 11・12号住居跡

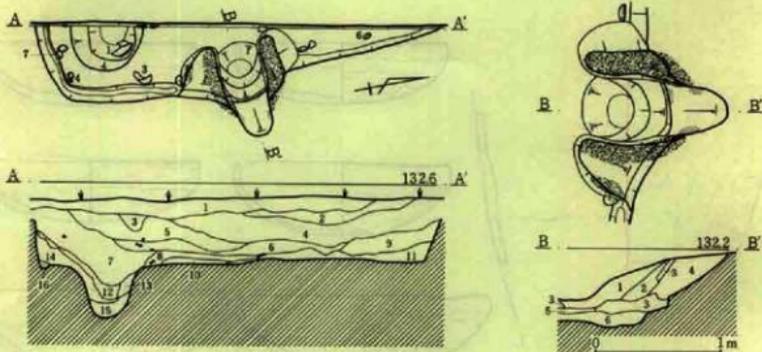


第76図 11・12号住居跡出土遺物

13号住居跡 (第77・78図)

B調査区の中央付近のD10グリッドで検出され、カマドが構築されている東辺から南東隅の部分が調査された。北方に11・12号住居跡、南方に14号住居跡が隣接し、標高132.15m前後に位置する。

形状は方形を呈すると考えられ、東辺(4.7)m、南辺(1.2)mを測る。壁高は50cm前後が残存する。床面は堅緻な平坦面である。周溝はカマド右袖脇から南壁下に続き、10~15cm幅で深さ4~7cmを測る。



13号住居跡土層注〔A-A'〕

- 1層 暗褐色土 砂質だがよく締まっている FP、カーボン粒子点在、焼土粒子を均質に混入 R・B点在
- 2層 暗褐色土 1層より明るい FP、カーボン粒子、焼土粒子、ローム粒子均質混入
- 3層 暗褐色土 1層に類似 1層より締まりが強い
- 4層 暗褐色土 R・B、ローム粒子を均質に混入 焼土の小目混入 カーボン粒子、灰白色粘土B点在
- 5層 暗褐色土 4層に類似 4層より混入物の粒度が小さい 遺物混入
- 6層 暗褐色土 灰白色粘土Bの混入が顕著な層 ローム粒子均質混入 R・B点在 焼土B混入 遺物混入
- 7層 暗褐色土 ローム粒子を多量に混入するやや砂質な層 R・B少量点在 灰白色粘土B、焼土Bを微量点在
- 8層 暗褐色土 ローム粒子、R・B均質混入 焼土粒子、灰白色粘土点在
- 9層 暗褐色土 R・B、ローム粒子均質混入 焼土粒子、灰白色粘土粒子均質に点在
- 10層 暗褐色土 R・B混入 焼土粒子、カーボン粒子点在
- 11層 黒褐色土 R・Bを点在する他は 粘質で均質な黒褐色土
- 12層 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒子、カーボン粒子微量混入 粘質で均質な点は11層に類似
- 13層 暗褐色土 ローム粒子を多量均質に混入
- 14層 暗褐色土 砂質で均質な混入物の少ない層 ローム粒子、焼土粒子を微量混入
- 15層 濃い黄褐色土 ローム粒子を非常に多量混入
- 16層 濃い黄褐色土 ローム粒子を多量に混入

13号住居跡カマド土層注〔B-B'〕

- 1層 暗褐色土 ロームB、焼土B、黒褐色土B、淡黄白色粘土含む
- 2層 黒褐色土 少量の淡黄白色粘土Bと焼土B含む
- 3層 淡黄白色粘土
- 4層 雲状淡赤褐色粘土
- 5層 暗褐色土 灰褐色粘土、焼土、ローム粒、小R・B含む
- 6層 焼土、炭化物、灰の互層

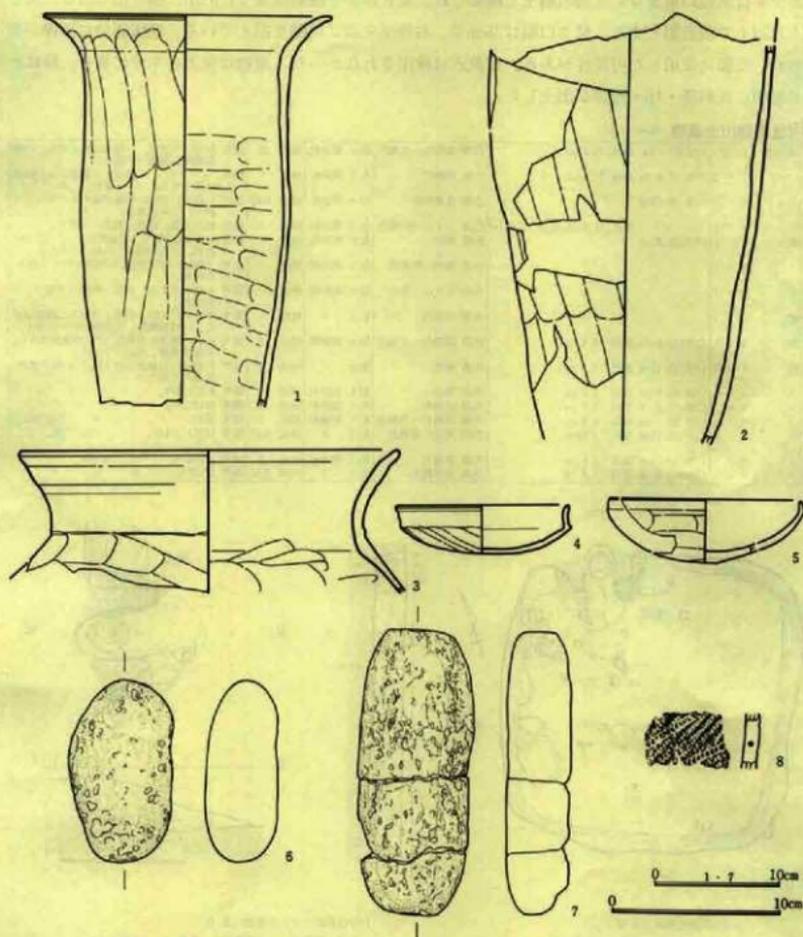
第77図 13号住居跡

柱穴は検出されなかった。

カマドは東辺の中央付近に灰白色粘土で構築されている。焚き口から煙道部まで1.2mで、65cm程張り出す。焚き口幅は50cmを測る。貯蔵穴は南東隅に設けられ、半分程が検出された。径85cm程の円形を呈し、深さ60cmを測る。遺物は長胴壺・坏・編石等がカマドや貯蔵穴周辺に点在して出土した。

13号住居跡出土遺物 (第78図)

1	長胴壺 (土製)	口径(22.40cm) 器高(31.2)cm	色調 褐色～淡黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 底平穴。体部中位でやや膨れる鈴形を呈し、口縁部微隆。外面縦位へ張り、	
2	#	#	器高(25.2)cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 胴部上半～下半部。外面縦位へ張り、
3	瓶	(#)	口径(22.0)cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部1/2残存。口縁部は外反して隆く。口縁部微隆。外面へ張り、
4	坏	(#)	口径 10.1cm 器高 2.9 cm	色調 淡褐色～褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 はば突形。体部と口縁部に接。口縁部へ内面微隆。外面へ張り、
5	#	(#)	口径(11.2)cm 器高 3.7 cm	色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 1/2残存。口縁部は短く内面微隆。
6	編石	長さ 10.8 cm 幅 6.2 cm 厚さ 4.5 cm 重さ 316 g	石質 多孔質礫石安山岩				
7	編石	長さ 22.7 cm 幅 9.2 cm 厚さ 5.1 cm 重さ 833 g	石質 輝石、内角石(ダイヤ)				
8	縄文時代前期	平たい管による平行沈積に連続する扇形を連続させて文様を彫刻する。					



第78図 13号住居跡出土遺物

14号住居跡 (第79~81図)

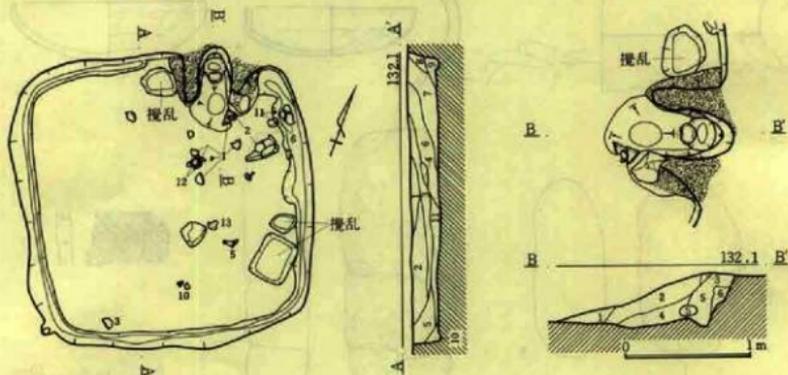
B調査区の中央やや南寄りのD 8 グリットにその主体を占めて検出された。北方に13号住居跡、南方に15号住居跡が隣接し、標高132.00m前後に位置する。

形状は一辺が3.5m前後の隅丸方形を呈し、主軸はN-27°-Wにとる。壁高は34~57cmが残存する。床面は堅緻ではほぼ平坦である。周溝は全周し、北東部分と東辺中央付近でやや歪む。歪み部分を除いて幅15cm、深さは浅く3cm前後である。柱穴は検出されなかった。

カマドは北辺の東寄りに灰褐色粘土で構築され、焚き口から煙道部まで1.05m、張り出しはほとんど無く北辺上で煙道部とする。焚き口幅は35cmで、右袖先端には礫を据えている。燃成部分に円礫が据えられ、支脚に使用した可能性がある。貯蔵穴は検出されなかった。遺物は東方の半分に多く、特にカマド前面に長胴甕・杯・壺等が出土した。

14号住居跡出土遺物 (第80・81図)

1	瓦割製 (土師)	口径(18.2)cm 器高(26.4)cm	色調 灰褐色～赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良	備考 胴部下平口。口縁部は短く外反。口縁部横溝。外面へつり。
2	#	(#) 口径 19.8 cm 器高(22.3)cm	色調 赤褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 # 直立する胴部から口縁部は強く外反。# 裏位。#
3	#	(#) 口径(22.6)cm	色調 灰黄褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 口縁部1/2残存。口縁部縦やかに外反して開く。口縁部横溝。
4	#	(#) 器高(11.6)cm 底径 4.0 cm	色調 くすんだ灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 胎土付着。底部～胴部へつり。
5	夜	(#) 口径(21.6)cm	色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 口縁部1/3残存。口縁部はくゞの字状に開く。口縁部横溝。外面へつり。
6	#	(#)	色調 褐色～黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 下腹側の球形脚部。外面斜位へのつり。内面横溝。
7	#	(#)	色調 くすんだ褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 太鼓を呈する。底部～胴部へつり。
8	壺	(#)	色調 灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 やや外反意味の胴部上平から口縁部は直立。口縁部横溝。外面斜位へのつり。
9	壺	(#) 口径(19.6)cm 器高 4.4 cm	色調 淡褐色～赤褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 趾状の底部から縦を有し。口縁部は外反。口縁部横溝。外面へつり。
10	杯	(#) 口径(11.1)cm 器高 3.3 cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/4残存。口縁部は短く直立。口縁部横溝。外面へつり。
11	#	(#) 口径 13.3 cm 器高 4.2 cm	色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 約1/2残存。# # #
12	#	(#) 口径 11.2 cm 器高 3.7 cm	色調 淡褐色	胎土 微砂粒	焼成 良	備考 はほぼ完全。# # #
13	#	(#) 口径 15.1 cm 器高 4.0 cm	色調 淡褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 変形。# # # 外面荒れ。
14	#	(#) 口径(13.1)cm 器高 (3.7)cm	色調 褐色～赤褐色	胎土 #	焼成 良好	備考 底部1/2残存。# 外反意味。
15	#	(#) 口径(12.7)cm 器高 3.9 cm	色調 淡褐色	胎土 微砂粒	焼成 良	備考 1/4残存。# 内底。# #
16	#	(#) 口径(13.4)cm 器高 3.8 cm	色調 淡赤褐色	胎土 #	焼成 良好	備考 1/2残存。# # #



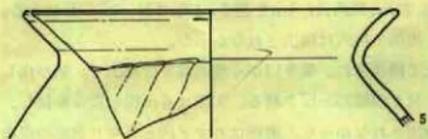
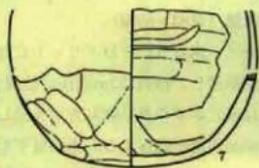
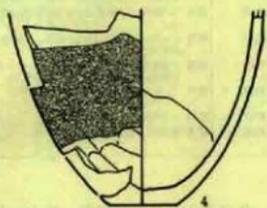
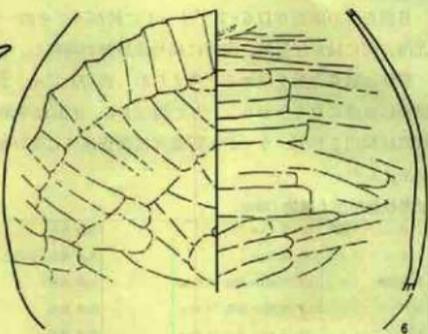
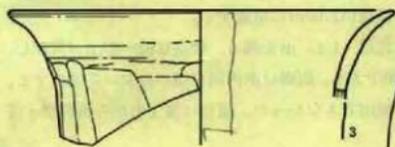
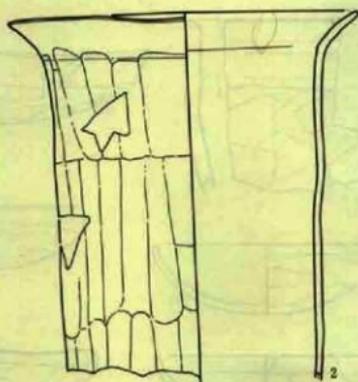
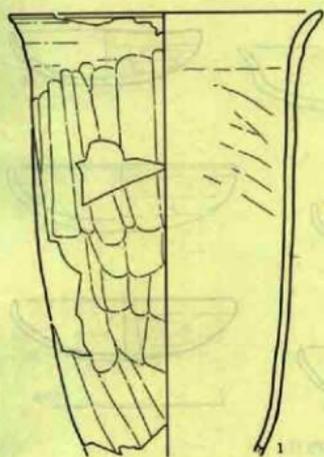
14号住居跡土層註 (A-A')

- 1層 褐色土 サラットしている
- 2層 褐色土 ローム粒混
- 3層 暗褐色土
- 4層 黒褐色土 ローム粒 ローム粒B
- 5層 黒褐色土 少量のFP、ローム粒、小ローム粒混
- 6層 褐色土 ローム粒 焼土粒
- 7層 黒褐色土 焼土B、少量のFP
- 8層 におい黄褐色土
- 9層 におい黄褐色土
- 10層 8層に似る
- 11層 暗褐色土 ローム粒 小ローム粒を多く含む

14号住居跡のカマド土層註 (B-B')

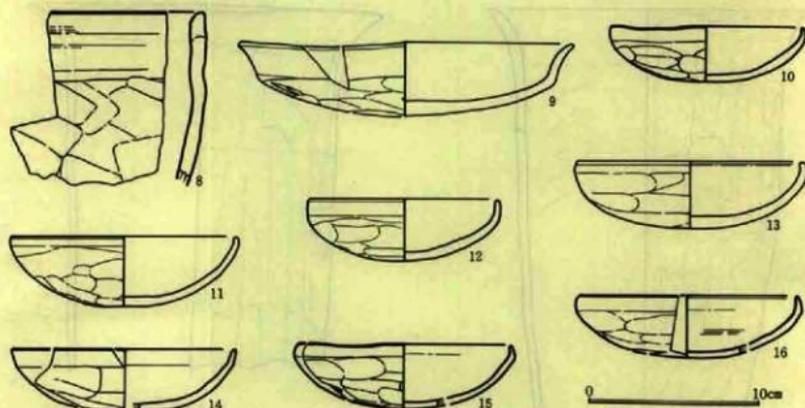
- 1層 褐色土 多量のローム粒、ロームBを含む
- 2層 灰暗褐色土 少量のローム粒を含む
- 3層 灰暗褐色土B
- 4層 灰暗褐色土粒B、焼土粒B
- 5層 褐色土でソフト ローム粒、焼土粒含む
- 6層 褐色土 焼土B、灰暗褐色土粒Bを含む

第79図 14号住居跡



0 10cm

第80圖 14号住居跡出土遺物 (1)



第81図 14号住居跡出土遺物(2)

15号住居跡(第82図)

B調査区の南寄りD6・7グリットに跨ってその一部が検出された。主体は東方の調査区外に及美、北西方向に14号住居跡、南方に16号住居跡が隣接し、標高132.00mに位置する。

形状は隅丸方形を呈すると考えられ、西辺5.15m、北辺(1.6)mを測る。壁高は62~69cmが残存し、壁面は垂直に立ち上がり、上方で開口する。床面は平坦である。周溝は南西隅を僅かに欠いて連続する。柱穴は検出されず、カマド・貯蔵穴は調査区外に及び検出できなかった。遺物は覆土中から長胴甕・等が出土した。

15号住居跡出土遺物(第82図)

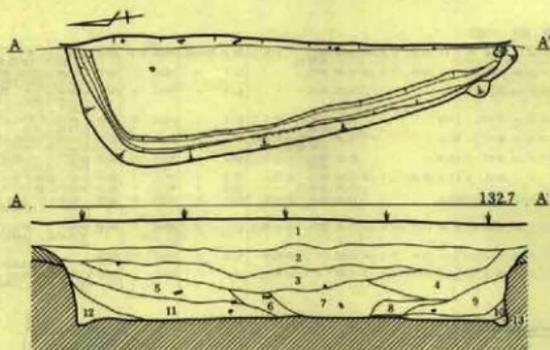
1	蓋(土師)	口径(22.0)cm	色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 頸部より直立し、口縁部より水平気味に外反。口縁部横断、外面へう張り。
2	#	口径(14.5)cm	色調 褐色~赤褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 1/3残存。口縁部は「く」の字状に強く直線。
3	小型甕(#)	口径(12.6)cm 器高(7.6)cm	色調 灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 1/4残存。頸部に折れを有し、口縁部は直線的に外反。
4	坏(#)	口径(12.8)cm 器高(3.0)cm	色調 褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 1/4残存。体部と口縁部の境に段を有す。口縁部~内面横断、底部へう張り。
5	#	口径(13.8)cm 器高(4.6)cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 # 口縁部は短く内面横断。
6	#	口径(13.0)cm 器高(3.1)cm	色調 赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/5残存。 # # #
7	甕(国産)		色調 暗青灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 頸部片。底状文を施す。
8	礫石	長さ 12.8 cm 幅 6.6 cm 厚さ 4.1 cm 重さ 514 g		材質 輝石安山岩		

16号住居跡(第83~89図)

B調査区の南寄りC・Dグリットに跨って全容が検出された。北東方向に15号住居跡、南方に17号住居跡が隣接し、標高132m前後に位置する。

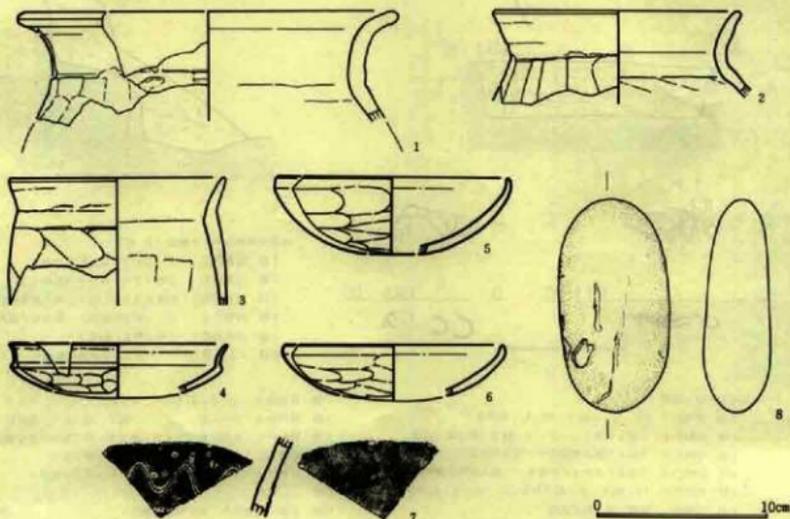
形状は南北がやや長い隅丸方形を呈し、南北長3.25m、東西長2.8mを測る。主軸はN-79°-Eにとる。壁高は60cm前後が残存する。床面は平坦を呈し、周溝・柱穴は検出されなかった。

カマドは東辺の中央やや南寄りに暗褐色粘質土で構築され、焚き口から煙道部まで85cmで、張り出しは30cmを測る。袖部先端に襷を据え、袖長45cm、焚き口幅35cm程を測る。火床は6cm程の窪みを呈し、25cmの段を設けて煙道部に移行する。貯蔵穴は検出されなかった。遺物はカマド内とカマド前面の南東部分に床面より浮いた状態で長胴甕・甕・坏・須恵器丸底壺等が大量に出土した。



15号住居跡土層註 (A-A')

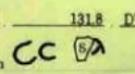
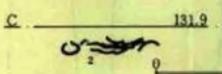
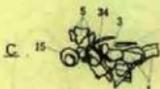
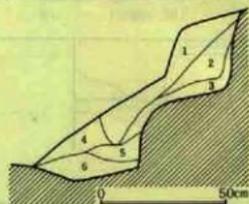
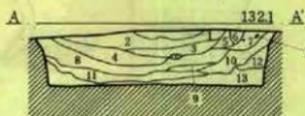
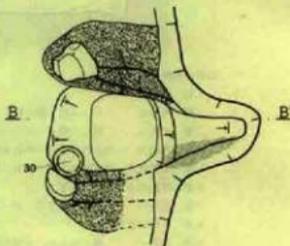
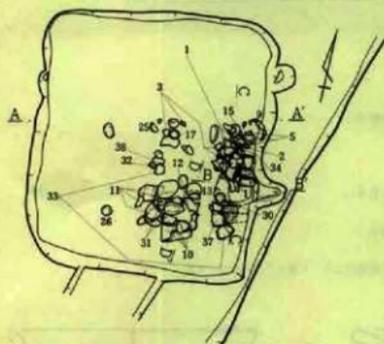
- 1層 耕作土
- 2層 褐色土 小ローム粒 焼土粒
- 3層 褐色土 1層より暗く 小ロームB、ローム粒多い
- 4層 褐色土 焼土B、小ロームB多い
- 5層 暗褐色土 斑点状に小ロームB、黒褐色土B
- 6層 黒褐色土B、ロームB
- 7層 褐色土 2層より焼土B、ロームB、ローム粒多い
- 8層 5層に似る
- 9層 褐色土 3層に似るが、少量の黒褐色土B含む
- 10層 黒褐色土
- 11層 暗褐色土 斑点状に小ロームB、ローム粒、小黒褐色土B 4層より小黒褐色土少量
- 12層 暗褐色土 9層に似る
- 13層 暗褐色土 ロームB低



第82図 15号住居跡・出土遺物

16号住居跡出土遺物 (第85-89図)

図	品名	土質	口径	高さ	底径	色調	形状	土質	構成	良好	備考
1	長頸罎	(赤)	口径 30.4 cm	高さ 39.3 cm	底径 3.6 cm	色調 褐色～くすんだ赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成	良好	備考	ほぼ正常。腹部で破く痕。口縁部は外反して鋭く、口縁部縁部、外面部へ少張り。口縁部1/4欠損。腹部は下位に透れて縮みとなり。胎土で包れ、口縁部は再反。
2	"	(赤)	口径 22.3 cm	高さ 37.4 cm	底径 2.8 cm	色調 褐色	胎土 "	焼成	"	備考	胎土で包れ、口縁部は再反。
3	"	(赤)	口径 21.0 cm	高さ 19.9 cm		色調 褐色	胎土 "	焼成	"	備考	胎土で包れ、口縁部は再反。口縁部は大きく外反。口縁部縁部、外面部へ少張り。
4	"	(赤)	口径 16.8 cm	高さ 11.2 cm		色調 褐色～くすんだ赤褐色	胎土 "	焼成	良好	備考	口縁部1/2欠損。括弧のない部分から口縁部は鋭く外反。
5	"	(赤)	口径 22.0 cm	高さ 11.5 cm		色調 赤褐色～くすんだ赤褐色	胎土 "	焼成	良好	備考	口縁部1/3欠損。括弧のない部分から口縁部は大きく外反。
6	"	(赤)	口径 18.5 cm	高さ 10.9 cm		色調 褐色～くすんだ赤褐色	胎土 "	焼成	"	備考	胎土で包れ、口縁部縁部、外面部へ少張り。胎土は再反。
7	"	(赤)	口径 18.8 cm	高さ 8.8 cm	底径 3.1 cm	色調 褐色～赤褐色	胎土 "	焼成	"	備考	胎土で包れ、口縁部縁部へ少張り。
8	"	(赤)	口径 24.8 cm	高さ 26.7 cm	底径 9.3 cm	色調 褐色	胎土 "	焼成	"	備考	胎土で包れ、口縁部縁部へ少張り。
9	"	(赤)	口径 18.8 cm	高さ 31.0 cm		色調 褐色～黒褐色	胎土 "	焼成	"	備考	口縁部1/2欠損。胎土で包れ、口縁部縁部へ少張り。口縁部縁部、外面部へ少張り。
10	瓶	(赤)	口径 25.4 cm	高さ 25.8 cm	口径 10.6 cm	色調 褐色～赤褐色	胎土 "	焼成	"	備考	胎土で包れ、口縁部縁部へ少張り。口縁部縁部、外面部へ少張り。
11	"	(赤)	口径 24.8 cm	高さ 26.7 cm	口径 9.3 cm	色調 "	胎土 "	焼成	"	備考	胎土で包れ、口縁部縁部へ少張り。口縁部縁部、外面部へ少張り。
12	脚台付壺	(赤)	口径 12.6 cm	高さ 18.3 cm	底径 13.7 cm	色調 "	胎土 "	焼成	"	備考	口縁部1/2欠損。胎土で包れ、口縁部縁部へ少張り。口縁部縁部、外面部へ少張り。



16号住居跡のマド土層註 (B-B')

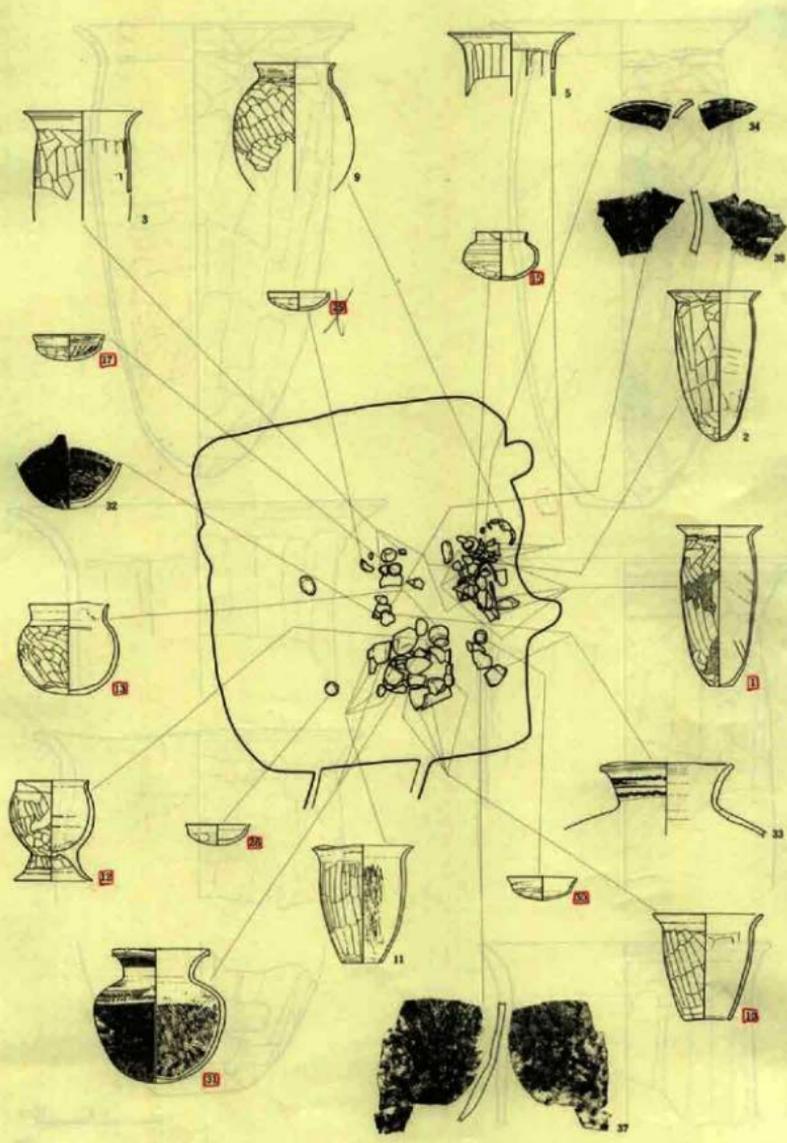
- 1層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子点
- 2層 暗褐色土 1層よりローム粒子の量が少ない
- 3層 暗赤褐色土 粒度はさらに小さく、焼土粒子が主
- 4層 暗褐色土 ローム粒子の質点入、焼土粒子混入
- 5層 暗赤褐色土 3層に類似、粘質有り
- 6層 によい黄褐色土 ローム小目多量均質混入

16号住居跡土層註 (A-A')

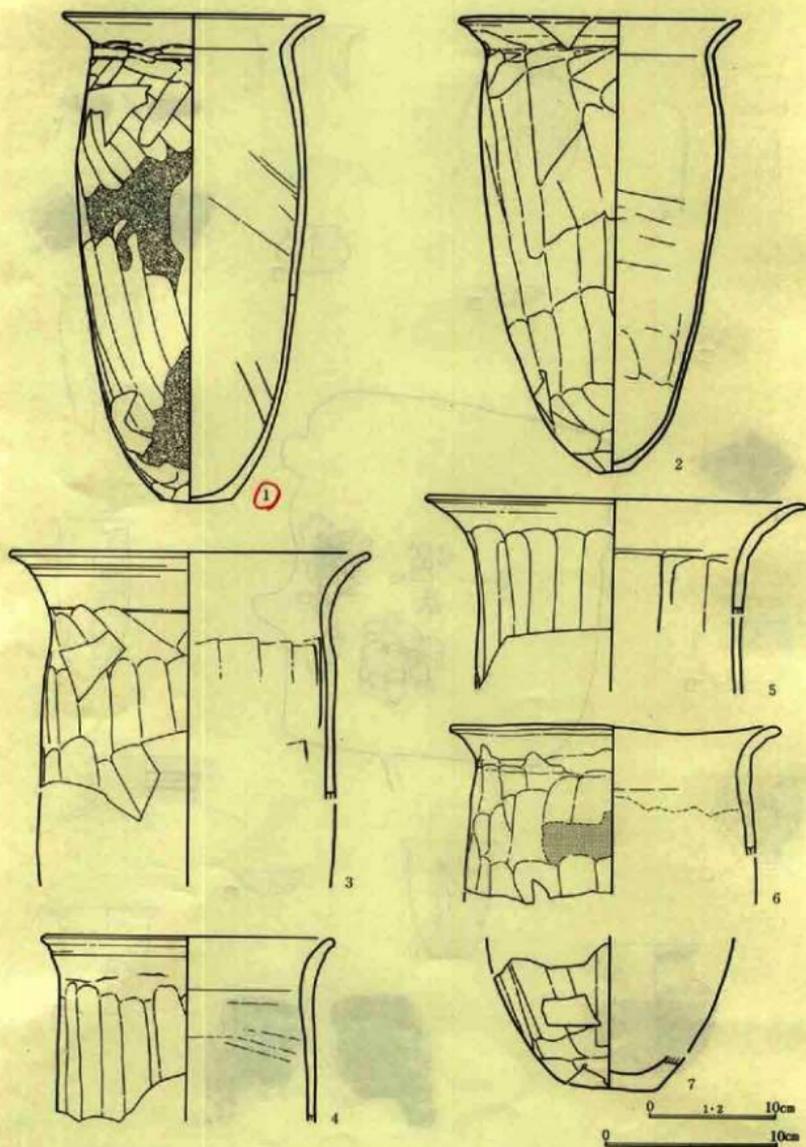
- 1層 黒褐色土 FP、ローム粒子、焼土粒子均質混入
- 2層 暗褐色土 1層より明るい カーボン粒子、焼土粒子点
- 3層 暗褐色土 2層より混入物少ない、焼土点
- 4層 暗褐色土 3層よりややFPの量多い 混入物等2層に同じ
- 5層 暗褐色土 FP、焼土、粘土粒子均質点、カーボン粒子少量点
- 6層 暗褐色土 砂質、焼土粒子点

- 7層 暗褐色土 カーボン粒子点、焼土粒子混入
- 8層 暗褐色土 ローム粒子、カーボン粒子、焼土粒子少量点
- 9層 暗褐色土 8層に類似するが、焼土B・粒子を多く混入
- 10層 暗褐色土 ローム粒子均質混入カーボン粒子点
- 11層 暗褐色土 やや砂質で均質な層、ローム粒子少量混入
- 12層 注記漏れ
- 13層 によい黄褐色土 R・B粒子混入

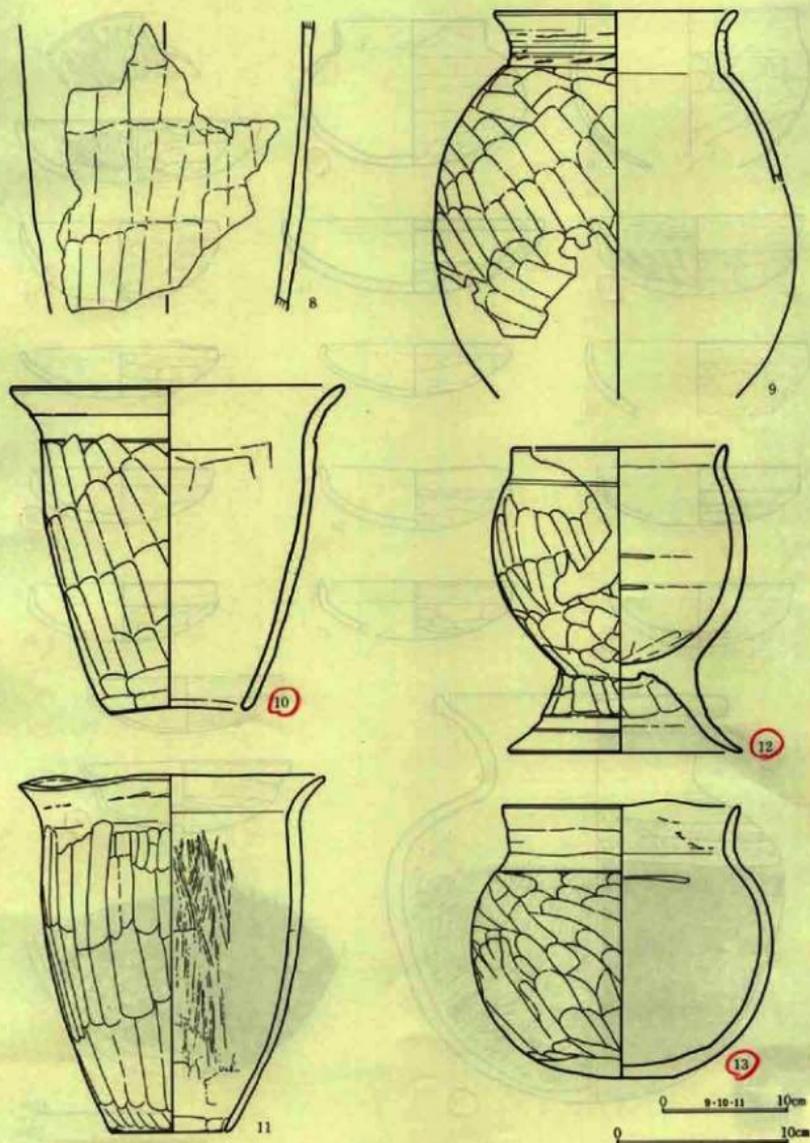
第83図 16号住居跡



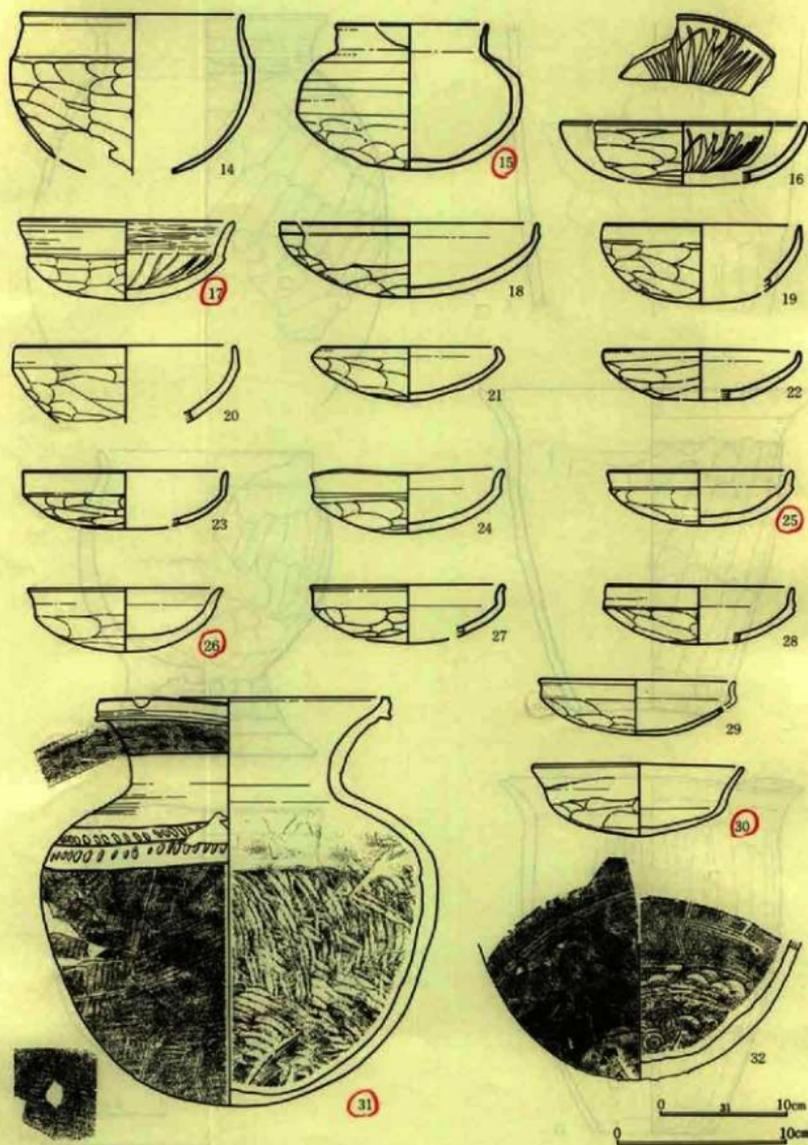
第84图 16号住居跡遺物出土状況



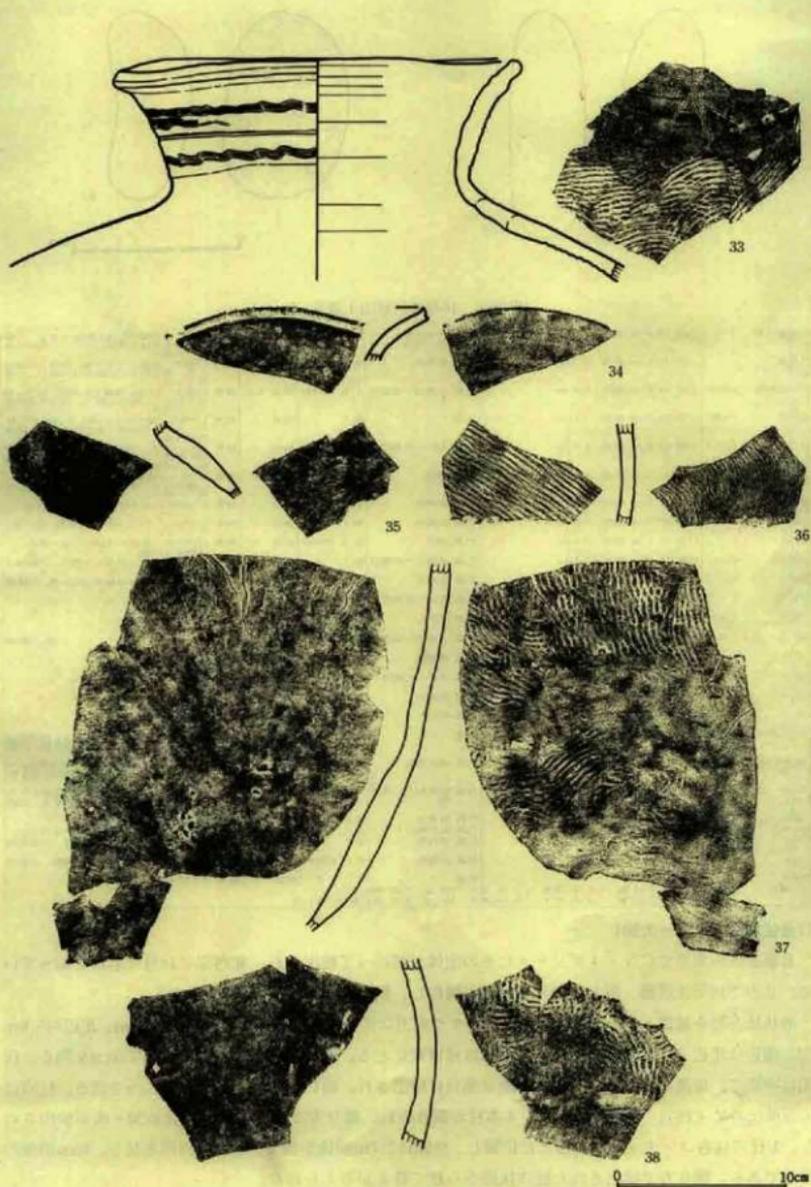
第85图 16号住居跡出土遺物(1)



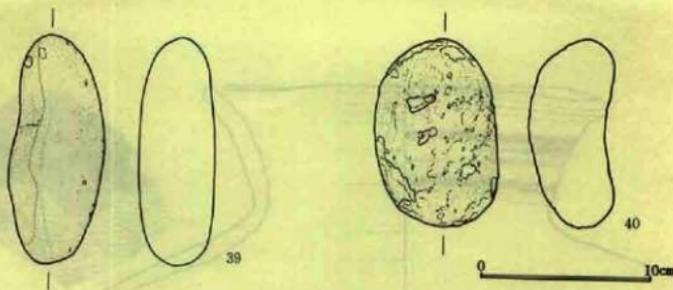
第86图 16号住居跡出土遺物(2)



第87图 16号住居跡出土遺物(3)



第88圖 16号住居跡出土遺物 (4)



第89図 16号住居跡出土遺物 (5)

13	丸底壺 (#)	口径 13.9 cm 器高 16.5 cm	色調 淡黄白色〜くす んだ褐色	胎土 #	構成 #	備考 空形、やや扁平な球形胴部を呈し、口縁 部は直線的で内反。 # 胴部〜基 部へ少張り。
14	鉢 (#)	口径(12.9)cm 器高(9.7)cm	色調 淡褐色	胎土 凝砂粒	構成 #	備考 口縁部一帯の一部を削。体部と口縁部 の境は明確を有す。口縁部は内反し、口唇 部を外反。
15	短頸壺 (腹割)	口径(8.9)cm 器高 8.0 cm	色調 灰褐色〜暗灰褐 色	胎土 凝砂粒	構成 良好	備考 口縁部1/2欠損。口縁部は直線的、胴部は口唇 部を有す。口縁部は直立。胴部下半半の 部へ少張り。
16	杯 (土割)	口径(14.7)cm 器高(3.7)cm	色調	胎土	構成	備考 1/4残存。縁やかに内湾して口縁部に懸 外縁口唇部までへ少張り。内縁 部は直文。
17	# (#)	口径 12.6 cm 器高 4.8 cm	色調 褐色〜黒褐色	胎土 凝砂粒	構成 #	備考 空形、体部と口縁部の境に明確を有す。口 唇部は直線的で内反。 # 胴部〜内縁部 部へ少張り。 # 体部と口縁部の境に直立。
18	# (#)	口径(15.2)cm 器高 4.5 cm	色調 褐色	胎土 #	構成 #	備考 1/2残存。体部と口縁部の境に明確を有し、 口縁部は直立。 # 胴部〜内縁部。外 部へ少張り。
19	# (#)	口径(11.5)cm 器高(11.5)cm	色調 赤褐色	胎土 凝砂粒	構成 #	備考 1/3残存。丸底を呈し、口縁部は直立。
20	# (#)	口径(12.7)cm 器高(14.6)cm	色調 灰褐色	胎土 凝砂粒	構成 #	備考 # 体部と口縁部の境に直立。
21	# (#)	口径 10.7 cm 器高 3.3 cm	色調 褐色	胎土 凝砂粒	構成 #	備考 はば空形。体部と口縁部の境に直立。
22	# (#)	口径(11.5)cm 器高(3.0)cm	色調 淡褐色〜赤褐色	胎土 #	構成 #	備考 1/2残存。体部は外反して張り、口縁部は 直立。
23	# (#)	口径(12.0)cm 器高(3.3)cm	色調 淡褐色	胎土 凝砂粒	構成 #	備考 1/2残存。体部と口縁部の境に直立。口縁部 は直立。
24	# (#)	口径 11.5 cm 器高 3.6 cm	色調 褐色〜赤褐色	胎土 #	構成 #	備考 1/2残存。 直立3割で外反。
25	# (#)	口径 10.8 cm 器高 3.3 cm	色調 褐色	胎土 凝砂粒	構成 #	備考 空形。
26	# (#)	口径 11.4 cm 器高 3.8 cm	色調 赤褐色〜褐色	胎土 #	構成 #	備考 # 以外に # 縁、口縁部 は直立。
27	# (#)	口径(11.6)cm 器高(3.1)cm	色調 淡褐色	胎土 #	構成 #	備考 1/2残存。 直立。
28	# (#)	口径(10.9)cm 器高(3.5)cm	色調 くすんだ褐色	胎土 #	構成 #	備考 1/4残存。
29	# (#)	口径(11.4)cm 器高 3.3 cm	色調 淡褐色	胎土 #	構成 #	備考 口縁部1/3欠損。
30	# (#)	口径 12.3 cm 器高 4.4 cm	色調 灰白色	胎土 #	構成 良好	備考 空形。 外反して開く。
31	丸底壺 (腹割)	口径(16.3)cm 器高 24.6 cm	色調	胎土 #	構成 良好	備考 口縁部1/2欠損。胴部に直文状。胴部直上 部は直目。下方外縁部は直目。底面 穿孔。
32	台付丸底 (#)	口径 23.2 cm	色調 暗灰褐色	胎土 凝砂粒	構成 #	備考 台座高部の割がけ。体部下半1/2残存。外 反半の直目。内縁部は直上直目と直 目。
33	甕 (#)	口径 23.2 cm	色調 暗灰褐色〜黒褐 色	胎土 凝砂粒	構成 #	備考 口縁部一帯を削り、口縁部は直線部から外 反して開く。胴部は二線の直文状。内縁 部直文。
34	# (#)		色調 黒褐色	胎土 凝砂粒	構成 #	備考 口縁部直片。内外面直文。
35	# (#)		色調 暗灰褐色	胎土 #	構成 #	備考 直片。外面自然物付着。内面直目。
36	# (#)		色調 灰褐色	胎土 #	構成 #	備考 直片で、外面に平行引き目。内面直 文。
37	# (#)		色調 黒褐色	胎土 凝砂粒	構成 良好	備考 胴部下半半。外面へ少張り直文。内面直 目。
38	# (#)		色調	胎土 #	構成 #	備考 # 7と同一形状。
39	編石	長さ 13.7 cm 幅 5.7 cm 厚さ 4.6 cm	重さ 469 g	材質 輝石(山打石)		
40	#	長さ 11.3 cm 幅 7.4 cm 厚さ 5.0 cm	重さ 467 g	材質 石質 多孔質輝石(山打石)		

17号住居跡 (第90〜92図)

B調査区の南方でC3・4グリットにその主体が跨って検出され、北西部で18号住居跡を切っている。北方で16号住居跡、南方に19号住居跡が隣接し、標高131.40〜.80mに位置する。

形状は方形を基調とし、南辺の中央付近がやや南方に突出する。規模は東西辺が5.35m、北辺が5.6mで、南辺は北辺より85cm程張り出す。主軸はほぼ東にとる。壁高は残存の良い北西隅で50cmを測る。床面は平坦で、周溝は北辺の中央部分と南東部分に検出され、幅15cm前後、深さ5〜8cmを測る。柱穴は床面検出時に主柱穴であるP₁〜P₄の4本柱が調査され、掘り方で18号住居跡を含め20ヶ所が検出された。主柱穴は各コーナーの対角線上に位置し、柱間は2.7m前後を測る。形状は円形を呈し、40cm前後の深さである。掘り方で検出された柱穴状態から建て替えが考えられる。

カマドは東辺の南寄りに灰色粘土で構築されている。調査区内で焚き口部から燃成部にかけて検出さ

れ、焚き口幅は37cmを測る。貯蔵穴はカマド右袖脇に半分程検出され、上部が楕円形を呈し、内部に方形気味の掘り込みを設ける。上部からの深さは50cmである。遺物はカマドの右袖脇と中央部分、北西隅に少量点在する。特出すべきは石製紡錘車が2点出土している。

17・18号住居跡出土遺物 (第92図)

1	土	(上部)	口径(12.3)cm 高さ(7.4)cm	色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 口縁部～体部上縁存。球形の胴部を呈すると考えられ、口縁部は外反して開く。
2	土	(#)	直径 4.2 cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 長割鑿の底部分。
3	土	(#)	口径(12.4)cm 高さ 4.8 cm	色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 体部と口縁部の境に接。口縁部を短く内傾。口縁部～内面噴出。底部へ下流。
4	#	(#)	口径 10.3 cm 高さ 3.4 cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 空形。緩やかに内湾して開く体部から口縁部を短く内傾。
5	#	(#)	口径(10.4)cm 高さ 3.4 cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 体部と口縁部の境に接。口縁部は外反。噴出。
6	土	(#)	口径(17.9)cm 高さ(15.1)cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 大部が平で、緩やかに内湾して開く体部から口縁部を短く内傾。
7	土	(#)	口径(11.8)cm 高さ(4.2)cm	色調 褐色～赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 体部と口縁部の境に接。口縁部の中位に横を有し、直立する。
8	紡錘車	(石製)	上径 2.8 cm 下径 4.6 cm 高さ 1.6 cm 孔径 0.7 cm 重さ 52.5 g	石質 磨石			
9	#	(#)	上径 2.1 cm 下径 3.8 cm 高さ 1.9 cm 孔径 0.7 cm 重さ 37.8 g	石質 磨石			

18号住居跡 (第90～92図)

B調査区の南方でB・C 4グリットに跨がって検出され、その一部は道路敷に及び、東部分が17号住居跡によって切られている。

大半を17号住居跡によって破壊されている為に形状、規模は不明瞭である。形状は南西隅部と北辺の残存する部分から推定すると方形と考えられ、南北長2.7m前後を測る。壁高は50～55cmが残存し、床面はほぼ平坦である。調査区の西壁で64×52cmの楕円形、深さ36cmの土坑状の掘り込み(P₁₈)が伴う。周溝・柱穴・カマド・貯蔵穴は検出されなかった。遺物は土師器の小片が少量出土した。

19号住居跡 (第93・94図)

B調査区の最南方に検出され、その主体はC 2グリットに占める。南東部分に近現代に使用された道路址、北西部で20号住居跡と重複する。重複関係は本住居跡が20号住居跡より新しい。北方に17・18号住居跡が隣接し、標高131.40～.50mに位置する。

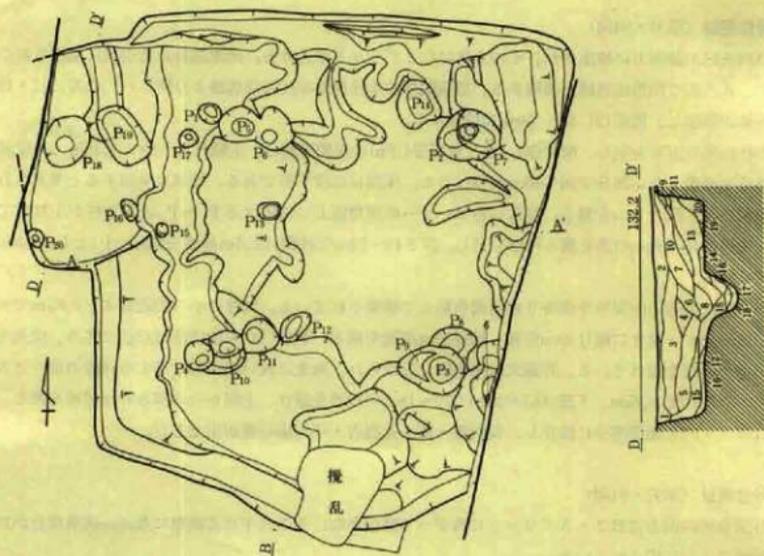
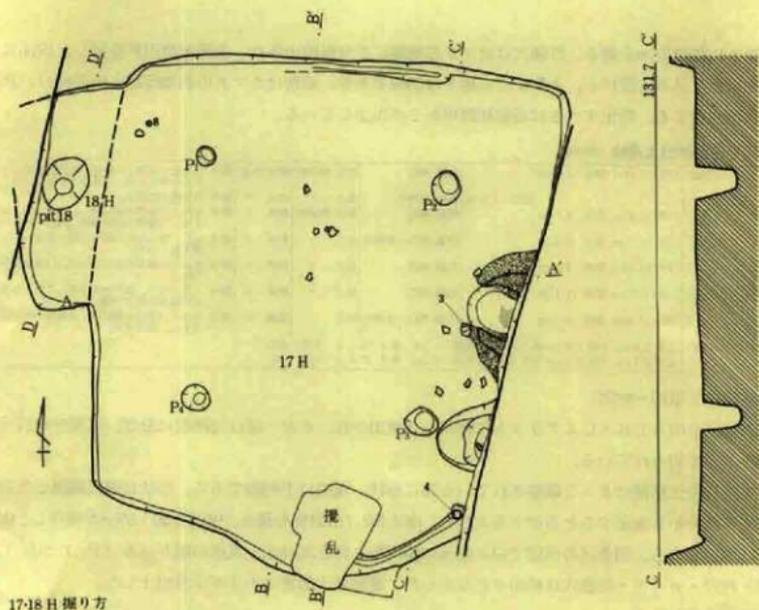
形状は隅丸方形を呈し、南北辺5.1m、東西辺4.9mの規模を測る。主軸はN-89°-Eにとる。壁高は道路址と重複しない部分で30～50cmが残存する。床面はほぼ平坦である。周溝は全周すると考えられ、平均幅20cm、深さ5cmを測る。柱穴は各コーナーの対角線上に位置するP₁～P₄の4本柱が主柱穴である。規模は40～50cmの径を測る円形を呈し、深さ45～72cmで柱間は2.6m前後を測る。P₃とP₄は後世の所産である。

カマドは東辺の中央やや南寄りに灰褐色粘土で構築されている。焚き口から煙道部まで1.85mで60cmほど張り出す。焚き口幅は50cm前後、袖長80cm前後を測る。焚き口から焼成部は皿状に窪み、煙道部で20cm程の段差を設けている。貯蔵穴は南東隅に設けられ、南北に長い楕円形を呈する有段の掘り込みである。上部は95×55cm、下部は65×35cmで10～15cmの段差を設け、上部からの深さ80cm前後を測る。遺物はカマド内と北西部分に散在し、長胴甕・甕・丸底壺・坏・編石等が出土した。

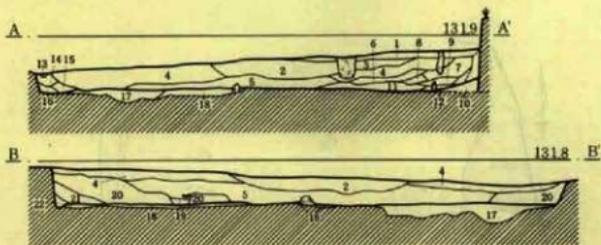
20号住居跡 (第93・94図)

B調査区の南方でB 2・3グリットに跨がって検出され、その大半は道路敷に及ぶ。南東部分が19号住居跡によって切られている。

形状は方形を呈すると考えられ、検出された東辺(2.3)m、南辺(1.1)mを測る。壁高は重複の無い



第90図 17・18号住居跡(1)



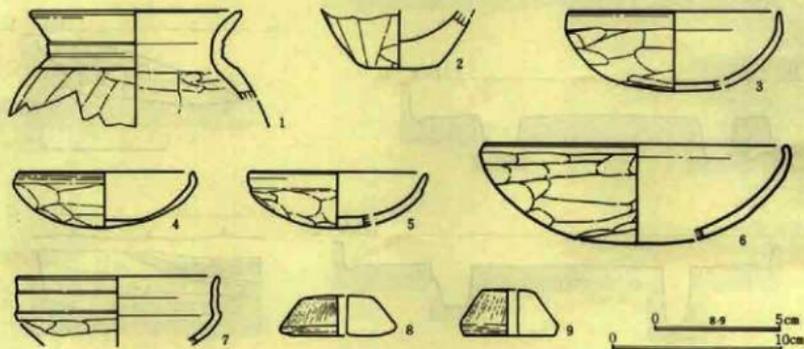
17号住居跡土層註 (A-A'・B-B')

- 1層 暗褐色土 FP、焼土粒子点在
- 2層 暗褐色土 ローム粒子、R・B少量混入 カーボン粒子、焼土粒子点在
- 3層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 FP、焼土粒子点在
- 4層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 FP、焼土粒子、R・B点在
- 5層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 FP点在
- 6層 暗褐色土 FP ローム粒子均質混入 焼土粒子点在
- 7層 暗褐色土 6層に類似 6層より混入物の粒度が大きい
- 8層 暗褐色土 暗灰色粘土B混入
- 9層 黒褐色土 ローム粒子点在 焼土粒子、カーボン粒子点在
- 10層 暗褐色土 ローム粒子混入
- 11層 暗褐色土 ローム粒子混入 灰白色礫石 焼土粒子点在
- 12層 暗褐色土 灰色粘土粒子混入 焼土粒子点在
- 13層 にぶい黄褐色土 ローム層砂層土B
- 14層 暗褐色土 ローム粒子不均質に混入 焼土粒子点在
- 15層 暗褐色土 ローム粒子、B均質に混入
- 16層 暗褐色土 ローム粒子混入 R・B点在
- 17層 暗褐色土 ローム粒子、R・B不均質に混入
- 18層 にぶい黄褐色土 ローム粒子、R・B多量不均質に混入
- 19層 暗褐色土 ローム粒子やや不均質に混入
- 20層 暗褐色土 黒色のBを特徴的に点在させる ローム粒子、FP均質に混入 R・B、焼土粒子点在
- 21層 暗褐色土 20層に比してR・Bの点在は認められず、黒色土のBの混入も少ない
- 22層 暗褐色土 ローム粒子、Bやや不均質に混入

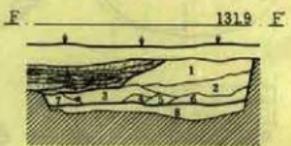
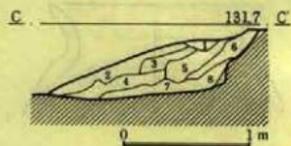
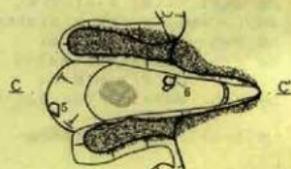
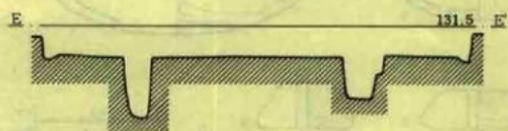
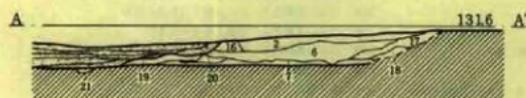
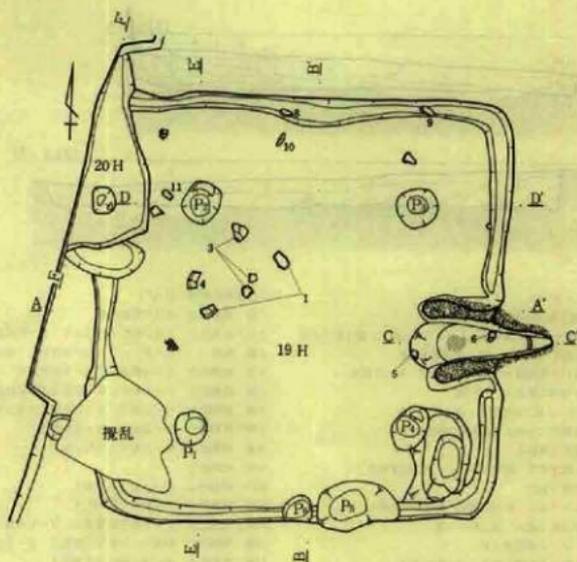
18号住居跡土層註 (D-D')

- 1層 黒褐色土 砂質で層状な層
- 2層 黒褐色土 1層に類似 1層より R・Bの点在が目立つ
- 3層 褐色土 R・B、ローム粒子多量混入 焼土粒子点在
- 4層 暗褐色土 ローム粒子、R・B均質混入
- 5層 暗褐色土 ローム粒子、R・B混入4層に比してやや不均質
- 6層 暗褐色土 ローム粒子、R・Bを混入する やや不均質
- 7層 暗褐色土 ローム粒子、R・Bを混入
- 8層 暗褐色土 ローム粒子を均質に混入
- 9層 暗褐色土
- 10層 暗褐色土 ローム粒子均質混入
- 11層 灰褐色土 やや粘質な灰褐色土
- 12層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 R・B微量点在
- 13層 暗褐色土 砂質ローム粒子均質混入 R・Bカーボン粒子点在
- 14層 黒褐色土 カーボン粒子を多量混入
- 15層 暗褐色土 微細で均質な層、やや粘性有り
- 16層 にぶい黄褐色土 ローム粒子を多量に混入
- 17層 にぶい黄褐色土 16層よりやや明るい
- 18層 にぶい黄褐色土 R・B混入 17層よりむしろ明るい
- 19層 暗褐色土 焼土層 粒度は微細
- 20層 暗褐色土 ローム粒子均質混入

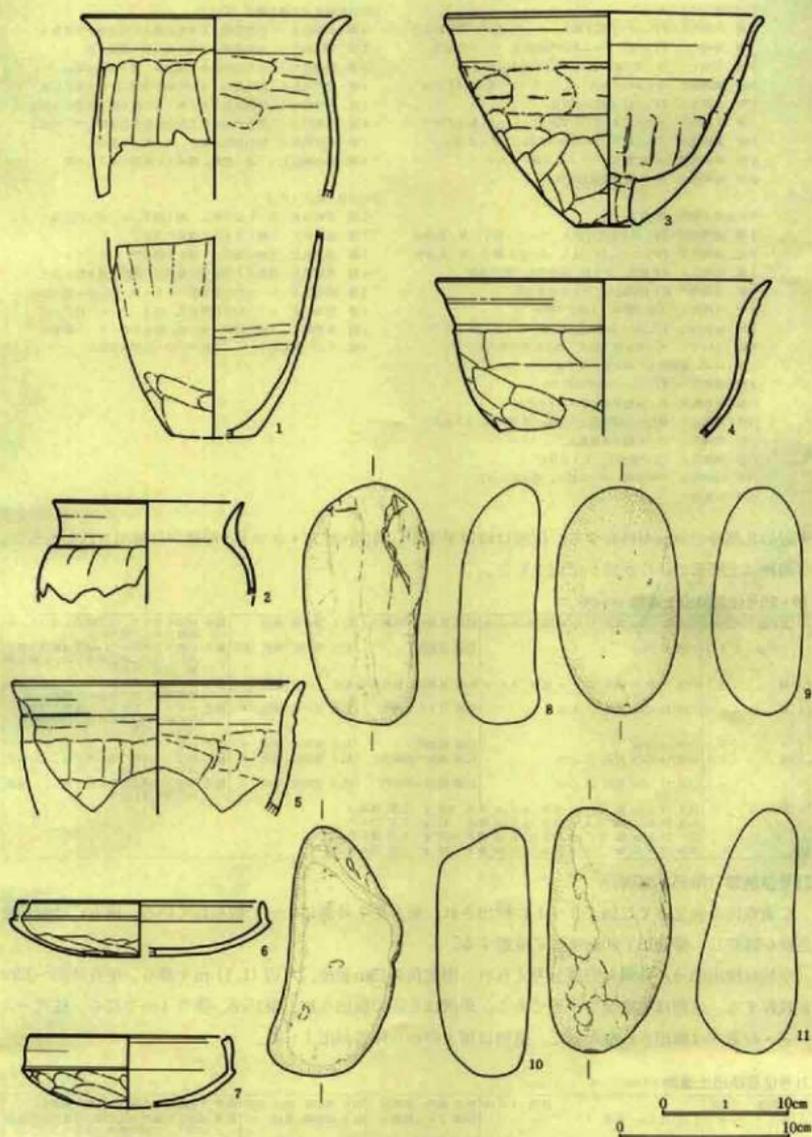
第91図 17・18号住居跡 (2)



第92図 17・18号住居跡出土遺物



第93图 19·20号住居跡



第94图 19·20号住居跡出土遺物

19号住居跡土層註 (A-A')

- 2層 暗褐色土 FP、ローム粒子混入、カーボン粒子、R・B点在
 4層 暗褐色土 FP少量、ローム粒子均質混入、ロームB点在
 7層 黒色土 カーボン粒子混入、焼土粒子少量点在
 16層 暗褐色土 ローム粒子混入、焼土、カーボン粒子、FP点在
 17層 黒褐色土 FP、ローム粒子均質混入
 18層 暗褐色土 ローム粒子、FP均質混入、カーボン粒子点在
 19層 黒褐色土 ローム粒子、FP中量均質混入、R・B点在
 20層 黒褐色土 18層に類似、ロームBは認められず
 21層 暗褐色土 ローム粒子多量均質混入

19号住居跡土層註 (B-B')

- 1層 暗褐色土 FP、ローム粒子混入、カーボン粒子、R・B点在
 2層 暗褐色土 FP、ローム粒子混入、カーボン粒子、R・B点在
 3層 黒褐色土 FP混入、R・B、灰白色粘土粒子点在
 4層 黒褐色土 FP均質混入、ローム粒子点在
 5層 黒褐色土 4層に類似、4層より暗い
 6層 暗褐色土 FP、ローム粒子均質混入、R・B点在
 7層 黒色土 カーボン粒子混入、焼土粒子少量点在
 8層 ほぼ黄褐色土 R・B、粒子混入
 9層 暗褐色土 FP、ローム粒子均質混入
 10層 暗褐色土 ローム粒子均質混入、FP点在
 11層 黒褐色土 黒色土と暗褐色土との混土黒色土中にFP混入
 12層 暗褐色土 ローム粒子多量混入
 13層 黒褐色土 FP少量混入、R・B点在
 14層 暗褐色土 やや砂質、ローム粒子、焼土粒子点在
 15層 黄褐色土 ヘッドブロック

19号住居跡カマド跡土層註 (C-C')

- 1層 灰褐色土 灰白色粘土多量に混入、焼土粒子少量混入
 2層 明灰色土 灰白色粘土の層、焼土粒子微量点在
 3層 暗褐色土 灰白色粘土を中量混入、覆土中最も暗い
 4層 暗灰色褐色土 灰色粘土、灰白色粘土を混入、焼土粒子点在
 5層 灰褐色土 灰白色粘土Bと焼土Bの混土層、非常に不均質
 6層 灰褐色土 灰白色粘土Bと灰白色粘土焼土焼土粒子の混土
 7層 暗灰色褐色土 灰白色粘土粒子、焼土粒子の混土
 8層 暗赤褐色土 7層に類似、構成土の粒度が小さく均質

20号住居跡土層註 (F-F')

- 1層 暗褐色土 ローム粒子混入、焼土粒子、カーボン粒子混入
 2層 暗褐色土 1層よりR・B微量に点在
 3層 暗褐色土 1層に類似、1層より混入層の粒度が小さい
 4層 黒褐色土 黒色土との砂質暗褐色土の混土、焼土粒子点在
 5層 暗褐色土 ローム粒子均質混入、R・B、カーボン粒子点在
 6層 暗褐色土 ローム粒子均質混入、焼土、カーボン粒子点在
 7層 黒褐色土 4層に類似、焼土B、ローム粒子混入
 8層 ほぼ黄褐色土 ローム粒子、ロームB多量混入

東辺の北部分で58cmが残存する。床面はほぼ平坦で、周溝・柱穴・カマド・貯蔵穴は検出されなかった。

遺物は土師器の小片が僅かに出土した。

19・20号住居跡出土遺物 (第94図)

1	長割栗 (土師)	口径(21.1)cm 器高(34.0)cm 底径(6.4)cm	色調 灰褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 焼成	備考 体部中位を欠。二次焼成を受ける。体部緑色のへう割り。
2	小型壺 (ノ)	口径(11.0)cm	色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 内筒する体部から口縁部は直立気味に外反。外面に整点状刻が、口縁部横溝、体部へう割り。
3	甌 (ノ)	口径 18.6 cm 器高 12.8 cm 孔径 3.6 cm	色調 灰褐色～赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 ほぼ完成。指持状を呈し、単孔式。口縁部横溝、体部中位へう割り。
4	鉢 (ノ)	口径(19.4)cm 器高(19.2)cm	色調 くすんだ褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 へう割りとを呈し、体部と口縁部の境に反。口縁部は外反。口縁部横溝、体部へう割り。
5	# (ノ)	口径(16.8)cm	色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 体部下平欠。 #
6	坏 (ノ)	口径(14.0)cm 器高(13.3)cm	色調 褐色～赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 体部と口縁部の境に反を有し、口縁部は直立気味。 #
7	# (ノ)	口径(11.5)cm 器高(13.4)cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 体部と口縁部の境に反を有し、口縁部は内筒気味に直立。 #
8	圓石	長さ 14.5 cm 幅 7.4 cm 厚さ 4.9 cm 重さ 840 g	石質 輝緑岩			
9	# (ノ)	長さ 13.6 cm 幅 7.3 cm 厚さ 5.5 cm 重さ 787 g	石質 火山岩			
10	# (ノ)	長さ 15.0 cm 幅 7.7 cm 厚さ 5.5 cm 重さ 837 g	石質 輝石安山岩			
11	# (ノ)	長さ 14.8 cm 幅 7.2 cm 厚さ 6.0 cm 重さ 788 g	石質 輝石安山岩			

21号住居跡 (第95・96図)

C調査区の最北方でC18グリットに検出され、東方を1号溝によって切られている。南方には22号住居跡が隣接し、標高133.00m前後に位置する。

形状は検出部分から隅丸方形と考えられ、南北長3.15m前後、北辺(1.1)mを測る。壁高は23～32cmが残存する。床面は堅緻面で平坦である。周溝は北辺に検出され、幅15cm、深さ3cmを測る。柱穴・カマド・貯蔵穴は検出されなかった。遺物は覆土中から坏等が出土した。

21号住居跡出土遺物 (第96図)

1	長割栗 (土師)	口径 4.8 cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 外面縦位へう割り。底部に本葉痕。
2	坏 (ノ)	口径(12.6)cm 器高 4.2 cm	色調 くすんだ褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 体部と口縁部の境に横。口縁部は直立的に外反。口縁部横溝、体部へう割り。
3	甌 (直筒)		色調 暗褐色	胎土 #	焼成 #	備考 外面字行跡を呈し、内面背側直文の当て目。
4	縄文時代前期	附加糸織文を施す口縁部片。				

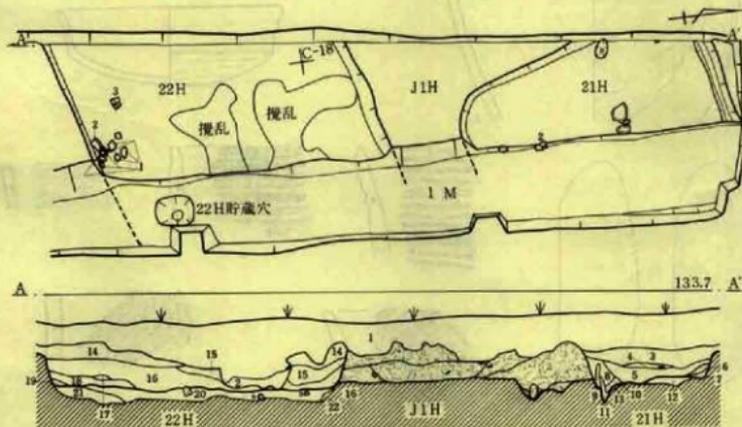
22号住居跡 (第95・96図)

C調査区の北方でC18グリットポイントの南方が主体を占める。21号住居跡と同様に東方を1号溝によって切れ、西壁は調査区外に及ぶ。北方に21号住居跡、南方に23号住居跡が隣接、標高132.95m前後に位置する。

形状は方形が考えられ、南北辺の一部(南辺1.7m、北辺1.4m)が検出され、南北長3.25mを測る。壁高は35~48cmが残存する。床面はほぼ平坦であるが、部分的に緩やかな凹凸がある。周溝・柱穴・カマドは検出されなかった。貯蔵穴は1号溝内に検出された45×40cmの楕円形で深さ56cmの掘り込みが考えられる。遺物は南壁下に集中して出土し、長胴甕の胴部片と坏等がある。

22号住居跡出土遺物 (第96図)

1	長胴甕 (土器)		色調 褐色~黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良	備考 体部中~下半片。体部縦位~斜位のヘラ削り。内面磨光。
2	坏 (#)	口径 14.9 cm 器高 4.4 cm	色調 黒褐色	胎土 無砂粒	焼成 良好	備考 口縁上部を呈す。体部と口縁部の境と口縁部中央に段を有し、口縁部横割、体部へラ削り。
3	# (#)	口径 (13.2) cm 器高 4.7 cm	色調 黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 体部と口縁部の境に段を有し、口縁部は直立気味に外反。
4	編石	長さ 13.4 cm 幅 5.2 cm 厚さ 4.8 cm 重さ 514 g	石質 黒泥晶安山岩			
5	縄文時代前期	黒洲・有形式期に比定される口縁部片。半環竹管による平行比線文を多段に施す。				
6	#	#	#			連続刷文文を施す。
7	#	#	#			平行比線文を施す。
8	#	#	#			RLとLRで羽状刷文を施す口縁部片。
9	#	#	#			附加糸刷文を施す。
10	#	#	#			磨滅式期の胴部片。
11	縄文時代中期	半環竹管による平行比線文で横位区画文を施す。				
12	#	#	#			陰帯による意匠文を施す。
13	敷石	長さ 7.0 cm 幅 6.5 cm 厚さ 4.3 cm 重さ 264 g	石質 輝石安山岩			



21・22号住居跡土層註 (A-A')

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1層 黒褐色土 現耕作土 | 7層 暗褐色土 6層に比して、ローム粒子の粒度がやや大きい |
| 2層 暗褐色土 R・B混入 FP点在 (21号覆土) | 8層 暗褐色土 FP ローム粒子均質に点在 カーボン粒子点在 |
| 3層 暗褐色土 FP・ローム粒子均質混入 R・B点在 | 9層 にぶい黄褐色土 ローム粒子均質混入 |
| 4層 暗褐色土 FP・ローム粒子点在 | 10層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 |
| 5層 暗褐色土 FP・ローム粒子均質混入 R・B、カーボン粒子点在 | 11層 暗褐色土 10層に懸脱 10層よりやや暗い |
| 6層 暗褐色土 FP・ローム粒子・カーボン粒子点在 | 12層 にぶい黄褐色土 ローム粒子混入 R・B点在 |
| | 13層 黄褐色土 R・Bとローム粒子の不均質な混土 |

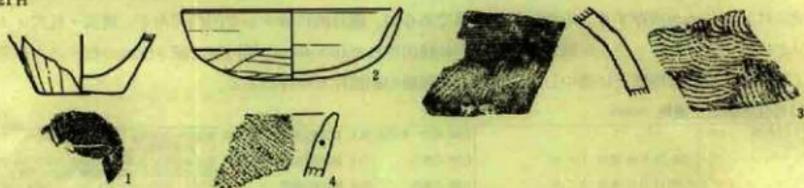
第95図 21・22号住居跡

(22号覆土)

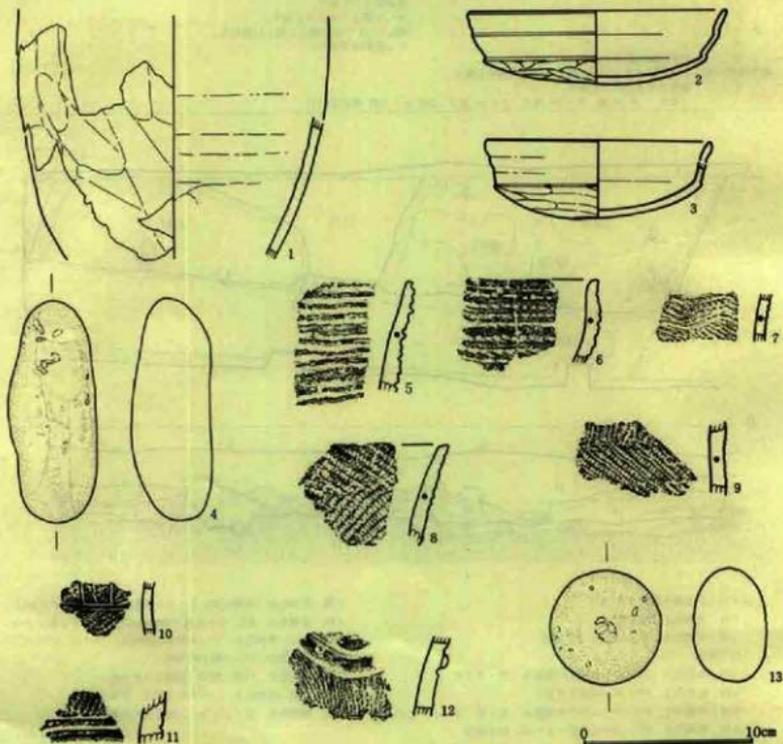
- 14層 暗褐色土 FP・ローム粒子均質混入 焼土粒子点在
 15層 暗褐色土 FP・ローム粒子混入 R・B点在
 16層 暗褐色土 15層に類似 15層よりやや均質
 17層 黒褐色土 FP均質混入
 18層 暗褐色土 FP・ローム粒子均質混入 R・B点在

- 19層 濃い黄褐色土 R・B ローム粒子混入
 20層 濃い黄褐色土 R・B ローム粒子 暗褐色土の混入
 21層 濃い黄褐色土 R・B ローム粒子 暗褐色土の混入
 22層 濃い黄褐色土 21層に類似 21層よりR・Bの量が多い

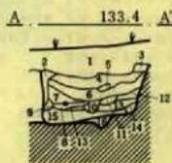
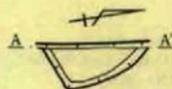
21 H



22 H



第96図 21・22号住居跡出土遺物



23号住居跡土層註 (A-A')

- 1層 暗褐色土 埋耕作土
- 2層 暗褐色土 FP均質混入 ローム粒子、焼土粒子点在 跡まり弱い
- 3層 暗褐色土 FP、ローム粒子 焼土粒子点在
- 4層 暗褐色土 FP、ローム粒子均質混入 焼土粒子、カーボン粒子点在
- 5層 暗褐色土 FP、ローム粒子 カーボン粒子 焼土粒子点在 跡まり弱い
- 6層 暗褐色土 FP均質混入、ローム粒子 焼土粒子 ローム粒子点在
- 7層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 FP 焼土粒子点在 跡まり弱い
- 8層 黒色土 カーボン粒子均質混入 焼成灰を本層上位面にラミナ状に堆積
- 9層 黒褐色土 FP均質混入 焼成灰B少量点在
- 10層 灰褐色土 焼成灰混入層
- 11層 暗褐色土 暗褐色粘土B混入 FP、焼土粒子点在
- 12層 暗褐色土 混入物が少なく均質な層 ローム粒子 焼土粒子点在
- 13層 暗褐色土 FP ローム粒子 焼土粒子 カーボン粒子点在
- 14層 暗褐色土 ローム粒子混入
- 15層 暗褐色土 B・D ローム粒子 黒色土の混入 カーボン粒子 焼土粒子点在
- 16層 暗褐色土 (J2H 覆土) 暗褐色ローム質土の粒子の均質混入

第97図 23号住居跡

23号住居跡 (第97図)

C調査区の北方でその主体をB16グリットに占め、僅かに南東隅の一部を検出した。標高132.85m付近に位置し、調査区内で当住居跡の南方には住居跡は検出されなかった。

形状・規模は不明瞭で、壁高は45cm程が残存する。周溝・柱穴・カマド・貯蔵穴は検出されなかった。遺物は皆無であった。

24号A・24号B住居跡 (第98図)

D調査区の北方でJ54・55グリットに跨って検出された。当住居跡は2軒の重複で、24号Aが24号Bを切って構築されている。南西方向に25号住居跡が隣接し、標高136.60m前後に位置する。

24号A住居跡はやや南北に長い隅丸方形を呈する焼失住居跡である。形状は南北長4m、東西長3.5m前後を測る。壁高は13~20cmが残存する。床面は中央部分に向けて緩やかに傾斜し、炭化材が多く分布する。東辺の中央付近の床面から西方に焼土分布が広がる。周溝は東辺の中央付近から左回りに西辺の南寄りまで連続する。柱穴は検出されなかったが、南西隅部に歪んだ楕円形を呈する掘り込みがある。規模は、長軸長66cm、短軸長60cmで深さ32cmを測る。カマド・貯蔵穴は調査区外に及ぶと考えられる。

遺物は羽釜と壺片の2点が出土した。

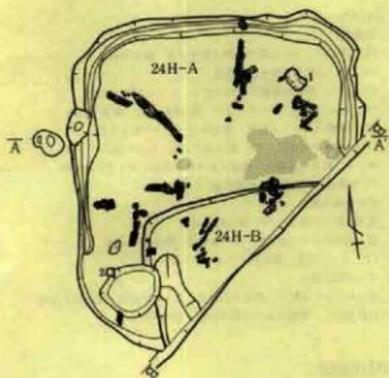
24号B住居跡は24号A住居跡の南東部分に重複し、半分以上が調査区外に及ぶ。形状は検出部分から方形が推定され、北辺(2.2)m、西辺(1.65)mを測る。壁高は重複部分で20cm前後が残存する。床面は平坦を呈し、柱穴・カマド・貯蔵穴は検出されなかった。出土遺物は皆無であった。

24号住居跡出土遺物 (第98図)

1	羽釜 (土部)	口径(23.3)cm 器高(16.6)cm	色調 褐色~黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 1/2残存。体部下半より内湾し、上半は直立気味。胎土は、体部上へ中位位置。下位部へ下寄り。
2	壺 (?)		色調 赤褐色	胎土 ?	焼成 ?	備考 体部上半は直立気味とし、頸部で折れ、口縁部は短く外反。

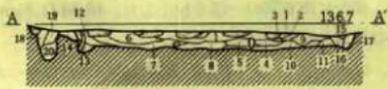
25号住居跡 (第99図)

D調査区の北方でその主体がI53・54グリットに跨って検出され、南東部と西方の半分程が調査区外となる。標高136.60m前後に位置し、北東方向に24号住居跡が隣接する。



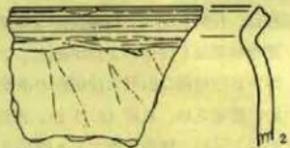
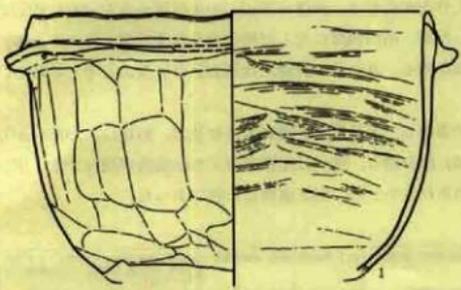
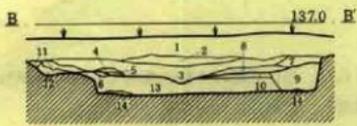
24号住居跡土層註 (A-A')

- 1層 黒褐色土 FP、ローム粒子均質混入
- 2層 暗褐色土 FP均質混入、焼土・カーボン粒子点在
- 3層 暗褐色土 ローム粒子混入、焼土粒子点在
- 4層 暗褐色土 ローム粒子点在
- 5層 暗褐色土 ローム粒子混入、焼土粒子点在
- 6層 黒褐色土 1層に類似、ローム粒子少なく、R・B点在
- 7層 黒褐色土 ローム粒子混入、カーボン粒子、炭化材、R・B点在
- 8層 暗褐色土 ローム粒子混入、カーボン粒子、R・B点在
- 9層 暗褐色土 4層に類似、4層よりやや均質
- 10層 暗褐色土 ローム粒子均質混入、焼土粒子点在
- 11層 暗褐色土 ローム粒子混入
- 12層 暗褐色土 ローム粒子均質混入、R・B点在、砂質
- 13層 暗褐色土 12層に類似、12層よりさらに砂質
- 14層 ぶい黄褐色土 ローム粒子混入
- 15層 暗褐色土 砂質土 混入物少ない
- 16層 暗褐色土 焼土粒子と黒褐色土との混土、ローム粒子点在
- 17層 暗褐色土 16層に類似、やや均質
- 18層 暗褐色土 ローム粒子均質混入
- 19層 黒褐色土 砂質で均質な層
- 20層 ぶい黄褐色土 ローム粒子混入



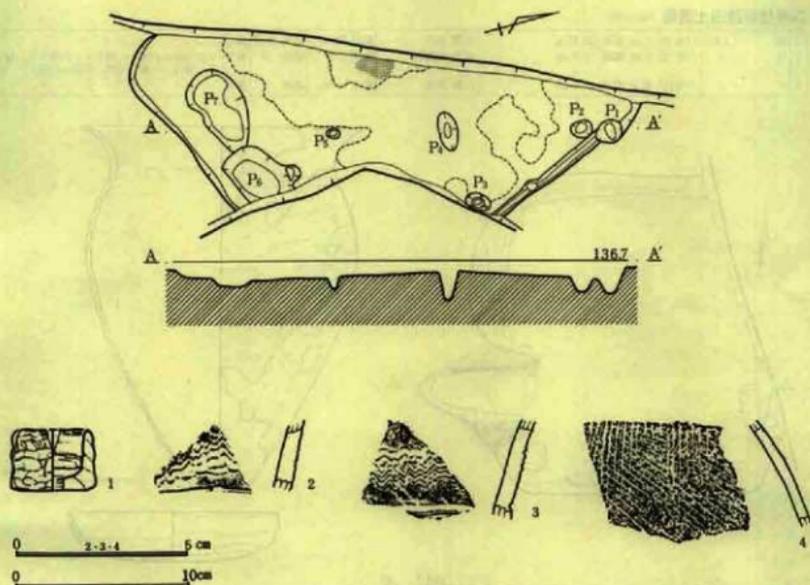
24号住居跡土層註 (B-B')

- 1層 暗褐色土 規整作土
- 2層 黒褐色土 FP均質混入、ローム・焼土粒子点在
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・FP カーボン・焼土粒子・炭化材点在
- 4層 灰褐色土 焼成灰、焼土粒子混入、カーボン粒子点在
- 5層 黒褐色土 炭化材、カーボン粒子混入、焼土粒子点在
- 6層 暗褐色土 ローム粒子混入、カーボン粒子点在
- 7層 暗褐色土 FP均質混入、R・B点在
- 8層 暗褐色土 カーボン粒子均質混入、FP、ローム粒子点在
- 9層 暗褐色土 ローム粒子混入、R・B点在
- 10層 ぶい黄褐色土 R・B、ローム粒子混入、締まり強い
- 11層 暗褐色土 8層に類似、8層よりローム粒子多く明るい
- 12層 ぶい黄褐色土 ローム粒子混入、焼土粒子点在
- 13層 暗褐色土 ローム粒子均質混入、R・B混入
- 14層 ぶい黄褐色土 R・B混入



第98図 24号住居跡・出土遺物

形状は検出された部分から方形が推測され、東西南北長4.4m前後を測る。壁高は2～10cmが残存する。床面は平坦を呈し、整緻面が中央部分に広がり、西調査区壁の部分に焼土面がある。周溝は東辺に検出され、幅10cm、深さ8cmである。柱穴状の掘り込みは7カ所に検出されたが、主柱穴は不明である。伊



第99図 25号住居跡・出土遺物

址は検出されなかったが、西調査区壁で検出された焼土部分に可能性がある。貯蔵穴は検出されなかった。遺物は手捏ね土器と樽式土器、石田川式土器の破片等が出土した。

25号住居跡出土遺物 (第99図)

1	ニシヤ7	口径 (4.1)cm 器高 3.6 cm 底径 4.0 cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 微砂状	構成 良好	備考 輪状器形で円形を呈する。口縁部に輪状工具による彫刻状。
2	葉 (土師)		色調 褐色	胎土 #	構成 #	備考 樽式土器に比定される。屢状文、内面研削と3は同一個体。
3	葉 (土師)		色調 #	胎土 #	構成 #	備考 # # # # #
4	葉 (土師)		色調 黒褐色	胎土 #	構成 #	備考 石田川式土器に比定される。ハク目による彫刻状。

26号住居址 (第100図)

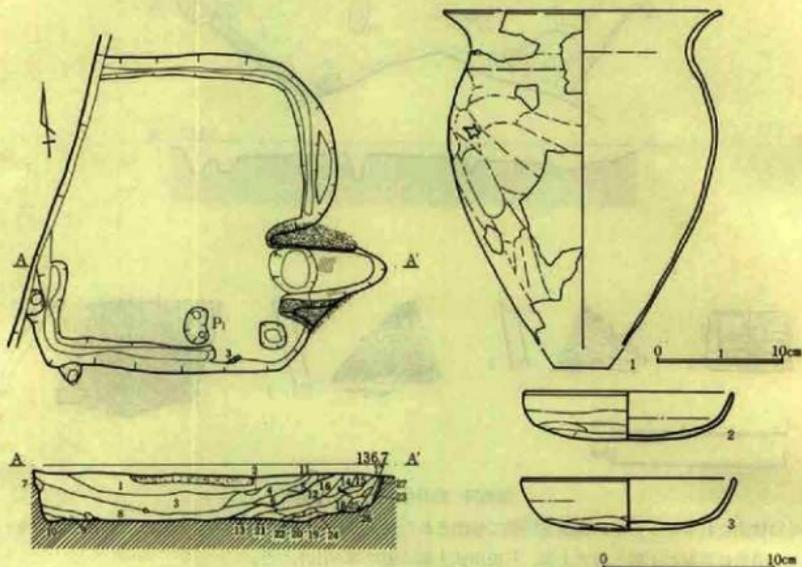
D調査区の中央やや北寄りのH51グリットに主体を占めて検出され、北西部の一部が調査区外となる。北方に25号住居址、南方に27号住居址があり、標高136.50m付近に位置する。

形状は方形を呈すると考えられ、規模は一辺が3.7～3.8m前後を測る。東辺の中央から北には長さ1m、最大幅16cmの半月状のテラスを設けている。壁高は38～53cmが残存する。床面は平坦を呈し、周溝はカマド左袖部から北西隅に連続し、南辺中央やや東から南西隅にL字状に検出された。幅20cm前後で深さ5cm程である。柱穴は南壁下にあり、主柱穴は検出されなかった。

カマドは東辺の中央やや南寄りに暗褐色粘質土で構築されている。焚き口から煙道部まで1.4m、張り出し80cmを測る。焚き口幅は55cmで焼成部に向けて浅い皿状の窪みを設け、煙道部は垂直気味に立ち上がる。貯蔵穴は南東隅に設けられ、30cm前後の円形で深さ25cmである。遺物は南壁下に窠、覆土中から坏が出土した。

26号住居跡出土遺物 (第100図)

1 罎 (土器)	口径 21.7 cm 器高 28.4 cm	色調 褐色	粘土 微砂粒	焼成 良好	備考
2 坏 (#)	口径 12.2 cm 器高 2.9 cm	色調 淡褐色	粘土 #	焼成 #	備考 平庭気味の底部から縦やかに内磨する口縁部へ移行。口縁部横溝、底部へ方開り。
3 #	口径 12.4 cm 器高 3.1 cm	色調 褐色	粘土 #	焼成 #	備考 # # # #



26号住居跡土層註 (A-A')

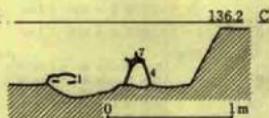
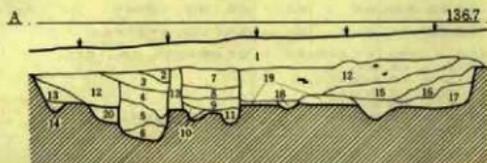
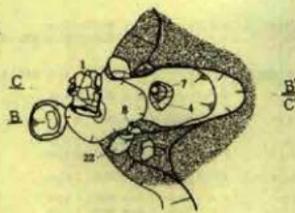
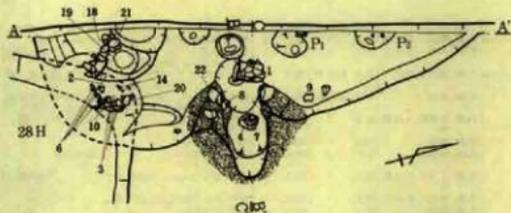
- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1層 暗褐色土 FP、ローム粒子均質混入、焼土粒子点在 | 15層 赤褐色土~黄褐色土 黄白色粘土Bと焼土B混入 |
| 2層 におい黄褐色土 R・B多量混入、焼土粒子混入 | 16層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 焼土粒子点在 |
| 3層 暗褐色土 F・B均質混入、FP点在、ローム粒子混入 | 17層 におい赤褐色土 焼土粒子、ローム粒子混入 |
| 4層 暗褐色土 R・B粒の混入量やや多い、焼土粒子B点在 | 18層 暗褐色土 R・B、焼土Bの混入 |
| 5層 暗褐色土 R・Bローム粒子、暗褐色土の混入、焼土B粒子点在 | 19層 におい黄褐色土 R・B粒の混入 |
| 6層 暗褐色土 R・B、ローム粒子混入、焼土粒子点在 | 20層 暗褐色土 R・B粒子混入、焼土粒子点在 |
| 7層 褐色土 やや乱れたローム質土 | 21層 暗褐色土 R・B粒子、暗褐色土の混入、焼土粒子点在 |
| 8層 暗褐色土 ローム粒子、B均質混入、焼土粒子点在 | 22層 におい黄褐色土 15層に類似、19層よりやや細かい |
| 9層 黒褐色土 ローム粒子均質混入、R・B点在、焼土粒子点在 | 23層 におい黄褐色土 R・Bと暗褐色土との混入、焼土粒子点在 |
| 10層 におい黄褐色土 ローム粒子B均質混入 | 24層 暗褐色土 焼土粒子均質混入、焼土B点在 |
| 11層 暗褐色土 やや砂質、ローム粒子均質混入 | 25層 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子均質混入 |
| 12層 暗褐色土 R・B粒子混入、焼土B、黄白色粘土B点在 | 26層 暗褐色土 黒褐色土、ローム粒子の混入、焼土粒子点在 |
| 13層 暗褐色土 ローム粒子均質混入、R・B、焼土粒子点在 | 27層 におい黄褐色土 R・B点在するやや不均質のローム質土 |
| 14層 暗褐色土 ローム粒子、黄白色粘土粒子、焼土粒子点在 | |

第100図 26号住居跡・出土遺物

27号住居跡 (第101~103図)

D調査区の中央付近でG47・48グリットに跨がって一部が検出され、その主体は道路敷に及ぶ。標高136.10m前後に位置し、南東隅部が28号住居跡と重複する。新旧関係は本住居跡が新しい。

形状は検出部から方形を呈すると考えられ、東辺(4.95)mを測る。壁高は40~45cmが残存する。床面はほぼ平坦を呈する。周溝は南東隅に検出され、幅25cm前後で深さ10cm程を測る。柱穴は2ヶ所にけ



27号住居跡土層註 (A-A')

- 1層 暗褐色土 現耕作土
- 2層 暗褐色土 砂質で均質
- 3層 暗褐色土 ローム粒子、R・B混入
- 4層 暗褐色土 ローム粒子混入 R・B点在
- 5層 暗褐色土 4層に類似 4層より混入するR・Bが少ない
- 6層 におい黄褐色土 R・B混入層
- 7層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 R・B点在
- 8層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 R・B点在
- 9層 暗褐色土 8層に類似 8層よりR・Bの量が多い
- 10層 暗褐色土 粒度の揃った均質層 やや砂質 R・B点在
- 11層 暗褐色土 10層に類似 10層より不均質でR・Bの量が多い
- 12層 暗褐色土 FP、ローム粒子、焼土粒子均質混入カーボン粒子点在
- 13層 暗褐色土 12層に類似 12層より混入物の粒度が小さい
- 14層 におい黄褐色土 ローム粒子均質混入
- 15層 暗褐色土 12層に類似 混入物の粒度が大きい 炭化材点在
- 16層 黒褐色土 FP均質混入 R・B点在
- 17層 暗褐色土 揃った均質な層 やや砂質 焼土粒子点在
- 18層 暗褐色土 16、17層との境にR・Bを混入する
- 19層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 R・B点在
- 20層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 粒度の揃った均質な層 R・B点在

27号住居跡カマド土層註 (B-B')

- 1層 暗灰褐色粘土 少量のFP、ローム粒焼土B含む
- 2層 暗褐色土 焼土B粒を含む カーボン粒 暗褐色粘土
- 3層 焼土B 褐色土含む
- 4層 灰 少量の焼土粒
- 5層 焼土B、 灰の混土
- 6層 暗褐色土 9層に似る ロームB少量
- 7層 焼土B、 灰褐色土の混土
- 8層 焼土B 多量に含み、少量のロームB混
- 9層 暗褐色土 少量の粒土とロームB
- 10層 焼土B、灰層を斑点状に含む
- 11層 注記漏れ

第101図 27号住居跡

されたが、主柱穴は不明である。

カマドは東辺の中央やや東寄りに暗灰褐色粘土で構築され、袖部先端には礫を据えている。焚き口から煙道部まで1.3mを測り、張り出しは45cmを測る。焚き口幅は40cmで、袖石の前面には長胴甕が潰れている。中央部分には支脚に転用された長胴甕胴部下半片を伏せ、上部に台付甕を被せている。焚き口から火床部分は窪み、煙道部は直線的に立ち上がる。貯蔵穴は南東隅寄りに設けられ、一部覆乱が及ぶ。規模は60×50cmの楕円形を呈し、内部に一段低い掘り込みがある。遺物はカマド内と貯蔵穴に集中し、長胴甕・坏・編石等があり、カマドの補強材として使用された礫には刃研ぎ痕が残る。

27号住居跡出土遺物 (第102～103図)

1	尺制器 (土器)	口径 23.3 cm 器高(33.1)cm	色調 褐色	粘土 微砂粒	焼成 良好	備考 器部を欠、直立気味に内側する割部を呈し、口縁部は外反し強く、口縁部横断、割部縮こへ少なり。
2	# (#)	口径 23.7 cm 器高(21.7)cm	色調 赤褐色	粘土 粗砂粒	焼成 #	備考 口縁部2/3、割部下半欠、直立する割部から口縁部は外反し大きく強く。#、#
3	# (#)	口径(23.3)cm 器高(10.3)cm	色調 褐色	粘土 #	焼成 良好	備考 口縁部から割部上半残存、割部で折れ、口縁部は強く外反し強く。#、#、割部横断一割部へ少なり。

4 #	(#)	器高(23.5)cm	色調 #	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 胴部中～下半残存。胴部斜一線位へつ張り。
5 #	(#)	器高(13.9)cm 底径 4.0cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 底径・胴径2寸。器底、外周へつ張り。
6 #	(#)	口径 23.6 cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 胴部上半以下残存。腹径で「」の字状に屈曲。口縁部傾斜。底部へつ張り。
7	台付壺 (#)	器高(10.4)cm 底径 8.0cm	色調 淡灰黄褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 胴部下半～胴台底残存。二次焼成受け。面底直上。伏底付直縁部。
8 坏	(#)	口径(13.3)cm 器高 3.4 cm	色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 3/4残存。丸底を呈し。口縁部は短く内湾。
9 #	(#)	口径 11.0 cm 器高 3.4 cm	色調 淡褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 ほぼ完全。口縁部から内湾傾斜。底部へつ張り。
10 #	(#)	口径 13.2 cm 器高 3.5 cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 2/3残存。 # # # # #
11 #	(#)	口径 13.0 cm 器高(3.6)cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/2残存。 # # # # #
12 #	(#)	口径 10.9 cm 器高(2.6)cm	色調 くすんだ黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 約1/2残存。平直気味で、 # # # # #
13 #	(#)	口径(13.7)cm 器高(2.9)cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 約1/2残存。丸底を呈し、 # # # # #
14 #	(#)	口径(9.8)cm 器高(2.7)cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/3残存。 # # # # #
15 #	(#)	口径(10.6)cm 器高(3.9)cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/3残存。平直気味で、 # # # # #
16 #	(#)	口径(12.8)cm 器高 3.7 cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/2残存。やや歪んだ丸底。 # # # # #
17 坏	(腹部)	口径 6.3 cm	色調 くすんだ黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 器壁水引成層。底部へつ起こし。
18		長さ(8.6)cm 幅 5.2 cm 厚さ 4.1 cm 重さ 233 g	石質 輝石安山岩			
19		長さ 12.3 cm 幅 6.3 cm 厚さ 4.9 cm 重さ 358 g	石質 多孔質輝石安山岩			
20 燧石		長さ 13.4 cm 幅 6.9 cm 厚さ 5.7 cm 重さ 614 g	石質 輝石安山岩			
21 燧石		長さ 14.2 cm 幅 8.8 cm 厚さ 5.3 cm 重さ 812 g	石質 輝石安山岩			
22 ヲマド燧石		長さ 34.0 cm 幅 23.8 cm 厚さ 6.9 cm 重さ 6500 g	石質 輝石安山岩			備考 器壁に同層が見られる。
23 縄文時代中期		陸奥で区画された口縁部文様部の区画内を単位と比較で充満する。				

28号住居跡 (第104～106区)

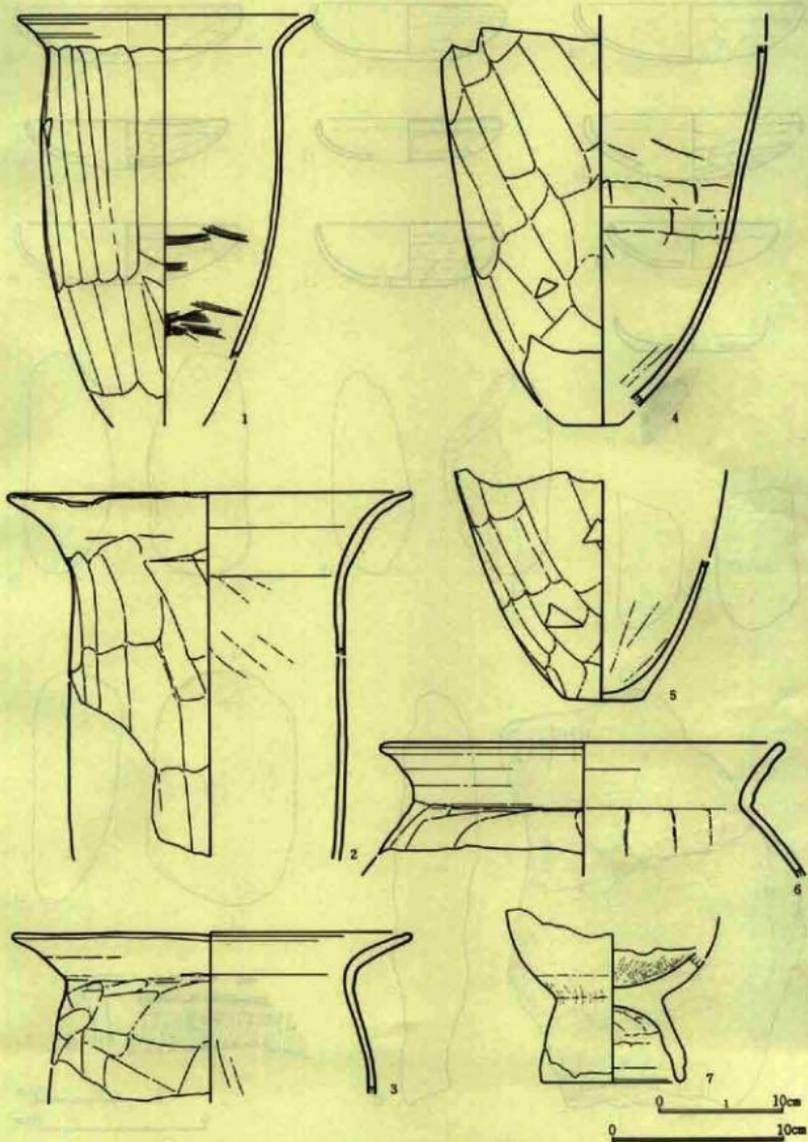
D調査区の中央付近でその主体をG46・47グリットに占めて検出された。標高136.00m前後に位置し、南西隅が僅かに調査区外となる。

形状は東西南北長が5m前後を測る正方形を呈する。壁高は北壁が50cm弱、南壁が20～25cmが残存する。床面はP₁₀の西から南方部分にL字形の緩やかな傾斜面があり、中央部分から北東部分がやや窪む。周溝は調査区外を除いてほぼ連続し、僅かに北東隅に途切れ部分がある。幅15cm前後、深さ5cm前後を測る。柱穴は住居跡内に16ヶ所、壁に重複して5ヶ所に検出された。内部に検出されたP₁・P₄・P₁₁が50cm前後の深さで、他は10～20cm程を測る。壁と重複するものは後世の所産と考えられる。

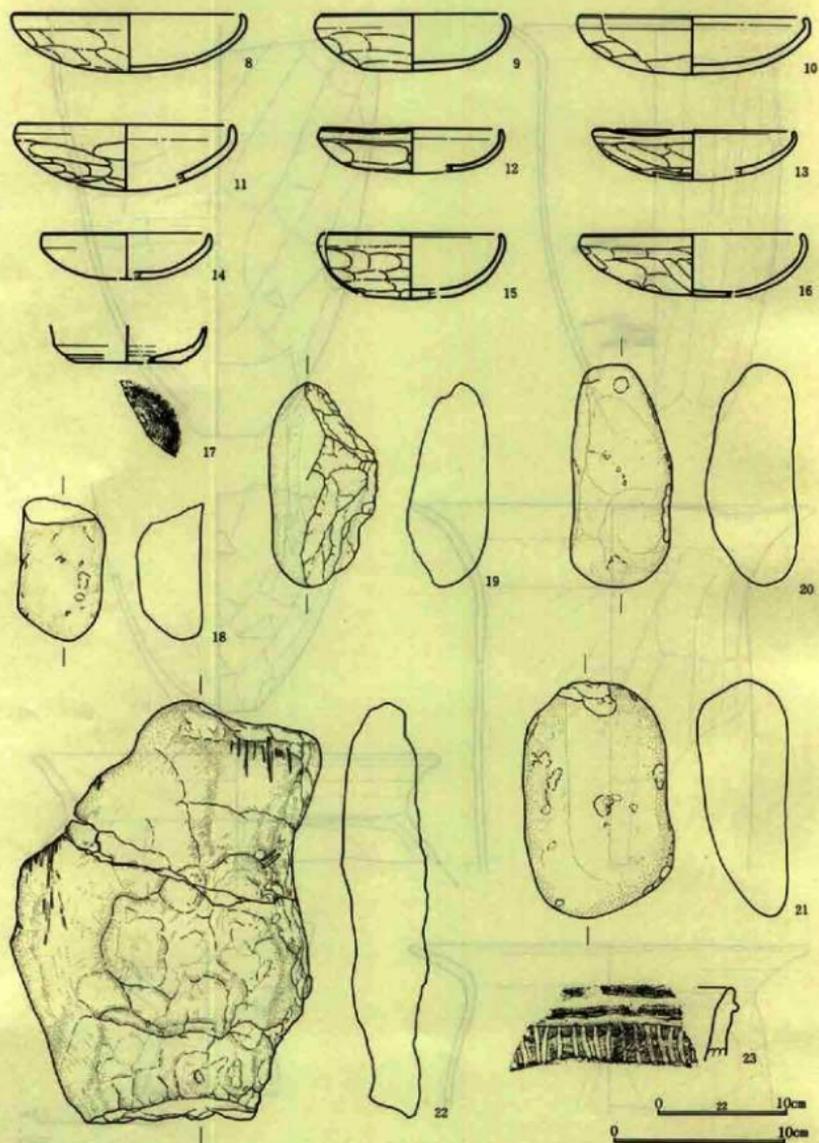
カマドは東辺の中央付近に灰褐色粘土で構築されている。焚き口から煙道部まで90cm、張り出しは55cmを測る。焚き口幅は40cm前後である。貯蔵穴は検出されなかった。遺物はP₁₀の周辺に集中して長胴壺・高環・甌・環等があり、覆土中から嘉祐通寶・鉄鏝が出土した。

28号住居跡出土遺物 (第105～106区)

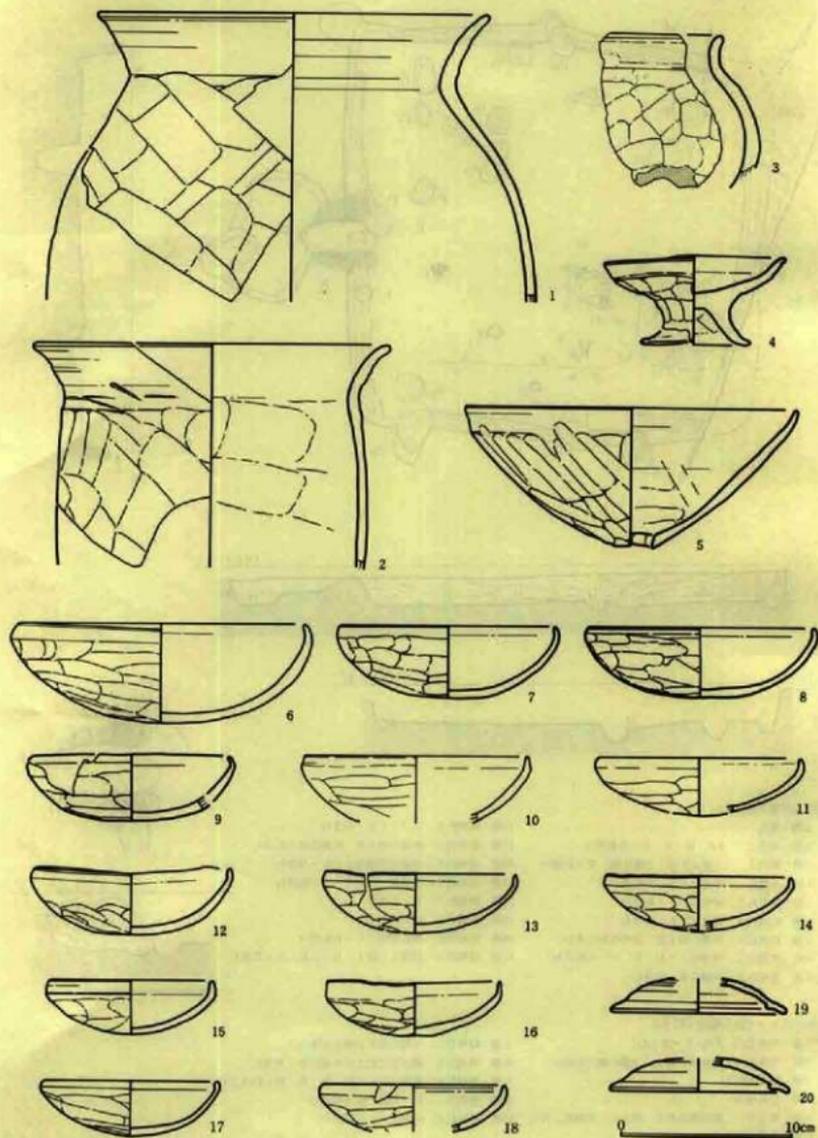
1 甌	(土師)	口径(22.6)cm 器高(17.3)cm	色調 淡褐色～淡赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 胴部下半。口縁部は「」の字状に屈曲して外反。口縁部傾斜。胴部斜位へつ張り。
2 長胴壺	(#)	口径(20.4)cm 器高(13.3)cm	色調 淡赤褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 口縁部1/4残存。直立気味の胴部から口縁部は外反。 # # # # #
3 甌	(#)	口径 11.0 cm 器高 4.0 cm	色調 褐色～くすんだ黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部～胴部下半付。内湾する胴部から口縁部は短く直立気味。口縁部傾斜。胴部斜位へつ張り。
4 高環	(#)	口径 10.5 cm 器高 5.4 cm 底径 6.3 cm	色調 くすんだ褐色	胎土 #	焼成 #	備考 ほぼ完全。器の中心は体部と口縁部の間に隆起。口縁部～内湾傾斜。円筒縁に閉じた縁部は短く直立気味。口縁部～内湾傾斜。外周へつ張り。
5 甌	(#)	口径 19.1 cm 器高 8.4 cm 口径 2.0 cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 完全。縁部、器口式。体部は直線的に閉じた縁部は短く直立気味。口縁部～内湾傾斜。外周へつ張り。
6 坏	(#)	口径 16.7 cm 器高 6.0 cm	色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 口縁部1/4残存。 # # # # #
7 #	(#)	口径(12.6)cm 器高 4.3 cm	色調 赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 約1/2残存。 # # # # #
8 #	(#)	口径(13.3)cm 器高 4.2 cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 約3/4残存。 # # # # #
9 #	(#)	口径(11.4)cm 器高 4.0 cm	色調 赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/4残存。やや歪んだ丸底を呈し、 # # # # #
10 #	(#)	口径(12.9)cm 器高(4.0)cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/4残存。 # # # # #
11 #	(#)	口径(11.7)cm 器高(3.4)cm	色調 くすんだ褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/4残存。丸底を呈し、 # # # # #
12 #	(#)	口径 10.2 cm 器高 4.0 cm	色調 淡赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 3/4残存。口縁部がやや歪む。 # # # # #
13 #	(#)	口径 11.1 cm 器高 3.6 cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 2/3残存。 # # # # #
14 #	(#)	口径(10.9)cm 器高(3.4)cm	色調 くすんだ褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 約1/2残存。 # # # # #
15 #	(#)	口径(9.3)cm 器高 3.3 cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/4残存。体部と口縁部の間に隆起。 # # # # #
16 #	(#)	口径 10.1 cm 器高 3.3 cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/2残存。 # # # # #
17 #	(#)	口径 10.0 cm 器高 3.4 cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 完全。 # # # # #
18 #	(#)	口径(10.1)cm 器高(2.8)cm	色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 1/4残存。 # # # # #
19 甌	(腹部)	口径(10.2)cm 器高(2.1)cm	色調 青灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 天井部傾斜へつ張り。内面に遺受け。
20 #	(#)	口径(10.2)cm 器高(2.0)cm	色調 明灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 # # # # #



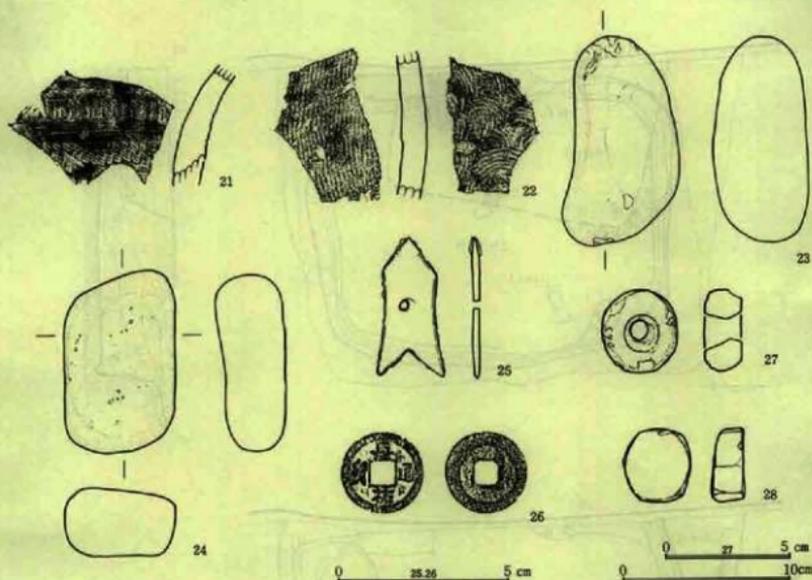
第102圖 27号住居跡出土遺物(1)



第103图 27号住居跡出土遺物(2)



第105图 28号住居跡出土遺物 (1)



第106図 28号住居跡出土遺物(2)

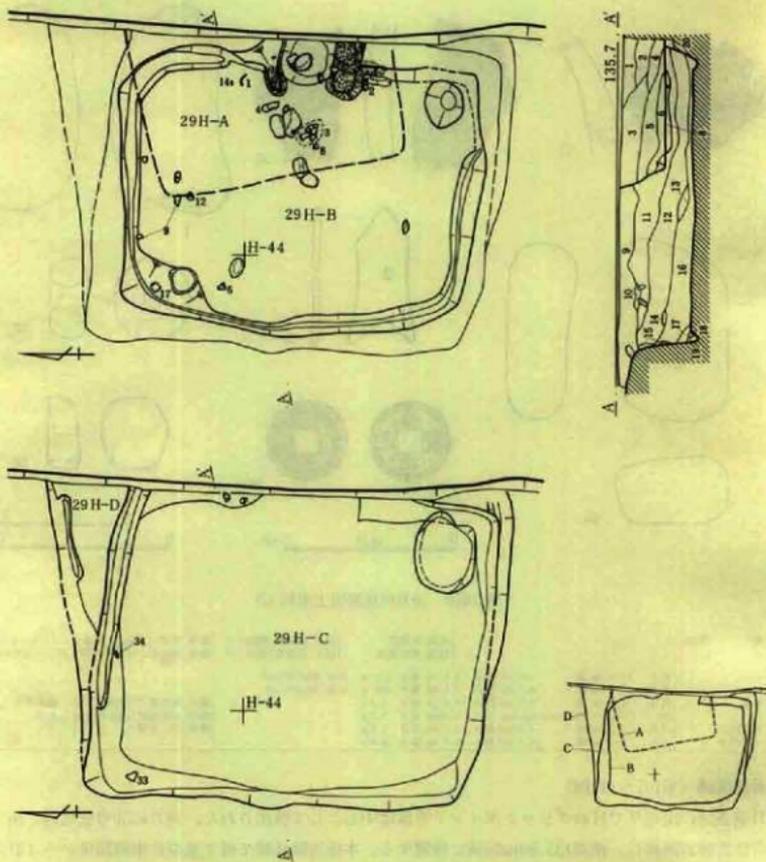
21 破片 (須恵)	長さ 12.6 cm 幅 7.0 cm 厚み 5.8 cm 重さ 578 g	色調 灰褐色	胎土 微砂粒・構成 石質 輝石安山岩	備考 断面片。捺文を施す。35JbNo.7に似る。
22 破片 (須恵) <th>長さ 10.9 cm 幅 6.7 cm 厚み 4.1 cm 重さ 453 g</th> <th>色調 青灰褐色</th> <th>胎土 粗砂粒・構成 石質 輝石安山岩</th> <th>備考 断面片。外面平行引き目、内面青海狗刷り施す。</th>	長さ 10.9 cm 幅 6.7 cm 厚み 4.1 cm 重さ 453 g	色調 青灰褐色	胎土 粗砂粒・構成 石質 輝石安山岩	備考 断面片。外面平行引き目、内面青海狗刷り施す。
23 磁石 <th>長さ 4.2 cm 幅 2.6 cm 厚み 0.2 cm 重さ 3.2 g</th> <td></td> <td></td> <td></td>	長さ 4.2 cm 幅 2.6 cm 厚み 0.2 cm 重さ 3.2 g			
24 磁石 <th>長さ 10.9 cm 幅 6.7 cm 厚み 4.1 cm 重さ 453 g</th> <td></td> <td></td> <td></td>	長さ 10.9 cm 幅 6.7 cm 厚み 4.1 cm 重さ 453 g			
25 鉄線 <th>長さ 4.2 cm 幅 2.6 cm 厚み 0.2 cm 重さ 3.2 g</th> <td></td> <td></td> <td></td>	長さ 4.2 cm 幅 2.6 cm 厚み 0.2 cm 重さ 3.2 g			
26 古銭 <th>径 2.4×2.4cm 孔径 0.7×0.7cm 厚み 1.45mm 重さ 3.7g</th> <td></td> <td></td> <td></td>	径 2.4×2.4cm 孔径 0.7×0.7cm 厚み 1.45mm 重さ 3.7g			
27 輝石製品 <th>長さ 3.3 cm 幅 3.0 cm 厚み 1.5 cm 重さ 5.9 g</th> <td></td> <td></td> <td>備考 無蓋蓋で五角形を呈し、穿孔を有する。番号 高松遺物(1056年初検)。積層。</td>	長さ 3.3 cm 幅 3.0 cm 厚み 1.5 cm 重さ 5.9 g			備考 無蓋蓋で五角形を呈し、穿孔を有する。番号 高松遺物(1056年初検)。積層。
28 土製円筒 <th>長さ 4.4 cm 幅 4.1 cm 厚み 1.9 cm 重さ 18.9 g</th> <td></td> <td></td> <td>備考 円孔を穿つ。</td>	長さ 4.4 cm 幅 4.1 cm 厚み 1.9 cm 重さ 18.9 g			備考 円孔を穿つ。

29号住居跡 (第107~110図)

D調査区の南寄りではH44グリッドポイントをほぼ中心として検出された。西方に30号住居跡、南方に31号住居跡が隣接し、標高135.60m前後に位置する。本住居跡は建て替え並びに重複関係から4軒が存在した可能性がある。新しい住居から古い順に住居名を29A・29B・29C・29Dとした。

29A住居跡は29B住居跡の中央部分から東方にすっぱりと入り、土層断面と遺物の出土状況からその存在が判断された。形状・規模は約半分程が調査区外の東に及ぶ為に明確でない。形状は方形を呈すると考えられ、南北長3m、北辺(2.1)m程を検出した。壁高は50cm前後が残存し、床面は平坦を呈する。周溝は調査区の壁面に確認された。柱穴は検出されず、カマド・貯蔵穴は調査区外に及ぶ。遺物は高台付椀・須恵器蓋・粟片がある。

29B住居跡はカマドの一部を除いてほぼ全容が検出された。形状は南北に長い隅丸方形を呈し、南北長4.4m、東西長3.4m前後を測り、壁高は20~70cmが残存する。床面は堅緻な平坦面を呈する。柱穴は検出されず、周溝は南東部を除いてほぼ連続する。カマドは東辺の中央部分に白灰色粘土によって構築され、焚き口幅は45cmを測る。貯蔵穴は南東隅に設け、遺物は須恵器環・高台付椀、灰胎陶器、羽口等



29号住居跡土層注 (A-A')

■ 1~7層 (29号A住居跡埋土)・8層 (29号住居跡掘り方)・9~19層 (29号B住居跡埋土)・20層 (29号C住居跡埋土)

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1層 暗褐色土 ローム粒, FP, R・B, 焼土粒, カーボン粒含み砂質 | 11層 暗褐色土 ローム粒, 焼土粒, カーボン粒を含む |
| 2層 暗褐色土 ローム粒, R・B, 焼土粒含む | 12層 暗褐色土 11層に似るがローム粒多く含む |
| 3層 暗褐色土 ローム粒, R・B, 焼土粒, カーボン粒含む | 13層 暗褐色土 ローム粒, カーボン粒を含む |
| 4層 暗褐色土 ローム粒, R・B, 焼土粒, カーボン粒含む | 14層 暗褐色土 13層に似るが粒度が大きい |
| 5層 暗褐色土 ローム粒を多量, R・B, 焼土粒, カーボン粒含む | 15層 じょうい黄褐色土 R・Bを含む |
| 6層 暗褐色土 5層に似るが焼土粒多く含む | 16層 暗褐色土 ローム粒, カーボン粒, 焼土粒, R・Bを含む |
| 7層 暗褐色土 5・6層に似るが掘入物の粒度が小さい | 17層 暗褐色土 ローム粒を含む |
| 8層 暗褐色土 R・Bを均質に含む | 18層 じょうい黄褐色土 R・Bを含む |
| 9層 暗褐色土 FP, ローム粒, 焼土粒, カーボン粒を含む | 19層 暗褐色土 R・Bを均質に含む |
| 10層 黒褐色土 カーボン粒を含む | 20層 暗褐色土 ローム粒, 焼土粒, 少量のR・Bを含む |

第107図 29号住居跡

が点在して出土した。

29C住居跡は29B住居跡を一回り大きくした規模で、29B住居跡と西辺の一部を兼用する箇所が見られる。カマドと貯蔵穴は重複関係にあり、29B住居跡のカマドによって左袖部を破壊されている。貯蔵穴は29Bより一回り大きな規模で東西に長い楕円形を呈する。遺物は残存する東と北西隅の床面に須恵器坏等が出土した。

29D住居跡はその大半を29C住居跡によって破壊され、南辺と北部分が僅かに残る。形状は方形を呈すると考えられ、南北長5.3mで、壁高は残存の良い北壁で45cmを測る。南北壁下には部分的に周溝を検出したが、柱穴・カマド・貯蔵穴は不明である。出土遺物は皆無であった。

29Aと29B住居跡の出土遺物は作業時の不手際から明確な出土状況を把握できなかったものがある。

29号住居跡出土遺物 (第108~110図)

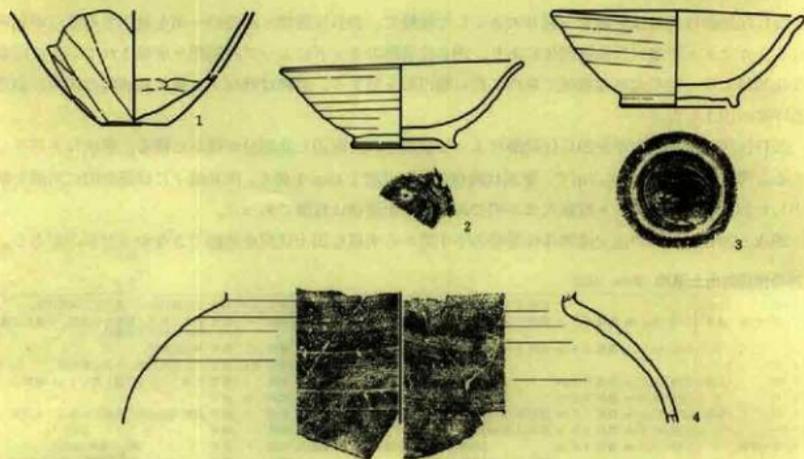
1	土師		直径 3.7 cm	色調 暗赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 外面縦位のヘラ削りで、スス付着。
2	高台付椀 (須臾)	口径 14.0 cm 器高 5.0 cm 底径 (5.7) cm		色調 黒褐色~褐色	胎土 #	焼成 #	備考 胎化炭焼成、輪轆水引成型。付高台で回転軸をきり未調整。
3	# (#)	口径 14.5 cm 器高 5.8 cm 底径 6.9 cm		色調 黒色~灰褐色	胎土 #	焼成 良好	備考 還元炭焼成。
4	椀 (#)			色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 広口唇の肩部、外面に整形痕。
5	土師	口径(9.6)cm 器高(6.2)cm		色調 赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 所謂「フの字口縁」を呈する口縁部片。
6	# (#)	口径(18.4)cm 器高(8.4)cm		色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 #
7	坏 (須臾)	口径 13.2 cm 器高 3.7 cm 底径 (6.0) cm		色調 明灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 輪轆水引成型。底部回転軸をきり未調整。
8	# (#)	口径(12.9)cm 器高 4.0 cm 底径(4.8)cm		色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 #
9	高台付椀 (#)	口径(14.6)cm 器高(4.6)cm		色調 黒褐色~灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # 高台付椀の体部片。
10	# (#)		直径 6.4 cm	色調 灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 # 還元炭焼成、内底に重ね痕、付高台で回転軸をきり未調整。
11	# (#)		直径(6.5)cm	色調 #	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 # 付高台で回転軸をきり未調整。
12	# (#)	口径(14.5)cm 器高 5.9 cm 底径(5.4)cm		色調 #	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # 体部片は無調整、付高台で回転軸をきり未調整。
13	高台付椀 (灰物)	口径(14.0)cm 器高 3.0 cm 底径(6.4)cm		色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 #
14	# (#)	器高 4.2 cm		色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 #
15	土師 (須臾)	器高(2.1)cm 底径 2.7 cm		色調 灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 器状の痕、天井部回転ヘラ削り。
16	土師 (#)			色調 灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 器蓋~肩部片で外面に自然痕。外面は平行印目、内面は磨り削り？
17	羽口		重さ 56 g				
18	土師 (土師)	口径(12.9)cm		色調 淡褐色~褐色	胎土 #	焼成 #	備考 小型台付椀の口縁部片？
19	# (#)			色調 赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 内面に暗い褐色と黒色でコーティング。※分析結果参照。
20	坏 (須臾)	口径(12.4)cm 器高 3.7 cm 底径(6.0)cm		色調 灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 輪轆水引成型。底部回転軸をきり未調整。
21	高台付椀 (#)	口径(14.6)cm 器高(4.6)cm 底径(5.8)cm		色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 # 還元炭焼成、付高台で回転軸をきり未調整。
22	# (#)	器高(3.2)cm 底径(7.1)cm		色調 ぐすんだ淡灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 # 還元炭焼成、内底は炭化鉄製がれ。
23	坏？ (#)			色調 ぐすんだ灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 土師土器 外面体部に磨着。
24	高台付椀 (#)			色調 灰褐色~黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 土師土器 内外面の体部に磨着。
25	坏 (#)			色調 淡白色	胎土 #	焼成 #	備考 土師土器 外面に磨着。
26	高台付皿 (#)	口径(12.8)cm 器高 2.8 cm 底径(7.1)cm		色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 輪轆水引成型。断面三角形の付高台で回転軸をきり未調整。
27	高台付椀 (灰物)		直径(7.2)cm	色調 灰白色	胎土 #	焼成 #	備考 #
28	蓋 (須臾)	器高(1.2)cm 底径 3.0 cm		色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 蓋の形状は扁平な宝珠形。
29	土師 (#)			色調 黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 器部片
30	# (#)			色調 青灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 器部片
31	# (#)			色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 器の口縁部片
32	# (#)			色調 灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 外面平行印目
33	# (#)			色調 淡灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 外面平行印目、内面？
34	坏 (須臾)		直径(7.3)cm	色調 灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 輪轆水引成型。底部ヘラ削り？
35	# (#)	口径(11.1)cm 器高(4.1)cm		色調 灰白色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 # 底部回転ヘラ削り。

30号住居跡 (第111図)

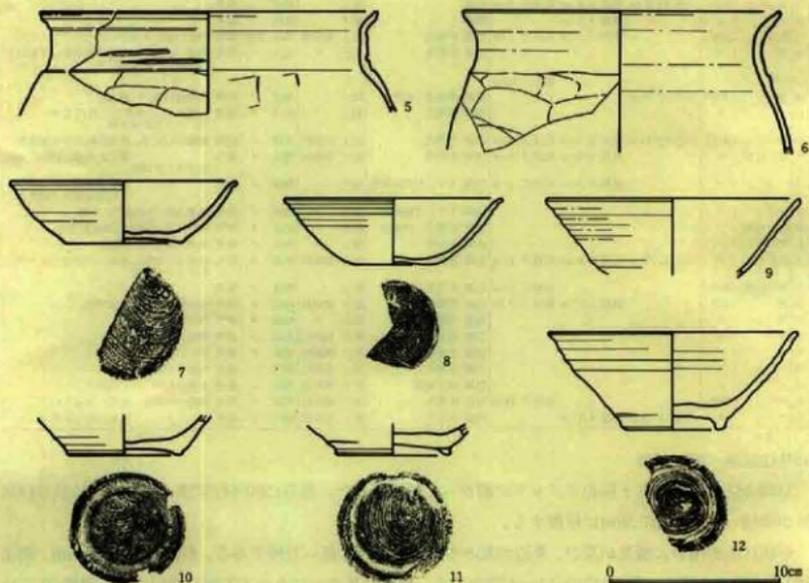
D調査区の南方でF・G43グリットに跨がって検出された。東方に29号住居跡、南東方向に31号住居跡が隣接し、標高135.50mに位置する。

形状は南西部に攪乱が及び、東辺が丸みを呈する東西に長い方形である。規模は東西長3.5m、南北長2.8m前後を測る。壁高は36~51cmが残存する。床面は緩やかにカマド方向に傾斜する。周溝・柱穴は検出されなかった。

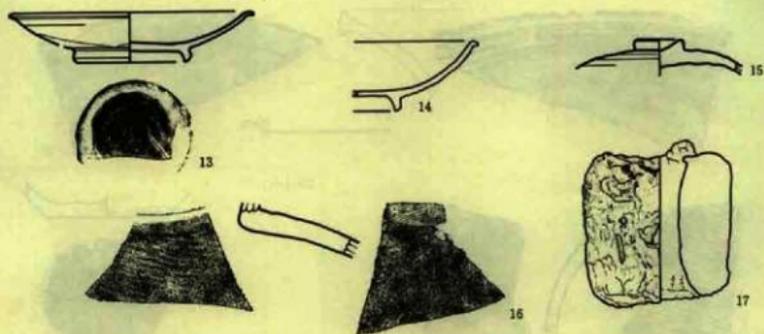
29H-A



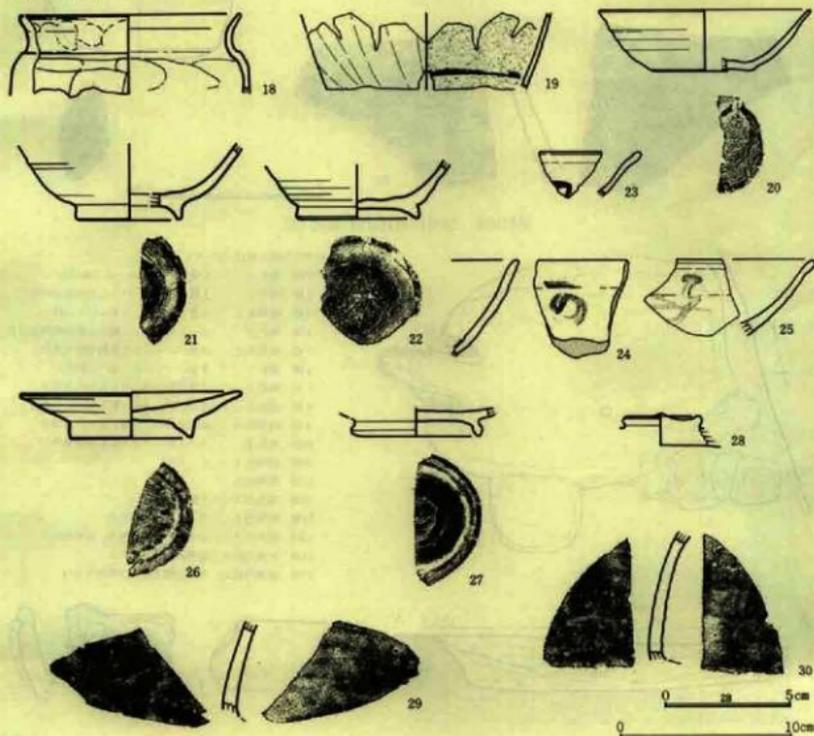
29H-B



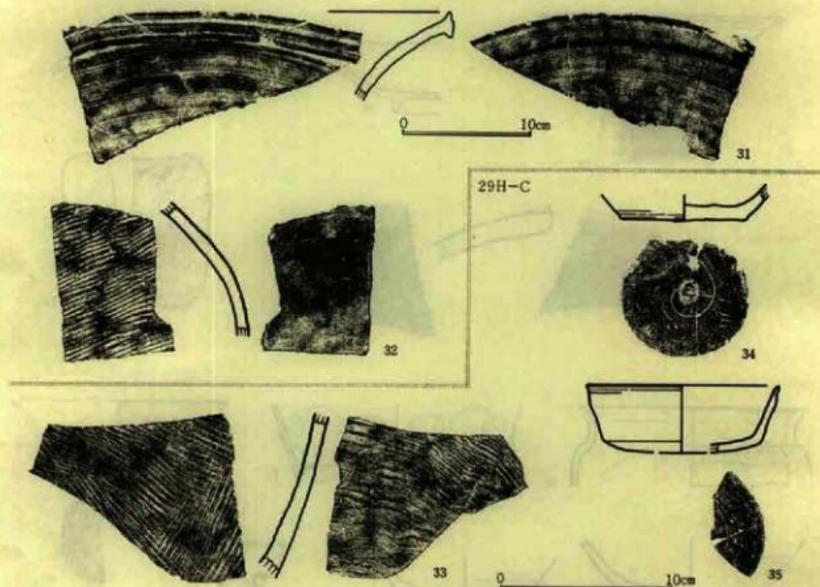
第108圖 29号住居跡出土遺物 (1)



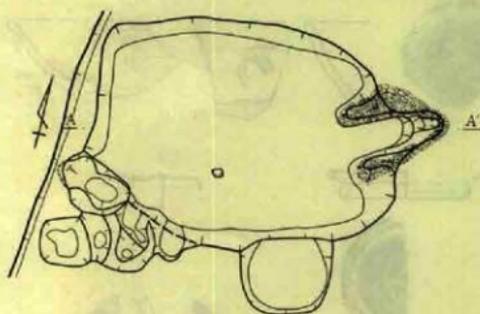
29H-A? B?



第109图 29号住居跡出土遺物 (2)

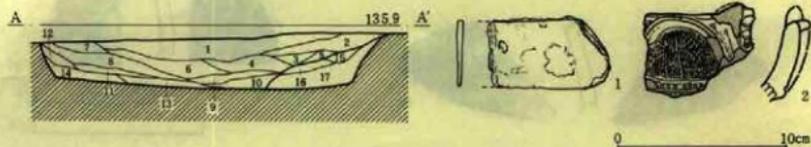


第110図 29号住居跡出土遺物 (3)



30号住居跡土層詳 (A-A)

- 1層 褐色土 少量のFP、小ロームB粒含む
- 2層 褐色土 1層より細かい、ロームBを斑点状に
- 3層 暗褐色土 1層より細かい、少量のローム粒
- 4層 褐色土 ロームB、ローム粒、少量の暗褐色土B
- 5層 暗褐色土 少量のロームBと灰褐色粘土含む
- 6層 褐色土 多量のロームB、ローム粒含む
- 7層 褐色土 2層に似るが、ロームBの含有少
- 8層 褐色土 ロームB、ローム粒を斑点状に含む
- 9層 暗褐色土 粘性をおび、少量のロームB含む
- 10層 褐色土 ロームB、小ロームBを少量含む
- 11層 暗褐色土 ローム粒
- 12層 黒褐色土
- 13層 暗褐色土 9層より明るい
- 14層 暗褐色土 ローム粒、黒褐色土
- 15層 暗褐色土 ローム粒、黒褐色土、灰褐色粘土
- 16層 灰褐色粘土 暗褐色土とロームB
- 17層 灰褐色粘土 黒褐色粘土B、暗褐色土含む

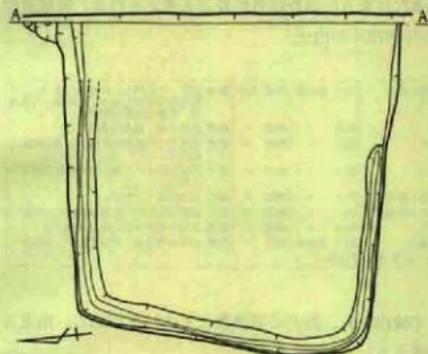


第111図 30号住居跡・出土遺物

カマドは東辺の北寄りに黒褐色粘質土で構築され、主軸はN-75°-Eにとる。焚き口から煙道部まで1.2mで70cm程張り出す。焚き口幅は40cmを測る。貯蔵穴は検出されず、遺物は覆土中から鉄鍔片と縄文中期の土器片が出土したのみであった。

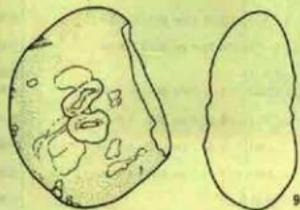
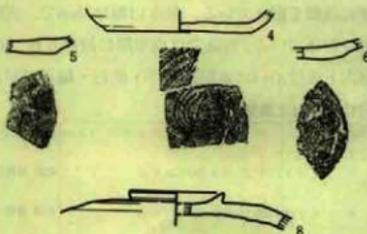
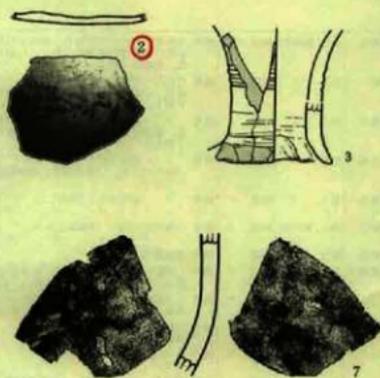
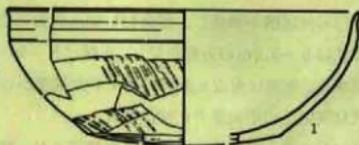
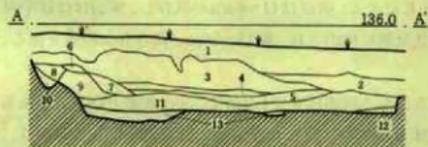
30号住居跡出土遺物 (第11180)

1 鉄鍔	重さ 36.8 g
2 縄文時代中期 平口縁を呈し、突起を付す。胴部により文様を施し、地文は彫糸文。	



31号住居跡土層柱 (A-A')

- 1層 暗褐色砂質土 現耕作土
- 2層 暗褐色砂質土 道路跡 ラミナを散状構成
- 3層 黒褐色土 FP、ローム・焼土・カーボン粒子点在
- 4層 暗褐色土 FP ローム粒子均質 R・B、焼土粒子点在
- 5層 黒褐色土 ローム粒子混入 FP・焼土粒子・R・B点在
- 6層 暗褐色土 ローム粒子混入
- 7層 暗褐色土 ローム粒子混入 FP・R・B、焼土粒子点在
- 8層 黒褐色土 FP均質混入 ローム粒子均質混入
- 9層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 R・B点在
- 10層 暗褐色土 ローム粒子混入
- 11層 暗褐色土 ローム粒子・FP混入 焼土粒子、R・B点在
- 12層 におい黄褐色土 R・B、暗褐色土、ローム粒子の混入
- 13層 におい黄褐色土 12層に類似 12層より粒度大きい



第112図 31号住居跡・出土遺物

0 10cm

31号住居跡 (第112図)

D調査区の南方でH42グリットにその主体を占めて検出され、カマドの構築されている東辺は調査区外に及ぶ。南辺の東方で道路趾が走行する。北方に29・30号住居跡が隣接し、標高135.40m前後に位置する。形状は東西に長い方形を呈し、規模は西辺3.4m、南辺(4)mを測る。壁高は24~60cmが残存する。床面はほぼ平坦を呈する。周溝は南辺中央付近から西辺、北辺と連続し、幅20~25cmで深さ4~9cmを測る。柱穴は検出されなかった。カマドと貯蔵穴は東方の調査区外に及ぶと考えられる。特殊遺物として覆土中より、「大見万財口」と書かれた2の坯底部片が出土。

31号住居跡出土遺物 (第112図)

1	椀 (土師)	口径(20.5)cm 器高(7.9)cm 底径(10.8)cm	色調 淡褐色~褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 底部から内湾し、口縁部は直立。口縁部を塗り気味とする。口縁部~内面横溝、外面と底部へう張り。
2	杯 (土師)		色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 蓋蓋土器。底部へう張り。
3	兵部壺 (灰胎)		色調 灰白色	胎土 #	焼成 #	備考 壺底片で口縁部を欠損。3本の衣類を溜らす。
4	杯 (灰胎)	高径(8.4)cm	色調 灰白色	胎土 #	焼成 #	備考 壺底の転去まり後、部分的に手持ちへう張り。
5	# (#)		色調 灰褐色~暗灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 底部回転へう張り。
6	# (#)		色調 灰白色~灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 底部回転未まり後、周縁部回転へう張り。
7	蓋 (灰胎)		色調 黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 外底平打叩き目。内面横溝。
8	蓋 (#)	高径(5.3)cm	色調 青灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 扁平な壺状底。天井部回転へう張り。
9	西石	長さ11.9cm 幅9.4cm 厚さ5.4cm 重さ693g	材質 輝石宝山岩			

32号住居跡 (第113~116図)

E調査区の北西隅でF36・37グリットに跨って検出され、西方の道路敷にその一部に係る。南東方で33号住居跡が隣接し、標高134.60m前後に位置する。

形状は5~5.2mの方形を呈し、主軸はN-56°-Eにとる。壁高は44~64cmが残存し、床面はほぼ平坦を呈する。周溝は南辺と東辺のカマド左袖部から北東隅に検出され、幅15~20cm、深さ5cm前後を測る。柱穴は南壁下の中央部分に検出された。

カマドは東辺の中央やや南寄りに構築され、焚き口から煙道部まで1.2mで、30cm程張り出す。両袖部先端には礎を据えている。焚き口幅は35cmで、火床は緩やかに窪む。煙道部は直立気味に立ち上がり、有段を設けている。貯蔵穴は南東隅に設けられ、80×86cmの円形で深さ60cm前後を測る。遺物はカマド・貯蔵穴と南壁沿いに長胴壺・杯・磁石・編石等が出土した。

32号住居跡出土遺物 (第114~116図)

1	兵部壺 (土師)	口径16.8cm 器高26.0cm 底径3.5cm	色調 褐色~黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 完形で割部の一部が歪む。細長い瓜形の割部。口縁部は直線的に開く。口縁部横溝。割部へう張り。
2	# (#)	口径(21.2)cm 器高(20.0)cm	色調 淡褐色~褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部~割部中位1/4残存。割部上位やや斜。口縁部は外反。割部底位~縁位へう張り。
3	# (#)	口径(18.0)cm 器高(17.0)cm	色調 褐色~暗褐色	胎土 #	焼成 #	備考 # ~割部下位1/2残存。小型の長胴壺。割部に粘土付着。割部斜位~縁位へう張り。
4	# (#)	口径(19.7)cm 器高(14.2)cm	色調 淡褐色~赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 # ~割部中位1/2残存。割部で折れ。口縁部は外反。口縁部横溝。割部底位のへう張り。
5	# (#)	口径(21.0)cm 器高(15.8)cm	色調 くすんだ褐色~黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 # ~割部中位1/3残存。 #
6	# (#)	口径21.8cm 器高(8.6)cm	色調 褐色~黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 口縁部2/3残存。口縁部に歪み。 #
7	# (#)		色調 褐色~黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 割部底位のへう張り #
8	杯 (土師)	口径(12.3)cm 器高5.5cm	色調 灰褐色~黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 1/2残存。体部と口縁部の境に境。口縁部は直立。口縁部~内面横溝。底部へう張り。 #
9	# (#)	口径12.6cm 器高4.0cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 2/3残存。 #
10	# (土師)	口径12.7cm 器高4.0cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部1/3欠損。 #
11	# (土師)	口径11.5cm 器高4.1cm	色調 赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 ほぼ完形。 #
12	壺 (灰胎)		色調 淡灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 割部片。外面磨り消し。内面青陶状。 #
13	磁石	長さ8.2cm 幅3.5cm 厚さ4.0cm 重さ221g	材質 波紋岩			
14	編石	長さ12.4cm 幅5.5cm 厚さ4.8cm 重さ458g	材質 輝石宝山岩			
15	編石	長さ14.5cm 幅5.8cm 厚さ3.2cm 重さ770g	材質 無磁品安山岩			

16	編石	長さ 15.0 cm 幅 7.0 cm 厚さ 5.1 cm 重さ 594 g	石質 輝石安山岩	
17	縄文時代中期	口縁部片で、平截竹管による円弧文を彫し、内面には断面内状の縁帯を横位に施す。18と同一体。		
18	縄文時代中期			
19	縄文時代中期	平口縁を呈し、口唇部を短く外反させる。沈線文により、平内文等を配す。		
20	縄文時代中期	口縁部縁帯はコイル状に刻み目を施す横位隅状突起を付し、横位平内文と交互刺突文を配す。		
21	縄文時代中期	把手部分を欠損。縁帯により横位区画を施す。区画内を沈線文を縦位と横位で充塞する。		
22	縄文時代中期	沈線の口縁部片と考えられ、口唇部を横位に尖らせる。僅かであるが口唇部内面に朱彩が残る。		
23	縄文時代中期	育割り縁帯により、南門口区画を繋ぐ口縁部片。		
24	縄文時代中期	縁帯による意匠文と縦位の沈線文を施す。		
25	縄文時代中期	育割り縁帯により、口縁部文を意匠する。		
26	縄文時代中期	無文帯で「く」の字状に屈曲する口縁部片。縁帯を縦位や斜位に施す。内面も丁寧に研磨されている。		
27	縄文時代中期	頸部～底部付近の胴体で、頸部には縁帯を横位に高らし、縦位にRLを充塞する。		
28	打製石斧	長さ 7.9 cm 幅 5.7 cm 厚さ 2.7 cm 重さ 111 g	石質 無磁品安山岩	
29	打製石斧	長さ 9.9 cm 幅 5.9 cm 厚さ 2.6 cm 重さ 198 g	石質 砂岩	
30	磨石	長さ 7.8 cm 幅 6.8 cm 厚さ 3.2 cm 重さ 230 g	石質 輝石安山岩	
31	多孔石	長さ 30.7 cm 幅 28.2 cm 厚さ 12.1 cm 重さ 11 kg	石質 多孔質輝石安山岩	備考

33号住居跡 (第117図)

E調査区の北方でその大半がF35・36グリットに跨って検出され、J9号住居跡を切って構築されている。南西方向に34号住居跡、北西方向に32号住居跡が隣接し、標高134.50mに位置する。

形状は南北に長い隅丸方形を呈する。規模は東西辺が4.35m、北辺3.4m、南辺3mを測り、南北辺がカマド部分で40cm程食い違ふ。床面はほぼ平坦を呈し、周溝は東辺の中央から西辺の中央付近まで連続し、僅かに途切れて南西部分にも検出された。幅15～20cm、深さ2～9cmを測る。柱穴は検出されなかった。

カマドは東辺の南寄りに灰褐色粘土で構築され、側壁に須恵器の大甍片を補強材として使用している。焚き口から煙道部まで85cm、張り出しは55cmを測る。火床は浅い皿状の窪みを呈し、煙道部は垂直に建ち上がる。貯蔵穴は南東隅に設けられ、形状は隅丸三角形を呈する。遺物は点在し、緑釉陶器と北西隅で鉄斧が出土した。

33号住居跡出土遺物 (第117図)

1	罌 (土器)		色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 所謂「コ」字状口縁を呈する。
2	高台付罌 (緑釉)	口径 6.6 cm	色調 褐色	胎土	焼成	備考 輪軸水引成形。全面に施釉する。
3	高台付罌 (黄緑)	口径 14.0 cm 器高 5.3 cm 底径 5.8 cm	色調 灰白色～黄褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 * 還元炎焼成。付高台、黄緑釉が未だり未調査。
4	* (#)	器高 12.9 cm 底径 6.7 cm	色調 # #	胎土 #	焼成 #	備考 # # 内面に黄褐色。
5	罌 (#)		色調 灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 内外面叩き目を磨り出す。
6	鉄斧	長さ 9.5 cm 幅 4.2 cm 厚さ 2.3 cm 重さ 119 g				
7	縄文時代中期	有蓋沈線文を横位に施す				

34号住居跡 (第118図)

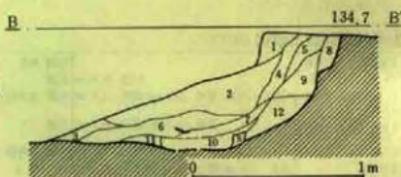
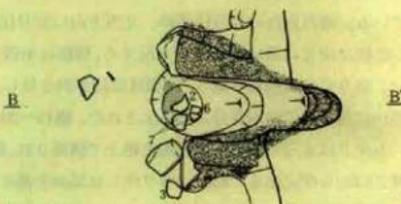
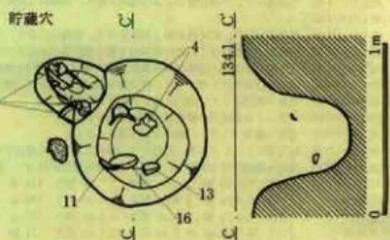
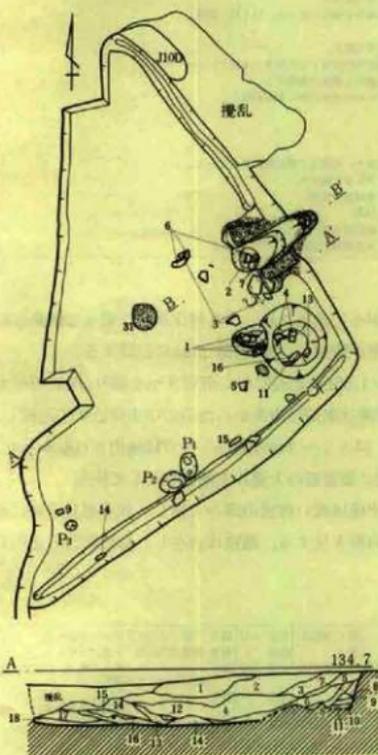
E調査区の北寄りでE34・F34グリットに跨って検出され、その大半を調査区外の道路敷であるE34グリットに占める。南方に36号住居跡、北方に33号住居跡があり、標高134.10m前後に位置する。

調査された部分はカマドが構築されている東辺から南辺の一部であり、形状と規模は不明確である。主軸はN-55-Eにとる。検出された東辺(2.5)m、南辺(1.2)mを測り、壁高は17～20cmが残存する。床面はほぼ平坦で、周溝と柱穴は検出されなかった。

カマドは東辺の中央やや南寄りに灰褐色粘土で構築され、張り出しの煙道部付近を近世と考えられる長方形の土坑で破壊されている。焚き口から煙道部まで83cm、張り出しは40cm前後を測る。貯蔵穴は南東隅で、カマド右袖の脇に設けられている。形状は50×45cmの円形を呈し、深さ37cmを測る。遺物は覆土中から縄文時代中期の土器片と打製石斧の2点が出土した。

34号住居跡出土遺物 (第118図)

1	縄文時代中期				
2	打製石斧	長さ 5.7 cm 幅 4.3 cm 厚さ 1.4 cm 重さ 4.5 g	石質 無磁品安山岩		



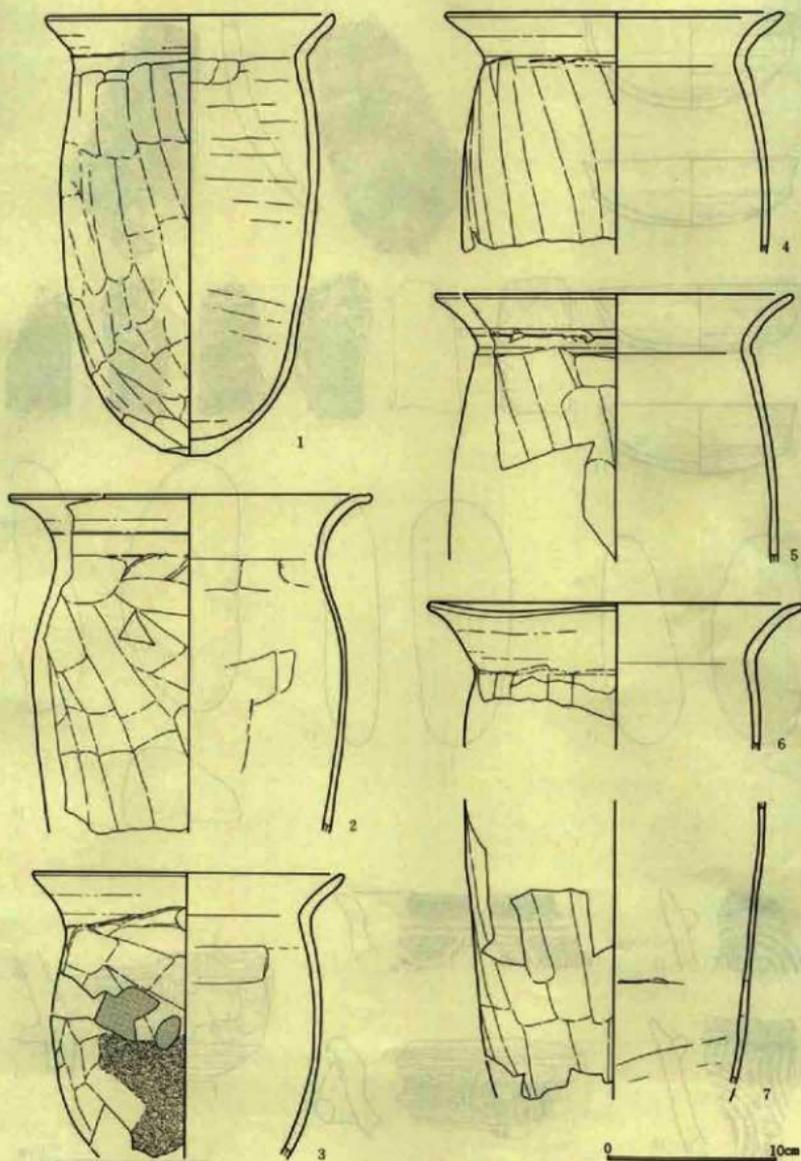
32号住居跡土層注 (A-A')

- 1層 暗褐色土 ローム粒子、FP混入、R・B微量点在
- 2層 暗褐色土 黒色土B、R・B、ローム粒子、焼土粒子微量点在
- 3層 暗褐色土 ローム粒子、FP混入、R・B少量、焼土粒子微量点在
- 4層 暗褐色土 黒色土B、R・B、ローム粒子、FP少量混入
- 5層 暗褐色土 粒度が揃った均質層、ローム粒子均質混入
- 6層 暗褐色土 5層より明るい、ローム粒子、焼土粒子微量点在
- 7層 暗褐色土 灰褐色粘土粒子均質混入
- 8層 暗褐色土 5、6層より混入物少ない
- 9層 灰褐色土 灰褐色土 灰褐色粘土粒子混入
- 10層 暗褐色土 7層より混入物の粒度が大きく不均質
- 11層 灰褐色土 9層に類似、混入物の粘土が大きく不均質
- 12層 暗褐色土 粒度が小さく均質な層、やや粘質 混入物少ない
- 13層 暗褐色土 ローム粒子混入、黒色土B混入
- 14層 暗褐色土 ローム粒子の混入多く、黒色土B混入少ない
- 15層 黒褐色土 ローム粒子混入、粘り強い
- 16層 暗褐色土 ローム粒子、R・B混入
- 17層 黒褐色土 ローム粒子混入
- 18層 暗褐色土 R・B、ローム粒子、黒褐色土の混土

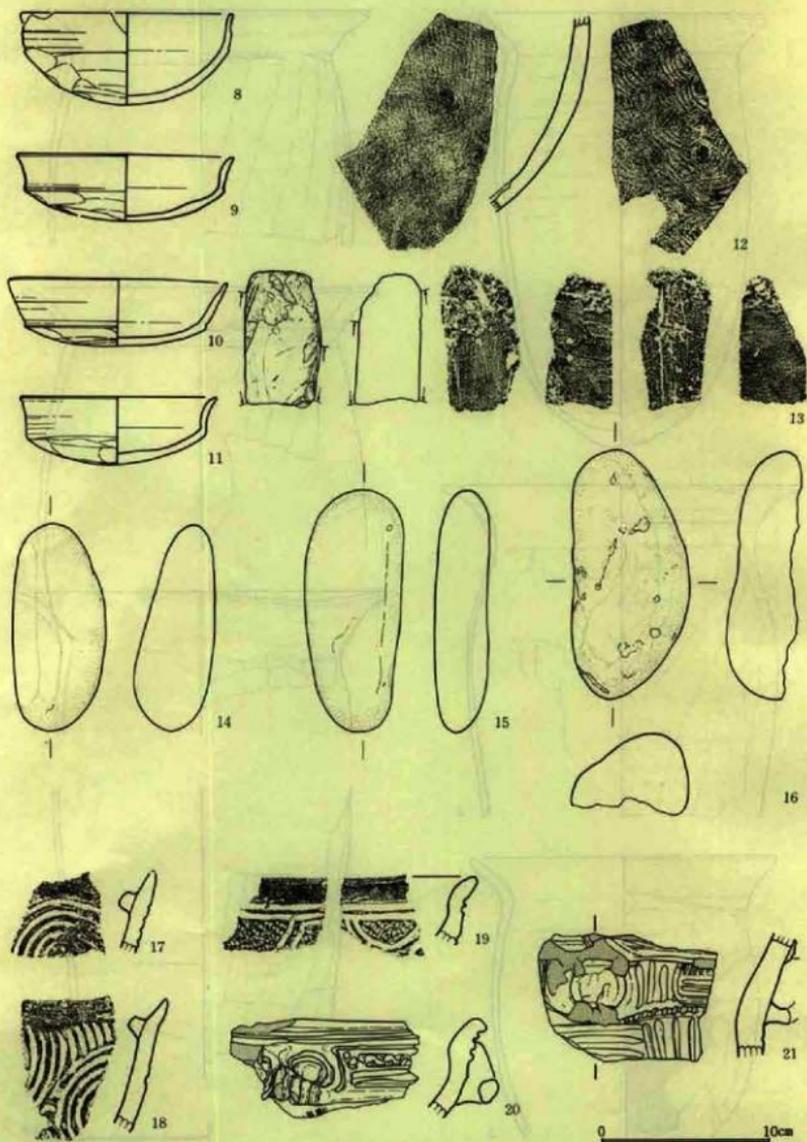
32号住居跡土層注 (B-B')

- 1層 暗褐色土 少量の焼土B含む
- 2層 褐色土 焼土B、ロームB、暗褐色土含む
- 3層 黒褐色土 暗褐色土含む
- 4層 灰褐色粘質土 多量の焼土B含む、暗褐色土混
- 5層 灰褐色粘質土
- 6層 暗褐色土 少量の焼土B混土
- 7層 暗褐色土 6層より焼土多い
- 8層 暗褐色土 焼土B多く含む
- 9層 褐色土 12層に似るが、少量黒褐色土含む
- 10層 灰層と焼土
- 11層 灰褐色粘土
- 12層 褐色土 焼土B少量含む

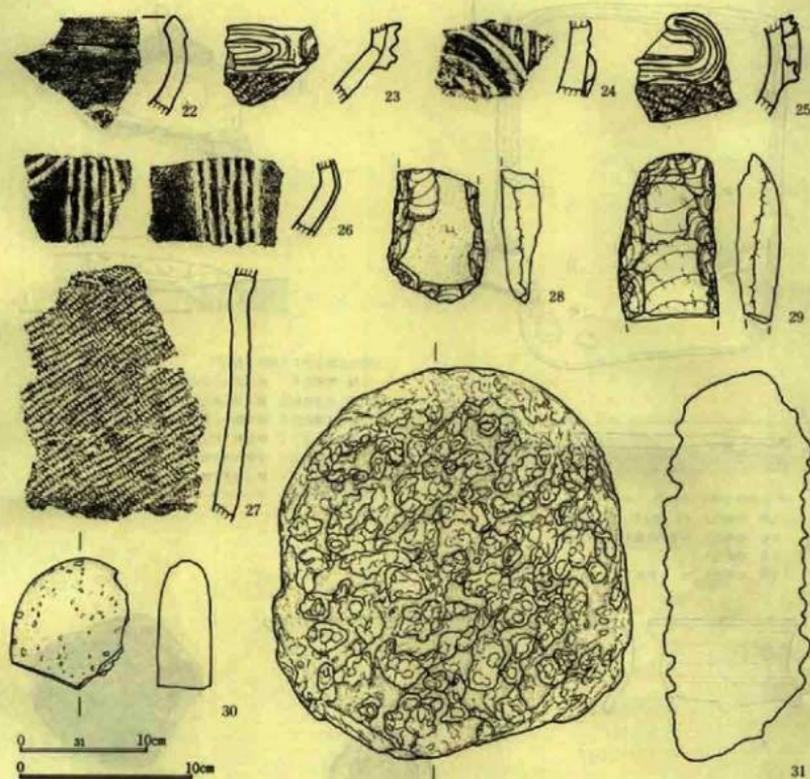
第113図 32号住居跡



第114图 32号住居跡出土遺物(1)



第115图 32号住居跡出土遺物(2)



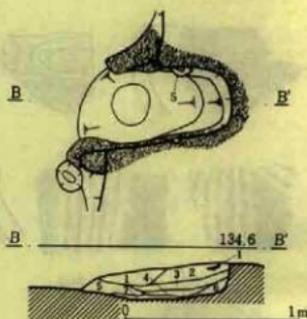
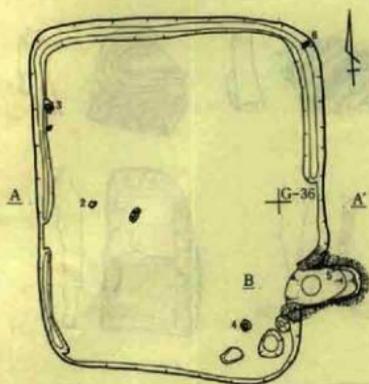
第116図 32号住居跡出土遺物(3)

35号住居跡 (第119・120図)

E調査区の中央部分でF31・32グリットに跨がって検出され、北方で36号住居跡、西方で37号住居跡を切っている。さらに1号孤立柱建物跡と重複する。竪穴住居跡の新旧関係は37→36→35号住居跡の順に構築されている。東方に38号住居跡が隣接し、標高134.00m付近に位置する。

形状は南北に長く、南東部分が歪む隅丸方形を呈する。規模は東西辺4.1m、北辺3.3mで壁高は残存の良い東辺で20cm前後を測る。床面は北壁際が僅かに高くなる。周溝は東辺の北方に検出され、幅25cm、深さ7cmを測る。柱穴は検出されなかった。

カマドは東辺の中央付近に灰褐色粘土で構築され、主軸をN-84°-Eにとる。袖石は右に2石、左に1石を据え、焚き口から煙道部まで1.2m、張り出しは88cmを測る。焚き口は5cm程掘り込んで燃成部に向けて緩やかに窪む。煙道部分は幅を狭めて細長く突出する。内部には支脚に使用した礫が据えられている。貯蔵穴は南東隅に設けられ、東西方向にやや長い57×47cmの楕円形を呈し、深さ28cmを測る。

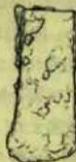
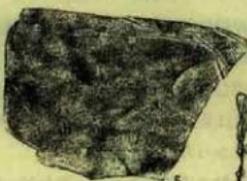
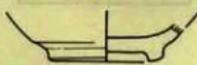
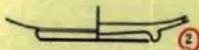


33号住居跡土層註 (A-A')

- 1層 黒褐色土 FP、焼土粒、ロームB含む
- 2層 暗褐色土 少量の黒褐色土 FP含む
- 3層 暗褐色土
- 4層 暗褐色土 ローム粒多く含む

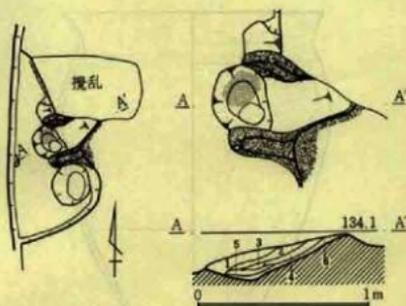
33号住居跡ホムド土層註 (B-B')

- 1層 暗褐色土 焼土含む 炭化物、ローム含む
- 2層 灰褐色粘土 焼土Bを斑点状に含む
- 3層 灰褐色粘土 暗褐色土、灰褐色粘土、焼土B含む
- 4層 褐色土 焼土B 粒子多く含む
- 5層 暗褐色土 少量の焼土粒、カーボン粒
- 6層 暗褐色土 焼土B多く含む
- 7層 暗褐色土 ソフトでローム粒、焼土粒含む



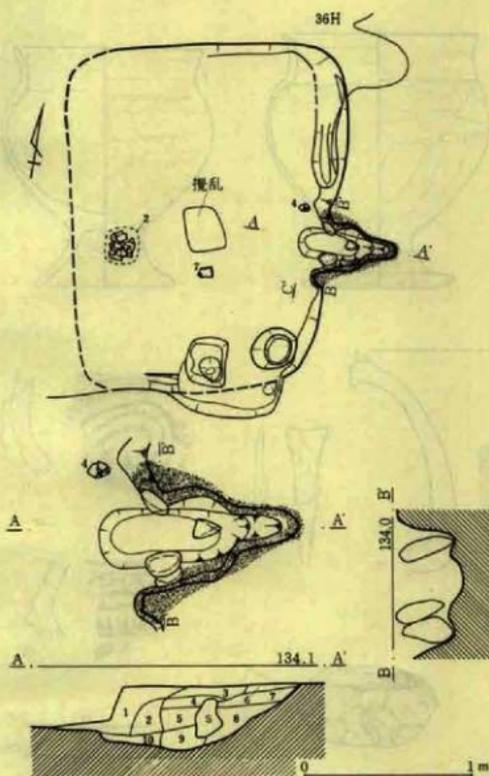
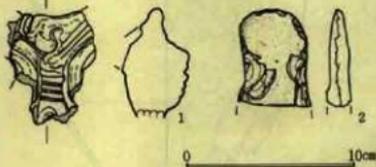
0 10cm

第117図 33号住居跡・出土遺物

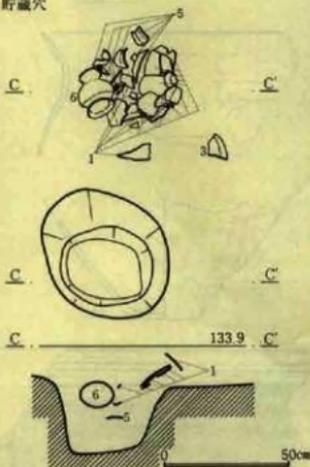


34号住居跡カマド土層註 (A-A')

- 1層 暗褐色土 少量の焼土B含む
- 2層 暗褐色土 焼土B多く含む、1層より明るく少量灰含む
- 3層 暗褐色土 小ロームB、焼土散
- 4層 灰褐色土
- 5層 灰褐色土 小ロームB少量含む
- 6層 灰褐色土 小ロームB少量、暗褐色土含む



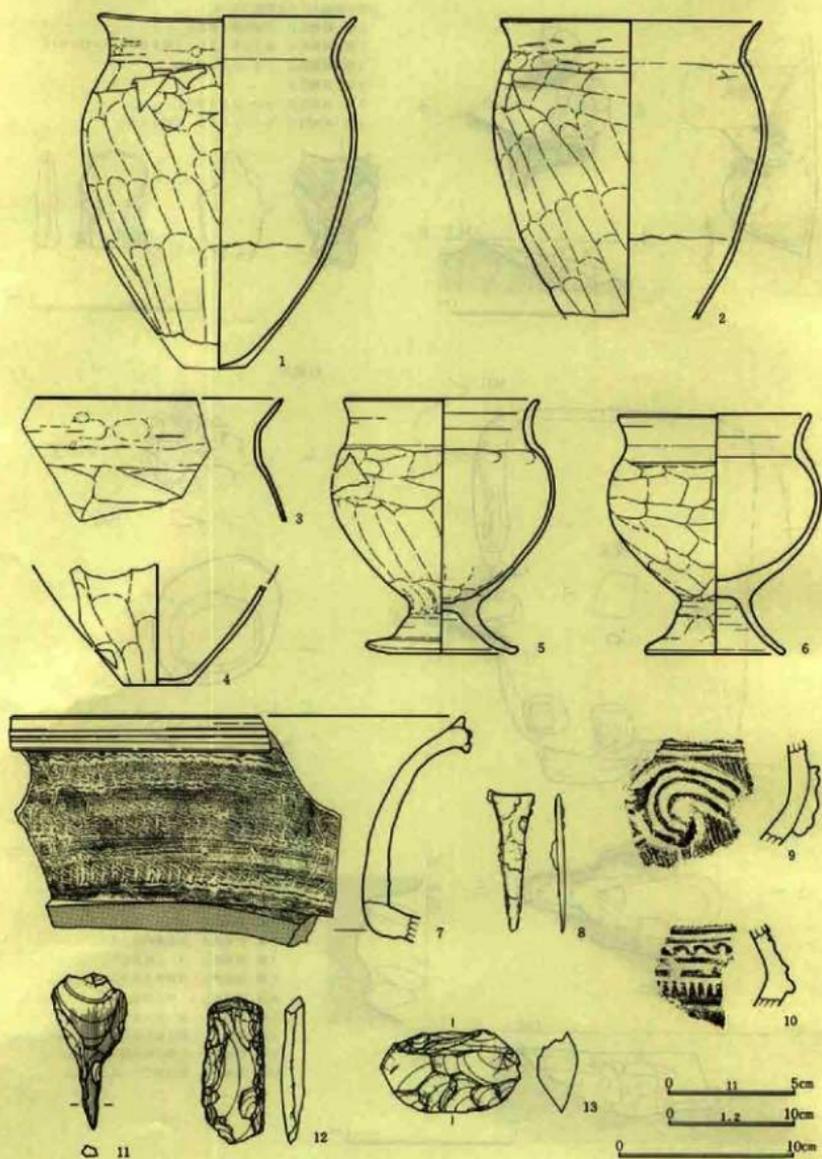
貯蔵穴



35号住居跡カマド土層註 (A-A')

- 1層 黒褐色土 小ロームBを少量含む
- 2層 黒褐色土 焼土B、黄褐色土含む
- 3層 暗褐色土 灰黄褐色粘土含む
- 4層 暗褐色土 ローム粒含む
- 5層 暗褐色土 黒褐色土を含みソフト
- 6層 灰黄褐色土 焼土Bを含む
- 7層 褐色土 焼土Bを多く含む
- 8層 褐色土 焼土Bと小ロームBを含む
- 9層 暗褐色土 少量の焼土散 灰を含む
- 10層 暗褐色土 硬点状でロームBを含む

第119図 35号住居跡



第120图 35号住居跡出土遺物

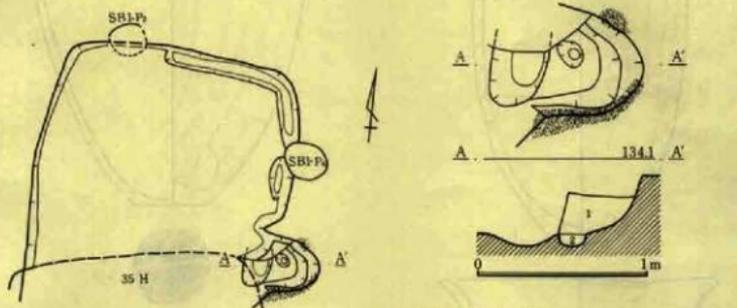
35号住居跡出土遺物 (第120図)

1	罎 (土器)	口径 20.1 cm 器高 37.6 cm 底径 4.8 cm	色調 淡褐色～黒褐色	胎土 塗砂粒	焼成 良好	備考 ほぼ完形。口縁部横溝、胴部へら削り、胴部下半に粘土付着。
2	# (#)	口径 20.2 cm 器高(23.3)cm	色調 赤褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 底部を欠損。 # # #
3	# (#)		色調 暗褐色	胎土 #	焼成 #	備考 #
4	# (#)	底径 3.9 cm	色調 赤褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 部位のへら削り。
5	脚台付罎 (土器)	口径 11.2 cm 器高 15.0 cm 底径 8.7 cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 ほぼ完形。口縁部横溝、胴部へら削り。
6	# (#)	口径 11.0 cm 器高 14.2 cm 底径 7.9 cm	色調 # #	胎土 #	焼成 #	備考 変形。
7	罎 (須恵)		色調 灰褐色	胎土 塗砂粒	焼成 良好	備考 頸部に3段の柱状文を施す。
8	鉄鏝	長さ 8.4 cm 幅 2.3 cm 厚さ 0.8 cm 重さ 17.4 g				備考 頸部の方部を有する方面鏝。
9	縄文時代中期	背削り跡等により横S字状文を連結すると思われる口縁部行。				
10	縄文時代中期	頸部部に刻み目を施す鏝等で口縁部文様部を区画し、区画内を横位平行沈線文と交互刺突文を配す。				
11	石鏝	長さ 6.2 cm 幅 2.9 cm 厚さ 0.9 cm 重さ 12.4 g	石質 無燐晶安山岩			
12	打製石斧	長さ 8.7 cm 幅 3.7 cm 厚さ 1.3 cm 重さ 51 g	石質 無燐晶ガラス質安山岩			
13	スプレーパー	長さ 8.2 cm 幅 4.9 cm 厚さ 2.3 cm 重さ 99 g	石質 無燐晶ガラス質安山岩			

36号住居跡 (第121図)

E調査区の中央部分でF32グリットに検出され、南西部分は重複する37号住居跡の上面を切り、南東部分を35号住居跡に切られている。さらに1号掘立柱建物跡とも重複する。

形状は南辺が35号住居跡に破壊されて欠損するが、南北に長い方形を呈すると考えられる。規模は北辺が3.1m、西辺(3.4)mが残る。壁高は17~26cmが残存する。床面はほぼ平坦である。周溝はカマドの北方から北辺の中央付近に続く。幅20cm前後、深さ3cmと浅い。柱穴は検出されなかった。

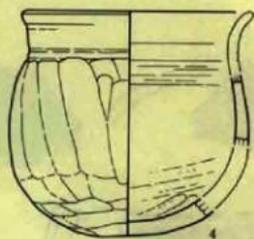
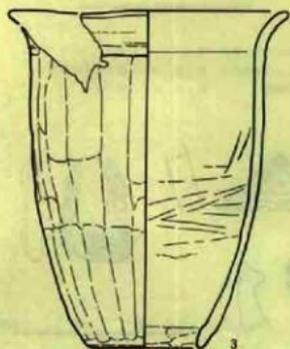
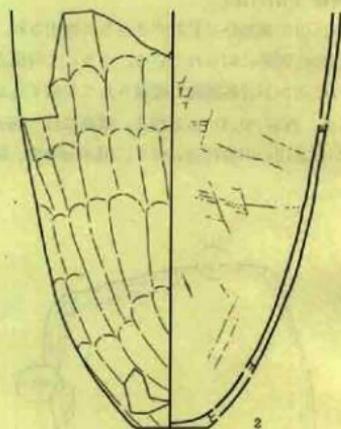
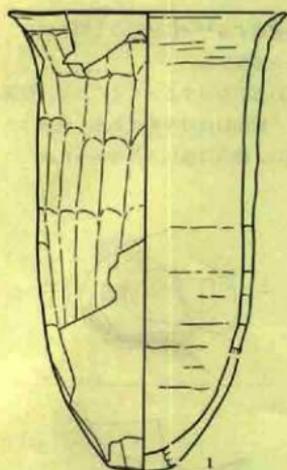
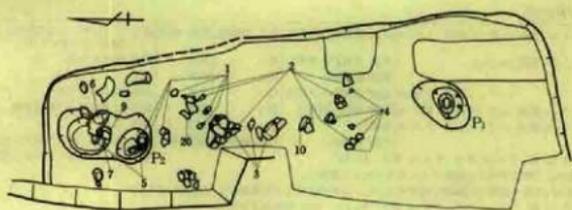


36号住居跡カマド土層柱 (A-A)

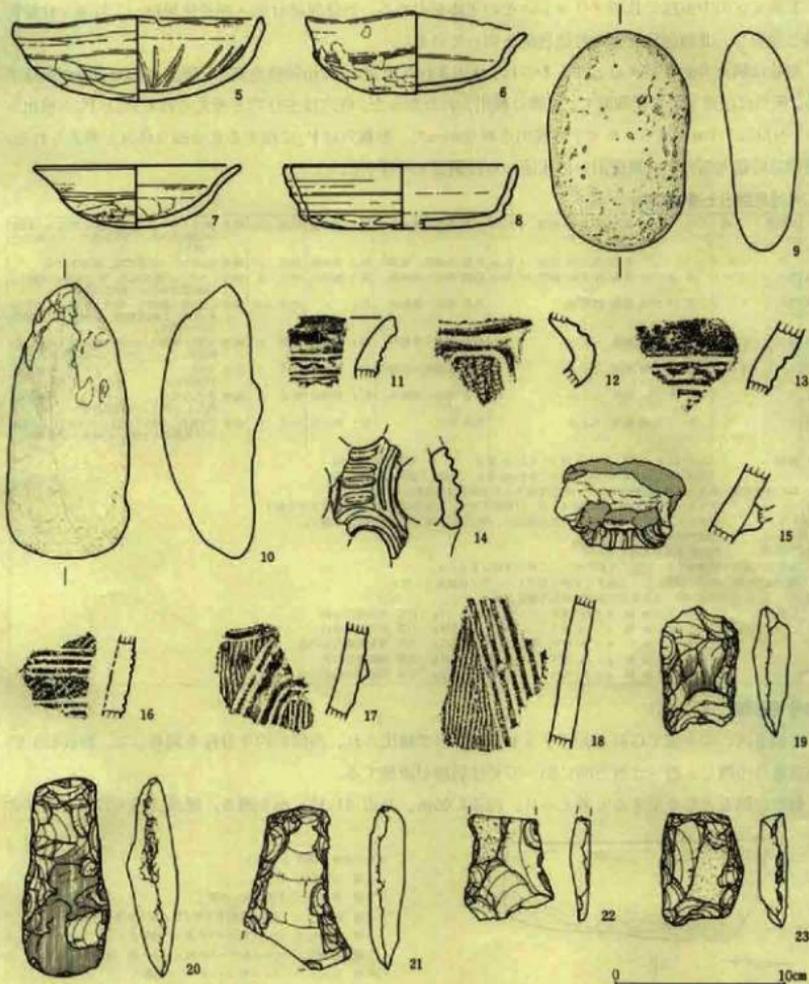
- 1層 じょうい黄褐色土 R・B、ローム粒子多量に混入
2層 暗褐色土 R・B、ローム粒子混入



第121図 36号住居跡・出土遺物



第122図 37号住居跡・出土遺物(1)



第123図 37号住居跡出土遺物(2)

36号住居跡出土遺物 (第121図)

1 甕 (直足)	色調 灰褐色	胎土 細砂粒 構成 良好 備考 肩部片。外面磨き目調整、内面横溝。
2 縄文時代前期	器職り式期の所産。矢羽状に彫み目を施す厚線文を貼付する。	
3 縄文時代中期	平口縁を呈し、縁等により横間区画文を配す。区画内にLRを充填する。口唇部は内面にも此状に隆帯を突出させる。	
4 //	熱湯文を施文後に口縁部分文様帯の下方区画を隆帯、上方を平縁竹管による平行沈線と交互刺突を施し区画する。	
5 打製石斧	長さ 6.5 cm 幅 4.3 cm 厚さ 1.2 cm 重さ 42g 石質 無彫品安山岩	

37号住居跡 (第122・123図)

E調査区の中央部でE32グリットにその主体を占める。当住居跡は35・36号住居跡、1号掘立柱建物跡と重複し、北西部分でJ10号住居跡を切っている。

形状は隅丸方形を呈すると考えられ、検出された東辺は6.2m前後を測る。壁高は40cm前後が残存する。床面はほぼ平坦な堅緻面で、周溝は検出されなかった。柱穴は支柱穴と考えられるP₁とP₂が検出され、柱間は3.7mを測る。カマドは検出されなかった。貯蔵穴はP₂に接する北の掘り込みと考えられる。遺物は貯蔵穴部分から東壁沿いの床面から長胴甕・坏等が出土した。

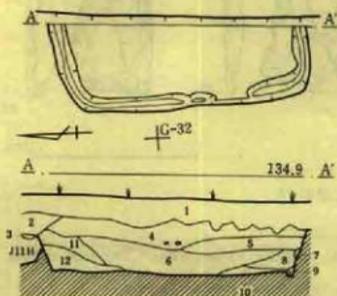
37号住居跡出土遺物 (第122～123図)

品名	土器	口径	高さ	底径	色調	胎土	焼成	備考
1	鉢	21.2 cm	38.8 cm	4.8 cm	赤褐色～赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 胴部下半一部欠。胎土の割部から口縁部は短く外反。口縁部横溝、外面縦位へう張り。
2	#	(#)	高さ(25.0) cm	底径 4.3 cm	色調 赤褐色～暗褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 胴部半位～底面残存。底面木葉痕。#
3	瓶	21.3 cm	27.3 cm	底径 (8.5) cm	色調 褐色～赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 1/2残存。無底孔式。直立気味に内湾し、口縁部は外反。口縁部横溝、#
4	瓶	13.2 cm	13.6 cm		色調 褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 良好	備考 口縁部～胴部の一部欠。胴部は直立気味に内湾。口縁部横溝、胴部縦位、底面縦位へう張り。
5	坏	14.5 cm	5.1 cm		色調 褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 完整。体部と口縁部の境に横、内面に数斜状吻文。# 体部へう張り。
6	#	12.8 cm	5.1 cm		色調 赤褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 完整。
7	#	11.9 cm	3.6 cm		色調 褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 約半片残存。# 口縁部は外反して内湾。口縁部横溝、#
8	#	13.5 cm	3.7 cm		色調 褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 1/4残存。皿状の胴部から段を有し、口縁部は直線的に内湾。口縁部～内面横溝、#
9	編石	長さ 12.8 cm 幅 8.2 cm 厚さ 4.5 cm 重さ			石質 輝石安山岩			
10	#	長さ 16.2 cm 幅 7.3 cm 厚さ 5.9 cm 重さ 770 g			石質 輝石安山岩			
11	縄文時代中期	外反して開く口縁部片で、横位沈線文と交互斜交文を多段に施す。						
12	#	キャリパー形に内湾する口縁部片で、口唇部を欠く。文様等は隆帯により横位文等を配す。						
13	#	口唇部をやや肥厚せ、外反する口縁部片。横位平行沈線文と交互斜交文を施す。						
14	#	腕状把手片。沈線文が加面する。						
15	#	腕状把手部が欠損する。						
16	縄文時代前期	頭縁式期の所産。平縦竹管による横位沈線文を施す。						
17	縄文時代中期	隆帯と隆帯に沿う沈線文で文様を遷化する。地文は断片文を施す。						
18	#	平縦竹管による平行沈線文を施す。						
19	打製石斧	長さ 7.5 cm 幅 4.6 cm 厚さ 2.1 cm 重さ 79 g			石質 無珪晶安山岩			
20	#	長さ 11.6 cm 幅 5.2 cm 厚さ 3.0 cm 重さ 199 g			石質 無珪晶安山岩			
21	#	長さ 9.6 cm 幅 6.7 cm 厚さ 2.1 cm 重さ 125 g			石質 無珪晶輝石安山岩			
22	#	長さ 6.1 cm 幅 5.1 cm 厚さ 1.1 cm 重さ 38 g			石質 無珪晶安山岩			
23	#	長さ 6.6 cm 幅 4.8 cm 厚さ 1.6 cm 重さ 72 g			石質 無珪晶安山岩			

38号住居跡 (第124図)

E調査区の中央部でG31・32グリットに跨って検出され、西側の約半分程を調査した。標高133.95 m前後に位置し、西～北西方向に35～37号住居跡が隣接する。

形状は隅丸方形を呈すると考えられ、西辺3.05m、北辺(1.15) mを測る。壁高は16～27cmが残存す



38号住居跡土層註 (A-A')

- 1層 暗褐色土 耕作土
- 2層 黒褐色土 FP 混入 砂質土
- 3層 暗褐色土 2層に類似するがFPの混入が少ない
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・FP混入 砂質土
- 5層 暗褐色土 ローム粒子・FP混入 R・B、焼土粒子点在
- 6層 暗褐色土 ローム粒子・FP・R・B混入
- 7層 におい黄褐色土 ソフトローム崩壊土
- 8層 黒褐色土 FP・ローム粒子均質混入
- 9層 暗褐色土 ローム粒子不均質混入
- 10層 暗褐色土 ローム粒子不均質混入 FP 点在
- 11層 黒褐色土 ローム粒子・FP混入
- 12層 黒褐色土 ローム粒子・FP混入 砂質土

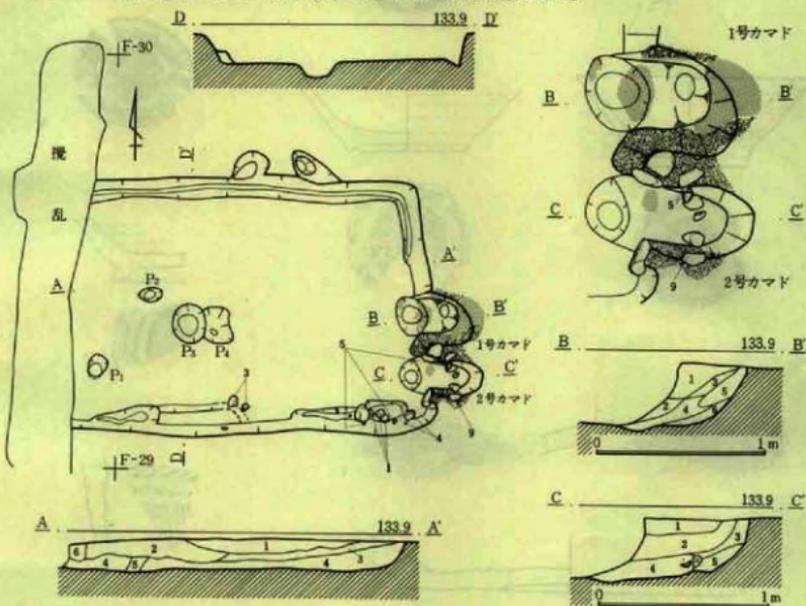
第124図 38号住居跡

る。床面はほぼ平坦をていする。周溝は西辺で僅かに途切れる。柱穴・カマド・貯蔵穴は検出されなかった。遺物は皆無であった。

39号住居跡 (第125・126図)

E調査区の南寄りでE・F29グリットに跨がって検出され、調査区内にその全体があるが西辺を擾乱穴によって破壊されている。標高133.80m前後に位置し、南方に40・41号住居跡、2・3号掘立柱建物跡が隣接する。

形状は東西に長い長方形を呈し、主軸はほぼ東にとる。規模は東辺3.15m、南北辺は(4.5)m前後と考えられる。壁高は28~36cmが残存する。床面はほぼ平坦で、周溝は東辺の北寄りから西辺に連続し、南辺は途切れて検出された。この南辺の中央から西方部分に長さ1m、幅18cm、段差14cmのロームで覆われたテラスが残る。柱穴は4ヶ所に検出されたが主柱穴は明確でない。



39号住居跡土層註 (A-A')

- 1層 黒褐色土
- 2層 黒褐色土 1層より明るい ローム粒少量含む 暗褐色土混る
- 3層 黒褐色土 少量の小ロームB カーボン粒
- 4層 暗褐色土 小ロームB ローム粒
- 5層 暗褐色土 ロームB 斑点状
- 6層 ソフトな黒褐色土 (標高)

39号住居跡カマド土層註 (B-B')

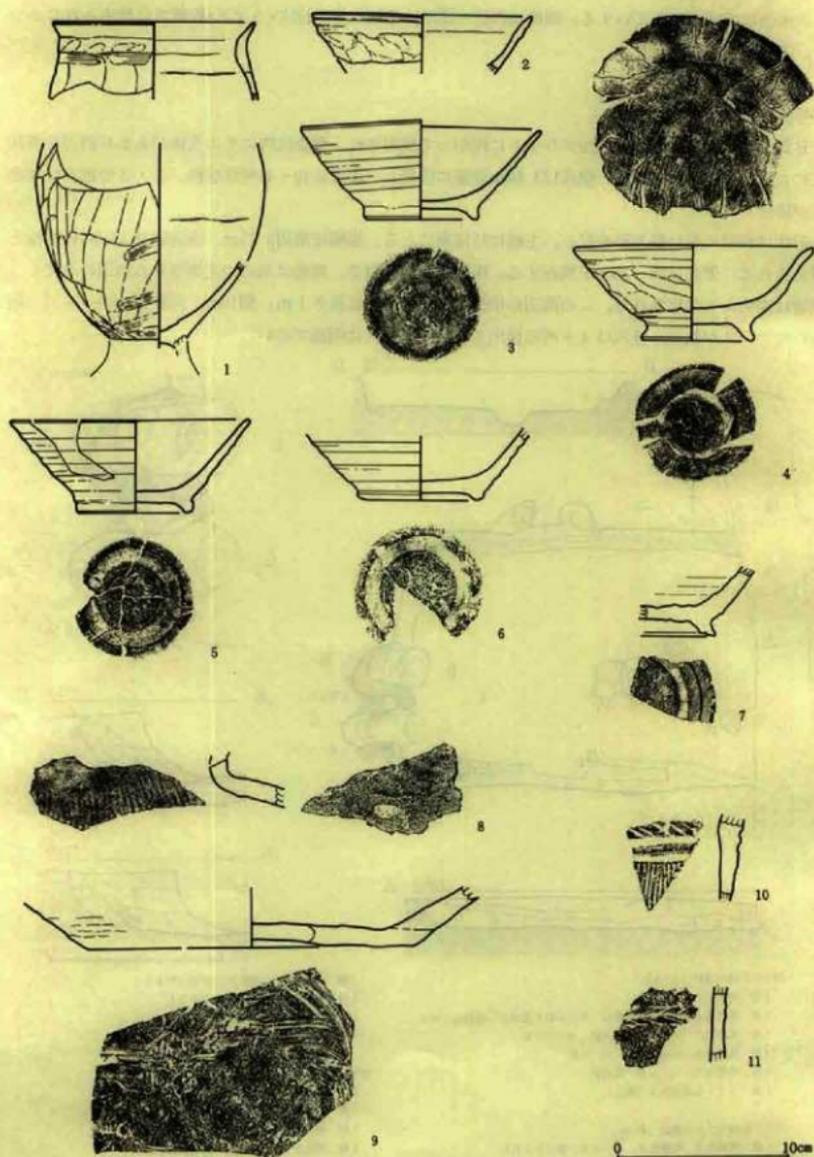
- 1層 黒褐色土 暗褐色土、ロームB、焼土Bを含む
- 2層 暗褐色土 ローム粒 焼土粒含み ソフト

- 3層 暗褐色土 2層に比べると焼土粒目多い
- 4層 褐色土 多量の焼土Bを含む
- 5層 焼土B
- 6層 褐色土 小ロームBを含む

39号住居跡カマド跡土層註 (C-C')

- 1層 暗褐色土 少量のロームB
- 2層 暗褐色土 ローム粒 焼土粒少量含む
- 3層 褐色土 全体にフラットする
- 4層 褐色土 ローム粒 焼土B含む
- 5層 褐色土 4層に似るが、ローム粒少量

第125図 39号住居跡

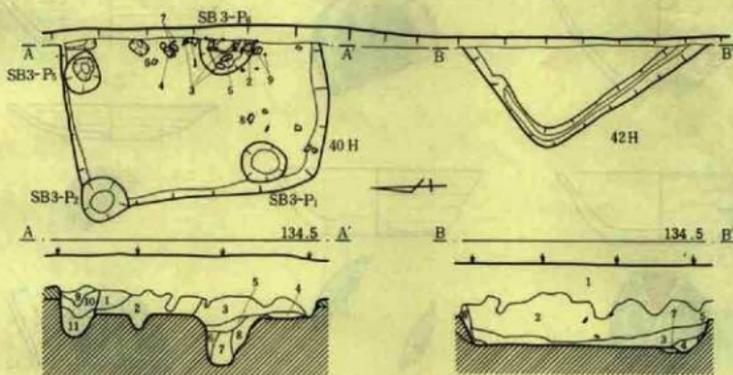


第126图 39号住居跡出土遺物

カマドは東辺の中央部分と南東隅寄りに接して2基検出された。新旧関係は中央部分の1号カマドが古い。1号カマドは焚き口から煙道部まで90cm、張り出しは50cm前後を測る。左袖部は2号カマドの作り変えて壊されている。2号カマドは袖石を据え、灰褐色粘土で構築されている。焚き口から煙道部まで1m、張り出しは60cm前後を測る。袖石は東辺上に据えられ袖石間は32cmである。更に内部にも袖石に平行して30cm程に2石が据えられている。貯蔵穴は明確でないが、南東隅に設けられた周溝に接した東西に長い楕円形の掘り込みと考えられる。規模は48×30cmで深さ10cm前後を測る。遺物はカマド・貯蔵穴と南壁沿いに点在し、高台付椀等が出土した。

39号住居跡出土遺物 (第126図)

1	台付椀 (土師)	口径11.7cm	色濃くすんだ褐色～黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 口縁部1/3残存、脚部欠損。
2	坏? (#)	口径 12.6cm	色濃 淡い黄白色	胎土 #	焼成 #	備考 底部欠損。口縁部残存、体部損傷。
3	高台付椀 (須恵)	口径 13.9cm 器高 5.9cm 底径 6.1cm	色濃 淡灰褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 体部1/3欠損。釉層水引成部。還元焼成。付高台、器部外縁ホリ目調整。
4	# (土師)	口径 13.7cm 器高 5.7cm 底径 6.3cm	色濃 褐色～くすんだ赤褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 体部1/3欠損。器部外縁ホリ目調整、内面へずらぎ。
5	# (須恵)	口径 13.8cm 器高 5.5cm 底径 6.4cm	色濃 淡灰褐色～褐色	胎土 #	焼成 良好	備考 体部1/3欠損。釉層水引成部。還元焼成。付高台、器部外縁ホリ目調整。
6	# (#)	底径 6.4cm	色濃 黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 口縁部欠損。 # # #
7	高台付椀 (#)		色濃 青灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 胴部下手～底部片。 # # #
8	甕 (#)		色濃 青灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 胴部～胴部片。平行印き目。
9	# (#)		色濃 淡灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 底部外縁調整。
10	縄文時代中期	隆帯に削位の刻み目を施す。				
11	#	矢羽状の刻み目を施す隆帯を横位に返らす。				



40号住居跡土層誌 (A-A')

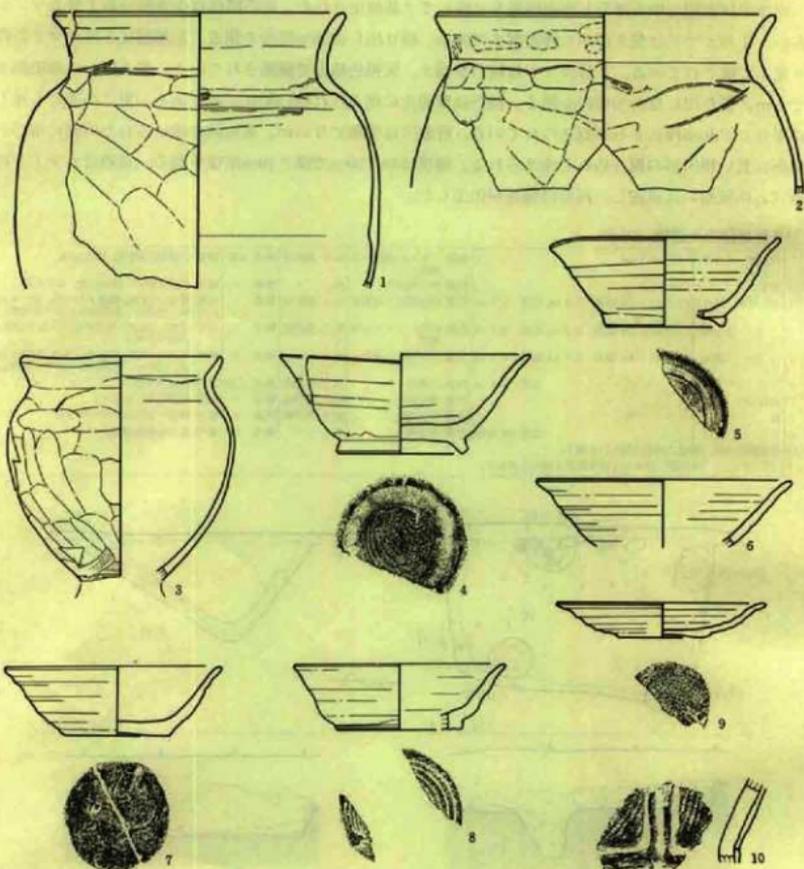
- 1層 黒褐色土 暗褐色土を混じる
- 2層 暗褐色土 少量のローム粒含む
- 3層 暗褐色土 焼土粒が散在する
- 4層 黒褐色土 焼土粒とカーボン粒
- 5層 黒褐色土 暗褐色土混
- 6層 黒褐色土 少量ローム粒含む
- 7層 黒褐色土 わずかにローム粒
- 8層 黒褐色土 暗褐色土含む
- 9層 黒褐色土 砂質
- 10層 黒褐色土 ローム粒少量
- 11層 暗褐色土 黒褐色土混

42号住居跡土層誌 (B-B')

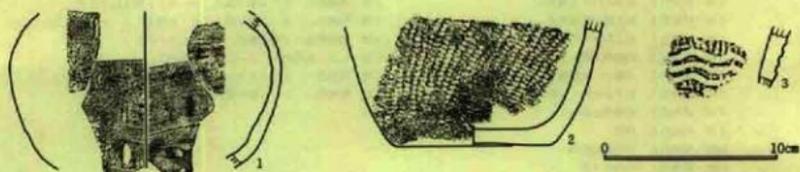
- 1層 暗褐色土 砂質粘土
- 2層 黒褐色土 ローム粒子混入 カーボン・焼土粒子点
- 3層 暗褐色土 ローム粒子混入 R・B微量・カーボン・焼土粒子点
- 4層 暗褐色土 3層に類似 3層よりやや明るい
- 5層 にぶい黄褐色土 ローム粒子均質混入
- 6層 暗褐色土 2層よりローム粒子の混入少く やや砂質
- 7層 暗褐色土 ローム粒子混入

第127図 40・42号住居跡

40 H



42 H



第128图 40・42号住居跡出土遺物

40号住居跡 (第127・128区)

E調査区の南方でF28グリットにその主体を占め、調査区外にカマド部分が及ぶ。当住居跡は3号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は掘立柱建物跡より新しい。標高133.75m前後に位置し、西方に41号住居跡、南方に42号住居跡が隣接する。

形状は隅丸方形を呈し、西辺3m、北辺(1.95)mを測る。壁高は11~16cmが残存する。床面は平坦を呈する。周溝・柱穴・カマド・貯蔵穴は検出されなかった。遺物は調査区の壁沿いに集中して壘・坏等が出土した。

40号住居跡出土遺物 (第128区)

1	壘 (土師)	口径(16.8)cm 器高(16.5)cm	色調 褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 直立気味の胴部から腹部で折れ、口縁部は外反。胴部下平に粘土付着。口縁部残存。	
2	#	口径 19.3 cm 器高(10.7)cm	色調 赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部~胴部上平1/2残存。	
3	台付壘 (#)	口径(11.7)cm 器高(13.5)cm	色調 灰褐色~赤褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 体部1/2欠損。壘縁水引成型。器元多残。付着面、器部剥離あり未調査。	
4	高台付壘 (須部)	口径(14.8)cm 器高 6.0 cm 底径 7.3 cm	色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 体部1/2残存。 # # #	
5	#	口径(13.5)cm 器高 5.4 cm 底径 (6.9)cm	色調 くすんだ黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 約1/2残存。 # # #	
6	#	口径(14.6)cm 器高 (4.1)cm	色調 灰褐色~青灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 体部1/3残存。 # # #	
7	坏 (#)	口径(12.6)cm 器高 4.2 cm 底径 6.2 cm	色調 灰白色	胎土 #	焼成 #	備考 体部1/2欠損。 # # 底部剥離あり未調査。	
8	#	口径(12.3)cm 器高 4.0 cm 底径 (7.3)cm	色調 くすんだ褐色~黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 1/3残存。 # # 内面にグルール状付着物。	
9	#	口径(12.0)cm 器高 2.1 cm 底径 (5.0)cm	色調 灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 約1/2残存。 # #	
10	縄文時代中期 器部により区画を配す断片。						

41号住居跡 (第129・130区)

E調査区の南方でE28グリットにその主体を占め、約半分程が検出された。当住居跡は2号掘立柱建物跡によって切られている。標高133.70m前後に位置し、東方に40号住居跡、南方に44号住居跡、北方に39号住居跡が隣接する。

形状は隅丸方形を呈すると考えられ、主軸はN-83°-Eにとる。検出された東辺は5.3mを測り、壁高は50~60cmが残存する。床面はほぼ平坦で堅緻面を呈する。周溝はカマドの両脇から連続し、幅15~20cm、深さ5cm前後を測る。柱穴はP₁とP₂が主柱穴で、柱間2.7mを測る。

カマドは東辺の中央に灰褐色粘土で構築されている。焚き口から煙道部まで2.15m、張り出しは1.25mを測る。火床は皿状に窪み、25cmの段差を設けて煙道部が細長く続く。貯蔵穴は南東隅に設けられ、北西部分がやや突出する五角形を呈する。規模は長軸長92cm、短軸長78cm、深さ40cmを測る。遺物は少量でカマド前面とP₁の周囲に点在し、長胴壘・坏等が出土した。

41号住居跡出土遺物 (第130区)

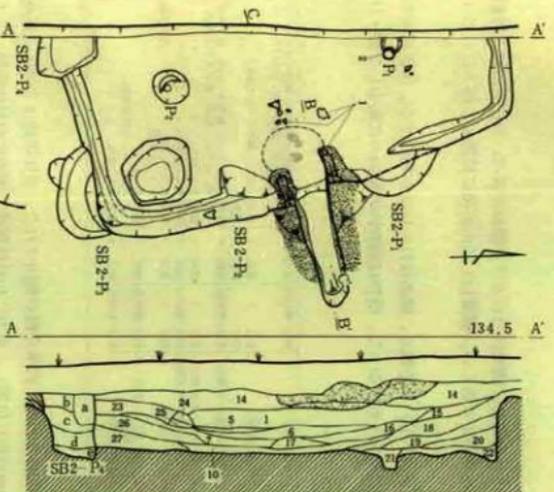
1	長胴壘 (土師)	口径(20.3)cm 器高(13.6)cm	色調 灰褐色~褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 口縁部~胴部上平約1/4残存。口縁部に歪み。口縁部剥離。体部へずり。	
2	坏 (#)	口径 10.4 cm 器高 3.9 cm	色調 暗褐色~黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 欠形。体部と口縁部の境目不明。口縁部~内面剥離。器部へずり。内面灰状粘文。	
3	壘 (須部)		色調 青灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 外面平行引き目、内面青粘文。	
4	縄文時代中期 器部により口縁部文様帯を区画する口縁部断片。						
5	# 器部に押圧によるヒダ状隆起を呈する。						

42号住居跡 (第127・128区)

E調査区の南方でF27グリットに検出された。一部分が調査され、調査区外の東にその主体が及ぶ。標高133.65m前後に位置し、西方に44号住居跡、北方に40号住居跡と3号掘立柱建物跡が隣接する。

形状は方形を呈すると考えられ、北辺(1.6)m、西辺(2.4)mを検出した。壁高は40cm前後が残存する。床面は平坦を呈する。周溝は北西隅から西辺に検出され、幅15cm、深さ5cm前後を測る。柱穴は検出されず、カマド・貯蔵穴は調査区外に及ぶ。

遺物は覆土中から須臾器片と縄文中期の土器片が出土した。

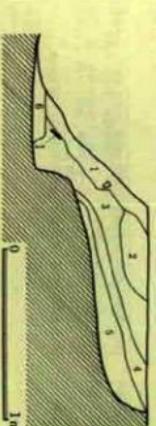
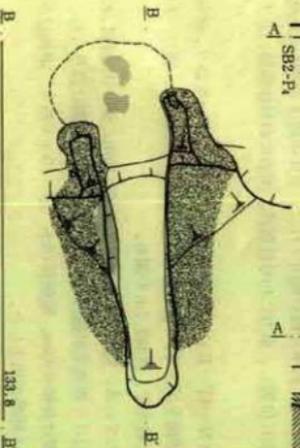


41号住居跡土層柱 (A-A'・C-C')

- 1層 黒褐色土 中・大粒土質の腐植土を含む
- 2層 黒褐色土 1層より明らに、少量のロ-A、腐植土を含む
- 3層 黒褐色土 2層より明らに、少量のロ-A粒
- 4層 黒褐色土 灰褐色土を含む
- 5層 黒褐色土 腐植層 ロ-A粒を多数含む
- 6層 黒褐色土 5層に似るが、ゾナで少量の腐植土を含む
- 7層 黒褐色土 ロ-A.B、ロ-A粒を多く含む
- 8層 黒褐色土 ロ-A.B、ロ-A粒、暗褐色粘土を含む
- 9層 黒褐色土 8層より少量のロ-A粒、ロ-A.Bを含む
- 10層 黒褐色土 ロ-A.B、ロ-A粒を含む、小量ロ-A粒を含む
- 11層 黒褐色土 ロ-A粒を全体的に含む、少量腐植土を含む
- 12層 黒褐色土 暗褐色粘土を含む
- 13層 黒褐色土 少量のロ-A.Bと黄土を含む、灰褐色粘土
- 14層 黒褐色土 中・大粒質の腐植土を含む
- 15層 黒褐色土 腐植土、ロ-A粒
- 16層 黒褐色土 7層に似る
- 17層 黒褐色土 15層に似る
- 18層 黒褐色土 20層に似る
- 19層 黒褐色土 暗褐色土、ロ-A.Bが多く含む
- 20層 黒褐色土 20層と同じ
- 21層 黒褐色土 全体にゾナでロ-A.Bを含む
- 22層 黒褐色土 腐植土とロ-A粒を含む
- 23層 黒褐色土 小ロ-A.Bを含む
- 24層 黒褐色土 ロ-A.B、ロ-A粒を含む
- 25層 黒褐色土 小ロ-A.B少量を含む
- 27層 黒褐色土 ロ-A.B、ロ-A粒を含む10層より明らに

埋込 (SB2-P2)

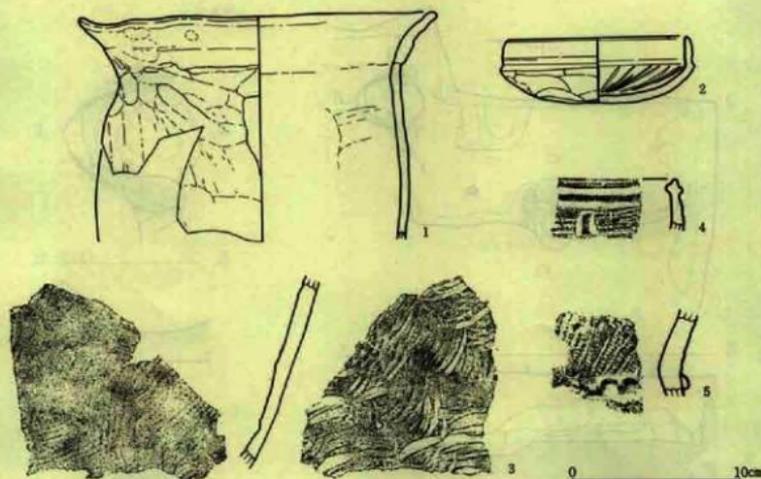
- a層 黒褐色土 全体にゾナで少量の腐植土を含む
- b層 黒褐色土 暗褐色土の腐植土でロ-A.B少量を含む
- c層 黒褐色土 小ロ-A.Bを含む
- d層 黒褐色土 ロ-A.Bと中・大粒質を含む
- e層 ロ-A.Bと埋込の腐植土、腐植土を含む



41号住居跡のゾナ土層柱 (B-B')

- 1層 黒褐色土 ロ-A粒と暗褐色土を含む
- 2層 黒褐色土 ロ-A粒と暗褐色粘土、少量の腐植土
- 3層 黒褐色土
- 4層 黒褐色土
- 5層 黒褐色土 腐植土、灰
- 6層 黒褐色土 腐植土、灰と中ロ-A.Bを少量含む

第129図 41号住居跡



第130図 41号住居跡出土遺物

42号住居跡出土遺物 (第128図)

1	器 (断面)	色調 灰青灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 扁平な球形胴部を呈する、外面磨き目、内面磨蝕。
2	縄文時代中期				
3	#	併発する二本の横位縄文を並列に写す			

43号住居跡 (第131図)

E調査区の最南方でE26グリットに検出され、標高133.55m前後に位置する。北東部分は44号住居跡を切って構築されている。

形状は方形を呈すると考えられ、規模は東辺が3.45m、北辺(2.3)mを測る。壁高は19~29cmが残存する。床面は壁際が僅かに低くなる。周溝・柱穴は検出されなかった。

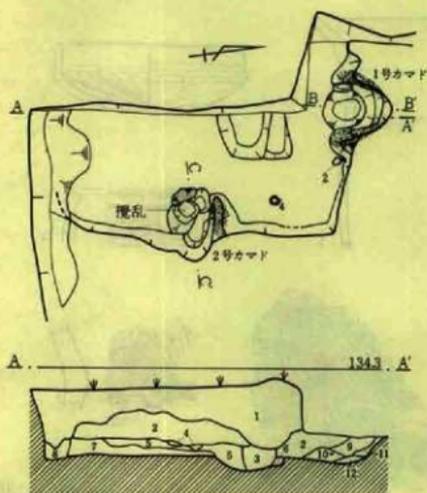
カマドは2基検出されたが新旧関係は不明である。1号カマドは北辺の中央付近に灰褐色粘土で構築され、焚き口から煙道部まで80cm、張り出しは45cmを測る。2号カマドは東辺の中央に灰白色粘土で構築され、右袖部分に攪乱穴が及ぶ。焚き口から煙道部まで86cm、張り出しは30cm前後を測る。貯蔵穴は検出されなかった。遺物は少量で壺・高台付碗が出土した。

43号住居跡出土遺物 (第131図)

1	小型壺 (土器)	口径 13.0 cm 器高 6.2 cm	色調 褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 口縁部1/2残存。所謂「フの字」状口縁を呈する。
2	壺 (#)	器高 6.9 cm 口径 4.0 cm	色調 褐色~黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 壺の胴部下半~底部。外面磨位のへり磨り。
3	高台付碗 (断面)	口径 5.5 cm	色調 くすんだ灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 縦壁水引成型。付高台、直部回転向き不明。
4	# (#)	口径 6.9 cm	色調 灰褐色~黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 # # #

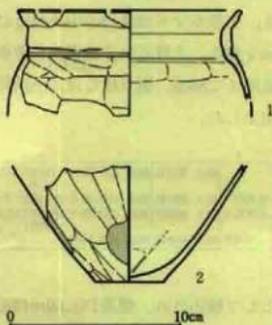
44号住居跡 (第132・133図)

E調査区の南方でF27グリットポイントを中心として検出され、標高133.60m付近に位置する。南西部分で43号住居跡と重複し、北西部分が道路敷に及ぶ。東方で42号住居跡、北方に40・41号住居跡が隣接する。

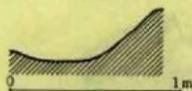
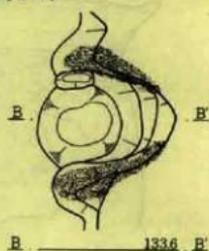


43号住居跡土層註 (A-A')

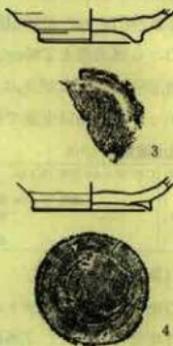
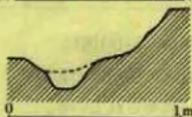
- 1層 暗褐色土 攪乱砂質
- 2層 暗褐色土 砂質均質、FP、ローム粒子均質混入、焼土粒子点在
- 3層 暗褐色土 2層に類似、2層よりローム粒子多い、焼土粒子点在
- 4層 濃い黄褐色土 R・Bと暗褐色土の混土
- 5層 暗褐色土 ローム粒子均質混入、R・B点在
- 6層 濃い黄褐色土 R・Bと暗褐色土の混土
- 7層 暗褐色土 ローム粒子均質混入、焼土粒子点在
- 8層 暗褐色土 7層に類似、7層より締まり強い
- 9層 灰褐色土 灰白色粘質土B、焼土粒子、R・B、暗褐色土の混土
- 10層 暗褐色土 灰白色粘質土粒子、ローム粒子均質混入、焼土粒子点在
- 11層 灰褐色土 灰白色粘質土粒子混入、やや不均質
- 12層 赤褐色土 焼土B粒子不均質に多量混入



1号カマド



2号カマド



第131図 43号住居跡・出土遺物

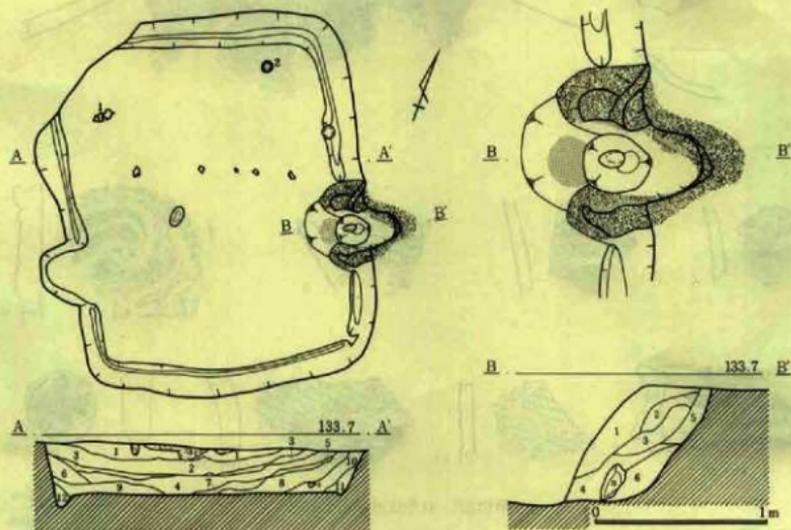
形状は隅丸方形を呈し、西辺の中央やや南寄りに台形状の張り出し部を設ける。規模は東辺4.4m、南辺は3.5m前後を測り、張り出し部は40cm程西方に突出する。壁高は43号住居跡との重複部分を除いて60~68cmが残存する。床面は平坦な堅緻面である。周溝は張り出し部を除いてほぼ全周する。規模は幅15~25cm、深さ3~10cmを測る。柱穴・貯蔵穴は検出されなかった。

カマドは東辺の中央やや南寄りに灰褐色粘土で構築されている。焚き口から煙道部まで1.3m、東辺からの張り出しは55cm、焚き口幅35cm前後を測る。燃成部の火床には支脚に使用した礫を据え、煙道部は急な立ち上がりを呈する。貯蔵穴は検出されなかった。

遺物は床面で西方に点在し、長胴甕・坏・須恵器壺片等が出土した。

44号住居跡出土遺物 (第133図)

1	長胴甕 (土師)	口径27.3cm 器高14.8cm	色調 淡い黄白色~褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 口縁部1/3残存。口縁部は外反して開く。口縁部~内面側面、外面縁位へつり。
2	坏 (#)	口径 11.6 cm 器高 3.1 cm	色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 変形。体部と口縁部の間に接。口縁部~内面側面、体部へつり。
3	# (#)		色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 1/6残存。 # 内面放射状焼文。
4	壺 (須恵)		色調 青褐色~褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 4と5は同一個体。
5	# (#)		色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 器部に波状文、外面平行引き目の痕跡あり。内面青銅文。
6	縄文時代前期	溝壙b式期の所産。				
7	#	溝壙b式期の所産。				
8	#	溝壙b式期の所産。跡のみを施す浮線文を貼付する。				
9	縄文時代中期	沈線文により。				
10	#	隆帯により口縁部文様帯を区画し、隆帯を無文帯とする。				
11	#	沈線文による蛇行帯垂文を掘下させる。				
12	#					
13	土製円盤	最大口径 2.8 cm 厚さ 1.3 cm 重さ 10.2 g				



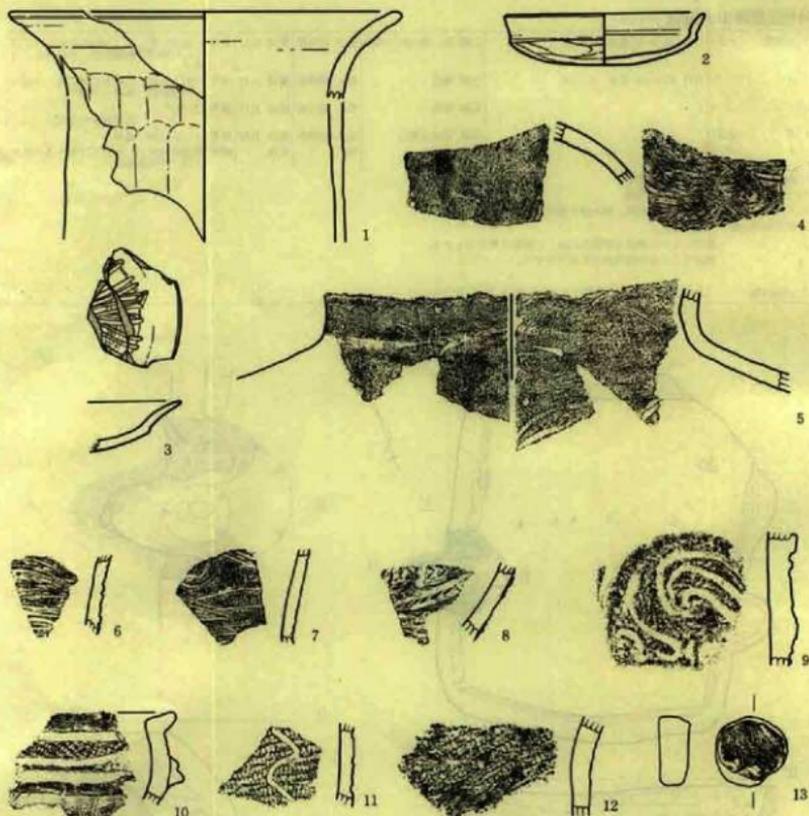
第132図 44号住居跡

44号住居跡土層注 (A-A')

- 1層 暗褐色土 R・B点在 ローム粒子均質混入 焼土粒子点在やや砂質
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・R・B・焼土粒子少量混入
- 3層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 R・B・焼土粒子点在 FP 混入
- 4層 暗褐色土 2層に類似 2層よりやや暗く R・Bの量少ない
- 5層 黒褐色土 3層に類似 3層よりR・Bの混入が多い
- 6層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 R・B少量点在
- 7層 黒褐色土 5層に類似 5層より不均質
- 8層 暗褐色土 ローム粒子混入 R・B・灰褐色粘質土B点在
- 9層 暗褐色土 ローム粒子混入 R・B点在 焼土粒子点在
- 10層 黒褐色土 砂質ローム粒子少量均質混入 R・B微量点在
- 11層 黒褐色土 10層よりさらに均質 灰褐色粘質土B微量点在
- 12層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 R・B点在 砂質

44号住居跡カマド土層注 (B-B')

- 1層 灰褐色土B、ローム粒Bを含む 褐色土
- 2層 褐色土 焼土B少量含む
- 3層 褐色土 焼土粒
- 4層 焼土Bとローム粒混入土で下層に灰
- 5層 4層に似るが 焼土粒主体
- 6層 焼土Bと黒褐色Bを含むクラックとした褐色土



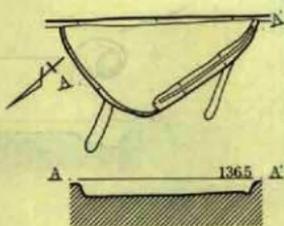
第133図 44号住居跡出土遺物

45号住居跡 (第134図)

D調査区の最北に検出された住居跡である。L56グリットポイントの周囲に広がり、標高136.45m前

後に位置する。南西方向に24号住居跡が隣接し、上面を耕作痕が走行する。

形状は辺が緩やかな円弧を呈する方形状で、約半分が調査区外に及ぶ。規模は西辺2.1m、北辺(1.5)mを測る。壁高は11~15cmが残存する。床面はほぼ平坦を呈し、周溝は西辺に検出され、幅15cm前後で深さ3cmを測る。柱穴・カマド・貯蔵穴は検出されなかった。出土遺物も皆無であった。



第134図 45号住居跡

(2) 柱穴・掘立柱建物跡

1号柱穴列 (第135図)

E調査区の北方で、E17・18グリットに跨がって検出された。標高132.90m前後に位置し、6号住居跡と7号住居跡の間にある。主軸はN-20°-Wにとる。柱穴は20×30cm前後の楕円形で、深さ20cm程を測る。P₁-P₂-P₃の柱間は2.5mである。

2号柱穴列 (第135図)

E調査区の北方でE17グリットに検出され、1号柱穴列の南で標高132.70~.80m前後に位置する。P₁は8号住居跡と重複する。主軸はN-78°-Eにとる。柱穴は60cm前後の円形を呈し、深さ50~70cmを測る。P₁-P₂-P₃の柱間は1.8mである。

1号掘立柱建物跡 (第135図)

E調査区の中央付近でF32グリットに主体を占め、35~37号住居跡と重複して標高134.10m前後に検出された。南北軸はN-15°-Wにとる。規模は梁行2間×桁行2間である。柱間は1.9mで梁行と桁行は3.8mを測る。柱穴は40~50cm前後の円形か楕円形を呈し、50cm前後の深さである。

2号掘立柱建物跡 (第136図)

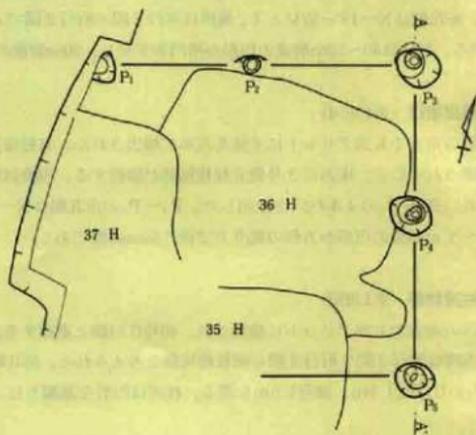
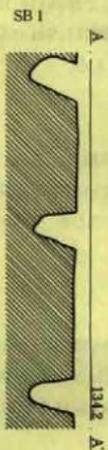
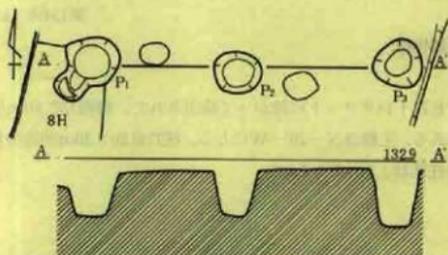
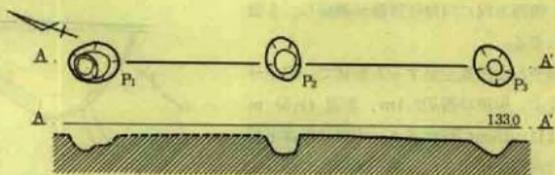
E調査区の南方でE28グリットに主体を占めて検出された。41号住居跡と重複し、当掘立柱建物跡が新しく構築されている。東方に3号掘立柱建物跡が隣接する。規模は明確でないが梁行2間×桁行2間と推定され、P₁~P₄の4本柱穴を検出した。P₁~P₃の南北軸はN-5°-Wにとる。柱間は1.8mを測り、70cm~1m前後の円形か方形の掘り方で深さ55cm前後である。

3号掘立柱建物跡 (第136図)

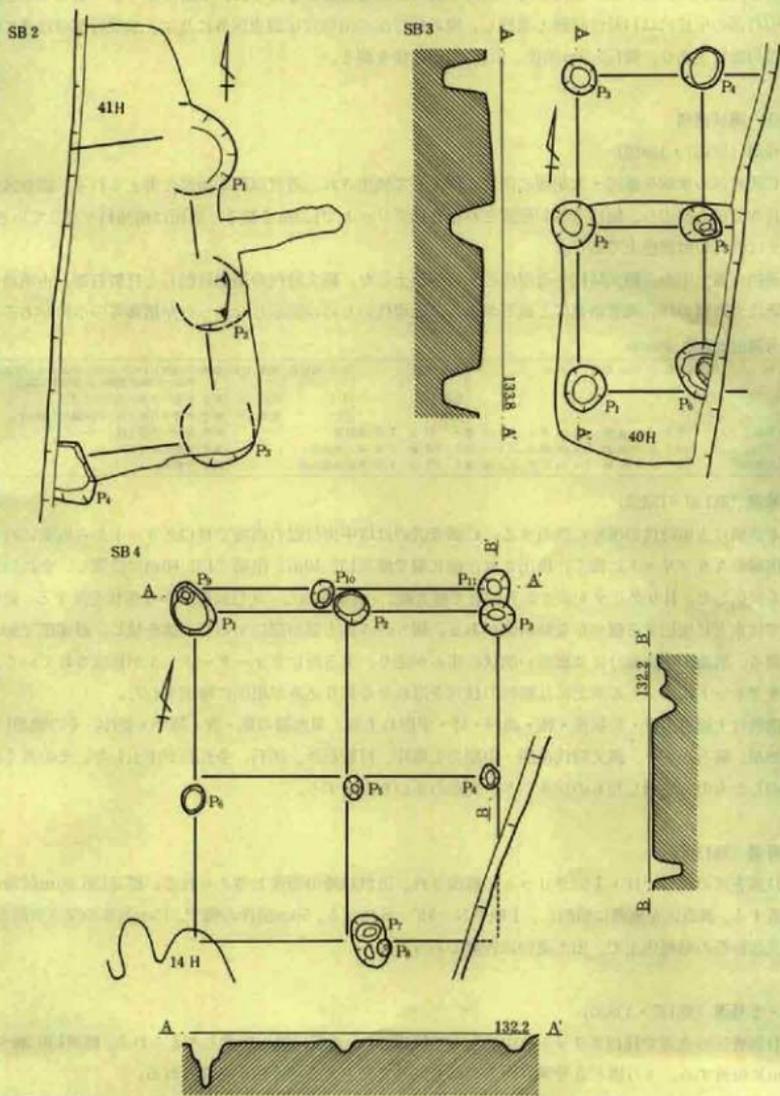
E調査区の南方でF28グリットに検出され、40号住居跡と重複する。その新旧関係は当掘立柱建物跡が古い。規模は梁行2間×桁行2間の総柱建物跡と考えられる。南北軸の桁行はN-2°-Wにとる。桁行P₁~P₃の柱間は1.8m、梁行1.5mを測る。柱穴は円形を基調とし、深さ50cm前後を測る。

4号掘立柱建物跡 (第136図)

E調査区の中央やや南寄りでもE9グリットポイントの周囲で13号~14号住居跡の間に検出され、標高



第135图 柱穴列・掘立柱建物跡(1)



第136圖 掘立柱建物跡 (2)

132.10m前後に位置する。梁行2間×桁行2間の総柱建物跡と考えられ、主軸はN-8°-Wにとる。西の桁行部の南柱穴は14号住居跡と重複し、東の桁行部の南柱穴は調査区外に及ぶ。北梁行部分は建て替えの可能性があり、梁行3.5m前後、桁行4.1m前後を測る。

(3) 溝状遺構

1号溝 (第137・138図)

C調査区の東端を藤岡・大胡線に南北に併走して検出され、近世以降の所産と考えられる。調査区内で長さ63mを検出し、幅は全体が確認されたB13グリットで1.3mを測る。底面は南傾斜を呈している。覆土は砂質の暗褐色土である。

遺物は覆土中から縄文時代～近現代のものが出土した。縄文時代の遺物は凹石と打製石斧、古墳時代以降は土師器の坏、須恵器甕片と砥石がある。近現代のものは図示しなかったが摺鉢等の小片がある。

1号溝出土遺物 (第138図)

1	坏 (土師)	口径(13.8)cm 器高(4.0)cm	色調 褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 口縁部1/4残存。器状の底部から口縁部は存在。口縁部破断。内面部分状破文。
2	(凹石)		色調	胎土	焼成 #	備考 外面ハケ製、内面当て目。
3	(#)		色調	胎土	焼成 #	備考 外面平行叩き目、内面溝状の割がれ。
4	凹石	長さ 7.1 cm 幅 4.8 cm 厚さ 4.0 cm 重さ 44 g	石質 流紋岩			備考 細かい刃研ぎ痕。
5	凹石	長さ 11.7 cm 幅 8.9 cm 厚さ 5.1 cm 重さ 732 g	石質 輝石安山岩			備考 端部に敲打痕。
6	打製石斧	長さ 11.8 cm 幅 7.4 cm 厚さ 2.4 cm 重さ 227 g	石質 無彫品安山岩			備考 分銅形。

2号溝 (第139～153図)

本遺構は古墳時代の所産に該当する。C調査区のほぼ中央付近の西端でB13グリットから西壁に沿って南端のA6グリットに続く。検出された最北端で標高132.40m、南端で131.80mに位置し、全長33m程を検出した。B9グリットポイント付近で最大幅2.7mを検出し、走行は緩やかな弧状を呈する。最南部では東方に突出する緩やかな傾斜面がある。掘り込みは上部が開口するV字状を呈し、最深部で90cmを測る。底面の中央部分には細長い筋状の窪みが走り、至る所にウォーターホールが形成されている。B9グリットポイントの南北には橋桁の柱穴を思わせる掘り込みが矩面に検出された。

遺物は土師器の壺・長胴甕・甕・高坏・坏・手捏ね土器、須恵器の瓶・壺・高坏・甕片、その他羽口、紡錘車、編石があり、縄文時代前期～中期の土器片、打製石斧、凹石、多孔石が出土した。その多くは破損したものや摩滅したものが多く、完形のものも存在する。

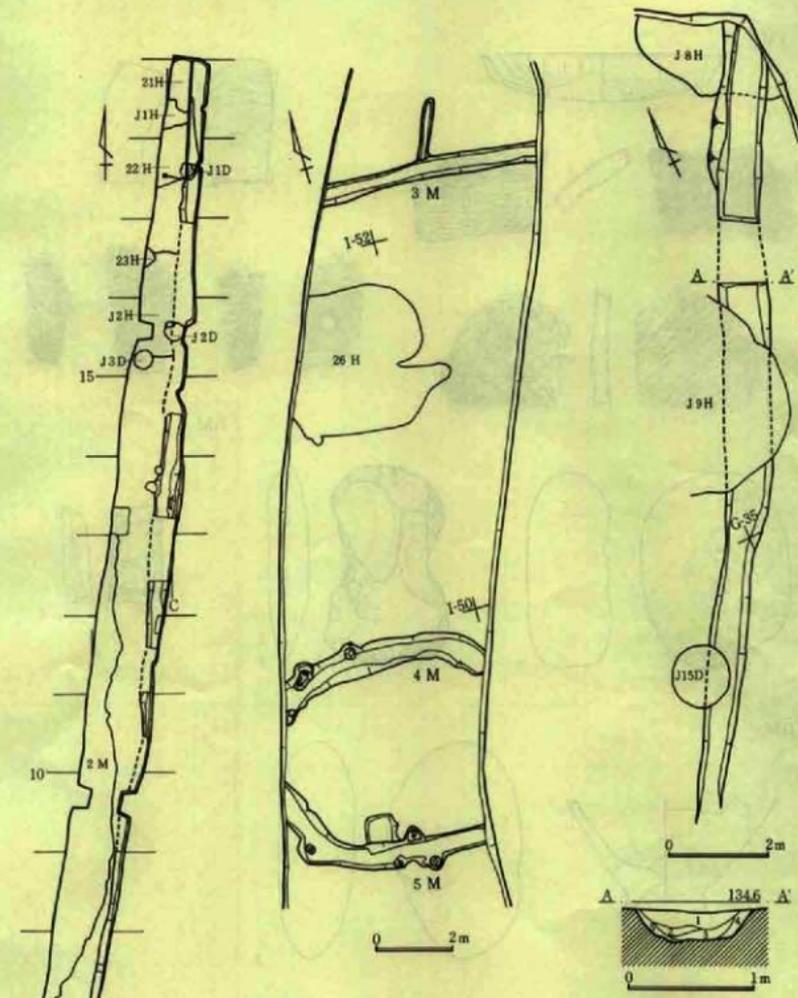
3号溝 (第137図)

D調査区の北方でH・152グリットに検出され、近世以降の所産と考えられる。標高136.50m前後に位置する。調査区を東西に横断し、主軸をN-95°-Sにとる。50cm前後の幅で、15cm前後の深さを測る。覆土は砂質の暗褐色土で、出土遺物は皆無であった。

4・5号溝 (第137・138図)

D調査区の北方でH49グリットを中心として検出され、近世以降の所産と考えられる。標高136.30～、40mに位置する。4号溝と5号溝は西方の調査区外で交差する可能性が考えられる。

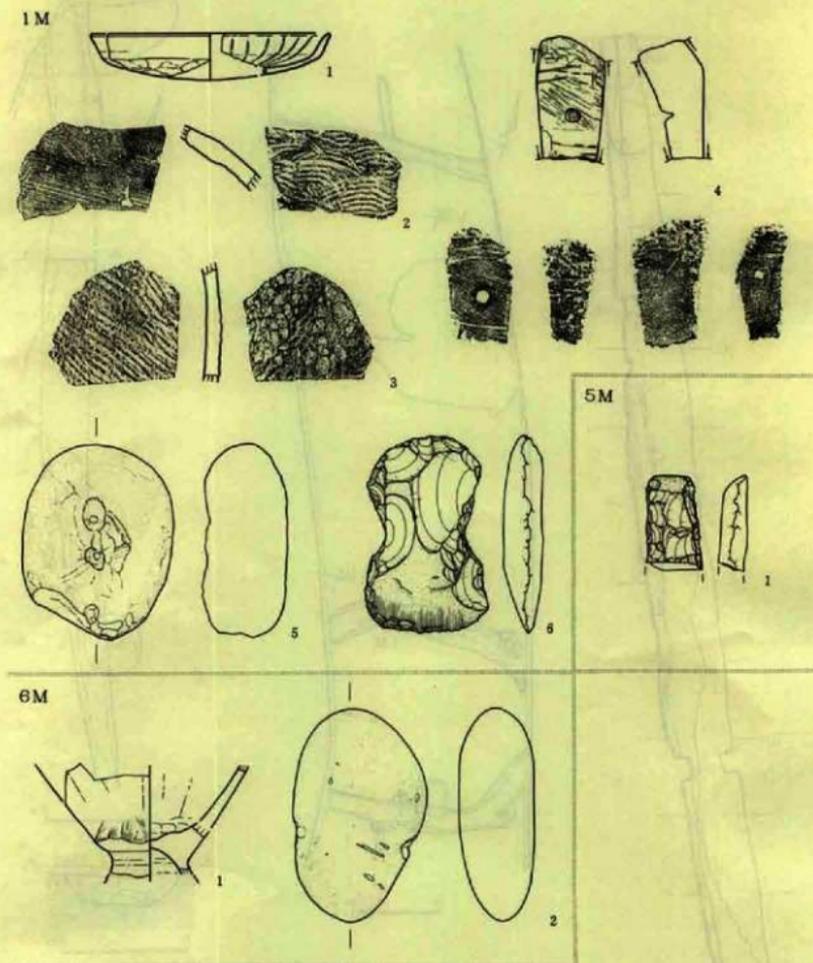
4号溝は緩やかな弧を描き、幅70～80cm、深さ20～35cmを測る。底面は凹凸があり、一定方向の傾斜は無い。5号溝は調査区の西方で北西方向に曲がり、幅50～60cm、深さ20cm前後を測る。底面は4号溝と同様で、僅かであるが西方に傾斜する。打製石斧が1点出土した。



6号溝土層註 (A-A')

- 1層 黒褐色土 砂質土 FP少量均質混入
- 2層 黒褐色土 粒土が小さく均質な層
- 3層 黒褐色土 1層に類似するが、不均質 R・B微量点在
- 4層 黒褐色土 FP少量均質混入
- 5層 黒褐色土 4層に類似 4層よりやや不均質 R・B微量点在

第137図 1・3～6号溝状遺構 (1)



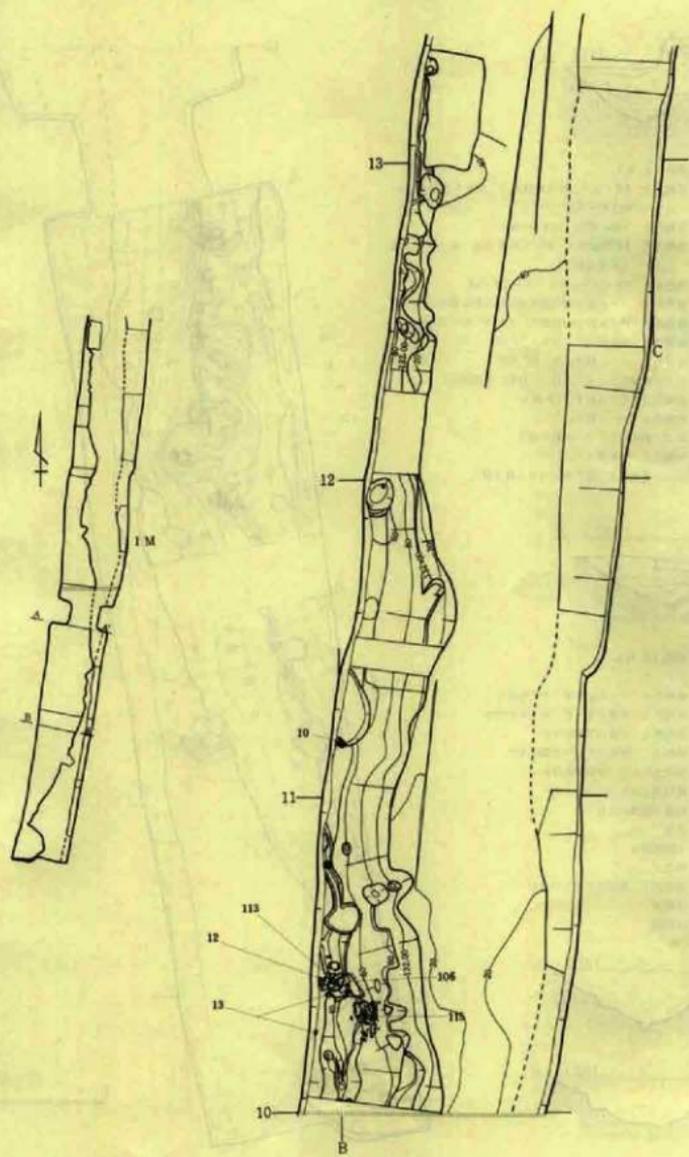
第138図 1・5・6号清出土遺物

5号清出土遺物 (第138図)

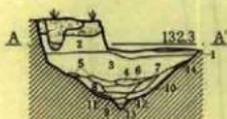
1 打製石斧	長さ 7.1 cm 幅 3.4 cm 厚さ 1.7 cm 重さ 44 g 石質 無珉品安山岩
--------	--

6号溝 (第137・138図)

E調査区の北方でF34・35～G35グリットに跨がり検出され、近世以降の所産と考えられる。J8・J9号住居跡とJ15号土坑を切って走行し、主軸はN-28°-Eにとる。検出された長さは16m前後で南

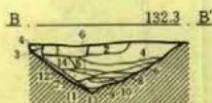


第139图 2号沟 (I)



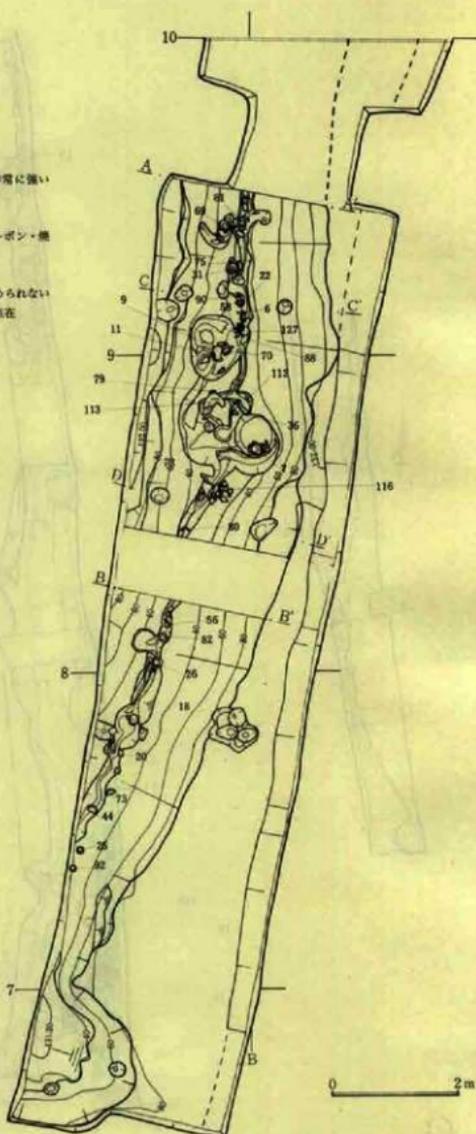
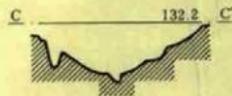
2号溝土層柱 (A-A')

- 1層 黒褐色土 FP・ローム粒子均質混入 締まり非常に強い 焼土粒子点在
- 2層 黒褐色土 1層に類似 締まりが弱い
- 3層 黒褐色土 FP均質混入 ローム粒子点在 カーボン・焼土粒子点在
- 4層 黒色土 FP・ローム・カーボン粒子点在
- 5層 暗褐色土 ローム粒子均質混入他の混入物は認められない
- 6層 暗褐色土 ローム粒子均質混入 カーボン粒子点在
- 7層 暗褐色土 粘性強い ローム・FP点在
- 8層 暗褐色土 ローム粒子点在 FP点在
- 9層 におい黄褐色土 ローム粒子, 砂粒, 均質混入
- 10層 暗褐色土 ローム粒子, FP混入
- 11層 暗褐色土 ローム粒子点在
- 12層 におい黄褐色土 ローム粒子混入
- 13層 灰褐色土 砂粒混入
- 14層 におい黄褐色土 R・B、ローム粒子混入

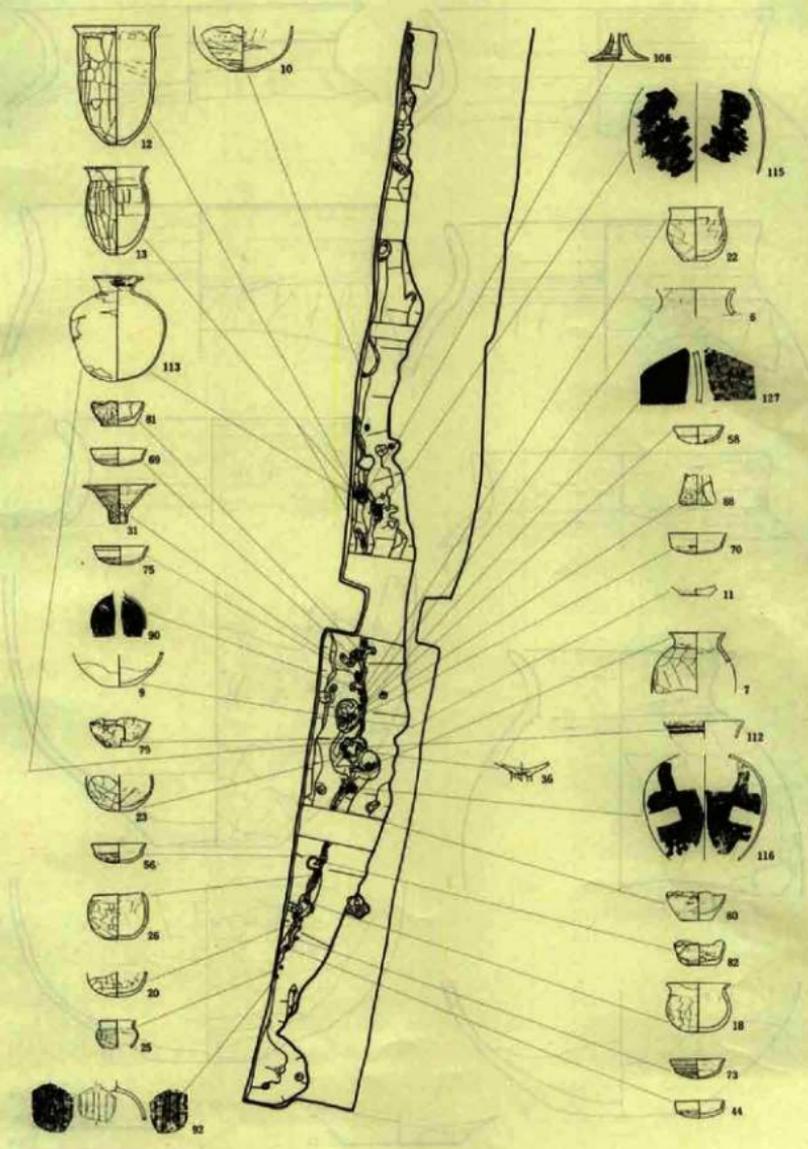


2号溝土層柱 (B-B')

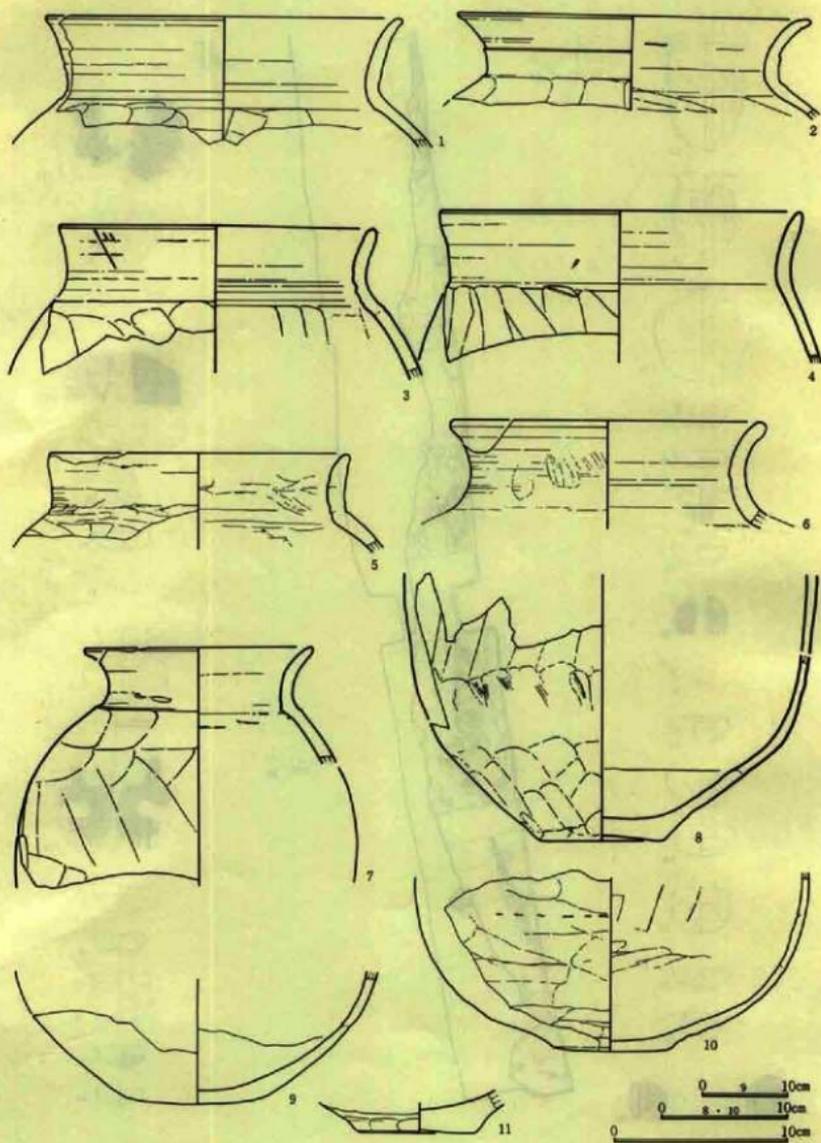
- 1層 トレンテ
- 2層 暗褐色土 ローム粒少量のFPを含む
- 3層 暗褐色土 多量のR・B、ローム粒含む
- 4層 黒褐色土 少量のFPを含む
- 5層 黒色土 黒色シルト 少量のFP
- 6層 黒色土シルト 少量FP含む
- 7層 暗褐色シルト
- 8層 砂層を隠層に含む
- 9層 砂層
- 10層 8層に似る
- 11層 黒色土
- 12層 黒褐色土 斑点状にR・B含む
- 13層 砂層
- 14層 注記層



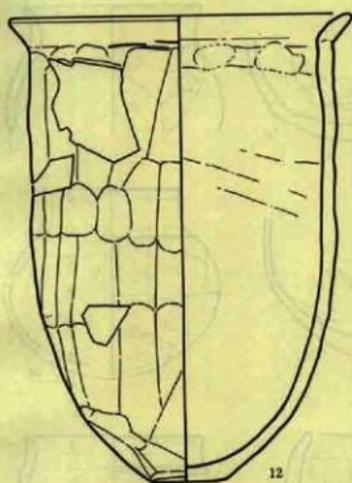
第140図 2号溝 (2)



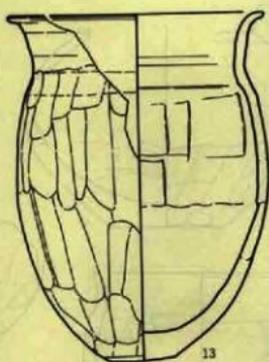
第141图 2号沟遗址出土分布



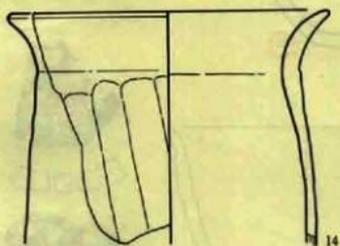
第142图 2号洞出土遺物 (I)



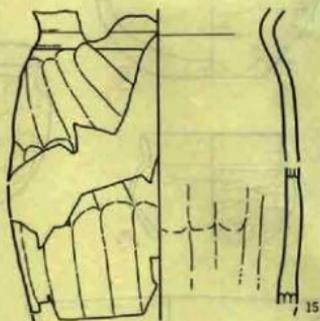
12



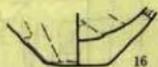
13



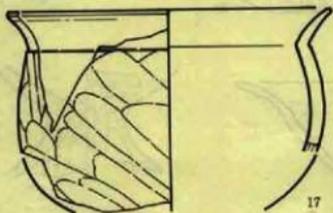
14



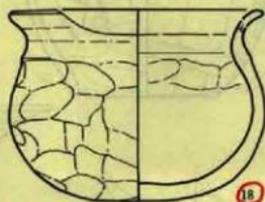
15



16



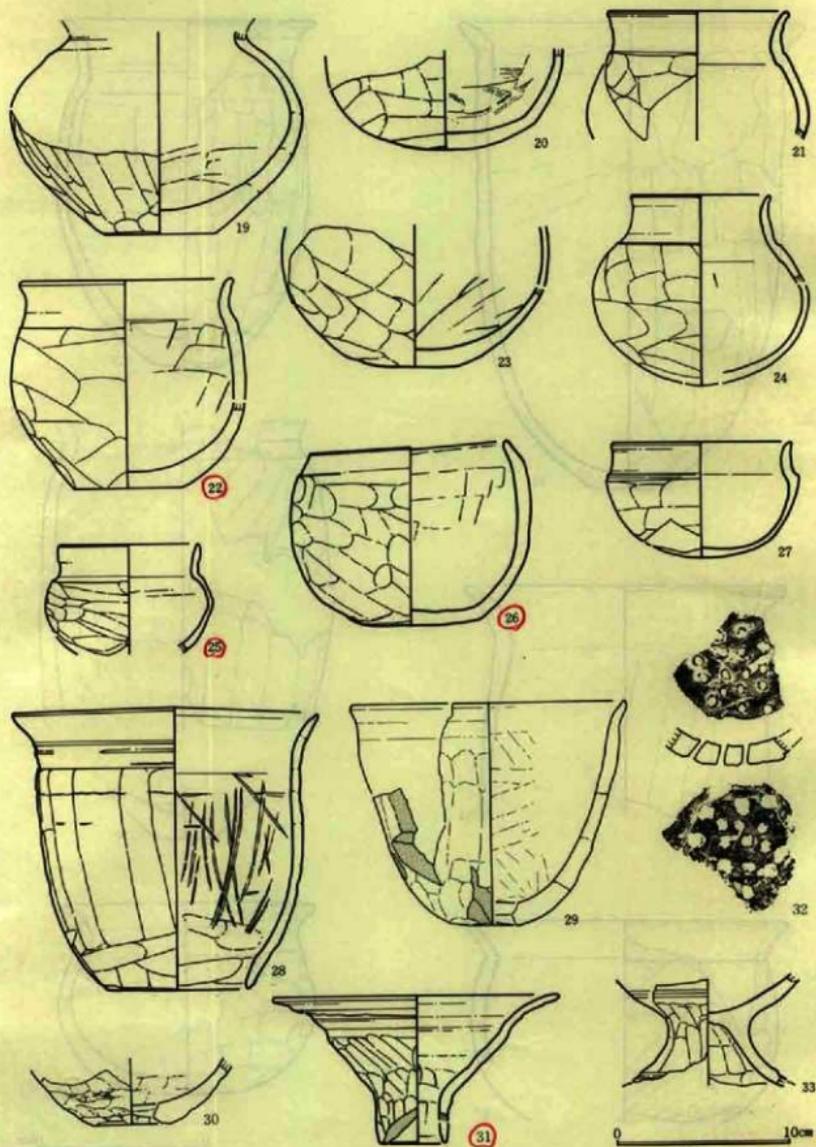
17



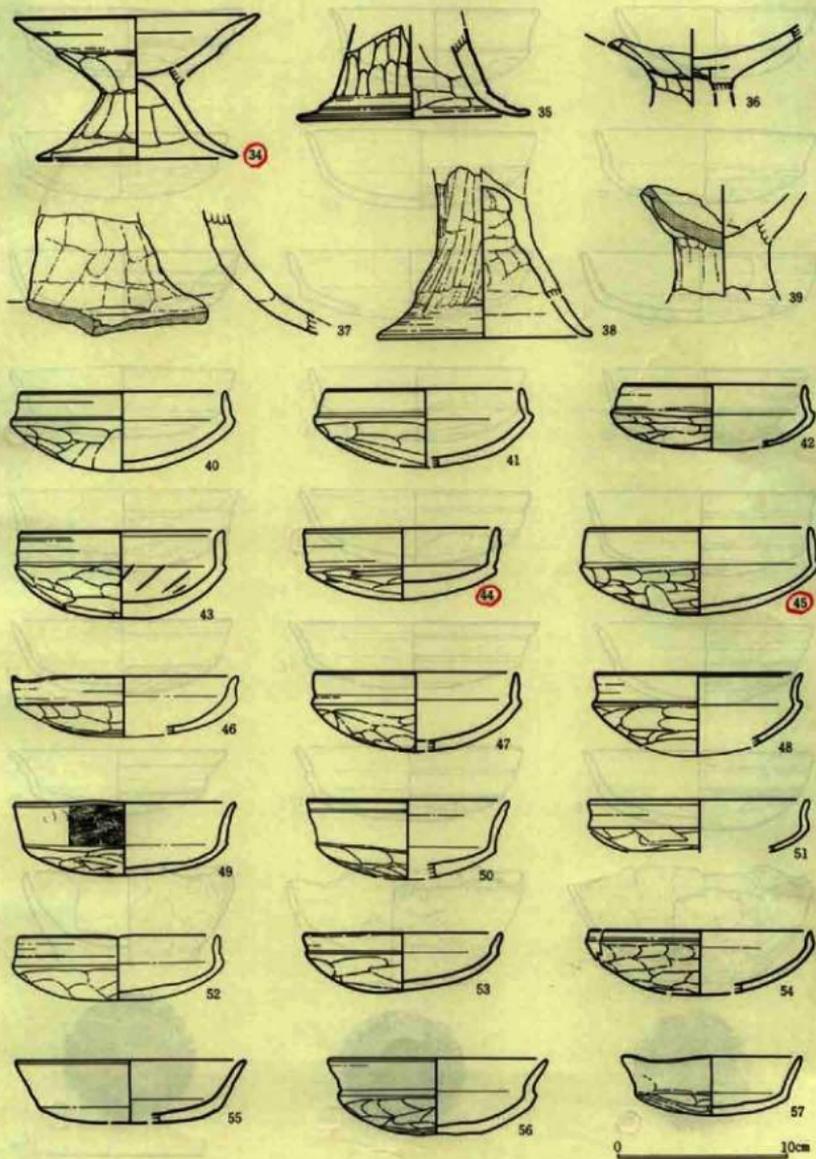
18

0 10cm

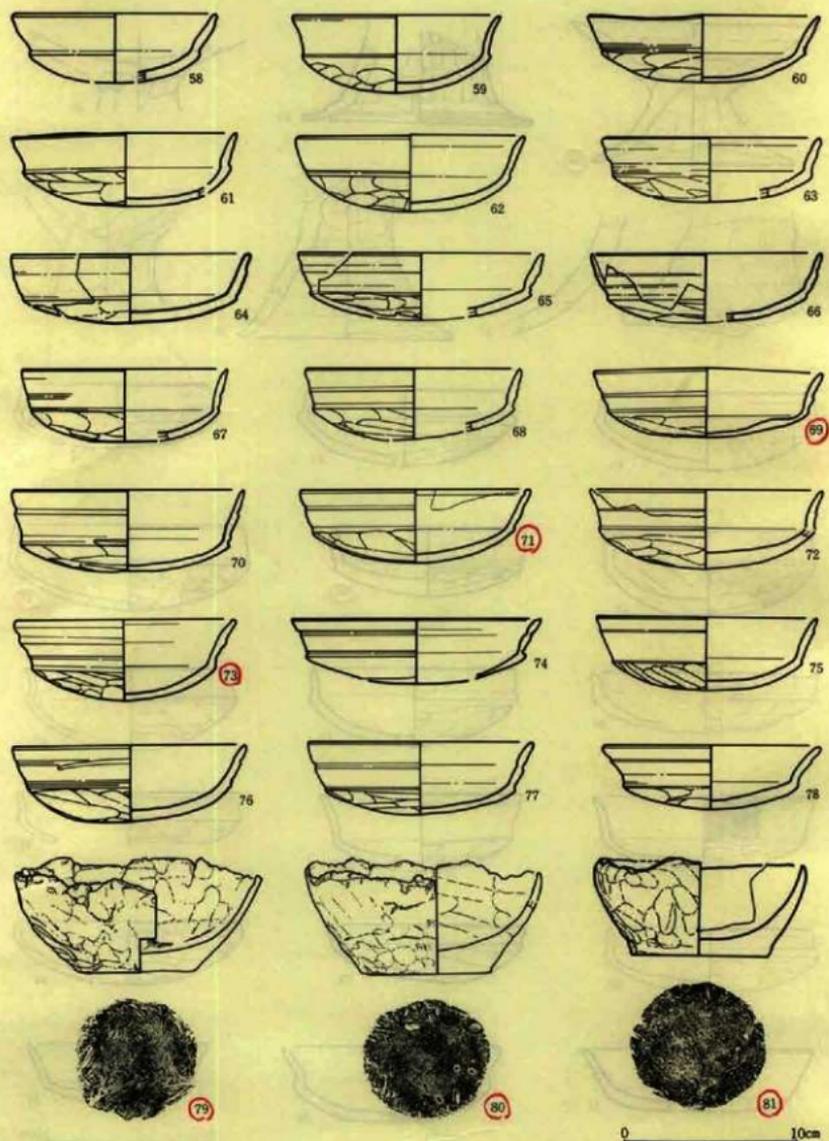
第143图 2号洞出土遺物 (2)



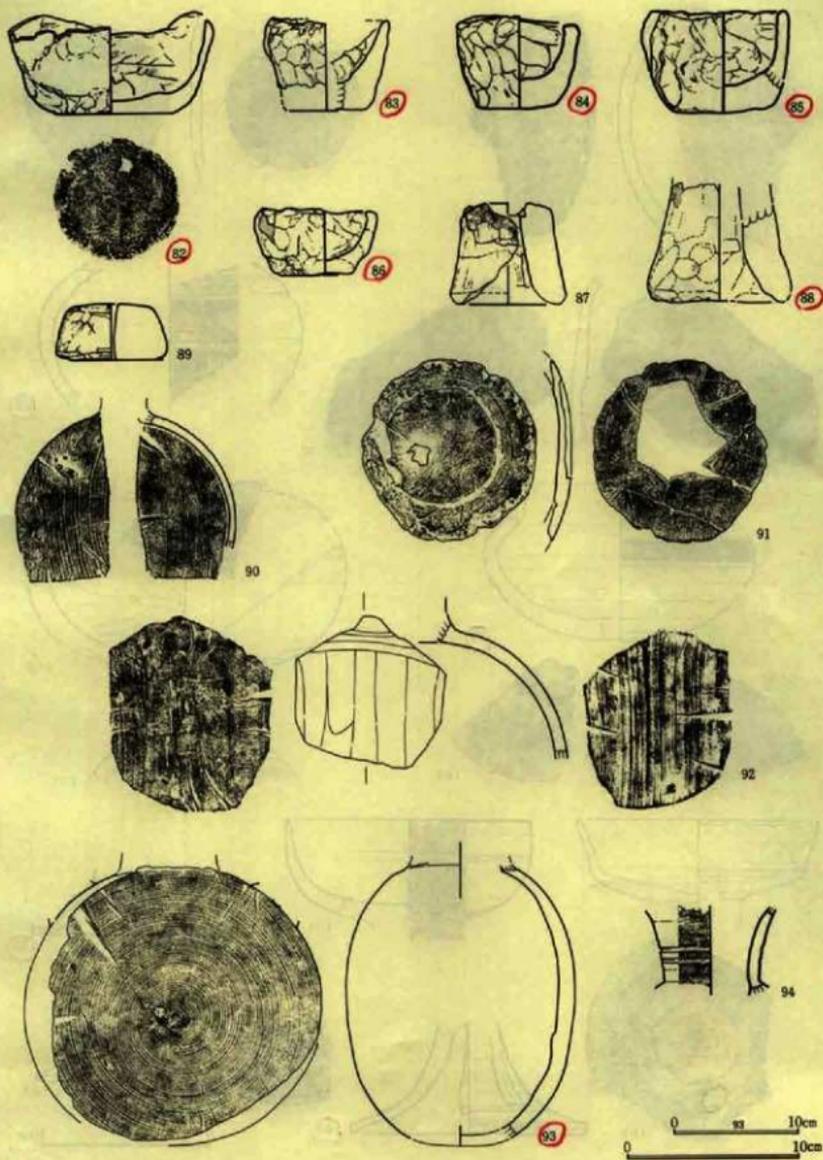
第144图 2号溝出土遺物(3)



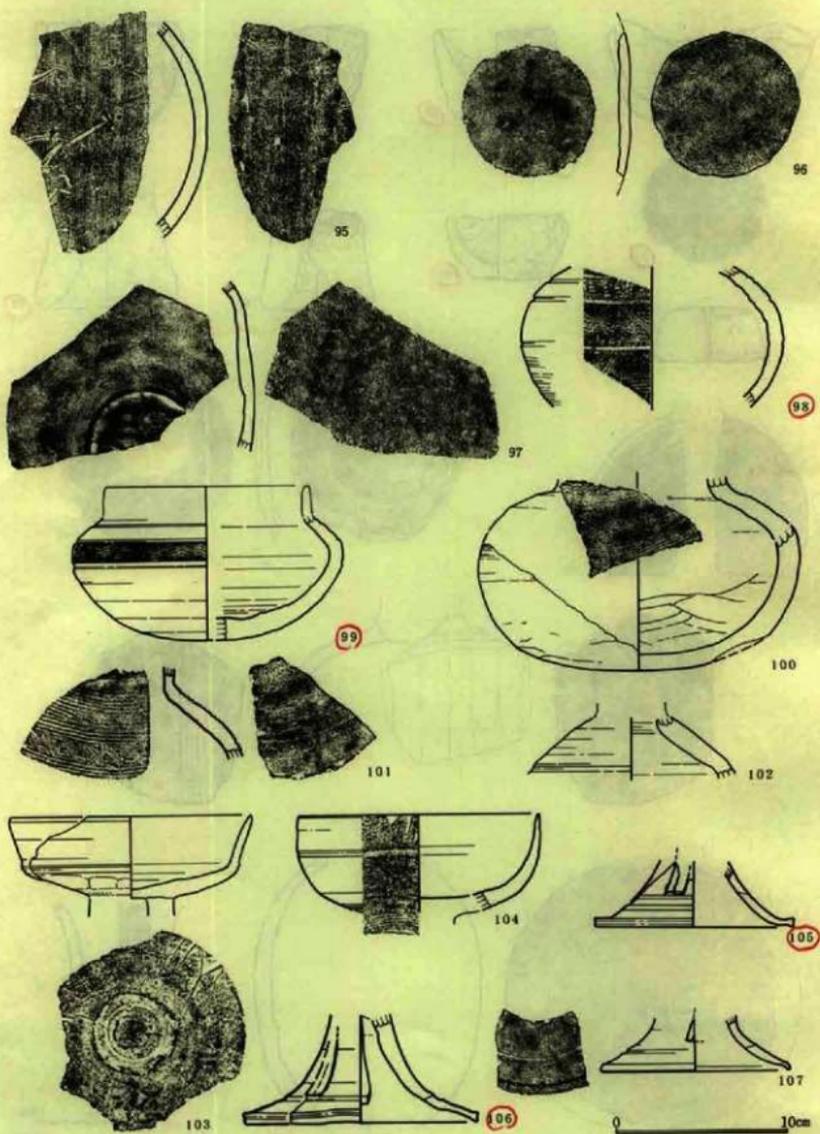
第145图 2号清出土遺物 (4)



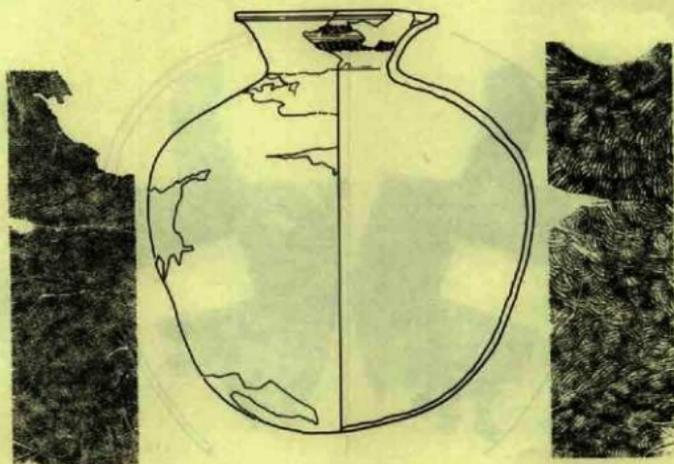
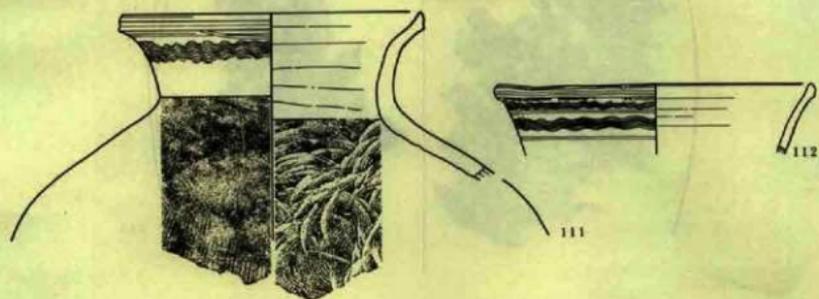
第146图 2号溝出土遺物(5)



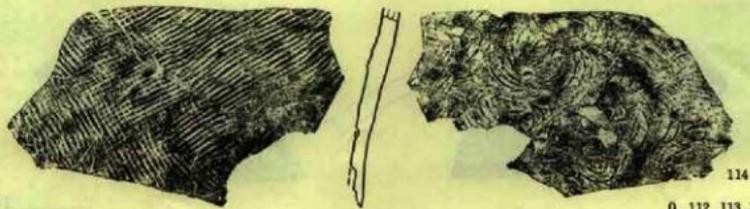
第147图 2号清出土遺物 (6)



第148图 2号洞出土遗物(7)



113

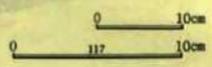
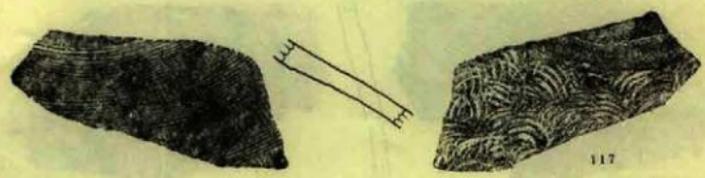
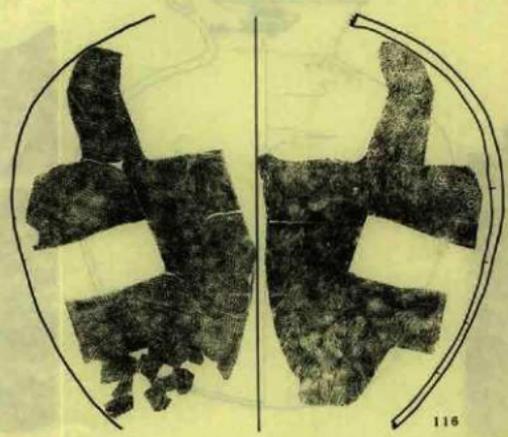
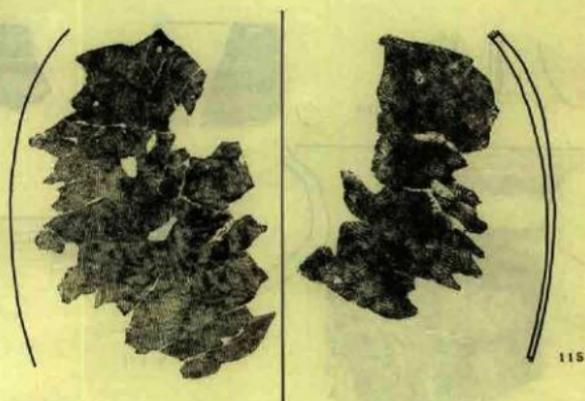


114

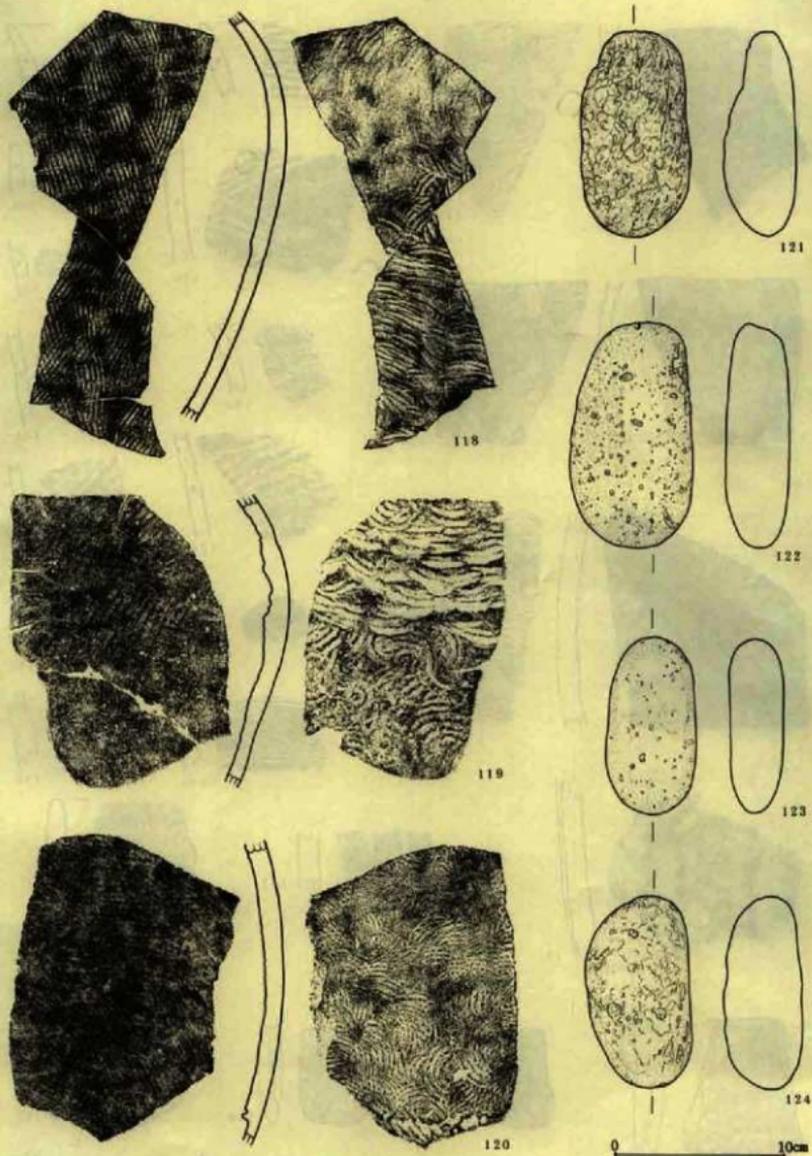
0 112 113 10cm

0 10cm

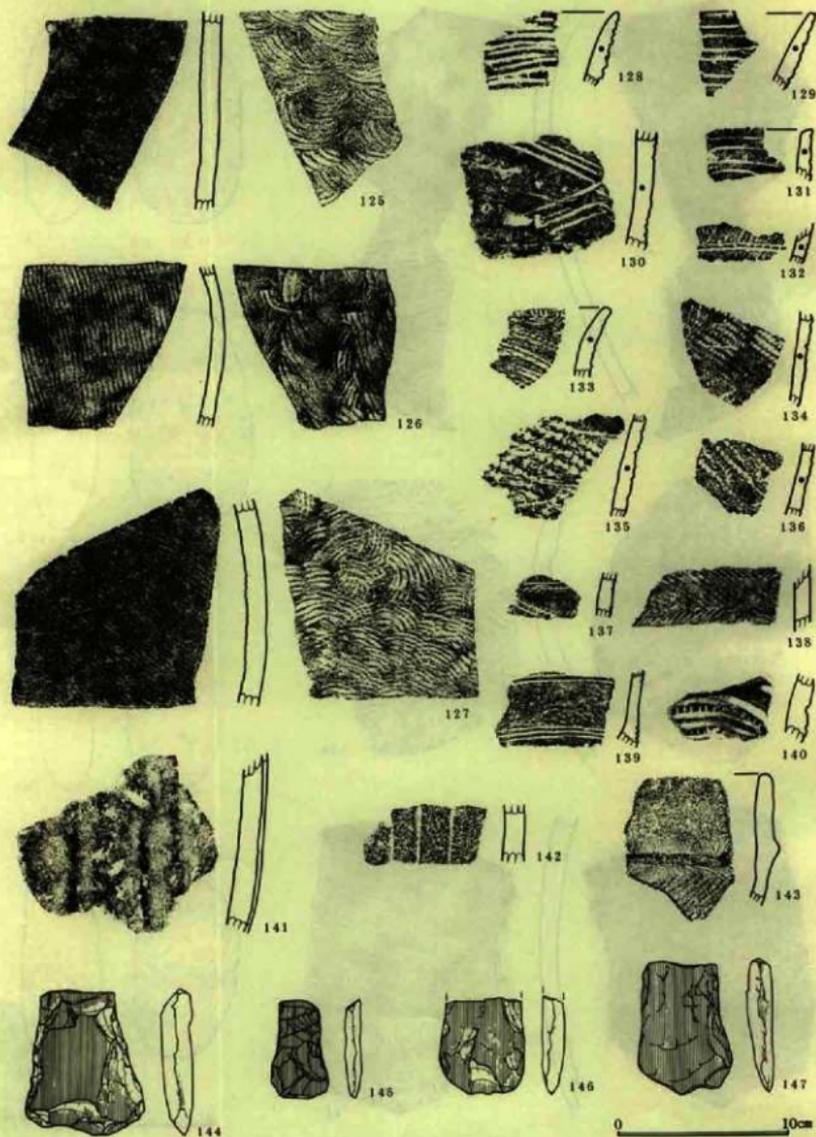
第149图 2号沟出土物(8)



第150圖 2号溝出土遺物(9)



第151图 2号溝出土遺物 00



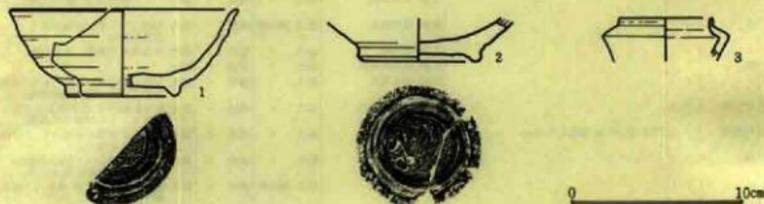
第152圖 2号溝出土遺物 00

22	小型壺 (#)	口径 12.3 cm 器高 12.5 cm 底径 6.5 cm	色調 淡褐色～淡灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 口縁部1/4残存。口縁部横線、腹部一体部へ下がり。
23	壺 (#)	器高 8.6 cm 底径 5.7 cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 胴部中央～底部残存。外面へ下がり、内面横線。
24	丸底壺 (#)	口径 8.0 cm 器高 11.3 cm	色調 淡褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 体部中央～底部。球形の胴部を呈し、口縁部は直立気味とする。口縁部横線、外面へ下がり。
25	# (#)	口径 8.2 cm 器高 6.6 cm	色調 淡赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 底平大、口縁部～内面横線、外面縦位へ下がり。
26	# (#)	口径 11.7 cm 器高 11.2 cm 底径 7.8 cm	色調 淡褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 完全、口縁部横線、体部～器高へ下がり。
27	小型壺 (#)	口径 10.4 cm 器高 7.0 cm	色調 淡褐色～淡赤褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 口縁部～体部1/4欠損。口縁部～内面横線、外面へ下がり。
28	壺 (土胎)	口径 17.9 cm 器高 17.0 cm 口径 8.3 cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 ほぼ完成で、縦孔式。口縁部横線、内面へ下がり、外面へ下がり。
29	# (#)	口径(16.1)cm 器高 13.4 cm 口径(2.8)cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 単孔式。口縁部～内面横線、外面縦位へ下がり。
30	# (#)	口径 4.1 cm	色調 淡褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 単孔式。乳孔辺をへ下がり調整。
31	# (#)	口径(16.3)cm 器高 9.0 cm 口径 3.5 cm	色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 口縁部1/5欠損。コート状を呈し、口縁部横線、外面へ下がり。
32	# (#)		色調 褐色～赤褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 多孔式。焼成前に1cm前後の孔を穿つ。
33	高坏 (#)		色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 坏部下半～胴部前片。全体に厚粒、脚部へ下がり。
34	# (#)	口径(14.1)cm 器高 6.5 cm 底径 11.4 cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 坏部1/3、脚部部1/4欠損。坏部の体部と口縁部の間に、脚部は直立気味。
35	# (#)	器高 5.5 cm 底径 12.8 cm	色調 黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 縦管片、脚柱部外面縦位へ下がり、内面横線へ下がり、外面へ下がり。
36	# (#)		色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 坏部～脚部接合部片。坏部内面磨き、外面へ下がり。
37	# (#)		色調 淡赤褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 大径の坏部と穿りよれる脚部片。遺の欠を呈し、外面へ下がり。
38	# (#)	器高 9.1 cm 底径(12.1)cm	色調 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 脚部片で、脚柱部はへ下がり、脚部横線。
39	# (#)		色調 淡褐色～淡赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 坏部部～脚柱部中。全体に厚粒。
40	坏 (#)	口径(12.0)cm 器高 4.7 cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/2残存。体部と口縁部の間に、口縁部は内傾気味。口縁部～内面横線、外面へ下がり。
41	# (#)	口径 11.3 cm 器高(4.6)cm	色調 くすんだ褐色～黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 1/4欠。 # # #
42	# (#)	口径(10.7)cm 器高(3.6)cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部3/3残。 # # #
43	# (#)	口径 12.0 cm 器高 5.2 cm	色調 赤褐色～暗褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 口縁部1/2欠。 # # # 口縁部は直立。口縁部横線。
44	# (#)	口径 11.4 cm 器高 4.2 cm	色調 淡褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 坏部～内面横線、外面へ下がり。 # # #
45	# (#)	口径 13.2 cm 器高 5.1 cm	色調 くすんだ褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 完全。 # # #
46	# (#)	口径(13.3)cm 器高(3.5)cm	色調 赤褐色～淡赤褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 1/3残。 # # # 段。 #
47	# (#)	口径(11.8)cm 器高(4.6)cm	色調 くすんだ褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 約1/2残。 # # # 段。 #
48	# (#)	口径(12.5)cm 器高(4.3)cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 器は直立気味に外反。 # # # 口縁部は直立。 # # #
49	# (#)	口径 12.8 cm 器高 4.3 cm	色調 くすんだ褐色～褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部1/4欠。 # # # 横。 #
50	# (#)	口径(11.6)cm 器高(4.6)cm	色調 くすんだ赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/3残。 # # #
51	# (#)	口径 13.2 cm 器高 3.1 cm	色調 くすんだ赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 # # # # # #
52	# (#)	口径(11.6)cm 器高 3.8 cm	色調 淡褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # # # # # # 口縁部は直立気味。 # # #
53	# (#)	口径 12.0 cm 器高 3.5 cm	色調 褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 1/4欠。 # # # 段。口縁部は短く外反。 # # #
54	# (#)	口径(13.0)cm 器高(3.7)cm	色調 淡赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 約1/2残。 # # # 横。 #
55	# (#)	口径(13.5)cm 器高(3.8)cm	色調 くすんだ黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 内面黒色結晶で砂質。 # # # 口縁部は直線的に開く。 # # #
56	# (#)	口径(12.7)cm 器高 4.6 cm	色調 赤褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 約1/2残。 # # # 段。口縁部は外反。 # # #
57	# (#)	口径(10.5)cm 器高 3.6 cm	色調 淡赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部1/4残。 # # # 横。 #
58	# (#)	口径(12.0)cm 器高(4.1)cm	色調 淡赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/3残。 # # # 段。 #
59	# (#)	口径(12.1)cm 器高 4.6 cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 約1/2残。 # # # 段。口縁部は直立気味に外反。 # # #
60	# (#)	口径(13.5)cm 器高 4.0 cm	色調 淡赤褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/2残。 # # # 横。口縁部は直線的に開く。 # # #
61	# (#)	口径(13.0)cm 器高 4.4 cm	色調 淡赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/3欠。 # # # 段。口縁部は直立気味に外反。 # # #
62	# (#)	口径 13.2 cm 器高 4.6 cm	色調 灰黄白色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 完全。 # # # 横。 # # #
63	# (#)	口径(12.3)cm 器高(3.7)cm	色調 淡褐色～淡黄白色	胎土 #	焼成 #	備考 1/3残。 # # #
64	# (#)	口径(14.2)cm 器高 4.2 cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 微砂粒	焼成 #	備考 口縁部1/5欠。 # # #
65	# (#)	口径(14.5)cm 器高(3.9)cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 1/4残。 # # #
66	# (#)	口径(13.1)cm 器高(4.1)cm	色調 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部1/5残。 # # #
67	# (#)	口径(12.0)cm 器高(4.3)cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 約1/2残。 # # # 直立気味。 # # #
68	# (#)	口径 12.4 cm 器高(4.3)cm	色調 くすんだ赤褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 約1/2残。 # # # と口縁部に横。 # # #
69	# (#)	口径 13.0 cm 器高 4.2 cm	色調 褐色～くすんだ黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 完全。 # # # 外反。 # # #

79	#	(#)	口径 13.3 cm 器高 4.9 cm	色調 灰黄白色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 口縁部1/4欠。# # # 直立気 場以外反。# # # 直線的 に開く。# # #
71	#	(#)	口径 13.3 cm 器高 4.4 cm	色調 くすんだ褐色～黒 褐色	胎土 #	焼成 #	備考 # # #
72	#	(#)	口径(13.5)cm 器高 4.8 cm	色調 淡褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部2/3欠。# # # 口縁部は立 立気場以外反。# # #
73	#	(#)	口径 12.7 cm 器高 4.9 cm	色調 褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # # # 口縁部は外 反。# # #
74	#	(#)	口径(14.6)cm 器高(3.6)cm	色調 淡赤褐色～黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 口縁部1/2欠大。# # # と口縁部に成。 口縁部は外反。# # #
75	#	(#)	口径(13.2)cm 器高 4.5 cm	色調 淡黄白色	胎土 #	焼成 良好	備考 口縁部2/3欠。# # # と口縁部に成。 口縁部は直線的に開く。# # #
76	#	(#)	口径 13.4 cm 器高 4.7 cm	色調 赤褐色～黒褐色	胎土 #	焼成 #	備考 口縁部1/4欠。# # #
77	#	(#)	口径 15.1 cm 器高 4.4 cm	色調 くすんだ褐色～黒 褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 1/3欠大。# # #
78	#	(#)	器高 3.9 cm	色調 褐色～暗褐色	胎土 #	焼成 #	備考 約1/2欠。# # # 口縁部は 外反して開く。# # #
79	手取	(土器)	口径 13.8 cm 器高 6.9 cm 底径 6.8 cm	色調 褐色～淡黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # # # 口縁部は外反して開く。# # #
80	#	(#)	口径 13.4 cm 器高 7.0 cm 底径 7.6 cm	色調 淡褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # # #
81	#	(#)	口径 11.8 cm 器高 5.8 cm 底径 8.0 cm	色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 # # #
82	#	(#)	口径 11.6 cm 器高 6.0 cm 底径 6.9 cm	色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 完全。
83	#	(#)	口径(4.5)cm 器高 5.6 cm 底径(4.5)cm	色調 淡褐色～淡赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 底部下平～底部2/3欠損。
84	#	(#)	口径 6.2 cm 器高 5.5 cm 底径 4.6 cm	色調 赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # # #
85	#	(#)	口径(7.0)cm 器高 6.0 cm 底径 5.8 cm	色調 淡黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 外反1/3欠損。
86	#	(#)	口径 6.1 cm 器高 4.1 cm 底径 3.9 cm	色調 淡赤褐色	胎土 #	焼成 良好	備考 # # #
87	頸口	(#)	器高 6.8 cm	色調 灰褐色～淡褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 1/4欠損。# # #
88	頸口	(#)	器高(7.1)cm	色調 淡褐色～灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 1/3欠損。# # #
89	結輪車	(銅器)					
90	瓶	(銅器)		色調 暗灰褐色～灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 腹板の銅部片。外面磨き目。内面横線。
91	#	(#)		色調 淡黄灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 # # #
92	#	(#)		色調 灰黄褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 腹板の銅部～銅部片。内面横線。外面 へう割り。
93	#	(#)		色調 青灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 # の銅部片で、巻き目調整。把手痕 有り。
94	鍔	(#)		色調 淡黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 銅部片で二本の杖跡を透らす。内面に 自然粘着。
95	#	(#)		色調 青灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 外面磨き目調整。内面横線。
96	瓶	(#)		色調 淡青灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 #
97	#	(#)		色調 暗灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 腹板の銅部片と考えられる。外面は自 然粘着。内面に成筋。
98	脚行鍔	(#)		色調 淡青灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 表面磨き目で、趾曲部と平に成状文と 刺状文。下平は巻き目調整。
99	短筒鍔	(#)	口径(11.8)cm 器高(9.2)cm	色調 淡青灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 趾曲部に成状文を透らす。下平は同様 へう割りを施す。
100	鍔	(#)		色調 青灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 趾部～体部中央と銅部～銅部片。銅部 に成状文。銅部に磨き目調整。
101	#	(#)		色調 青灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 銅部から銅部片で、巻き目と成状文を 施す。
102	#	(#)		色調 灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 長筒鍔の銅部片と考えられる。趾曲部 に成筋を施す。
103	高环	(銅器)	口径(12.2)cm	色調 青灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 銅部片で口縁部4/5欠。口縁部～内面 横線。底部へう割り。部印有。
104	#	(#)	口径(14.1)cm	色調 暗赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 銅部片で1/2割り。外部中央に成状文が 透り、底部は同様にへう割り。
105	#	(#)	底径(11.6)cm	色調 青灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 銅部片で透かし穴を施す。
106	#	(#)	底径(13.7)cm	色調 くすんだ赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # # #
107	#	(#)	底径(19.9)cm	色調 青灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # # #
108	#	(#)		色調 くすんだ赤褐色	胎土 #	焼成 #	備考 # # #
109	鍔	(銅器)		色調 灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 口縁部～銅部片で、三段に成状文を施 す。
110	#	(#)		色調 淡緑灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 銅部片で、成状文を施す。
111	#	(#)	口径 17.6 cm 器高(13.3)cm	色調 灰褐色	胎土 #	焼成 #	備考 銅部に成状文。銅部に平行印き目。内 面に磨き目。
112	#	(#)	口径(17.2)cm	色調 くすんだ赤褐色～ 黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 口縁部を玉縁とし、成状文を透らす。
113	#	(#)	口径(23.6)cm 器高 50.1 cm 底径 45.0cm	色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 # # #
114	#	(#)		色調 くすんだ灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 大蓋の銅部片で、外面平行印き目。内 面青銅鍍。
115	#	(#)		色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 # # #
116	#	(#)		色調 #	胎土 #	焼成 #	備考 # # #
117	#	(#)		色調 淡黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 良好	備考 外面平行印き目の後巻き目調整。内面 青銅鍍。
118	#	(#)		色調 灰褐色～くすんだ 赤褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # # #
119	#	(#)		色調 灰褐色～くすんだ 灰褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # # #
120	#	(#)		色調 淡黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 外面は磨耗している。# # #
121	磁石	(#)	長さ 12.1 cm 幅 6.5 cm 厚さ 4.5 cm 重さ 304 g 石質 輝石火山岩				
122	#	(#)	長さ 13.2 cm 幅 7.3 cm 厚さ 3.8 cm 重さ 561 g 石質 石英岩				
123	#	(#)	長さ 10.5 cm 幅 5.4 cm 厚さ 3.2 cm 重さ 289 g 石質 輝石火山岩				
124	#	(#)	長さ 11.3 cm 幅 6.3 cm 厚さ 4.8 cm 重さ 283 g 石質 多孔質輝石火山岩				
125	鍔	(銅器)					
126	#	(#)		色調 淡黒褐色	胎土 粗砂粒	焼成 #	備考 # # #

127	# (#)	[色調 淡黒褐色]	胎土 #	焼成 #	備考 #	#、#、120と同一製法か。
128	#	縄文時代前期 須賀・有尾式跡の所産。半截竹管による平行沈線を多段に施す口縁部片。				
129	#	#				
130	#	#				
131	#	#				半截竹管による平行沈線を多段に施す口縁部片。
132	#	#				半截竹管による平行沈線を多段に施す口縁部片で口唇部を内さぎ縁とする。
133	#	#				半截竹管による平行沈線に扇形文を施す。
134	#	#				口唇部に斜め目を施す。地文は附加扇形文。
135	#	#				RLと上Lを羽状に施す割部片。
136	#	#				
137	#	#				半截竹管による平行沈線に扇形文を施す。
138	#	#				割部片による扇形文を添下させる割部片。
139	#	#				沈線文による扇形の区画文を辨別し口縁部を交互に施す割部片。
140	#	#				口縁部を無文帯とし、胎土で割部文帯を区画する。
141	#	#				胎土による扇形文を添下させる割部片。
142	#	#				沈線文による扇形の区画文を辨別し口縁部を交互に施す割部片。
143	#	#				口縁部を無文帯とし、胎土で割部文帯を区画する。
144	打取石片	長さ 8.8 cm 幅 7.2 cm 厚さ 1.9 cm 重さ 156 g	石質 無灰品ガラス質安山岩			
145	#	長さ 6.0 cm 幅 3.4 cm 厚さ 0.9 cm 重さ 21 g	石質 無灰品ガラス質安山岩			
146	#	長さ 5.9 cm 幅 5.1 cm 厚さ 1.6 cm 重さ 58 g	石質 無灰品安山岩			
147	#	長さ 8.1 cm 幅 5.5 cm 厚さ 1.5 cm 重さ 90 g	石質 無灰品ガラス質安山岩			
148	#	長さ 10.7 cm 幅 5.0 cm 厚さ 1.6 cm 重さ 93 g	石質 無灰品安山岩			
149	凹石	長さ 10.3 cm 幅 8.3 cm 厚さ 3.6 cm 重さ 437 g	石質 輝石安山岩			
150	#	長さ 8.2 cm 幅 7.1 cm 厚さ 3.6 cm 重さ 253 g	石質 輝石安山岩			
151	#	長さ 10.9 cm 幅 7.2 cm 厚さ 4.5 cm 重さ 337 g	石質 多孔質輝石安山岩			
152	多孔石	長さ 14.1 cm 幅 13.4 cm 厚さ 8.2 cm 重さ 1216 g	石質 多孔質輝石安山岩			

(4) 遺構外遺物 (第154図)



第154図 遺構外遺物

遺構外遺物 (第154図)

1	高台付碗 (断面)	口径(13.2)cm 器高 5.2 cm 底径 (6.3)cm	色調 灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 糸切り縁、付高台。
2	# (#)	口径 器高 (2.6)cm 底径 6.5 cm	色調 暗灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 糸切り縁、付高台。内底部は褐色き状糊痕目。
3	小型短頸壺 (#)	口径(8.4)cm 器高 (2.6)cm	色調 紫灰褐色	胎土 微砂粒	焼成 良好	備考 外反して開く体部から強く屈曲し、口縁部は強く直立する。

第IV章 自然科学分析

パリーノ・サーヴェイ株式会社

<目次>

はじめに

I、縄文土器胎土分析

1 試料

2 分析方法

(1) 重鉱物分析

(2) 薄片作製観察

3 結果

(1) 重鉱物分析

(2) 薄片作製観察

(3) 胎土の分類

4 考察

II、縄文時代中期浅鉢付着物の分析

1 試料

2 分析方法

3 結果

4 考察

III、平安時代土師器壺の内面の光沢について

1 試料

2 分析方法

3 結果

文 献

<図表・図版一覧>

表1 重鉱物分析結果

表2 胎土薄片観察結果

第1図 胎土分析資料

第2図 胎土重鉱物組成

第3図 付着赤色物質のX線回折図

写真図版1 胎土中の重鉱物

写真図版2 胎土薄片(1)

写真図版3 胎土薄片(2)・塗布物

はじめに

大胡町の所在する群馬県中部地域は、中部山岳地域、北陸・越後地域、東北部地域の各地域と接する位置にあり、関東地方南部に向かって開かれている。このような地理的環境から、縄文時代においても、これらの地域からの影響は様々な形でたらされたことが推測されている。これまでの発掘調査成果でも、縄文時代の遺跡からは、各地域の特徴を有する様々な型式の土器が出土した例が知られている。赤城火山南麓に位置する茂木山神Ⅱ遺跡では、縄文時代前期および中期を中心とした遺構、遺物が検出された。発掘調査では、縄文時代前期と中期ともに住居跡が検出され、住居跡からは土器片がまとも出土している。これらの土器片も、群馬県における縄文土器の動態を示唆する資料として注目され、考古学上の解析が進められている。本報告では、これらの土器片について、その材質（胎土）を対象とした分析調査を行うことにより、群馬県中部地域における縄文土器に関する有意な資料の作成を目的とする。具体的には、縄文時代中期とされるJ12号住居跡から出土した複数の土器片における胎土の状況（複数種の胎土が混在するか全て単一の胎土かなど）を明らかにし、さらに比較対象試料として縄文時代前期のJ6号住居跡から出土した複数の土器片の分析も行い、時期の違いによる土器胎土の違いの有無を確認し、その意味を考える。

なお、本報告では、上記分析と同時に本遺跡より出土した縄文時代中期の浅鉢に付着した赤色物質の特定と平安時代の甕内面に認められた光沢についてその由来を調べることも行う。

I 胎土分析

1 試料（第1図）

試料は、本遺跡より出土した縄文土器片15点である。試料には試料番号1～15まで付されている。このうち試料番号1～4の4点は、J12号住居跡から出土した土器片であり、縄文時代中期中葉末の時期の土器である。試料番号5～15の11点は、J6号住居跡から出土した土器片であり、縄文時代前期黒浜・有尾式期の土器である。

2 分析

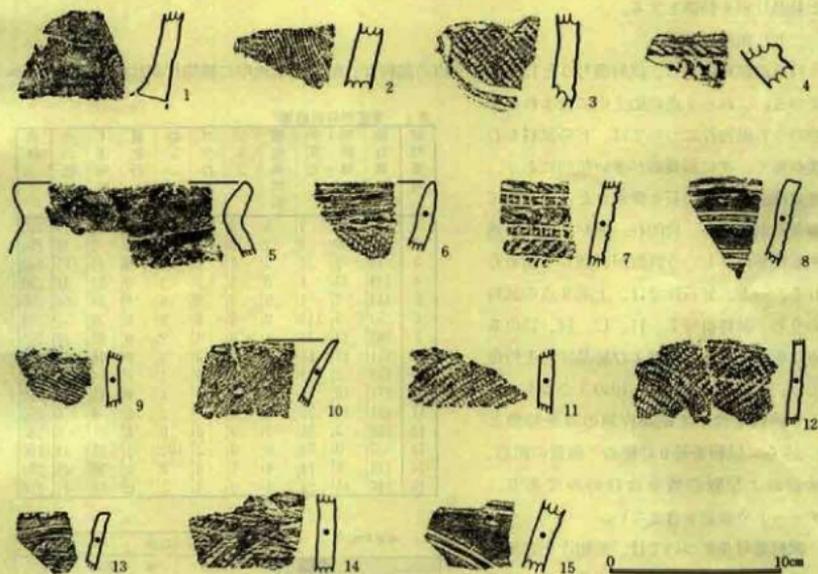
胎土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分けて鉱物組成や岩片組成を求める方法と化学組成を求める方法とがある。前者は粉砕による重鉱物分析や薄片作製などが主に用いられており、後者では蛍光X線分析が最もよく用いられている方法である。本分析では、前者の分析方法を用いる。この方法は、縄文土器のような比較的粗粒の砂粒を含む胎土の試料の分析において、胎土の特徴が捉えやすいこと、地質との関連性を考えやすいことなどの利点がある。以下に重鉱物分析と薄片作製観察および粘土鉱物分析の処理過程を述べる。

(1) 重鉱物分析

試料は、適量をアルミナ製乳鉢で粉砕、水を加え超音波洗浄装置により分散、#250分析篩により水洗、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた1/4mm～1/8mmの粒子をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物のプレパラートを作製した後、偏光顕微鏡下にて同定した。鉱物の同定粒数は、250個を目標とした。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを「不透明鉱物」とし、それ以下の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。

(2) 薄片作製観察

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。薄片は岩石学的手法を用いて観察し、胎土中に含まれる砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を明らかにし、また鉱物の加熱変化をもとに焼成温度を推定した。



第1図 胎土分析資料

3 結果

(1) 重鉱物分析 (表1、第2図)

a) 中期の土器

4点の試料のうち、試料番号3を除く3点はともに斜方輝石が最も多く、少量の単斜輝石と不透明鉱物を伴い、微量の角閃石を含む。試料番号3は「その他」とした変質粒が非常に多く、これを除くと中量の不透明鉱物と微～少量の斜方輝石および角閃石が含まれる。

b) 前期の土器

11点の試料のうち、試料番号5、6、13の3点を除く8点は、ともに斜方輝石が最も多く、少量または微量の単斜輝石を伴い、少量の角閃石と不透明鉱物を含む。試料によっては微量の緑レン石も含まれる。試料番号5も斜方輝石が最も多いが、「その他」とした変質粒も斜方輝石と同程度に多く、他に微量の単斜輝石と少量の不透明鉱物を伴う。試料番号6は、角閃石が最も多く、中量の斜方輝石と緑レン石が含まれる。試料番号13は、緑レン石が最も多く、中量の角閃石を伴い、少量の不透明鉱物と微量の斜方輝石を含む。

(2) 薄片観察 (表2)

a) 中期の土器

4点の試料のうち、試料番号3を除く3点は、砂粒の量や種類構成においておおよそ類似した傾向を示す。すなわち、これら3点はいずれも淘汰の中程度の砂粒を中量含み、鉱物片では斜方輝石、岩石片では安山岩を特徴とする。試料番号3は、砂粒を多量に含み、鉱物片では石英が多く、岩石片では砂岩と結晶片岩を特徴とする。

b) 前期の土器

11点の試料のうち、試料番号5と13を除く9点の試料は、胎土の素地中に植物片が比較的多く含まれている。これら9点の胎土中に含まれる砂粒のうち鉱物片については、どの試料も石英が多く、次に斜長石が多い傾向にあり、他に微量のカリ長石と微量またはきわめて微量の斜方輝石、角閃石、緑レン石、不透明鉱物を伴うという特徴が共通して認められる。一方、岩石片では、上記9点の試料のうち、試料番号7、11、12、14、15の5点はチャートと砂岩および結晶片岩を特徴とし、試料番号8、9、10の3点はチャートや砂岩を含まず結晶片岩のみを特徴とし、さらに試料番号6は極めて微量の泥岩、砂岩および脈岩類を含むのみであり、チャートや砂岩を含まない。

試料番号5については、植物片を含まないことを除けば、上記の試料番号8～10の3点と砂粒の種類構成は類似する。また、試料番号13は、植物片を含まないことを除けば、上記の7、11、12、14、15の5点と砂粒の種類構成は類似するが、ただし、鉱物片において白雲母が比較的多いことは、この試料の特徴となる。

(3) 胎土の分類

上述のように重鉱物分析結果と薄片作製観察結果とは、非常によく整合する。両者の結果を合わせると、今回の15点の試料に認められた胎土を以下に述べるa～e類に分類することができる。

1) a類

試料番号3を除く中期の3点がこれに分

表1 重鉱物分析結果

試料番号	斜方輝石	斜方輝石	角閃石	酸化角閃石	ジルコン	ザクロ石	緑レン石	電気石	不透明鉱物	その他	合計
1	151	29	5	0	0	0	0	0	46	19	250
2	167	60	4	2	0	0	0	0	7	10	250
3	12	2	17	0	1	0	0	0	61	157	250
4	148	33	1	0	0	0	1	0	21	46	250
5	114	7	1	0	0	0	0	0	24	104	250
6	51	5	117	0	0	0	3	0	37	37	250
7	161	12	34	1	0	1	2	0	23	16	250
8	151	23	15	1	0	3	3	0	16	38	250
9	189	2	39	0	0	0	1	0	14	5	250
10	171	10	15	0	0	1	4	0	13	36	250
11	191	21	22	0	0	0	2	0	8	6	250
12	186	3	36	0	0	0	0	0	17	8	250
13	7	0	71	0	0	2	102	1	23	44	250
14	110	6	14	4	1	0	8	0	58	49	250
15	145	16	25	1	0	3	3	0	15	41	250



第2図 胎土重鉱物組成

類される。角閃石を微量しか伴わない両輝石主体の重鉱物組成と安山岩片を含むことが特徴である。

2) b類

前期の土器の試料番号5がこれに分類される。角閃石を微量しか伴わない両輝石主体の重鉱物組成はa類に似るが、安山岩を含まずに結晶片岩を含むことでb類とした。

3) c類

中期の土器の試料3がこれに分類される。「その他」の多い重鉱物組成と砂岩を比較的多く含むことが特徴である。

4) d類

薄片下で植物片を多く含む前期の土器9点の胎土をd類とした。重鉱物組成は、試料番号6以外の8点は、斜方輝石が多く、少量の角閃石を伴い、少量または微量の単斜輝石と不透明鉱物を含むことが特徴である。これら8点のうち、チャート、砂岩、結晶片岩を特徴とする5点の試料の胎土をd1類とし、結晶片岩のみを特徴とする3点をd2類とする。さらに試料番号6はd3類とする。

5) e類

前期の土器の試料番号13がこれに分類される。緑レン石と角閃石を主体とする重鉱物組成と白雲母を比較的多く含むことが特徴といえる。

4 考 察

今回の分析結果を上記の胎土の分類からみると、中期の土器と前期の土器との間で胎土が異なっていることがわかる。すなわち、中期の土器胎土はa類を中心とし、前期の土器はd1類およびd2類を中心とする。また、中期の土器も前期の土器も複数種の胎土が存在するが、今回の試料のみでいえば、中期の土器と前期の土器の両者に認められる胎土は存在しない。これらのことから、茂木山神II遺跡における縄文時代前期と中期とは、土器の製作、供給事情が大きく異なっていた可能性が高いと考えられる。

ここで、重鉱物組成や砂粒の種類構成から推定される胎土の地質学的背景を考えると、a類からd2類までの胎土は、その重鉱物組成から両輝石安山岩質の火山噴出物が分布する地域に由来し、d3類は輝石角閃石安山岩質またはデイサイト質の火山噴出物が分布する地域に由来すると考えられる。一方、これらの胎土中には安山岩だけでなく、チャートや砂岩などの古期堆積岩類や変成岩である結晶片岩も混在する。これは、これら様々な地質に由来する碎屑物を集めた河川堆積物が分布する地域で、土器の材料となる砂や粘土が採取されたことを示唆する。したがって、a類からd3類までの胎土の由来する地域は、その流域に安山岩質の火山噴出物とチャートを含む古期堆積岩類および結晶片岩を含む変成岩類が分布する河川の流域を想定することができる。

大胡町の位置する赤城火山南麓斜面を流れる河川は、いずれも赤城火山に発するものであるから、その流域に安山岩質の火山噴出物は分布するが、古期堆積岩類や結晶片岩などの分布はない。このことから、少なくともa類からd3類までの胎土の土器は、赤城火山南麓斜面上の砂や粘土だけで作られたものでないと言える。

次に大胡町近傍の河川として利根川をあげることができる。群馬県中央部付近の利根川の河川堆積物を考えた場合、片品川や吾妻川およびそれらの支流も含めた流域の地質に由来する碎屑物が含まれていると考えられる。日本の地質「関東地方」編集委員会(1986)などにより、上記流域の地質を概観すると、安山岩質の火山噴出物の分布は吾妻川流域に広く分布し、また利根川流域にも子持火山や赤城火山

など安山岩質の火山噴出物からなる地質が分布する。一方、古期堆積岩類と變成岩類については、チャートを含む古期堆積岩類からなる足尾帯が品川上流の支流である根利川の流域に分布し、結晶片岩を含む上越帯と呼ばれる變成岩帯が、利根川源流域や根利川流域にも分布する。また武尊山から川場村を流れ利根川に合流する薄根川流域にも變成岩の分布が認められる。したがって、吾妻川との合流点より下流の利根川流域は、上述した胎土の由来する地域と地質学的背景が一致する。すなわち、a類からd3類までの胎土を有する土器の材料となった砂や粘土は上記の利根川流域で採取された可能性がある。各分類の組成の違いは、この流域内での採取場所の違いを示しているとも考えられる。

胎土のe類は、他の胎土と異なり、重鉱物組成からも薄片観察からも安山岩質の火山噴出物という地質学的背景は推定されない。e類から推定される地質学的背景としては、薄片観察では認められないが角閃石や白雲母、黒雲母などが認められることから花崗岩などの酸性深成岩類の分布と緑レン石および結晶片岩の岩石片から結晶片岩を含む變成岩類の分布が考えられる。一般に関東平野とその周縁地域の表層の堆積物では斜方輝石が比較的多く含まれることが、これまでの当社における分析例でも確かめられている。したがって、胎土のe類の由来する地域は、群馬県中央地域外であり、関東平野およびその周縁部地域以外である可能性がある。

現時点では、各分類の詳細な地域を特定することはできないが、今後、周辺域における土器および自然堆積物の分析例を蓄積することができれば、状況を明らかにできるかも知れない。なお、群馬県以外まで対象を広げれば、上述したような胎土の由来する地域として考えられる河川流域は、利根川以外にも存在することが予想される。これについては、考古学上の所見から地域をいくつか想定した上で検討すべきであろう。

II 付着物の分析

1 試料

試料は、J9号土坑から出土した縄文時代中期末様の浅鉢(第54図1)に付着していた赤色物質である。

2 分析方法

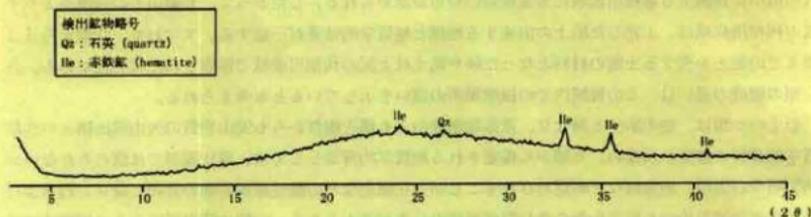
赤色物質は、鉱物であることが予想されたため、X線回折分析を実施した。処理過程を以下に述べる。土器に付着した赤色物質を抽出し、105°Cで2時間乾燥させた。乾燥させた赤色物質をメノウ乳鉢で微粉砕しアセトンを用いてスライドグラスに塗布し、X線回折測定試料とした。作成したX線回折測定試料について以下の条件で測定を実施した(足立、1980:日本粘土学会、1987)。

検出された物質の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子面間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物をX線粉末回折線総合プログラム(五十嵐、未発表)により検索した。

装置: 島津製作所製 XD-3 A	Time Constant: 1.0sec
Target: Cu (K α)	Scanning Speed: 2°/min
Filter: Ni	Chart Speed: 2 cm/min
Voltage: 30KVP	Divergency: 1°
Current: 30mA	Receiving Slit: 0.3mm
Count Full Scale: 5,000C/S	Scanning Range: 2~45°

3 結 果

赤色物質のX線回折図を第3図に示した。本赤色物質において石英 (quartz)、赤鉄鉱 (hematite) の2鉱物の存在が確認される。



第3図 付着赤色物質のX線回折図

4 考 察

上記検出鉱物において赤色を呈する鉱物は赤鉄鉱 (hematite) が代表的である。したがって、本赤色物質の素材は赤鉄鉱 (hematite) と判断され、いわゆるベンガラと呼ばれている顔料と推察される。ベンガラが塗布された縄文土器の類例は、全国各地各時期に認められている。

III 土器器壁内面の光沢について

1 試 料

試料は、29号住居跡より出土した9世紀代と考えられる甕の破片 (第109図19) である。破片の内面は褐色を呈し、光沢を有している。

2 分析方法

内面の光沢が、塗布物・付着物によるものであるか、胎土本来の性質であるかを確認するために、土器破片の断面の薄片を作成する。薄片の作製方法は、前述の胎土分析と同様である。

3 結 果

顕微鏡観察により、土器の内面の表層に厚さ0.005mm程度の非常に薄い塗布物を認めることができた。塗布物は透明であるが、部分的に黒色を呈する。この黒色部は土器内面に認められる黒線部に相当すると考えられる。

上記観察結果から、土器内面の光沢は、塗布物によるものと考えられる。現時点では、塗布物の物質名は特定できないが、身近なものとしては透明漆などが考えられる。

文献

- 足立時也 (1980) 「6章 粉末X線回折法 機器分析の手引き3」p64~76 化学同人
日本粘土学会編 (1987) 「粘土ハンドブック 第二版」1289p 技報堂出版
日本の地質「関東地方」編集委員会 (1986) 日本の地質3 関東地方 335p 共立出版

図版1 胎土中の重鉱物



1. 試料番号2 J12H 中期 中葉末



2. 試料番号3 J12H 中期 中葉末



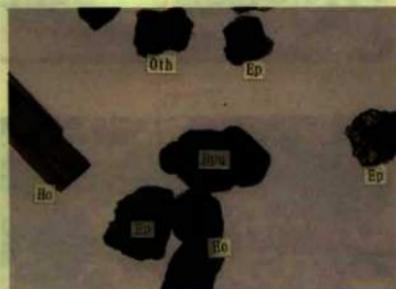
3. 試料番号4 J12H 中期 中葉末



4. 試料番号6 J6H 前期 黒浜・有尾式期



5. 試料番号7 J6H 前期 黒浜・有尾式期



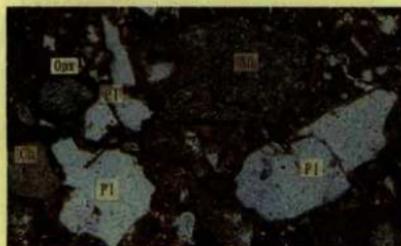
6. 試料番号13 J6H 前期 黒浜・有尾式期

Opx: 斜方輝石, Cpx: 単斜輝石, Ho: 角閃石, Ep: 緑閃石, Opq: 不透明鉱物

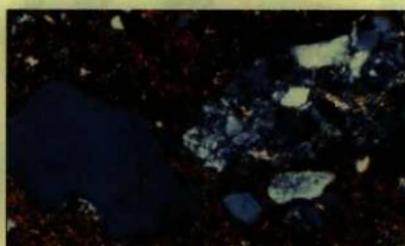
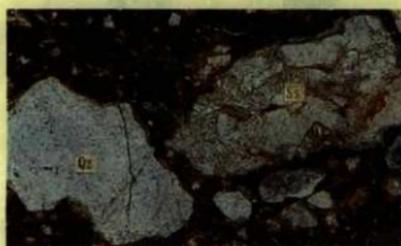
Oth: その他

0.5mm

図版2 胎土薄片(1)



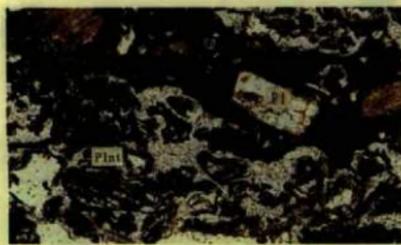
1. 試料番号1 J12H 中期 中葉末



2. 試料番号3 J12H 中期 中葉末



3. 試料番号5 J6H 前期 黒浜・有尾式期



4. 試料番号6 J6H 前期 黒浜・有尾式期

Qz: 石英, Pl: 斜長石, Opx: 斜方輝石, Ss: 砂岩, An: 安山岩, Sh: 結晶片岩, Plnt: 植物片

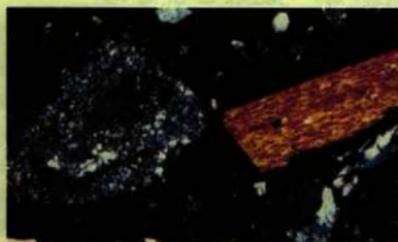
0.5mm

写真左列は下方ポラーラ、写真右列は直交ポラーラ下。

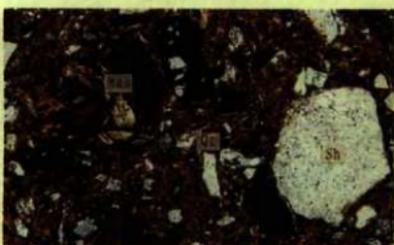
図版3 胎土薄片(2)・塗布物



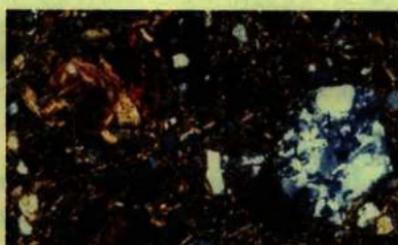
5. 試料番号7 J6H 前期 黒浜・有尾式期



6. 試料番号10 J6H 前期 黒浜・有尾式期



7. 試料番号13 J6H 前期 黒浜・有尾式期



8. 29H-19 土器表面の塗布物 (透明部分)



9. 29H-19 土器表面の塗布物 (黒色部分)

Qz: 石英. P1: 斜長石. Opx: 斜方輝石. Mus: 白雲母. Ep: 緑閃石. Ch: チャート.

Sh: 結晶片岩 写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

(5-7)

0.02mm

(8,9)

第Ⅳ章 成果とまとめ

(1) 縄文時代

本遺跡出土の縄文時代の出土遺物は早期～後期に亘り、同台地で先行して行われた中川原遺跡群の発掘調査と同様に前期と中期を主体とする集落跡が検出された。

本県に於ける中期中葉末～加曾利EⅠ式間は、加曾利EⅡ式の普遍化する前段階でその地域性や多方面の影響が看取され、複雑な様相を呈している。今回の調査でも下記の特徴ある土器が出土した。

J7号住居跡より出土した1～5の資料は、北陸地方や東北地方の影響が看守される土器片である。1は横S字状渦巻き文を入り組む立体的な眼鏡状突起で、内面に沈線で施された渦巻き文の流れに有節沈線文が施されている。この有節沈線文は大木式の影響からの技法と考えられ、その形状は大木8a式の突起に似る。2は頸部文様帯に付される眼鏡把手、3の口唇部は緩やかな鋸歯状を呈する。4はコイル状隆帯を付し、5は印刻三叉文が施されている。2～5は北陸地方を代表する火焰型土器に見られる特徴と類似する。

J12号住居跡から焼町土器(3)と2点の大型深鉢(1・7)がある。焼町土器の出土は本町では二例目の事例である。本遺跡の北西に位置する諏訪東では単独埋壘として逆位の状態で出土しており、住居跡からの出土は初見である。(3)は円筒形を呈する体部を呈し、下半を無文とする。大型深鉢は在地色の強いものであり、類例も少なく、今後の研究課題となる資料である。

さらに、32号住居跡の覆土中から出土した26の土器片が目玉される。破片の為に全体の形状は不明であるが、キャリバー形を呈する深鉢の口縁部片と考えられる。丁寧に研磨された器面に隆帯貼付による文様を施している。県内の管見では類例を見ない初見のものであり、埼玉県や栃木県にその類例があり、御城田遺跡(1987)では隆帯貼付土器(仮称)として扱っている。これらの出土資料は本遺跡と同様に伴出土器との関係が不明のものが多く、周辺地域の様相と本遺跡の中期中葉末頃の様相を参考にして加曾利EⅠ式古段階前後の所産として捉えておきたい。

(2) 古墳時代以降

本遺跡では、4世紀前半頃に25号住居跡が本台地部に集落が営み始め、平安時代後期の24号住居跡に至る期間に継続して集落が営まれていた。各々の住居跡の年代観は以下の通りである。

6世紀後半	22
6世紀後半～7世紀前半	3、19、32、37、41
7世紀前半～7世紀後半	16、17、6、28、44
7世紀後半～8世紀前半	1、13、27、2、4、12、14、30? 29C
8世紀後半～9世紀前半	26、5、36、43、29B
9世紀後半	8、10、33、39、40、29A
10世紀以降	24
不明	7、9、15、18、20、21、23、31、34、35、38、42、45

調査範囲の関係で時期不明の住居跡が多いが、7世紀後半をピークとして6世紀後半～9世紀後半に至る継続性が見られる。

本遺跡での最大の取獲と考えられる資料は、31号住居跡出土の「大兒万財□」の墨書土器片である。

同居跡は時期不明であるが、九世紀前後の様相と推察する。当町は上野三碑の一つである山ノ上碑(681年に建立されたと推察されている)に刻されている「大兒臣」の推定地とされ、堀越古墳は「大兒臣」との係わりが論じられてきた。今回出土した墨書土器の「大兒」は氏姓名を示し、「万財口」は吉祥語として捉えられ、万の財を獲得したいと願望する語と解釈される。

このことから、大兒臣の存在が立証されたと同時に大胡の地名と同臣の氏名の一致から、その拠点地である事が確実視される。

論を進めると、その中心的集落は本遺跡から北に続く茂木天神風呂遺跡(以後、天神風呂遺跡群)が有力と考えられる。同遺跡からは、仏教関係遺物として瓦塔・浄瓶があり、朱墨土器も見られる。本遺跡からは緑釉陶器や螺旋状暗文(畿内暗文の模倣)を施す土器類が出土し、他の集落とは異なる出土遺物が見られる。また、同地区は長期に亘る継続集落であり、当町に於ける他の集落ではこれ程長期間の継続集落は現在確認されていない。

同地区を中心として周囲の発掘調査結果から、天神風呂遺跡群は五世紀頃から根幹地として在地の豪族が居住し、その墓域は低地を挟んで東に位置する上ノ山古墳群等の隣接地が有力であり、方形周溝墓や五世紀後半～六世紀前半の構築と考えられる竪穴石室を有する円墳が検出されていることから推察される。

これに継続して同古墳群や北に隣接する東・西小路古墳群が構築されている。古墳時代終りの七世紀後半には同豪族の人物が載石切組積石室をもつ堀越古墳に埋葬されたと考えられる。

八世紀に至っては、同地区に仏教的要素が浸透し、官衙的要素か寺院の要素を持つ核的な集落に発展した可能性が考えられる。同時代の生産遺跡としてハッケ峰遺跡は重要な係わりが考えられる。同遺跡からは須恵器窯址と製鉄址・木炭窯が検出され、須恵器窯からは骨蔵器として多く使用される「上野型」有蓋短頸壺や広口壺等が焼かれている。恐らく、祭祀的行為を目的に使用される器種を大胡臣が発注したものと推察される。

八世紀後半～九世紀の段階では、天神風呂遺跡群を核として比較的短期間で消滅する集落(以後、開拓集落)が北方の山野手に多く分布する。これらの開拓集落は複雑に台地と低地が織り成す地形上であり、水田等の農業生産に係わる遺構の検出は現在まで確認されていない。この状況は農村開発よりその他の生産活動に係わる開発を主とするものと推察される。

その他の生産活動とは、如何なるものであろうか。その論点は当町に隣接する宮城村・粕川村・新里村に多く検出されている製鉄に係わる遺構であり、今後の重要課題として「赤城山麓に於ける平安時代の生業」を多方面から追求する事で豪族と農民との係わりを解明し、それをつなぐ精神的な必要性に寺院が存在したと考えられる。

ま と め

本遺跡では、紙面と時間的制約から多くの問題を擱上げて縄文時代の地域性のある土器を紹介し、古墳時代以降は、「大兒」に係わる問題点の整理として論を進めた。これらの事例は当町のみで解決される問題では無く、赤城山麓一帯を総合的な視野に入れて論議すべきである。文化財行政は諸事情から多くの批判があり過渡期でもある昨今、埋蔵文化財はその特殊性から目新しいものの発見に目を奪われがちであるが、基本はあくまでも地道な成果の積み上げによるものと確信する。本報告が僅かであるが地域解明の一助となれば幸いである。

写 真 图 版



1、A調査区全景（真上から）



2、A～C調査区全景（南から）



1、B~C調査区（真上から）



2、D調査区全景（真上から）



1、D調査区 (南から)



2、D調査区 (南側部分)



1、E調査区全景（南から）



2、E調査区全景（東側から）



1、J1号住居跡



2、J2号住居跡



3、J2号住居跡炉址



4、J3号住居跡



5、J3号住居跡炉址



6、J3号住居跡炉内遺物出土状況



1、J3号住居跡炉址



2、J4号住居跡セクション



3、J5号住居跡セクション



4、J6号住居跡遺物出土状況



5、J6号住居跡遺物出土状況



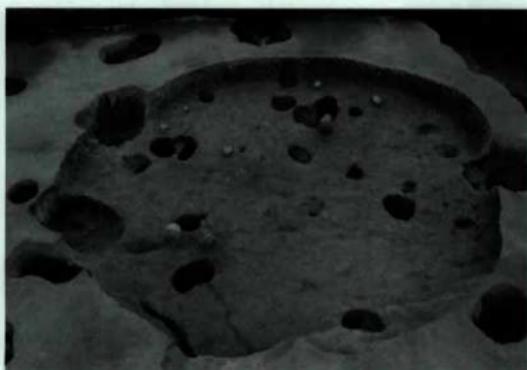
6、J6号住居跡遺物出土状況



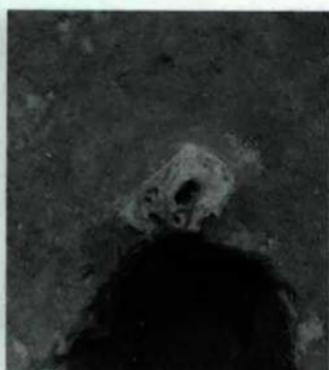
1、J6号住居跡完備



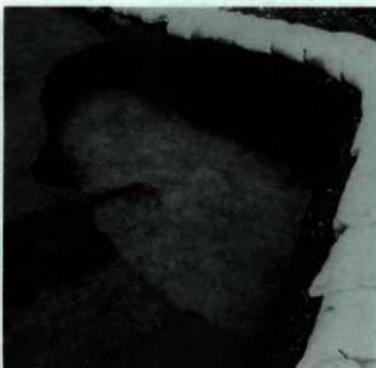
2、J7号住居跡周辺作業風景



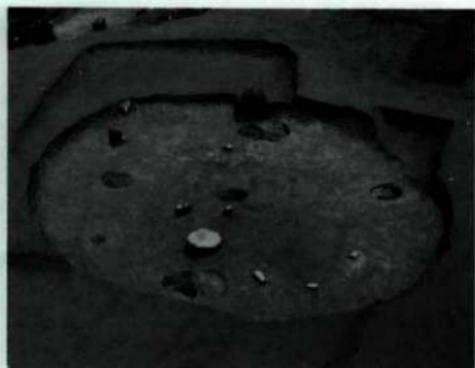
3、J7号住居跡



4、J7号住居跡遺物出土状況



5、J8号住居跡



6、J9号住居跡



1、J9号住居跡遺物出土状況



2、J9号住居跡遺物出土状況



3、J9号住居跡完圖



4、J9号住居跡 (真上から)



5、J10号住居跡



6、J10号住居跡遺物出土状況



1、J10号住居跡



2、J10号住居跡炉址



3、J11号住居跡



4、J11号住居跡遺物出土状況



5、J11号住居跡炉址



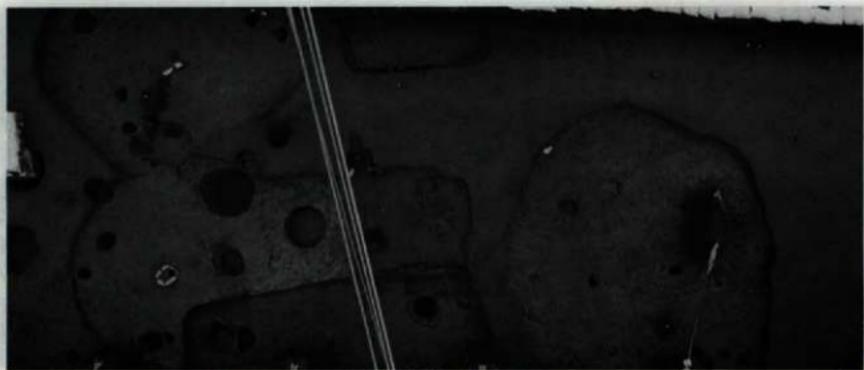
6、J12号住居跡



1、J12号住居跡遺物出土状況



2、J12号住居跡遺物出土状況



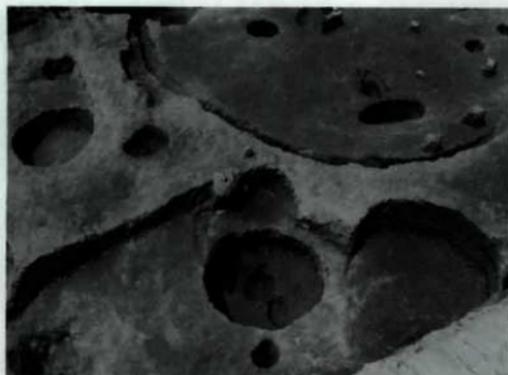
3、J10~12号住居跡（真上から）



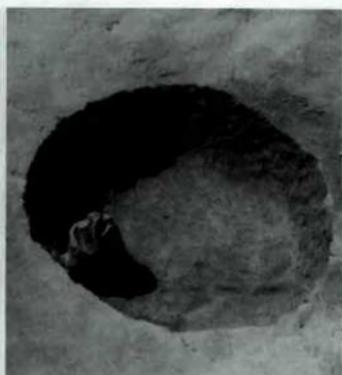
4、J2号土坑



5、J6号土坑



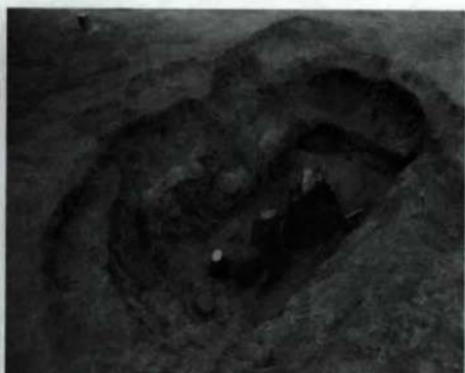
1、J5~J8号土坑周边



2、J7号土坑



3、J8号土坑遗物出土状况



4、J9号土坑



5、J11号土坑



6、J13号土坑



1、J14号土坑



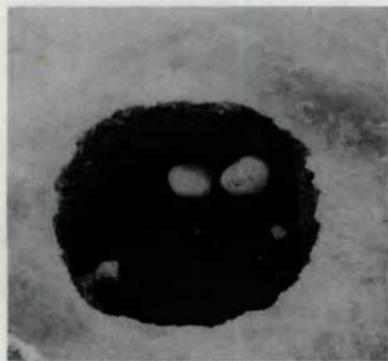
2、J14号土坑



3、J15号土坑



4、J15号土坑



5、J16号土坑



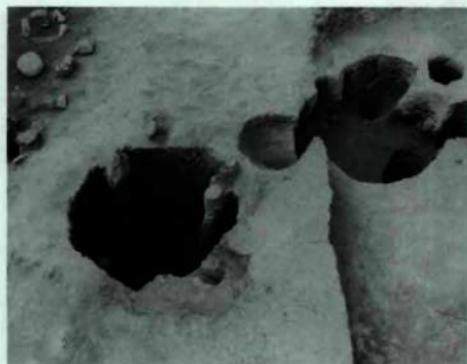
6、J17号土坑



1、J18号土坑



2、J16·18号土坑·埋设土器



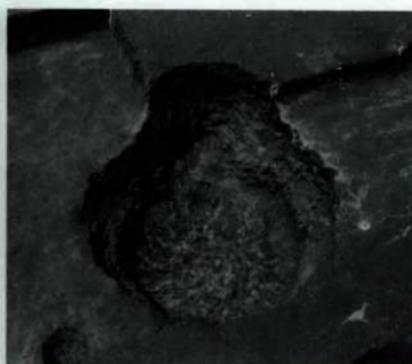
3、J20·21号土坑



4、J23号土坑



5、J24号土坑



6、J25号土坑



1、J26号土坑



2、J27+28号土坑



3、J29号土坑



4、J30号土坑



5、J31号土坑



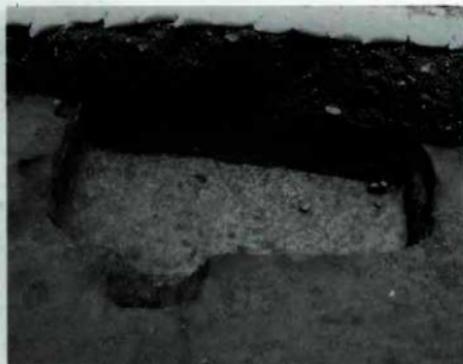
6、集石



1、1号住居跡



3、1号住居跡カマド



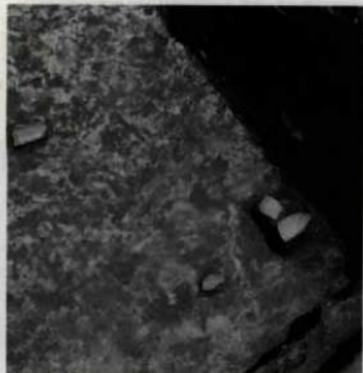
4、2号住居跡



2、1号住居跡



5、2号住居跡セクション



1、2号住居跡遺物出土状況



2、3号A・B号住居跡



3、3号住居跡カマド遺物出土状況



4、3号住居跡カマドセクション



5、3号住居跡カマド



6、3号住居跡カマド完備



1、4号住居跡



2、5号住居跡



3、5号住居跡セクション



4、5号住居跡遺物出土状況



5、6号住居跡



6、6号住居跡



1、7・9号住居跡



2、10号住居跡



3、8号住居跡



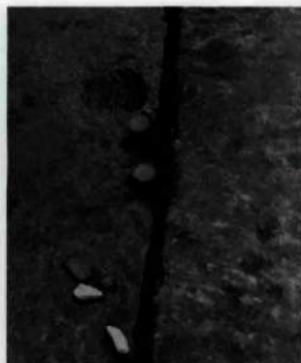
4、10号住居跡遺物出土状況



5、11・12号住居跡



6、11号住居跡カマド



1、12号住居跡遺物出土状況



2、13号住居跡



3、14号住居跡



4、14号住居跡遺物出土状況



5、14号住居跡完掘



6、14号住居跡カメラ



1、14・15号住居跡周辺



2、作業風景



3、16号住居跡遺物出土状況



5、16号住居跡遺物出土状況



4、16号住居跡セクション



6、16号住居跡遺物出土状況



1、16号住居跡遺物出土状況



2、16号住居跡遺物出土状況



3、17・18号住居跡



4、17号住居跡柱穴



5、19・20号住居跡



6、20号住居跡セクション



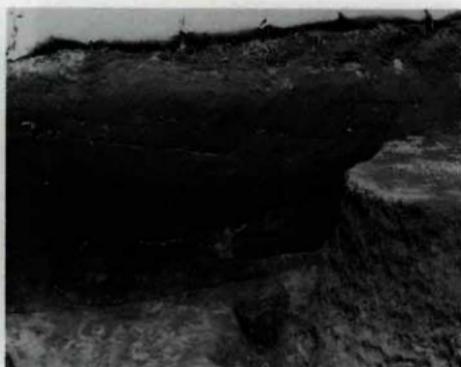
1、21・22号住居跡



2、22号住居跡



3、22号住居跡遺物出土状況



4、23号住居跡セクション



5、24号住居跡



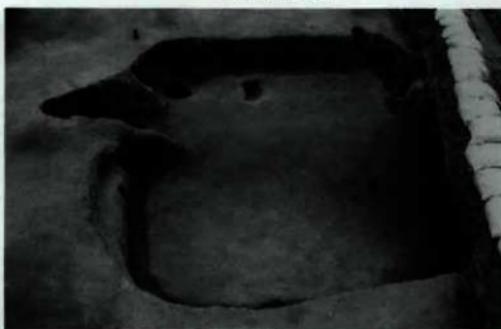
6、24号住居跡遺物出土状況



1、25号住居跡



3、26号住居跡カマド



2、26号住居跡



4、27号住居跡



5、27号住居跡カマド



6、27号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



1、28号住居跡



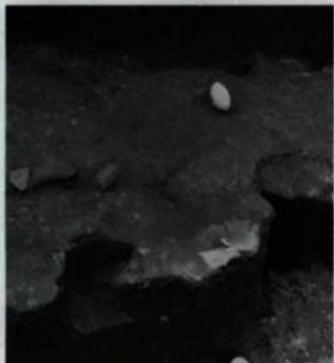
2、28号住居跡カマド



3、28号住居跡遺物出土状況



4、29号住居跡



5、29号A住居跡遺物出土状況



6、29号B状況跡遺物出土状況



1、29号住居完掘



2、29号住居跡カマド



3、29号住居跡カマドセクション



4、30号住居跡



5、30号住居跡セクション



6、30号住居跡カマド



1、31号住居跡



2、32号住居跡カマド



3、32号住居跡



4、32号住居跡貯蔵穴



5、33号住居跡



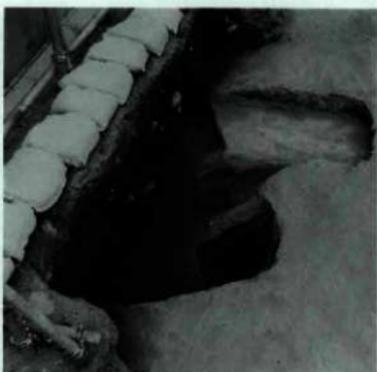
6、32号住居跡カマド



1、33号住居跡遺物出土状況



2、33号住居跡遺物出土状況



3、34号住居跡



4、35号住居跡



5、35号住居跡カマド



6、35号住居跡貯蔵穴



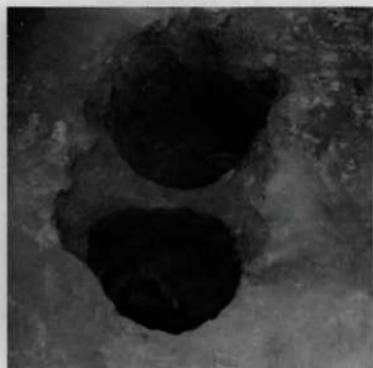
1、36号住居跡カマド



2、35・36号住居跡



3、36号住居跡



4、37号住居跡貯蔵穴



5、35～37号住居跡



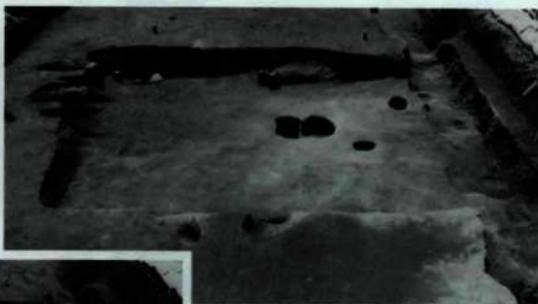
6、E調査区作業風景



1、38号住居跡



2、38号住居跡セクション



4、39号住居跡完掘



3、39号住居跡



5、39号住居跡



6、39号住居跡カメラ下



1、39号住居跡カマド



2、40号住居跡



3、40号住居跡遺物出土状況



4、40号住居跡遺物出土状況



5、41号住居跡



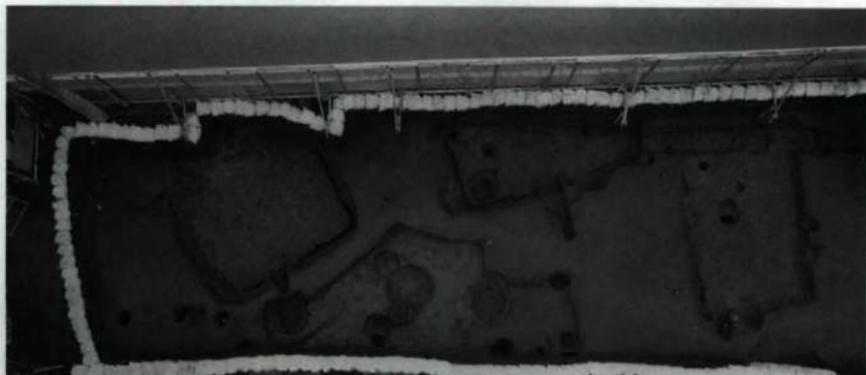
6、41号住居跡カマドセクション



1、42号住居跡セクション



2、43号住居跡



3、38~44号住居跡



4、44号住居跡



5、44号住居跡遺物出土状況



1、44号住居跡



2、44号住居跡カマド



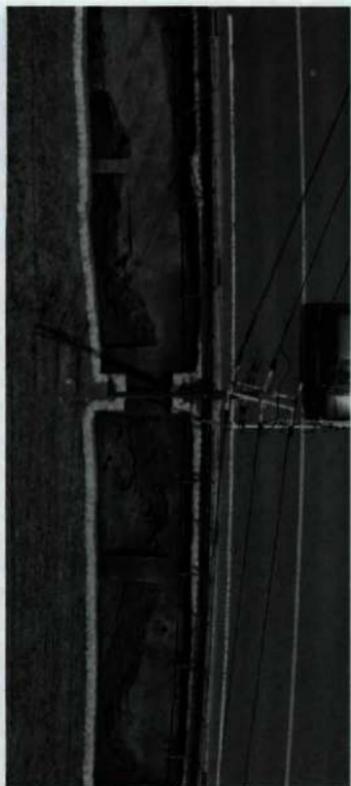
3、2号溝



4、2号溝



5、2号溝



1、2号溝全景（真上から）



2、2号溝遺物出土状況（近景）



3、2号溝遺物出土状況（近景）



4、2号溝遺物出土状況（近景）



5、2号溝遺物出土状況（近景）



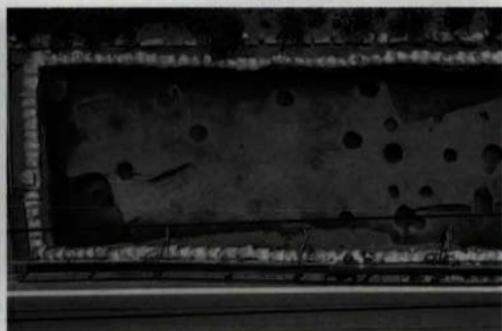
1、2号溝セクション



2、3～5号溝

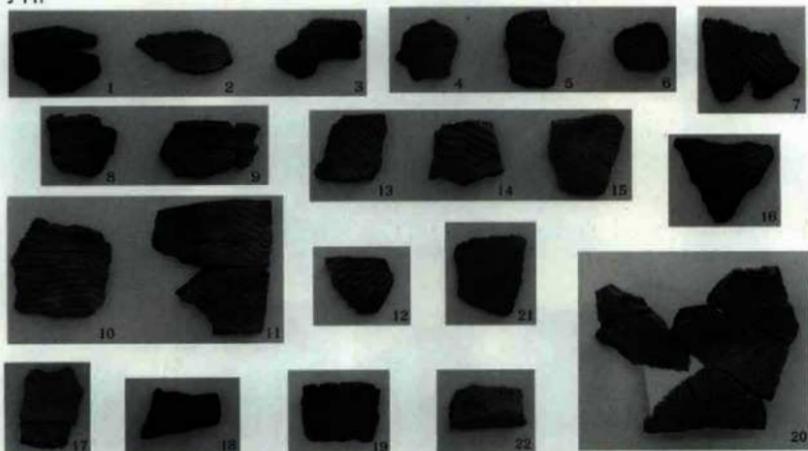


3、6号溝

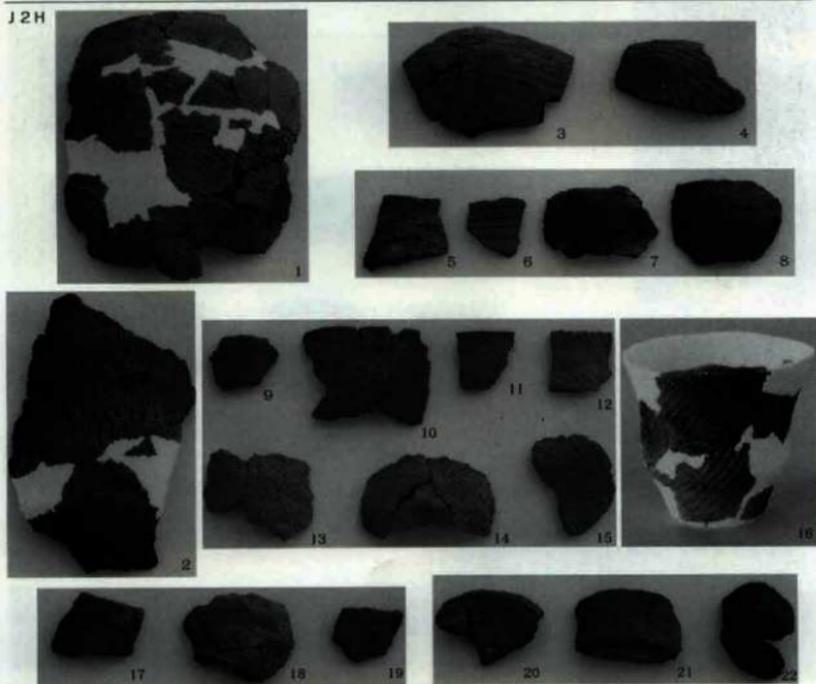


4、1・2号柱穴列

J 1 H



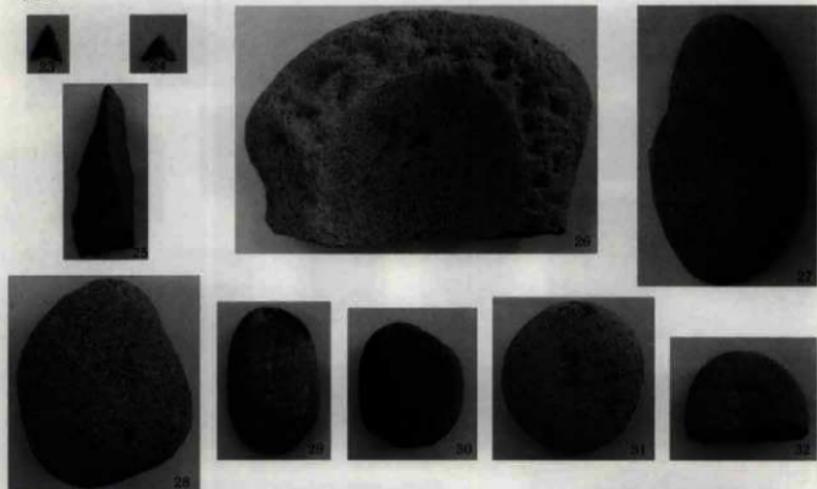
J 2 H



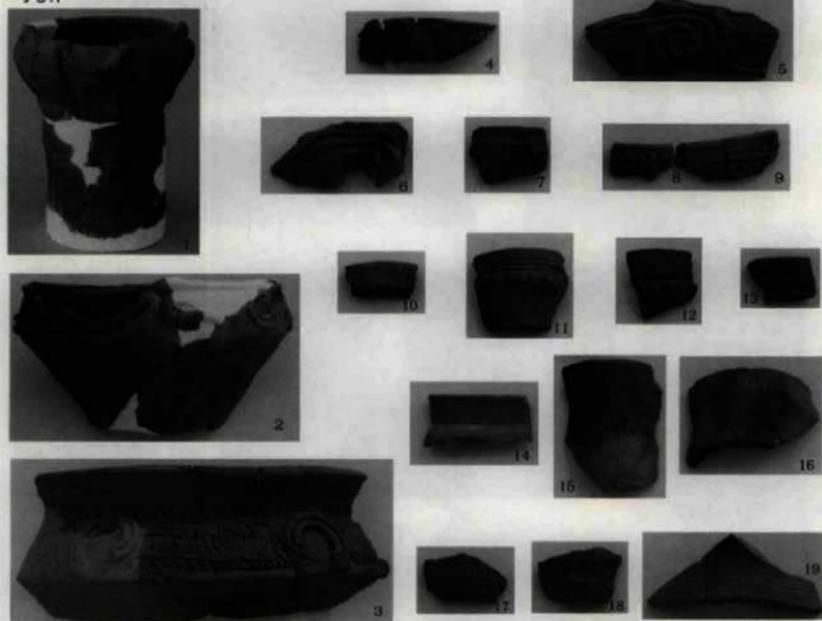
J 1 · J 2号住居跡出土遺物

PL36

J2H

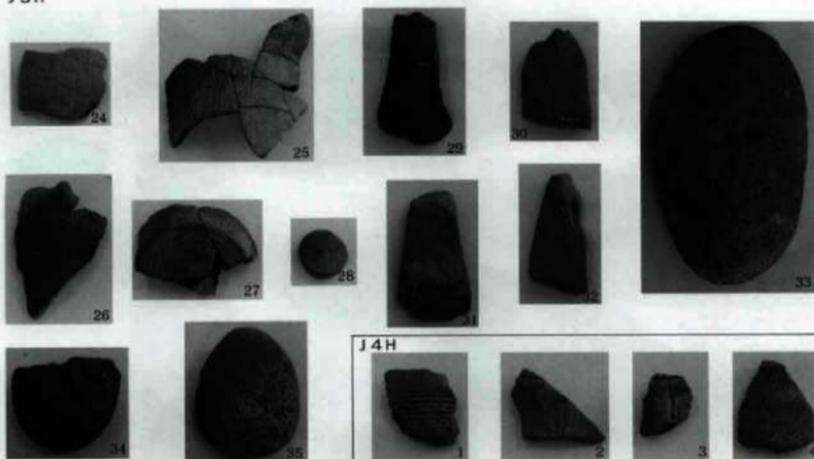


J3H

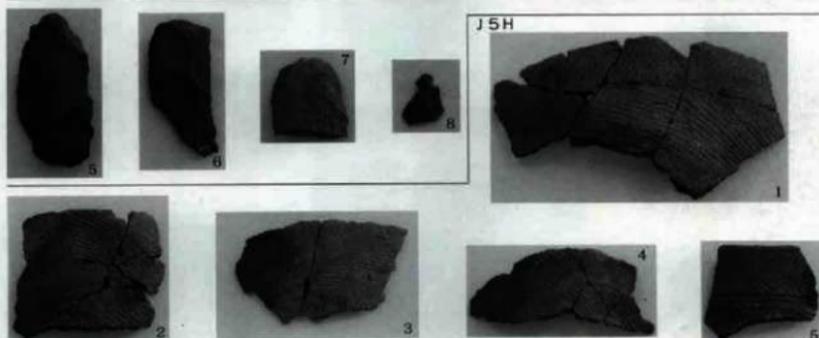


J2・J3号住居跡出土遺物

J3H



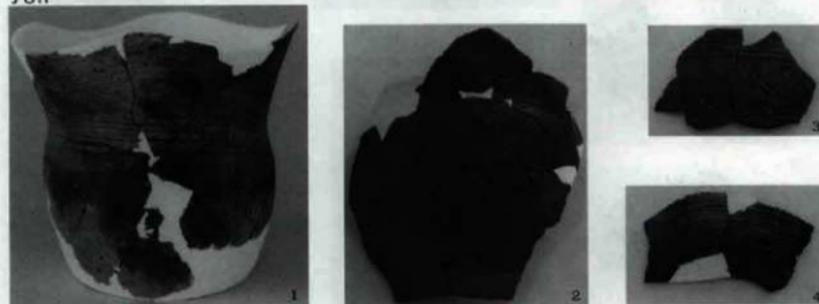
J4H



J5H



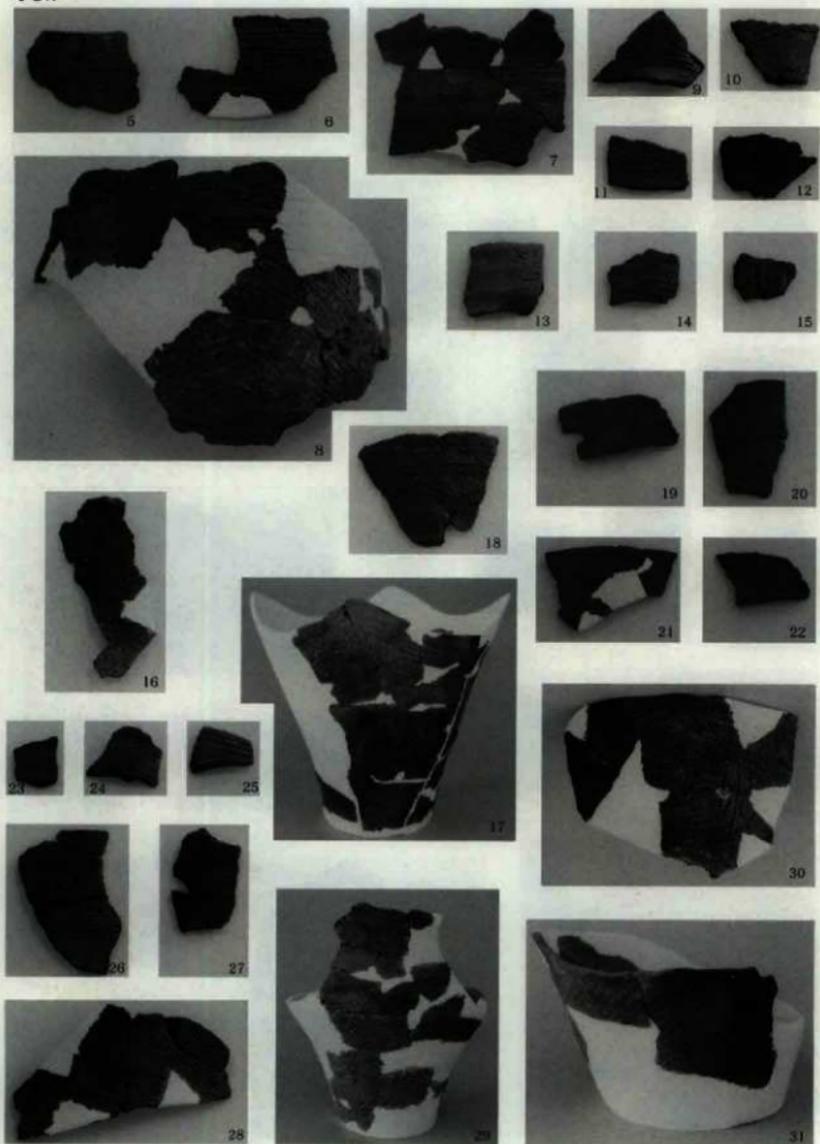
J6H



J3~J6号住居跡出土遺物

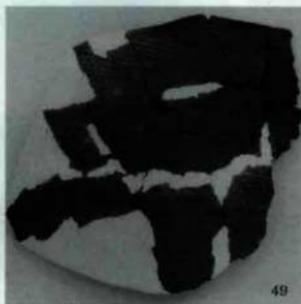
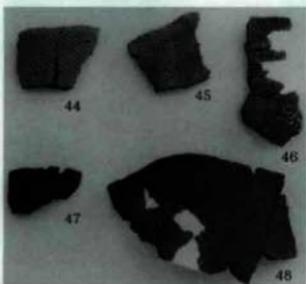
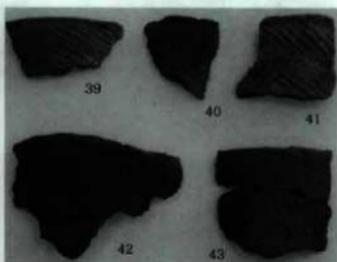
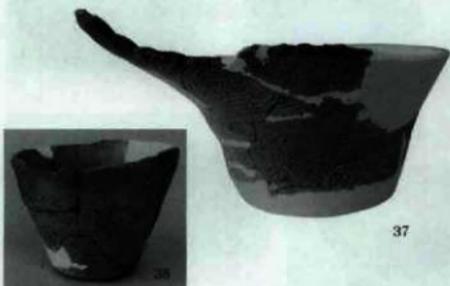
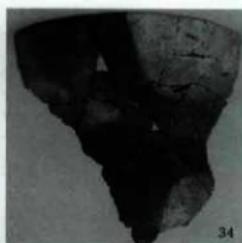
PL38

J6H



J6号住居跡出土遺物

J6H



J6号住居跡出土遺物

PL40

J6H



51



54



55



56



52



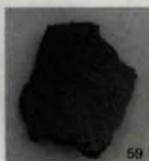
53



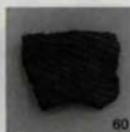
57



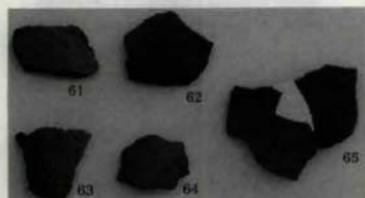
58



59



60



61

62

65

63

64



69



66



68



70



72



73



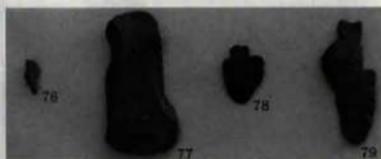
71



74



75



76

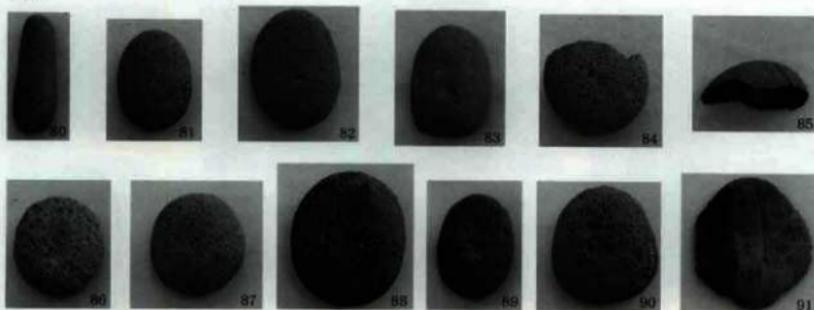
77

78

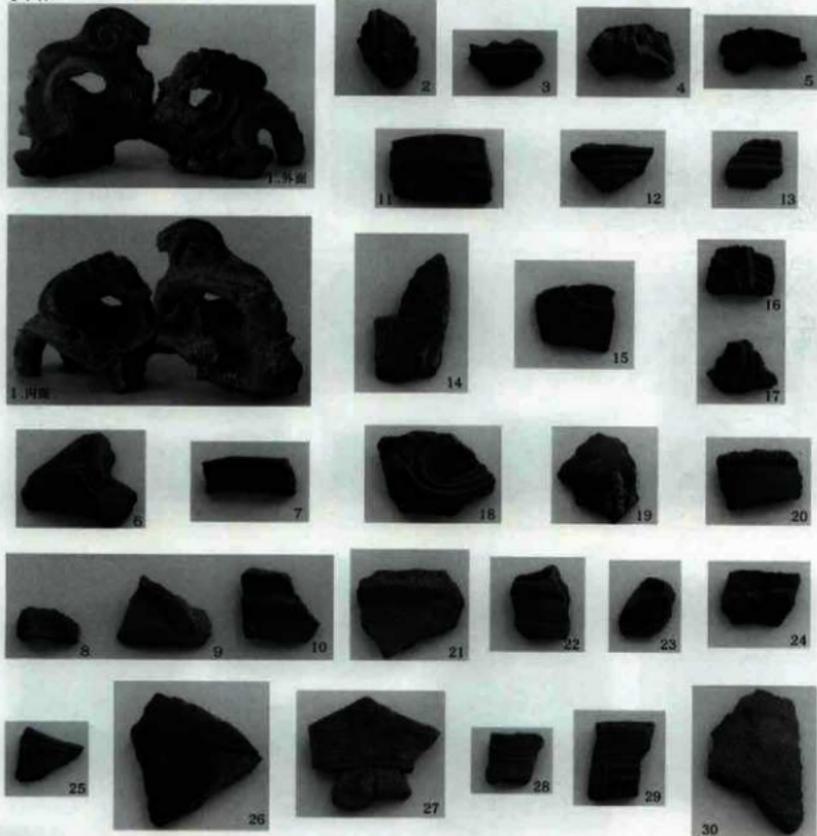
79

J6号住居跡出土遺物

J6H

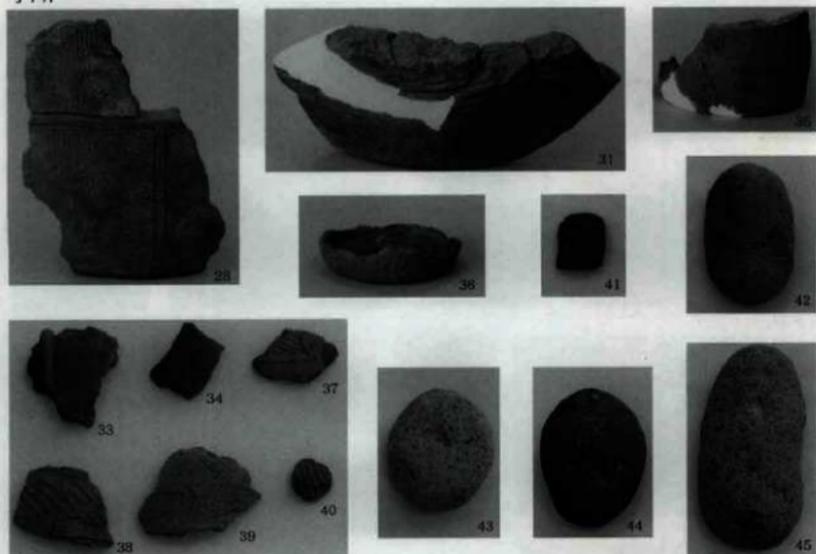


J7H

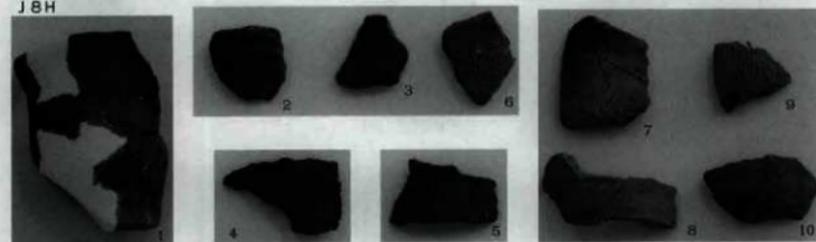


PL42

J7H



J8H

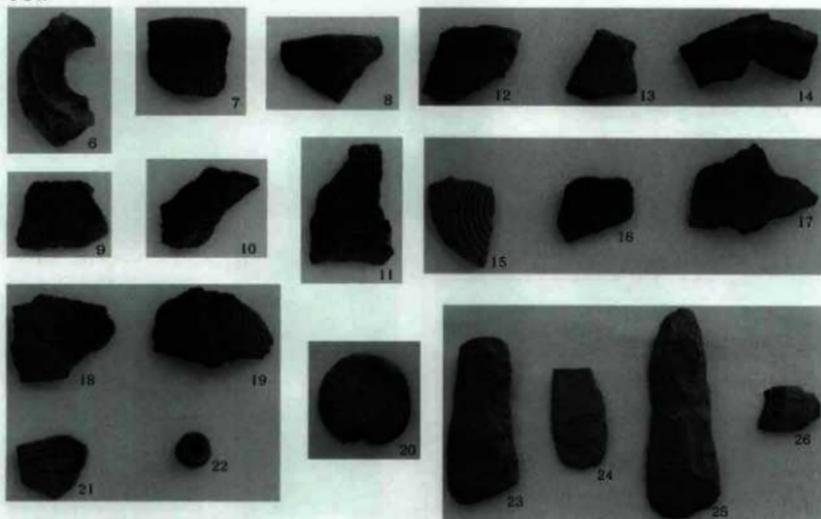


J9H

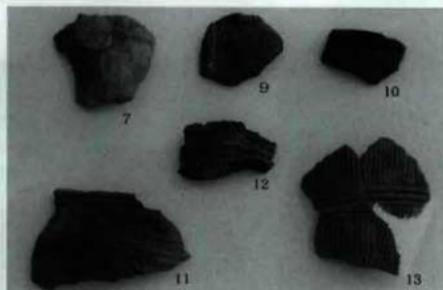
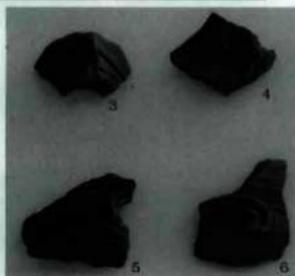
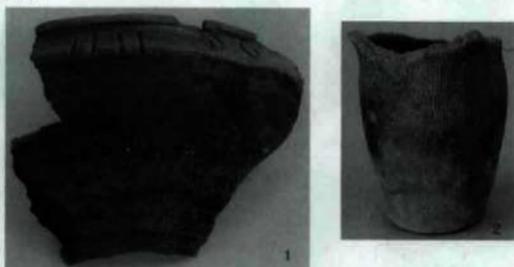


J7·J8·J9号住居跡出土遺物

J9H



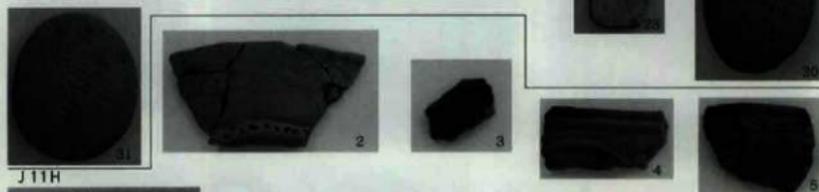
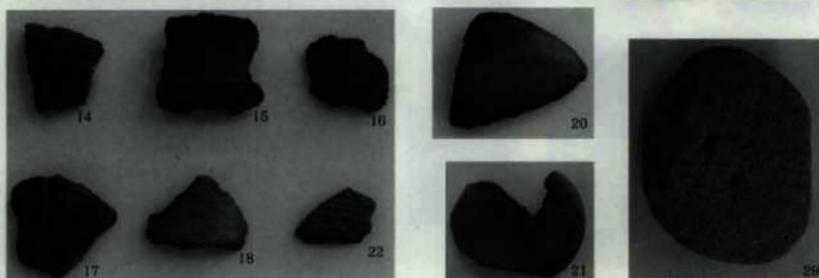
J10H



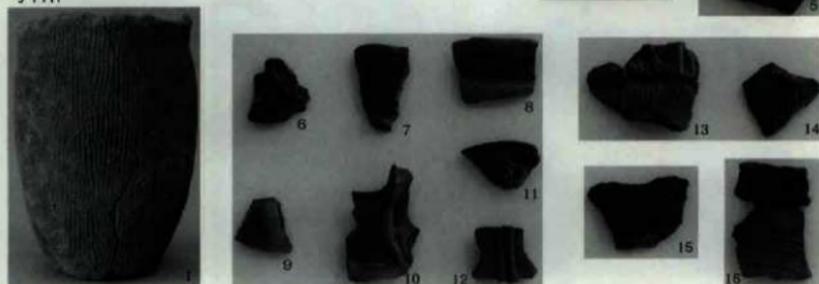
J9・J10号住居跡出土遺物

PL44

J10H



J11H



J10・J11号住居跡出土遺物

J11H



17



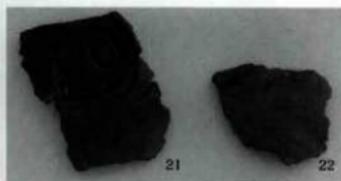
18



19



20



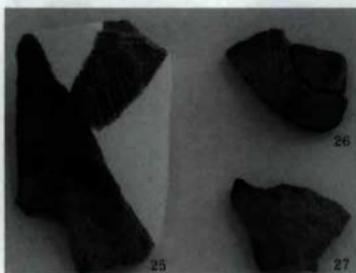
21

22



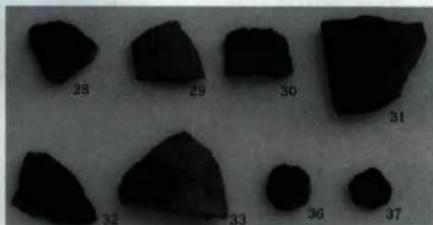
23

24



25

26



28

29

30

31

32

33

36

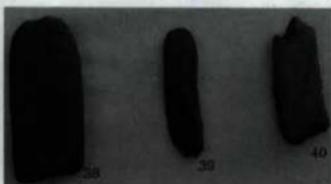
37



34



35



38

39

40



41

42

43



44



45



46



47



48

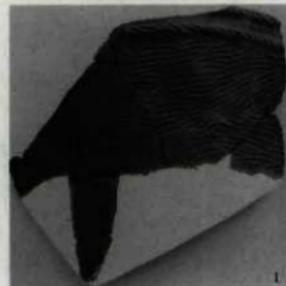
J11号住居跡出土遺物

PL46

J11H

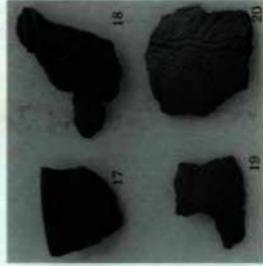
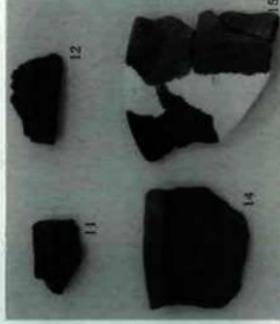


J12H



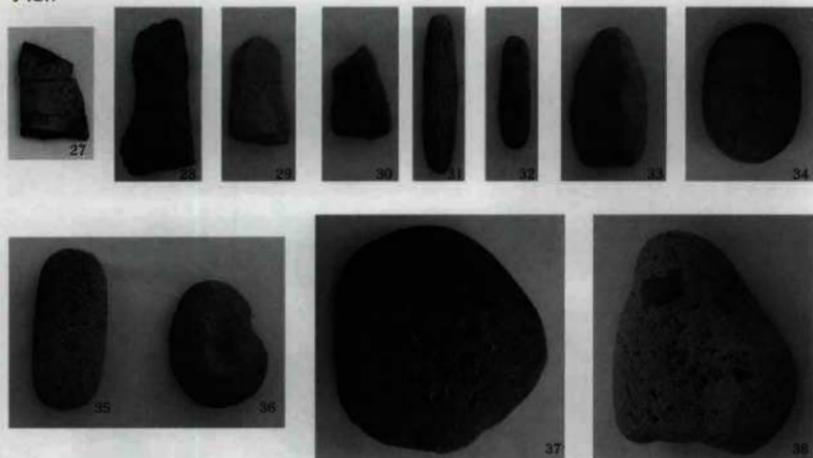
J11・J12号住居跡出土遺物

J12H

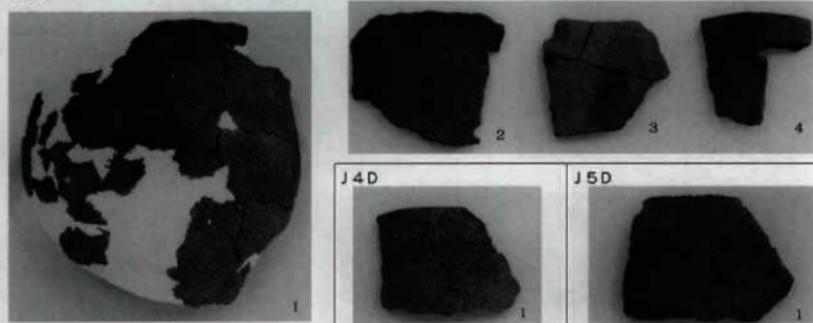


PL48

J12H



J2D



J7D



J8D

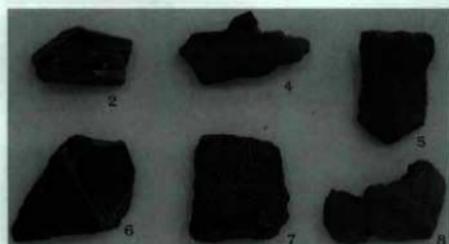


J12号住居跡、J2・J4・J5・J7・J8D出土遺物

J8D



J9D



J13D



J12D



J14D



J8・9D、J12～J14D出土遺物

P L 50

J 15D



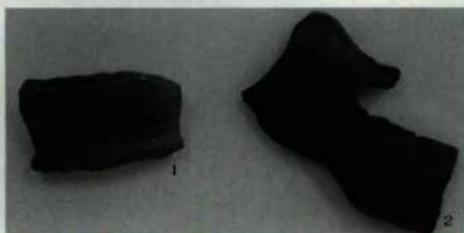
J 16D



J 21D



J 18D



J 23D



J 15 · J 16 · J 18 · J 21 · J 23D出土遺物

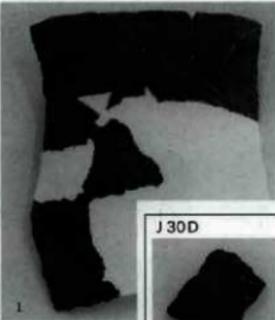
J24D



J25D



J29D



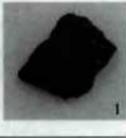
J26D



J28D



J30D



J31D



集石



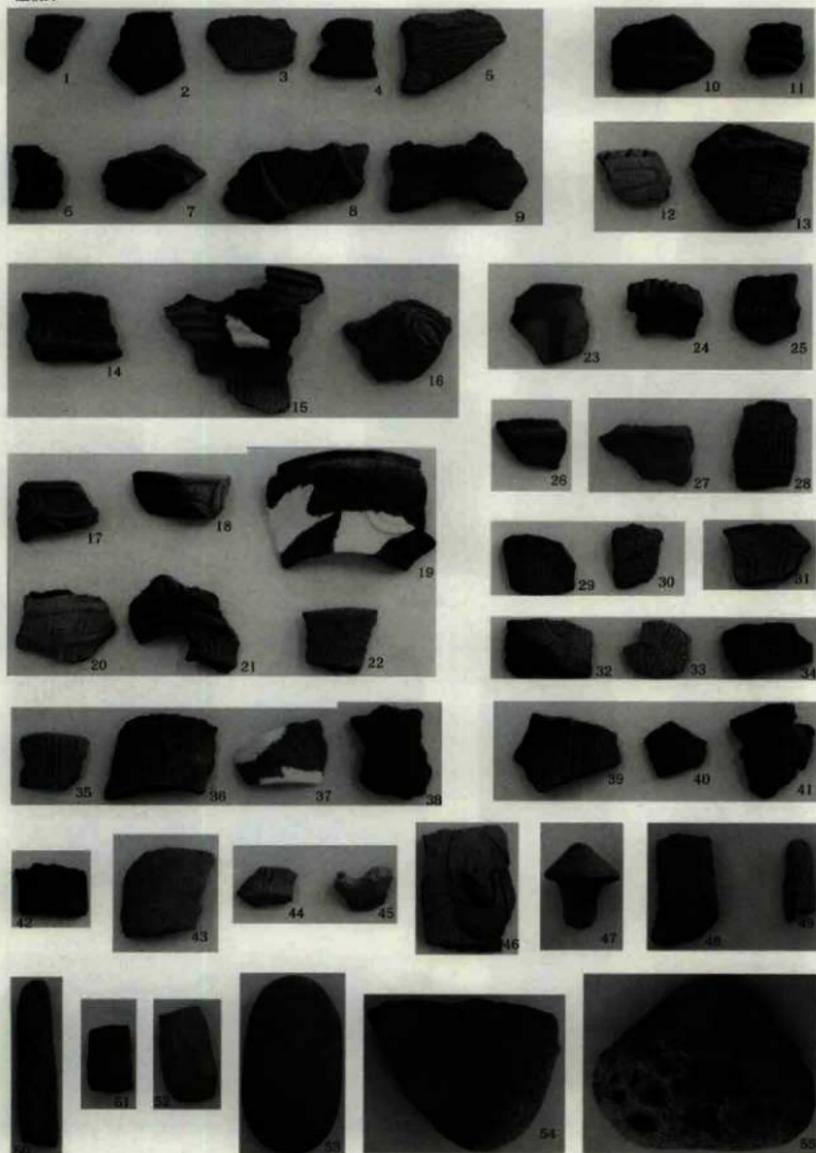
埋設土器



J24~26・28~31D、集石出土遺物、埋設土器

PL52

遺構外

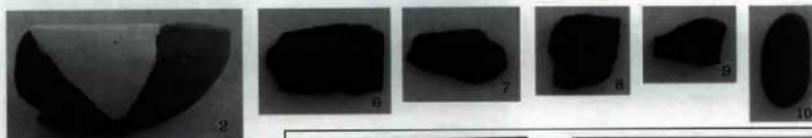
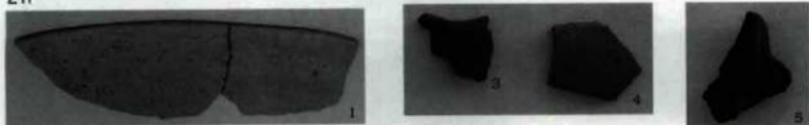


遺構外遺物

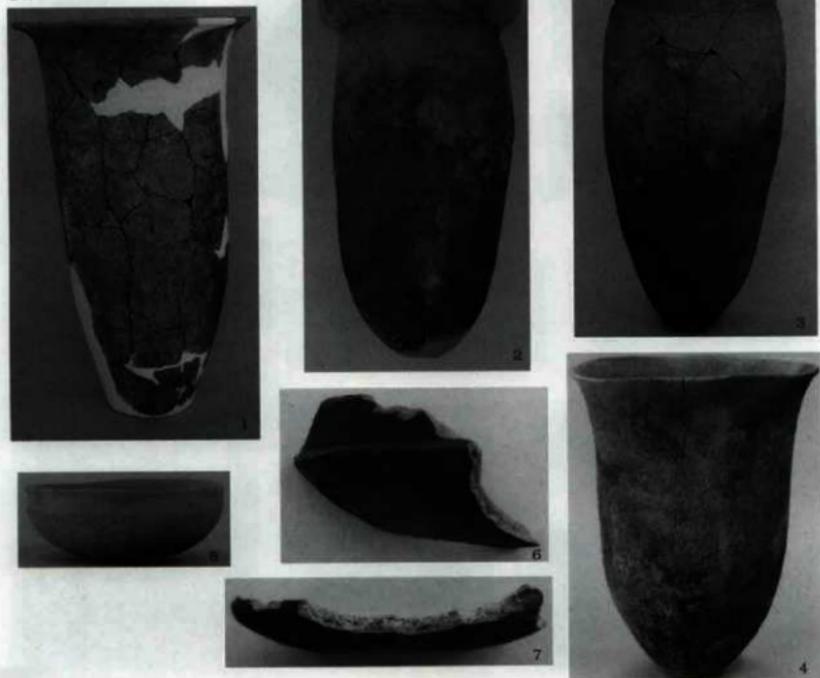
1H



2H



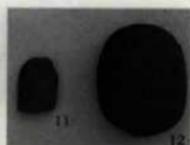
3H



1~3号住居跡出土遺物

PL54

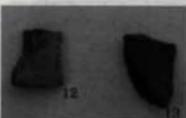
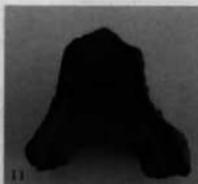
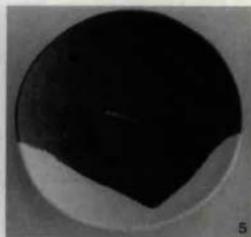
3H



4H



5H



6H



3~6号住居跡出土遺物

6H



2



3



4

7H



1



2



2



3

8H



1



4

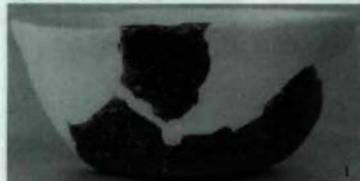


5



6

10H



1



3



4



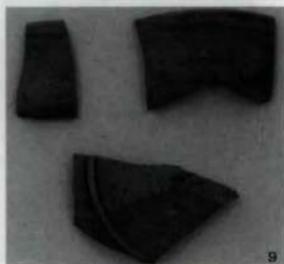
5



6

PL56

11 - 12H

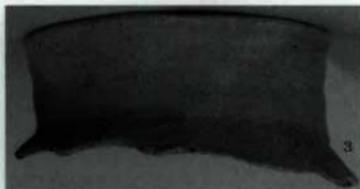


13H

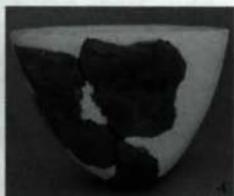


11~13号住居跡出土遺物

13H



14H

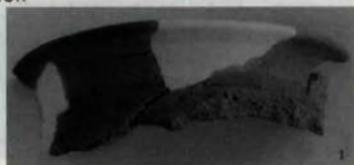


P L 58

14H



15H

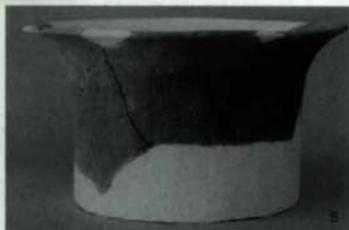


14・15号住居跡出土遺物

15H

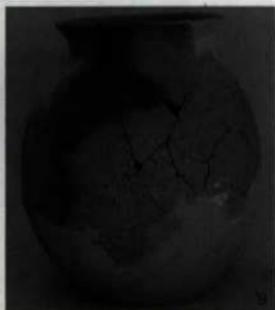
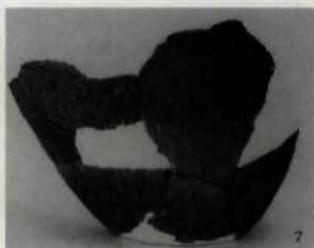


16H



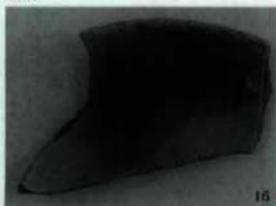
P L 60

16H



16号住居跡出土遺物

16H



16号住居跡出土遺物

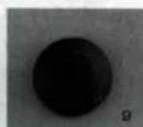
P L62

16H



16号住居跡出土遺物

17・18H



19・20H



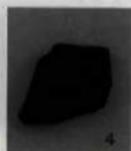
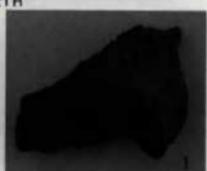
17～20号住居跡出土遺物

P L 64

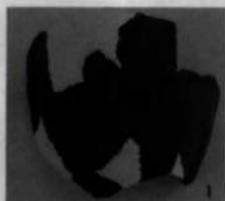
19H



21H



22H



24H



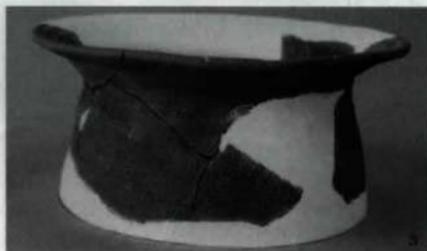
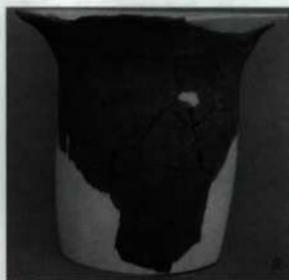
26H



25H



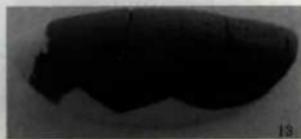
27H



24~27号住居跡出土遺物

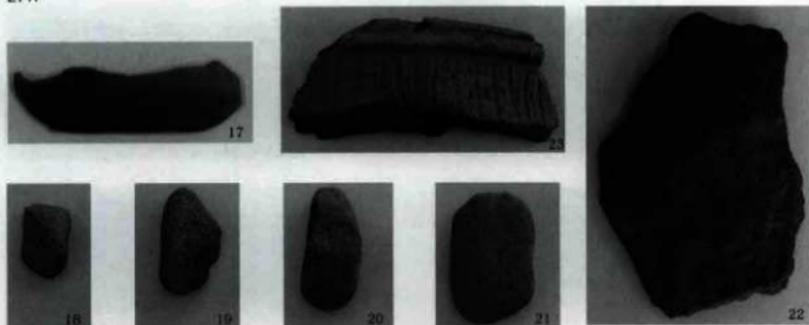
P L 66

27H

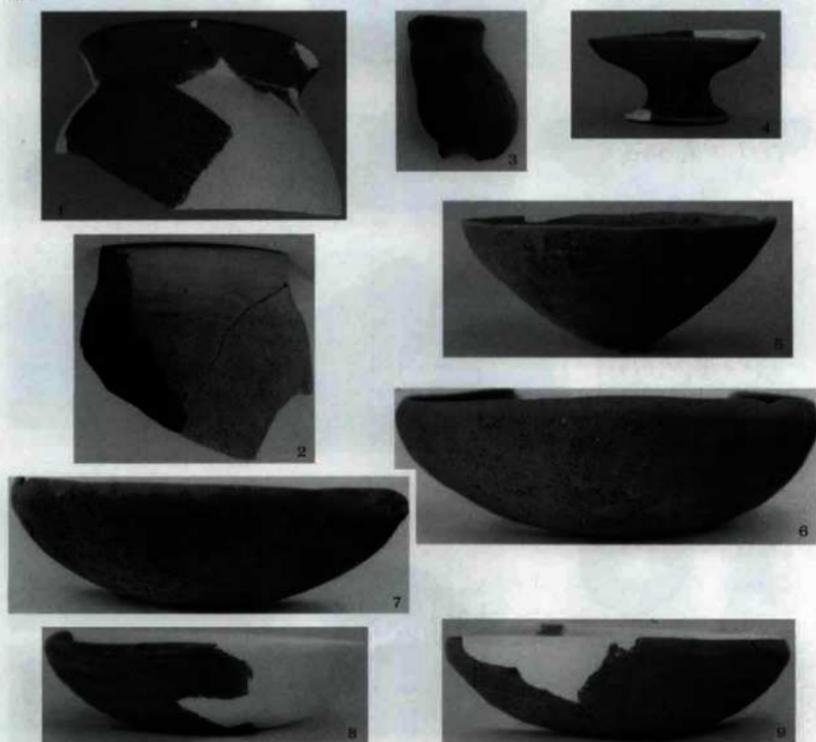


27号住居跡出土遺物

27H



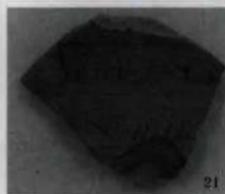
28H



27・28号住居跡出土遺物

P L 68

28H



29H



28・29号住居跡出土遺物

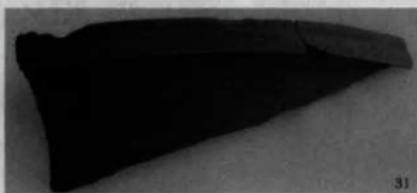
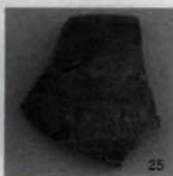
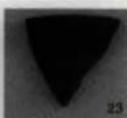
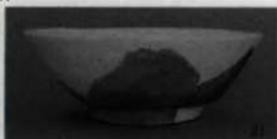
29H



29号住居跡出土遺物

PL 70

29H

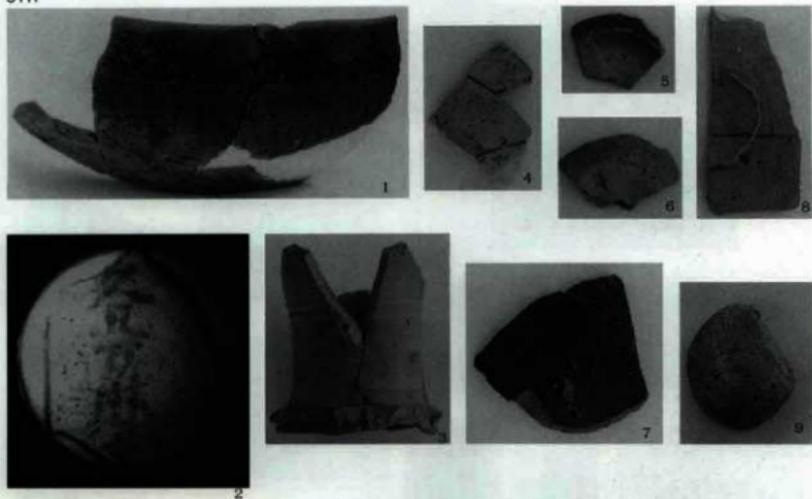


30H

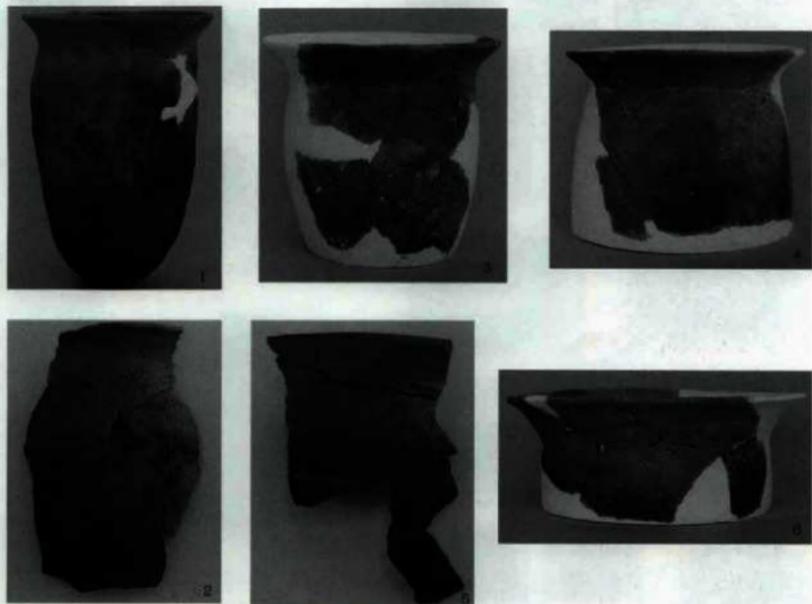


29・30号住居跡出土遺物

31H



32H



PL 72

32H



32号住居跡出土遺物

32H



33H



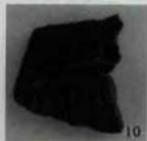
35H



32~35号住居跡出土物

PL 74

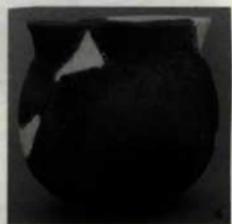
35H



36H

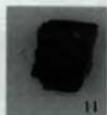


37H

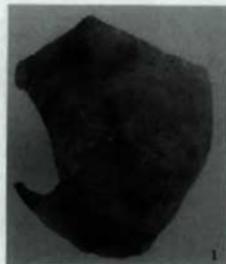


35~37号住居跡出土遺物

37H



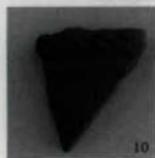
39H



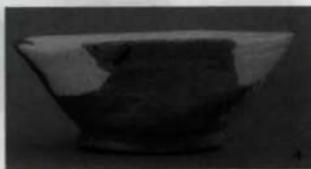
37・39号住居跡出土遺物

P L 76

39H

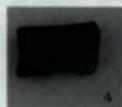
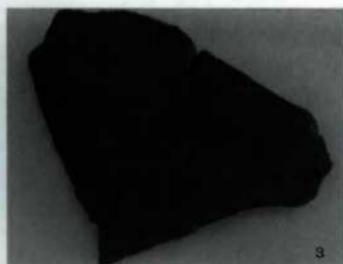
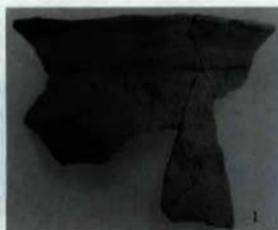


40H

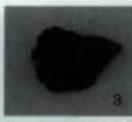


39・40号住居跡出土遺物

41H

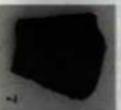


42H

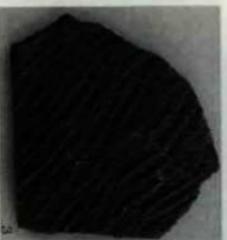


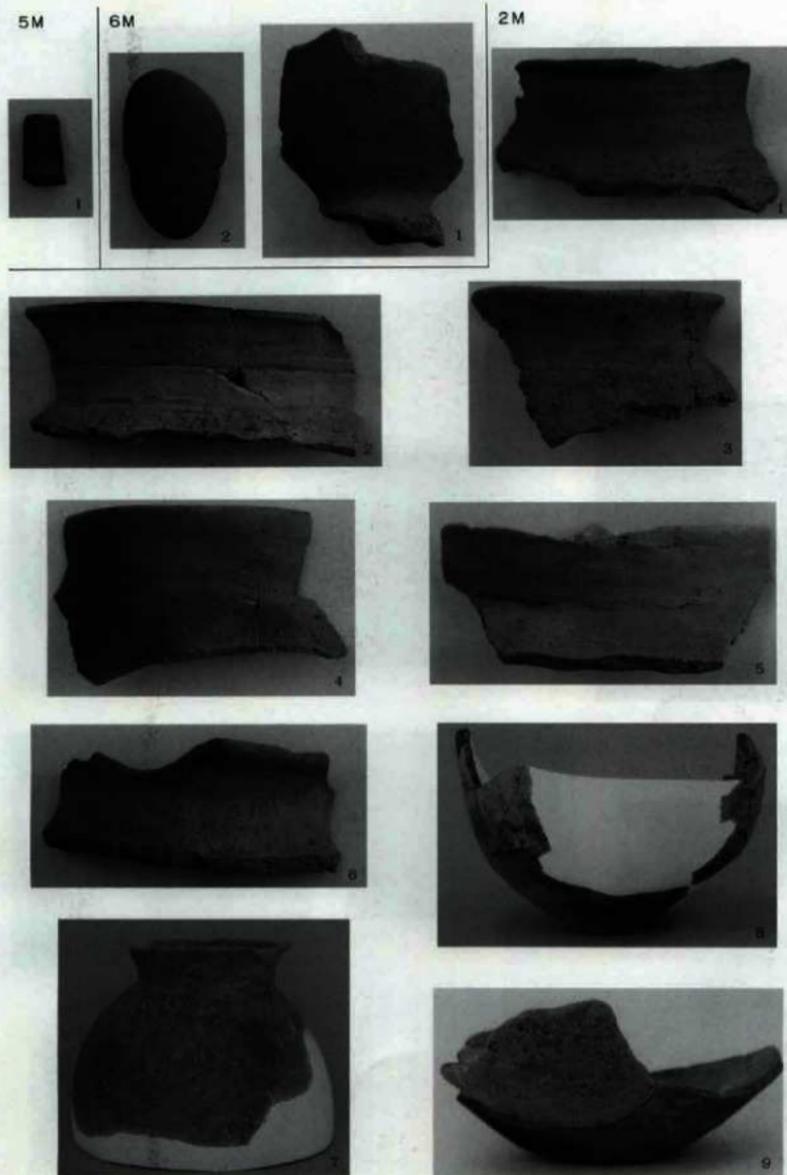
43H





1M

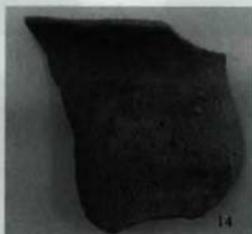




5·6号、2号清出土遺物

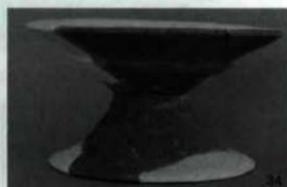
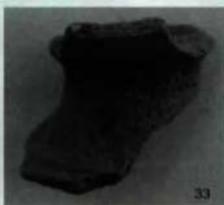
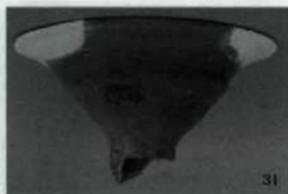
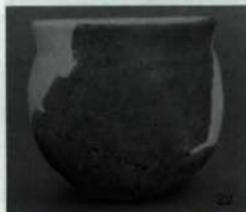
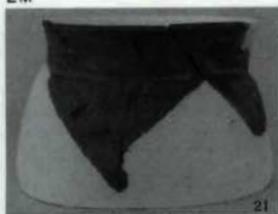
PL80

2M



2号清出土遺物

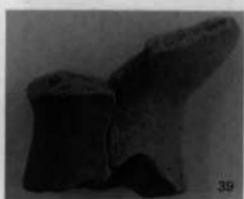
2M



2号洞出土遺物

PL82

2M



2号溝出土遺物

2M



2号清出土遺物

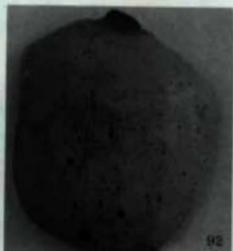
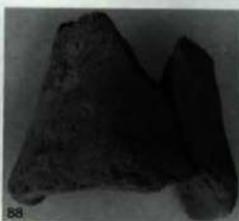
PL84

2M



2号溝出土遺物

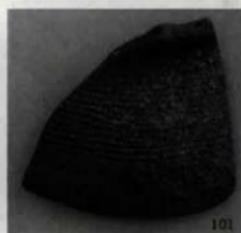
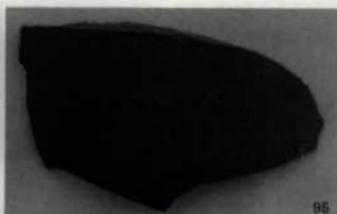
2M



2号清出土遺物

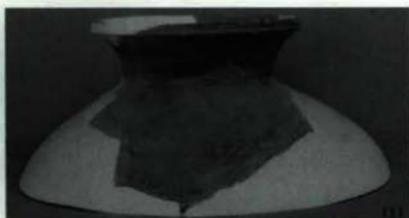
PL86

2M



2号溝出土遺物

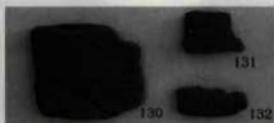
2M



2号洞出土遺物

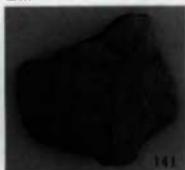
PL88

2M



2号溝出土遺物

2M



遺構外



2号溝・遺構外出土遺物

群馬県勢多郡大胡町大字茂木

茂木山神Ⅱ遺跡

主要地方道藤岡大胡線道路改良工事
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成13年3月23日

編 集 群馬県勢多郡大胡町教育委員会

発 行 群馬県勢多郡大胡町教育委員会

〒371-0292

群馬県勢多郡大胡町堀越1115

☎027 (283) 1111

印刷製本 朝日印刷工業株式会社
